平成３０年度
滋賀県における学校教育ＭＭ普及事業

報　告　書

平成３１年３月

滋賀県土木交通部交通戦略課

－ 目 次 －

１． 事業の概要 1-1
1-1 目的 1-1
1-2 事業項目 1-1
1-3 事業内容 1-2
２． 取組内容の検討 2-1
2-1 検討方針 2-1
2-1-1 昨年度までの取組状況 2-1
2-1-2 H30 の検討方針 2-11
2-2 H30 の検討実施内容の整理 2-12
2-2-1 実施対象校へのヒアリング 2-12
2-2-2 検討コンセプトの再整理 2-23
2-2-3 実施内容の整理 2-24
2-3 各小学校における交通学習プログラムの検討 2-26
2-3-1 既存資源の有効活用 2-26
2-3-2 新たな視点での取り組み 2-41
３． 交通学習プログラムの試行 3-1
3-1 取り組みの結果 3-1
3-1-1 既存資源の有効活用 3-1
3-1-2 新たな視点での取り組み 3-37
3-2 教育関係者へのヒアリング 3-69
４．試行結果などを踏まえた課題やブラッシュアップ方針の検討 4-1
4-1 試行結果を踏まえた課題 4-1
4-1-1 H30 の取り組み結果の整理 4-1
4-1-2 今後の課題 4-2
4-2 ブラッシュアップ方針の検討 4-4
4-2-1 既存資源の有効活用 4-4
4-2-2 新たな視点での取り組み 4-5
５．周知・サポート体制づくりの検討 5-1
5-1 検討方針 5-1
5-2 今後の実施内容の検討 5-2
5-2-1 研究会での意見 5-2
5-2-2 実施内容の検討 5-3
5-3 検討スケジュール 5-4
６．研究会・部会の運営補助 6-1
6-1 開催概要 6-1
6-2 第１回既存資源の活用検討部会 6-2
6-2-1 部会の概要 6-2

6-2-2 会議資料 6-3
6-2-3 議事概要 6-22
6-3 第１回新たな視点での検討部会 6-26
6-3-1 部会の概要 6-26
6-3-2 会議資料 6-27
6-3-3 議事概要 6-32
6-4 第３回研究会 6-36
6-4-1 研究会の概要 6-36
6-4-2 会議資料 6-37
6-4-3 議事概要 6-62
6-5 既存資源の活用検討部会・モデル校視察① 6-66
6-5-1 モデル校視察の概要 6-66
6-5-2 議事概要 6-67
6-6 新たな視点での検討部会・モデル校視察① 6-69
6-6-1 モデル校視察の概要 6-69
6-6-2 議事概要 6-70
6-7 新たな視点での検討部会・モデル校視察② 6-71
6-7-1 モデル校視察の概要 6-71
6-8 第４回研究会 6-72
6-8-1 研究会の概要 6-72
6-8-2 会議資料 6-73
6-8-3 議事概要 6-103

第１章　事業の概要

－ 目 次 －

1. 事業の概要.....1-1
1-1 目的 1-1
1-2 事業項目.....1-1
1-3 事業内容.....1-2

1. 事業の概要

1-1 目的

滋賀県は琵琶湖を中心に周囲を山地に囲まれ、琵琶湖沿いの平地部に新幹線・鉄道・高速道路等が通る。JR東海道沿線を中心に人口増加が続くエリアも多く交通と共に発展している。

しかし、県内には多様なエリア特性があり公共交通が便利なエリアとそうでないエリアの差が大きい。公共交通の維持は大きな課題であり、市民・事業者・行政みんなで支えていくことが不可欠である。また、特に地方部ではバス運転手の不足等も、本県の喫緊の課題となっている。

このような中で、草津市、東近江市等では、県・市町が県バス協会・バス事業者と連携し、遠足や社会見学の事前学習としてバス車両を用いてバスを知る学習を既に実施し、学校から好評を得ているが、県下で取り組みを増やし内容の活性化も図っていくには、効果・実施のしやすさの両面で有効なプログラムや、方法・体制等についての検討が不十分である。

一方、滋賀県では琵琶湖環状線を利用し、小学生に鉄道を親しむ機会を与えるとともに琵琶湖を中心とした滋賀県の地理、歴史、自然、環境等についての学習を深め、さらには社会性を身に着けさせることを目的とした「琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業」を展開している。また、子どもたちが身近な題材から地域や社会の姿と自分の行動を考える交通学習は、交通との関わりが深い滋賀では特に有用で教育・行政面からも期待され得るものと考えられる。

これらを踏まえ、学校が多様なエリアの交通素材を活かした授業を展開する仕組みづくりを行うとともに、幅広い学習機会で実践可能なプログラムの構築を行うことを目的とする。

1-2 事業項目

事業項目は以下の通りである。

表 1-1 事業項目

業務内容	単位	数量
1．取組内容の検討	式	1
2．交通学習プログラムの試行	式	1
3．試行結果などを踏まえた課題やブラッシュアップ方針の検討	式	1
4．周知・サポート体制づくりの検討	式	1
5．研究会・部会の運営補助	式	1
6．成果物の作成	式	1

1-3 事業内容

(1) 取組内容の検討

滋賀県における MM 教育のこれまでの取り組み状況やモデル校へのヒアリング結果、有識者や研究会・部会（５章参照）委員の意見等を踏まえ検討コンセプトの再整理を行うとともに、各モデル校における交通学習プログラムの内容について検討を行った。

(2) 交通学習プログラムの試行

上記で検討を行った交通学習プログラムを試行し、実施後に各モデル校の教師から授業の感想や改善点、その他交通素材を活かした授業の展開可能性についての意見を聴取した。

(3) 試行結果などを踏まえた課題やブラッシュアップ方針の検討

上記での試行結果を踏まえた課題整理を行った上で、交通学習プログラムのブラッシュアップの方針を整理するとともに、次年度以降の方針について検討を行った。

(4) 周知・サポート体制づくりの検討

上記で検討を行った次年度以降の実施方針を踏まえ、どの市町でも授業を実施できる体制や将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていくための、周知・サポート体制等の検討を行った。

(5) 研究会・部会の運営補助

上記の検討に際して、交通教育に関係する学識経験者、県・関係市町村、教育委員会、事業者・団体等で組織される研究会・部会を開催するとともに、学識者とモデル校教員が参画するワーキングとして現場視察を実施し、検討を進めた。

(6) 成果物の作成

各項目の検討結果を踏まえ、それらをとりまとめた成果物を作成した。

第２章　取組内容の検討

－ 目 次 －

2. 取組内容の検討 2-1
2-1 検討方針 2-1
2-1-1 昨年度までの取組状況 2-1
2-1-2 Ｈ３０の検討方針 2-11
2-2 Ｈ３０の検討実施内容の整理..... 2-12
2-2-1 実施対象校へのヒアリング 2-12
2-2-2 検討コンセプトの再整理 2-23
2-2-3 実施内容の整理 2-24
2-3 各小学校における交通学習プログラムの検討 2-26
2-3-1 既存資源の有効活用 2-26
2-3-2 新たな視点での取り組み..... 2-41

2. 取組内容の検討

2-1 検討方針

2-1-1 昨年度までの取組状況

(1) 取り組みコンセプトの検討

1) 滋賀県において MM 教育を進めていく上での課題

滋賀県における MM 教育のこれまでの状況や教育の動向、教育素材としての交通の可能性を踏まえ、MM 教育を進めていく上での課題として、以下のように整理を行った。

＜配慮が必要な事項＞

○教育として意味が十分にあるものにする

・教師、学校が “子どもの学習の深まり” に効果的、必要と感じ、積極的に実施できる取り組みにする

・取り組みを支援する交通サイド関係者にとっても、教育として手ごたえがあり、一緒に考えていける取り組みにする

○広い地域で定着、発展していくものとする

・教育の動向や、教師・学校にとってのうまみに配慮する

・各地で一定の量を実施、展開できる仕組み、体制を確保する

＜MM 教育を進めていく上での課題＞

○交通素材が、学校教育の質的向上や（長期的には）地域コミュニティ活性化等に資するように展開

・・・交通素材を、地域や社会の問題を理解し、自ら考え積極的に行動できる力を醸成するための教材として活用する

○学校・教師による検討、実施を支援

・・・学校・教師が交通素材を活用し、単元等をより効果的に実施するための支援を実施

・・・コアとなる素材やプログラム提供、その他情報発信、相談対応のための仕組みを確保

※外部による出前授業のみの取り組みとはしない

○交通事業者等を中心とした地域連携により推進

・・・極力、交通事業者と連携し実物素材を提供

（教育としての意義、学校にとってのうまみの確保）

2) 滋賀県における MM 教育の考え方・コンセプト

(a) 滋賀県における MM 教育の基本的な考え方

前項の課題および研究会委員の意見等を踏まえ、滋賀県の歴史や地勢、生活との関わりが深い交通の特性を活かすことにより、地域の様子や人の暮らしを知り、文化・交流を大切にしながら、社会の一員として行動できる人づくりに寄与することが可能であると考え、交通素材を活かした学習の基本的な考え方について以下のように整理を行った。

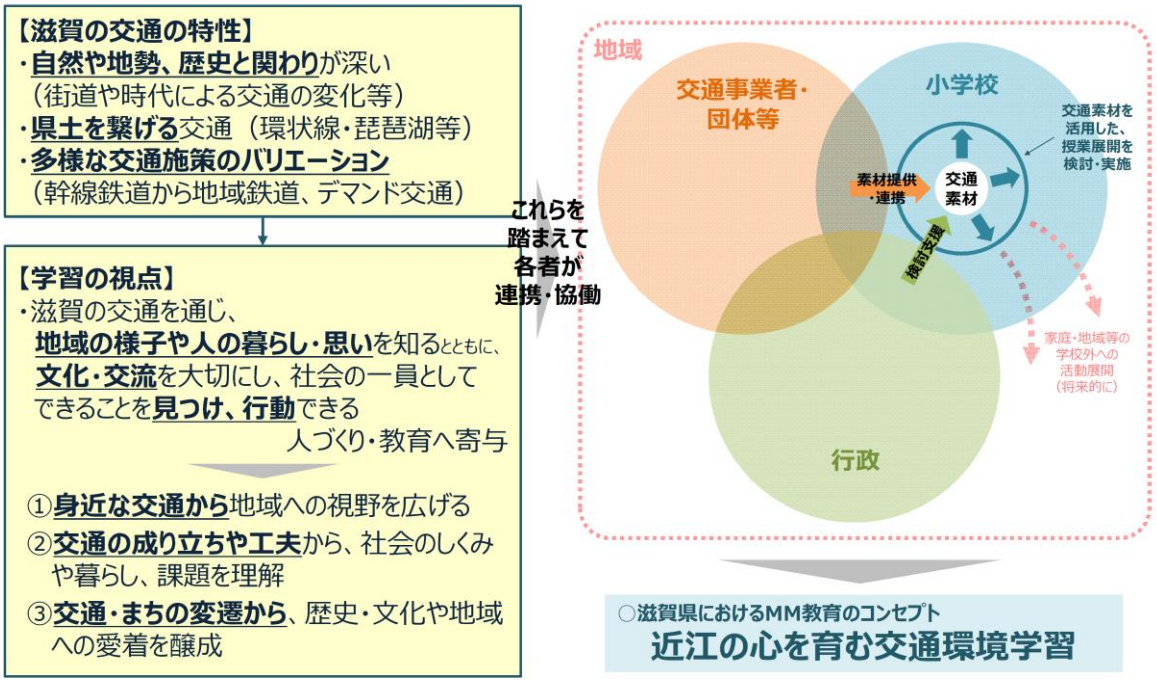


図 2-1 滋賀県における MM 教育の基本的な考え方

(b) 滋賀県における MM 教育の視点

前項の基本な考え方に基づいた MM 教育の視点および学習目標との対応イメージの整理を行った。

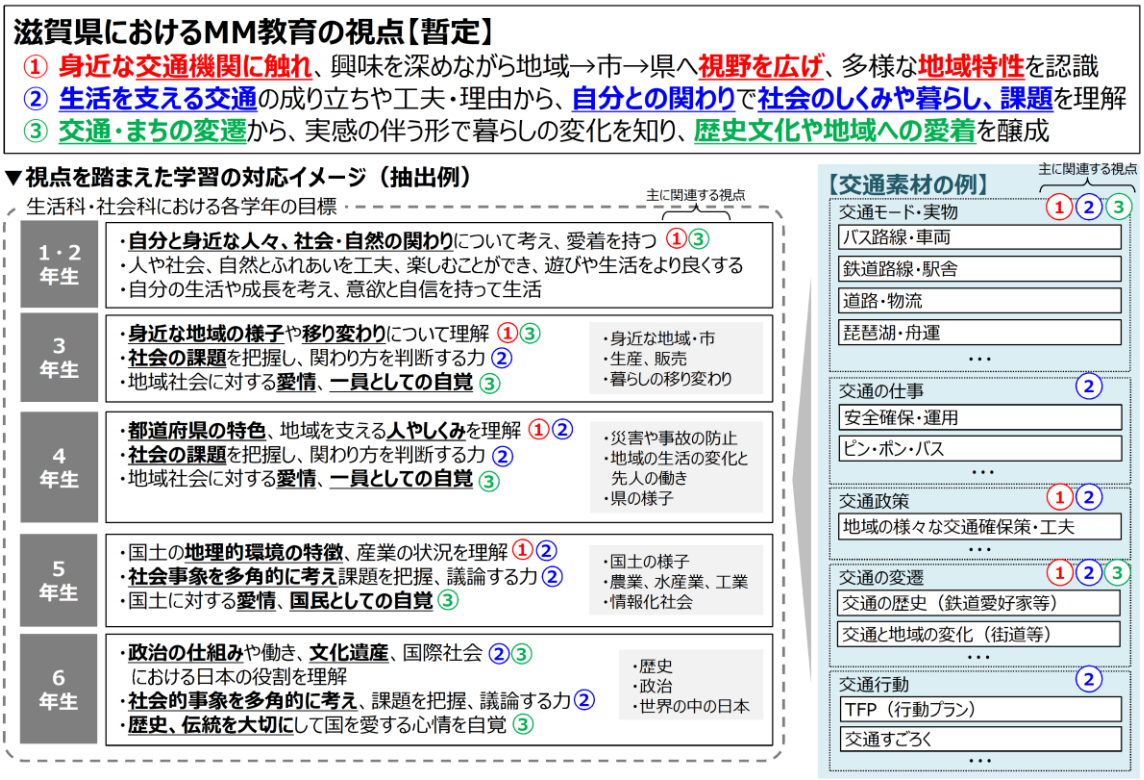


図 2-2 滋賀県における MM 教育の視点と学習目標との対応イメージ

(2) 事業としての位置付け・進め方の検討

1) 事業の位置付けの整理

本事業における取り組みの位置付け、目的を以下のように整理した。

＜本事業の目的＞

・交通素材、その社会的特性を活かして、滋賀の目指す人間像の実現に寄与する

＜検討・実施内容＞

・教育のために交通素材活用を促していく基礎を作るため・・・

○滋賀におけるコンセプト（特徴）を整理する

○使える交通素材を発掘する

○その活用の仕方を検討、教材・ツールを作る

（学校とともに実践・評価しながら、地域特性も踏まえつつ整理）

○MM 教育の活用を推進・支援する仕組みをつくる

・将来的な地域での展開も促すため・・・

○取り組みが定着した地域での交通まちづくり教育に向けた展開のあり方について地域とともに検討

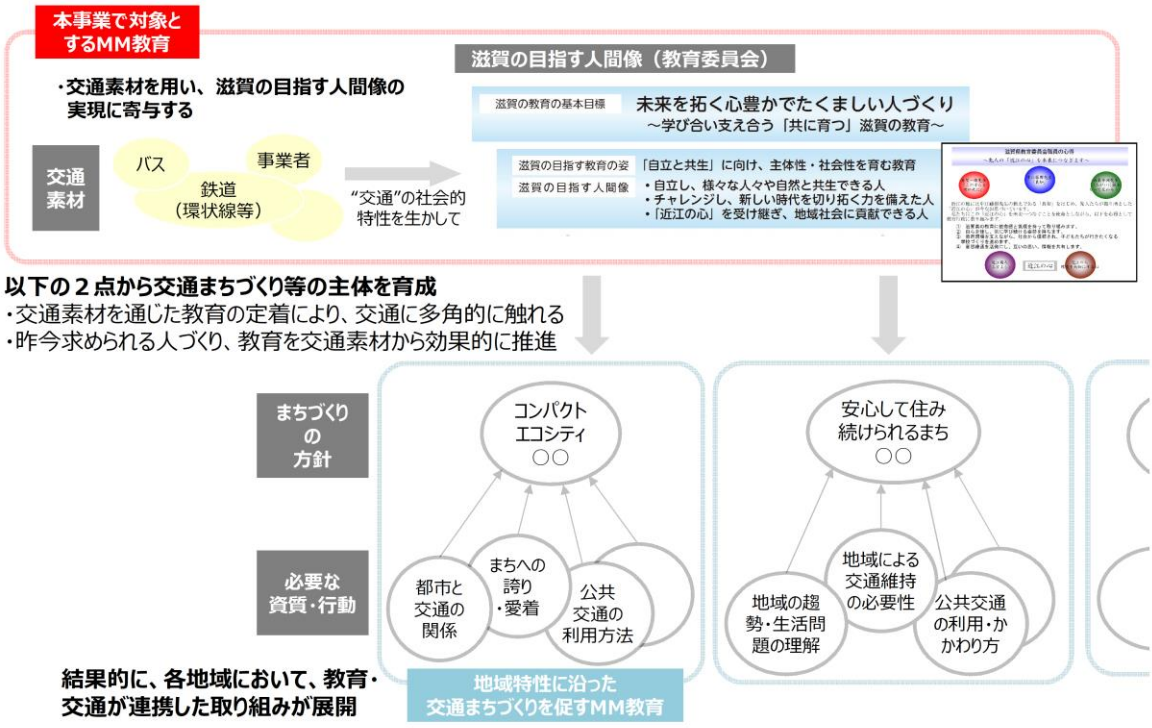


図 2-3 本事業における取組の位置付けイメージ

2）事業の進め方の検討

(a) 検討の視点

事業の目的・実施内容に対して、学校・教師による検討の支援、交通事業者を中心とした地域連携等も考慮し、以下の視点から検討を進めていくことが必要と考えた。

●どうすれば、交通の素材を近江の心の醸成や、学校教育の質的向上に活かせるようになるかを考える
・・・交通素材と、近江の心の関係は？
・・・様々な交通素材により、何を効果的に学ぶことができるか？
・・・学習指導要領を踏まえ、カリキュラムにおいてどのような使い方ができるか？
●「三方良し」の発展的な連携を構築していける仕組みを考える
・・・実社会との関わりを強め、社会に開かれた教育課程の実現
・・・様々な主体、実物素材が絡むからこその意義、効果を意識
●県単位でやるからこその良さ、モデル性の向上を考える
・・・既に保有している資源の活用
・・・組織的な展開による強み

これに対し、バスの乗り方教室等の既存の学習を活かして進めていくことが基本になるが、それ以外の新たな視点も目標達成には必要になると考え、検討の視点について以下のように整理を行った。

	●交通の素材を教育に活かす ・交通素材と近江の心の関係はどんなものか、どんな能力を育成すべきか？	●「三方良し」の連携	●県単位の良さ
柱① 既存の取組・資源を活かして	・乗り方教室、鉄道利用体験学習Pの何が良く、何が悪いか？ ⇒中身をどう見直していくか？ ⇒カリキュラムにおける使い方、サポートツールの検討	・広く、学校・教師に既存のプログラムの意義を分かってもらい、活用を考えてもらうには？ ・交通事業者や地域関係者等には何がインセンティブになるか？	・鉄道利用体験学習Pを有効に活用、発展させていくには？（左項と関連） ・県から、事業者との連携をサポートできないか？
柱② 新たな視点で考える	・滋賀県で使える資源・素材にどんなものがあるか？ ・素材を活用し、具体的にどんな授業・単元等の展開ができるか？ ※他地域も参考にしながら	・地域や交通事業者以外の企業等との関わりを作って行くことはできないか？	・県内の学校間、自治体間の情報交換のあり方は？ ・県、市町村での組織的対応ができる方法は？（人事異動に対する対応等）

図 2-4 検討の視点

(b) 検討の流れ

前項の検討の視点を踏まえ、本事業における検討の流れを整理した。

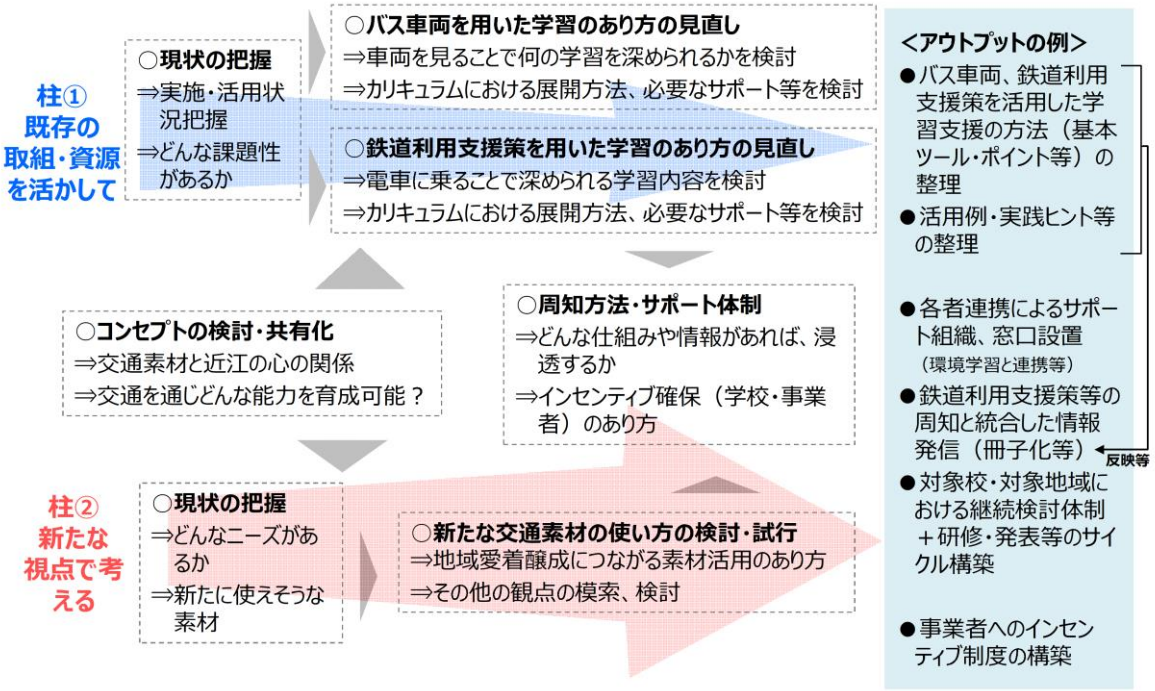


図 2-5 検討の流れ

(3) 活用素材･プログラムの検討方針

1) 既存資源の有効活用

H29 の小学校へのヒアリング結果を踏まえ、既存資源の有効活用の検討方針を以下のように整理した。

○バス車両の有効活用の方針案

バス車両を用いた学習についての課題

＜H29ヒアリング結果＞

・バス車両は「動学」への資源として可能性あり。
・探検の準備の機会として重宝されているが、交通から社会認識・理解が深めるという活用は限定的と考えられる。
・プログラムの固定化は望ましくない。
・福祉や県、政治の学習での活用可能性がある。

検討方針案

○単なる移動ツールとしてではなく、**交通に触れることでまちへ認識を深める工夫**の仕方（２年生生活科）や、福祉等での活用を検討
○学校の活用、アレンジしやすい**素材提供の方法･関わり方**を検討
⇒これまで実施されている学校において検討
⇒そのうち、1校程度で他の単元での活用を検討

○鉄道体験の有効活用の方針案

鉄道利用体験についての課題

＜ヒアリング結果＞

・地域を見に行く機会として重宝されている。
・交通から社会認識・理解が深めるという活用は限定的と考えられる。
・補助の申請にハードルが存在。

検討方針案

○単なる移動ツールとしてではなく、**鉄道に触れることで県土へ認識を深める工夫**を検討
○学校の活用、アレンジしやすい**素材提供の方法**を検討
⇒これまで補助を実施されている学校において検討

図 2-6 既存資源の有効活用の検討方針

2）新たな視点での取り組み

H29 の小学校へのヒアリング結果を踏まえ、新たな視点での取り組みの検討方針を以下のように整理した。

○新たな視点での検討方針案

新たな視点での検討の課題

＜H29小学校ヒアリング結果＞

・交通から地域へ愛情を醸成する観点での検討は、効果的な切り口になる可能性がある。特に、今後の地域での取り組みの発展に寄与する可能性がある。

・交通を街道等の資源と結びつけることも視点として考えられる。

地域愛着の構成要素 ※小学校学習指導要領解説社会編P29/③「学びに向かう力，人間性等」に関する目標 より

○国土に対する愛情

・身近な地域や市、県の様子についての指導を踏まえて、我が国の国土の**地理的環境**とそこで営まれている産業の様子などの理解を図り、我が国の国土に対する愛情を育てる

○我が国の歴史に対する愛情

・**市を中心とした地域の人々の生活の変化**や県を中心とした地域の**伝統や文化**、地域の発展に尽くした先人の働きの指導を踏まえ、我が国の歴史に対する理解を深めるとともに、我が国の歴史に対する愛情を育てる

検討方針案

○公共交通や街道等の資源を用い、地域愛着につながる**地域社会の理解**（地域の地理特性や人々の生活、その変化や伝統・文化等）**を醸成する活用のあり方**を検討

⇒今後小学校と協議を進めながら検討

※その他の視点についても、引き続き模索しつつ必要に応じて検討する

図 2-7 新たな視点での取り組みの検討方針

3) 周知方法・サポート体制の検討

H29 の小学校へのヒアリング結果を踏まえ、周知方法・サポート体制の検討方針を以下のように整理した。

表 2-1 周知方法・サポート体制の検討方針

	検討方針
周知方法	●基本的に琵琶湖環状線・草津線・びわこ京阪奈線の周知機会・認知度を有効活用 ＜検討例＞ ⇒現行冊子のリニューアル ・・・滋賀県のMM教育の**全体像、主旨**の記載 ・・・行政が提供できる素材や補助メニューの整理、ラインナップ ・・・見やすい工夫・書式統一 ・・・補助申請方法等も含む**問い合わせ・サポート窓口**の記載　等
サポート体制	●相談窓口の検討 ＜検討例＞ ⇒交通に関する**資料提供**についての**相談受付、アドバイス**等を行う窓口の設置を検討（全体・補助関係：県／地域資料等：各市） ●授業に使用する物品購入等に対する資金援助を検討 ＜検討例＞ ⇒本事業における支援の検討 （次年度の小学校との協議を踏まえて） ⇒既存の補助メニューにおけるバリエーション強化の検討（運賃＋資料印刷等）

(4) 検討スケジュールの整理

前項までの検討を踏まえ、平成 29 年度～32 年度の 4 年間で試行・検証を行いながら、検討・とりまとめを進めるものとし、今後の検討スケジュールについて整理を行った。

表 2-2 今後の検討スケジュール

	H29	H30	H31	H32
研究会等	研究会 既存資源活用 新たな取り組み検討	研究会 既存資源活用：対象地域で適宜検討 新たな取り組み検討：対象地域で適宜検討 周知・サポート体制の検討：関係者で適宜検討	研究会 既存資源活用：対象地域で適宜検討 新たな取り組み検討：対象地域で適宜検討 周知・サポート体制の検討：関係者で適宜検討	研究会 既存資源活用：対象地域で適宜検討 新たな取り組み検討：対象地域で適宜検討 周知・サポート体制の検討：関係者で適宜検討
主な検討内容	○**コンセプトの検討・共有化** ⇒意見収集・案整理 ○**検討方針について** ⇒既存プログラムの活用 ⇒新たな視点での取り組み ⇒検討の進め方	○**既存プログラムの活用** ⇒内容検討、試行 ○**新たな視点での取り組み** ⇒内容検討、試行 ○**周知方法・サポート体制** ⇒方針検討 第13回日本モビリティ・マネジメント会議 【日程】平成30年7月27（金）・28（土） 【場所】名鉄トヨタホテル（愛知県豊田市） ＜その他＞JCOMM発表	○**既存プログラムの活用** ⇒見直し ⇒取り組み整理 ○**新たな視点での取り組み** ⇒見直し ⇒取り組み整理 ○**周知方法・サポート体制** ⇒ツールの検討、試行 ＜その他＞JCOMM発表	○**既存プログラムの活用** ⇒見直し ⇒取り組み整理 ○**新たな視点での取り組み** ⇒見直し ⇒整理 ○**周知方法・サポート体制** ⇒ブラッシュアップ（各取り組み反映） ⇒整理 ○**取りまとめ** ＜その他＞JCOMM発表

2-1-2 Ｈ３０の検討方針

昨年度は前項に示したコンセプトの整理を行ったが、交通学習プログラムの実施に向けては実際に授業を行う教師の考え方や意向を取り入れながら検討を行っていく必要がある。

そこで、交通学習プログラムの実施対象校へヒアリングを行い教師の意見収集を行った上で、検討コンセプトおよび実施内容の整理を行い、各小学校における交通学習プログラムを検討した。

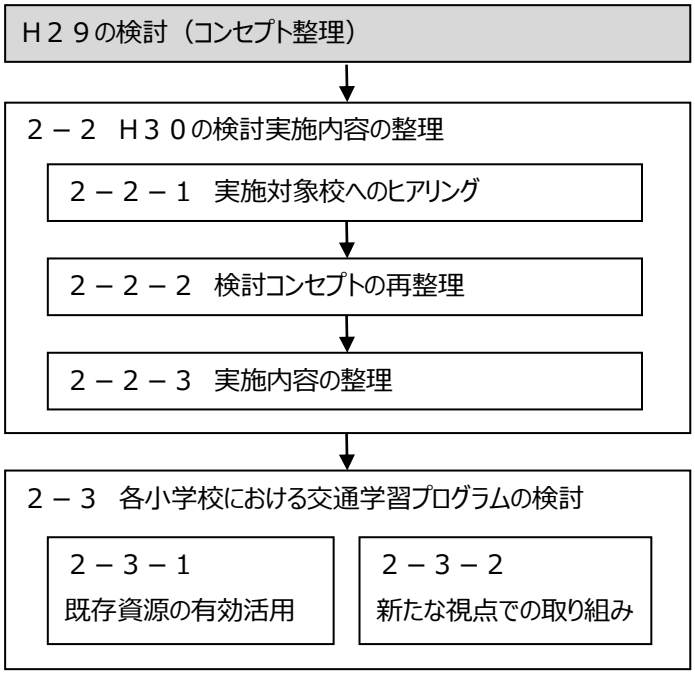


図 2-8 検討の流れ

2-2 Ｈ３０の検討実施内容の整理

2-2-1 実施対象校へのヒアリング

(1) 対象とした小学校

５校の小学校に対し、交通環境学習のコンセプトや既存資源の有効活用、新たな視点での取り組みについての意見聴取を行った。

以下に、ヒアリング対象校を示す。

表 2-3 ヒアリング対象校

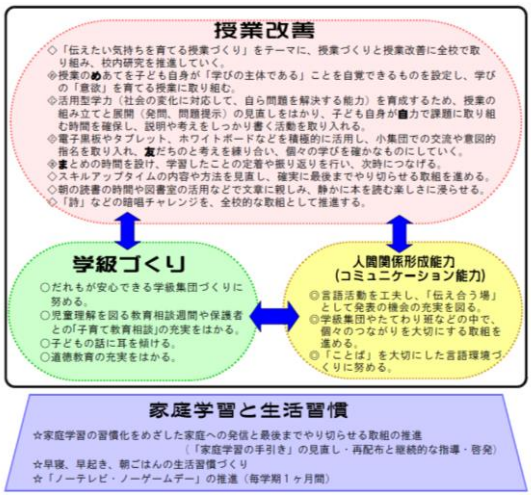
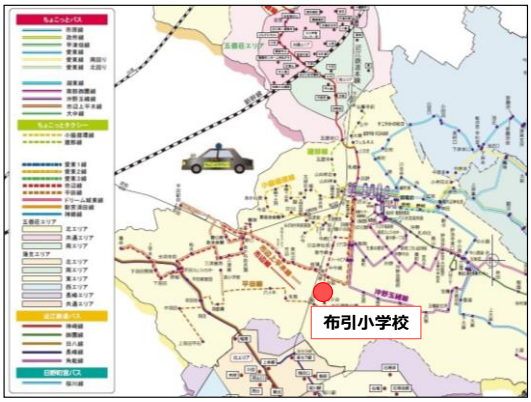
対象校		対象の先生
東近江市	布引小学校	・校長
草津市	志津南小学校	・４年生担当教諭 ・５年生担当教諭
彦根市	城東小学校	・２年生担当教諭（２名）
甲賀市	土山小学校	・校長 ・教頭
	大野小学校	・教頭 ・６年生担当教諭

(2) 東近江市立布引小学校

1) 学校概要

布引小学校の学校概要を以下に示す。

表 2-4 布引小学校の概要

住所	滋賀県東近江市今堀町５８１－１０
生徒数	２５５人
MM 教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施 ・校長先生が以前交通戦略課に在籍
目指す子供像	［自分よし］ねばり強く学習する子［相手よし］友だちを大切にする子 ［社会よし］みんなで高め合える子
教育目標	
位置	
周辺の公共交通状況	

2) ヒアリング結果

布引小学校のヒアリング結果を以下に示す。

表 2-5 布引小学校のヒアリング結果

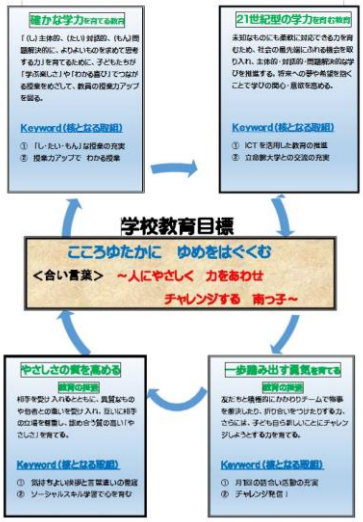
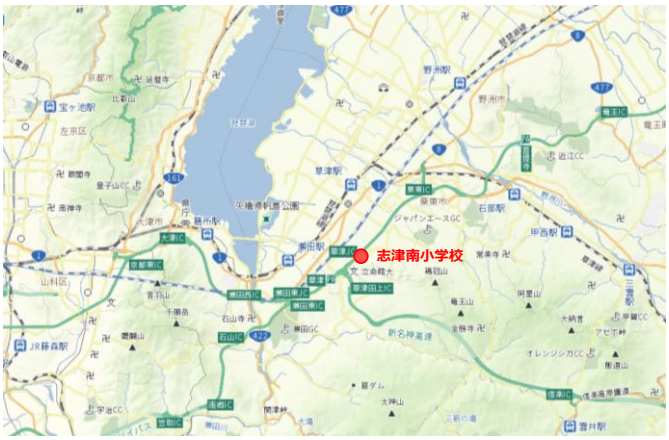
日 時	・平成 30 年 5 月 22 日 ・平成 30 年 6 月 26 日
ヒアリング対象	・校長
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存資源の有効活用、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度の２年生での取り組みは**同様に実施**したいと考えている。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・その他で可能性があるのが、**３年生の布引博士**の学習と６年生の**まちの幸福論**の学習である。 ・布引博士は地域の人に話を聞いたりして地域のことを学んで行く。まちの幸福論は布引のまちがどのようになれば良いか考えてプレゼンをするという内容。布引小の地域にはバスも鉄道も街道もあり、いずれも**交通にも関わる**内容である。 ・ただし、子供自身が興味を持ったことを調べていくことが前提で、**交通に誘導することは難しい**。 ・個人的には**鉄道すごろくにも興味**がある。

(3) 草津市立志津南小学校

1) 学校概要

志津南小学校の概要を以下に示す。

表 2-6 志津南小学校の概要

住所	滋賀県草津市若草 2 丁目 16-2
生徒数	７０７人
MM 教育実施状況	・2 年前よりバスの乗り方教室を実施
目指す子供像	・人にやさしく、力をあわせ、チャレンジする南っ子
教育目標	
位置	
周辺の公共交通状況	

2) ヒアリング結果

志津南小学校のヒアリング結果を以下に示す。

表 2-7 志津南小学校のヒアリング結果

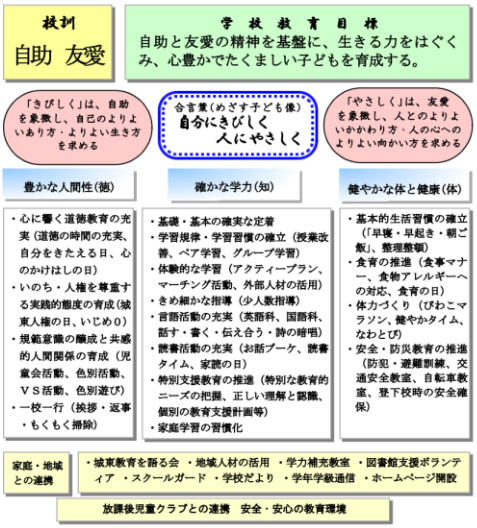
日 時	・平成 30 年 5 月 31 日
ヒアリング対象	・４年生担当教諭 ・５年生担当教諭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存資源の有効活用、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・２年生生活科での取り組みは、校外学習に現在良いところがないかを探しているような状況だが、**昨年度並みの学習**はしてもらえるとありがたい。 ・前後の素材活用についても、現時点で大がかりなことは難しいが、理解が深まって良いと思う。一緒に**考えてもらえるのはありがたい**。 ・夏休み頃になるかもしれないが、当該単元の学習計画ができたら打ち合わせしたい。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・２年生以外で興味があるかどうかは**声掛けをしてみる**。３年生での地域学習、５年の**フローティングスクール**の事前学習、福祉学習などにも関連づけられる可能性があると思う。 ・昨年度、アイディアとして出ていた**すごろくはどうなっているか**。４ 年生社会科の単元の**事前学習にちょうど良い**ものがあれば放課中等に**使える**と思っている。 ・夏休みであれば比較的時間も取れるので**一緒に検討することも可能である**。また、次年度等に試行することも可能である。

(4) 彦根市立城東小学校

1) 学校概要

城東小学校の概要を以下に示す。

表 2-8 城東小学校の概要

住所	滋賀県彦根市京町２丁目２番 19 号
生徒数	２７６人
MM 教育実施状況	・彦根市独自で５年間実施
目指す子供像	・自分にきびしく、人にやさしく
教育目標	
位置	
周辺の公共交通状況	

2) ヒアリング結果

城東小学校のヒアリング結果を以下に示す。

表 2-9 城東小学校のヒアリング結果

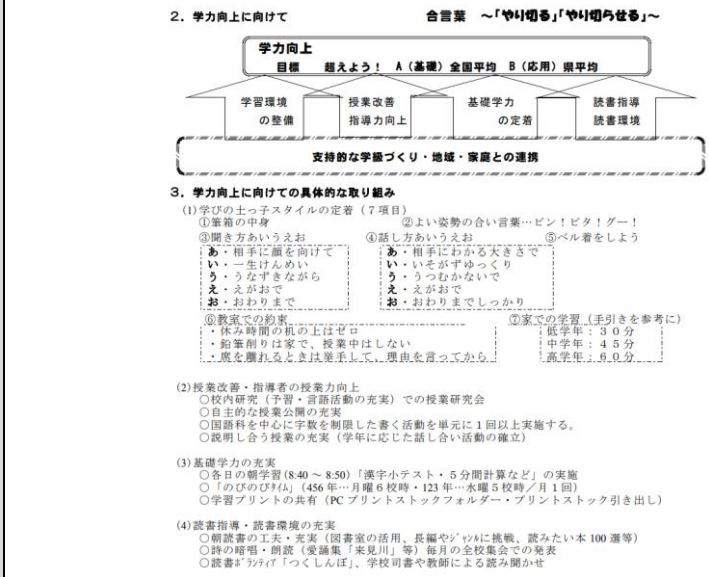
日 時	・平成 30 年 5 月 29 日
ヒアリング対象	・2 年生担当教諭（2 名）
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存資源の有効活用、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度 2 年生の生活科で実施してもらった取り組みは、交通のことを学ぶきっかけとしてはすごく良かった。実際にバスに乗る方法などが分かるのは助かる。**昨年度の出前授業をベースに実施**していただけるのはありがたい。 ・事前にマップなどを見るのは授業でお出かけをした際のまちの広がりに対する認識が広がり**とても良い**と思う。サポートしてもらえるなら**やってみたい**。 ・関連単元の学習計画を提供する。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・４年生の福祉（総合学習）などは、バスを活用してできるかもしれない。 ・今回せっかくバスが来てくれるので、他の学年で**興味があれば活用してもらうように促したい**。

(5) 甲賀市土山小学校

1) 学校概要

土山小学校の概要を以下に示す。

表 2-10 土山小学校の概要

住所	滋賀県甲賀市土山町北土山 1462
生徒数	１７８人
MM 教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施
目指す子供像	・(夢)：好奇心／冒険心／意欲／元気があふれる元気な子 ・(力)：学びにむかう力／思考力／表現力／判断力があふれる考える子 ・(心)：豊かな心／助け合う心／関わる心があふれる助け合う子
教育目標	
位置	
周辺の公共交通状況	

2) ヒアリング結果

土山小学校のヒアリング結果を以下に示す。

表 2-11 土山小学校のヒアリング結果

日 時	・平成 30 年 5 月 28 日
ヒアリング対象	・校長 ・教頭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存資源の有効活用、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・バスマップで 2 年生のまち探険を深めたり、インタビュー等をして 4 年生の地域を支える仕事を実感すると言った視点は意義があると思う。 ・現状で 2 年以外でも、3 年生の学区の学習、4 年生の水・ごみの学習、5 年生のホールの子等の移動としてバスを使用している。これをきっかけに**土山学が子供にとってより良いものに**なると良いと感じる。 ・これまでの出前授業をベースにしていくことを考えると、とりあえずは **2 年生や 3 年生を対象として単元での活用**の仕方を検討するのが良いと考える。 ・2 年生・3 年生の当該単元の学習計画の略案を提示する。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・3 年生や 4 年生の総合学習として**福祉学習**を行っているが、学習の理解をより深めるため、**バス車両等を用いて障がい者の日常生活を体験**してみることも考えられる。 ・次年度以降、**4 年生や 5 年生**などの地域学習についても検討できると良い。複数年かけ**幅広い学年の学習を深める研究**ができるのはとてもありがたい。 ・土山宿の空き家問題や再整備について、学校も入り地域で協議をしている。長期的にはそのような活動にも寄与するものになると良い。

(6) 甲賀市立大野小学校

1) 学校概要

大野小学校の概要を以下に示す。

表 2-12 大野小学校の概要

住所	滋賀県甲賀市土山町大野 949
生徒数	１１８人
MM 教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施
目指す子供像	・思いやりいっぱいの大野っ子 ・自ら学ぶ大野っ子 ・笑顔であいさつ大野っ子
位置	
周辺の公共交通状況	

2) ヒアリング結果

大野小学校のヒアリング結果を以下に示す。

表 2-13 大野小学校のヒアリング結果

日 時	・平成 30 年 5 月 24 日
ヒアリング対象	・教頭 ・６年生担当教諭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存資源の有効活用、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度は生徒が少なかったため 2 年生の校外学習をバス・電車を利用したが、今年度は 22 人おり要支援の子供もいる。そのため今年度は**貸切バスを利用**する予定。 ・草津線は利用するため、昨年のような**切符の買い方等の学習**はお願いしたい。 ・バス通学の子供も多く、３年生の警察署やフレンドマート見学、６年生の演劇鑑賞などでもバスを使うため、２年生で無理にバス学習をすることはないと考えている。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・６年生の政治で市が**コミュニティバスを運行する理由**等は良い素材になると思う。 ・また、この地域は歴史的な交通の要衝である。東海道で野洲川を渡るのに橋が無かったため、大野付近に旅籠がたくさんあるという特徴もある。 ・例年６年生の総合学習で歴史を学んでいるが昔を知るだけになっており**展望がない**。交通を絡めて変化を学んでいくと、**自分の生活に活かせるような学習になる**のではないかと感じる。クラスを４～６くらいのグループに分けて、提案をこども未来会議のような形で市役所にぶつけたりするとよい経験になる。 ・これまでの基本的な流れをベースに、**一緒に検討**してみたい。

2-2-2 検討コンセプトの再整理

過年度検討した滋賀県における MM 教育の基本的な考え方や事業としての位置付けに加えて、実際に授業を行う教師の「複数年かけて幅広い学年の学習を深める授業は有難い」や「長期的には地域の課題解決に向けた活動にも寄与すると良い」などの意見を踏まえ、交通を切り口として自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材を育成していくことを検討コンセプトとして再整理を行うとともに、２年生～６年生までの一連の実施の流れを体系的に整理した。

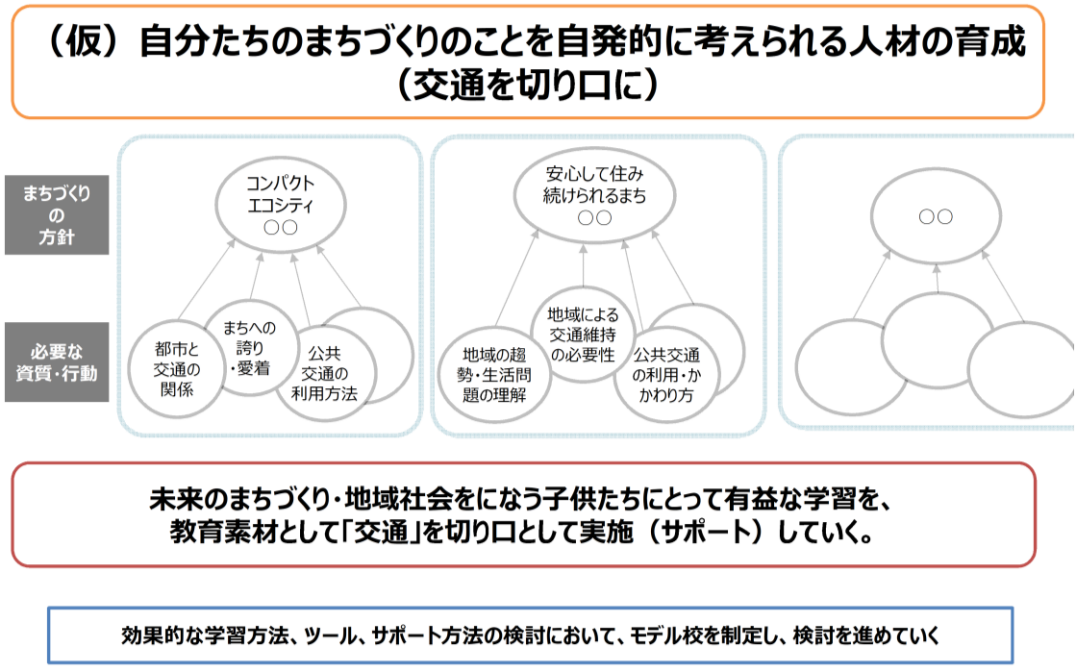


図 2-9 コンセプト

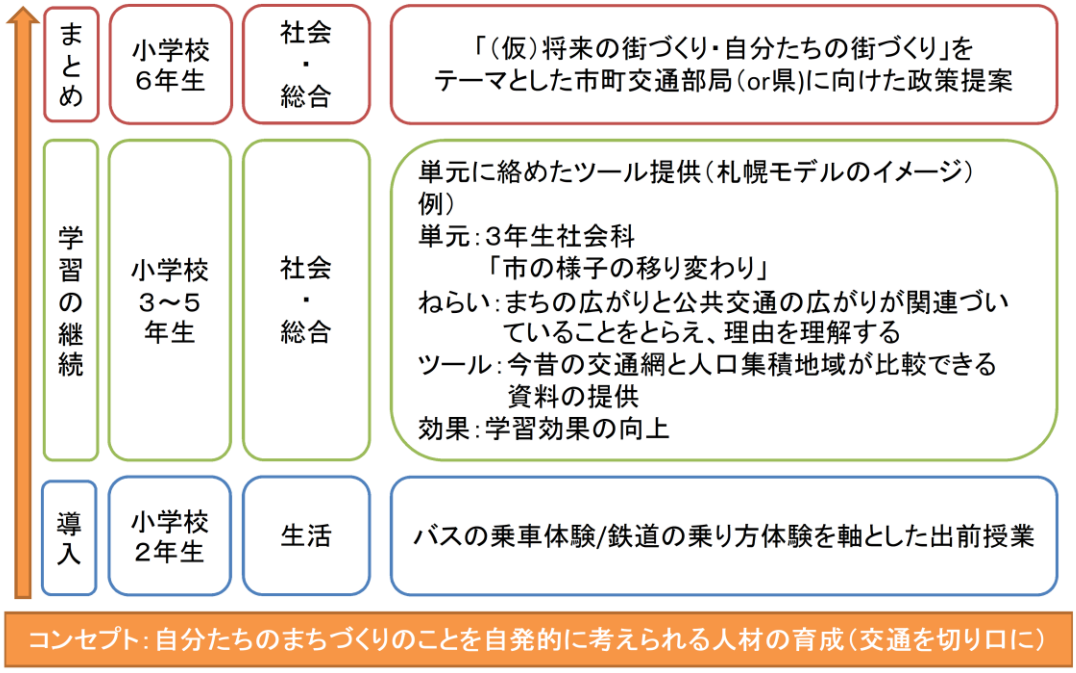


図 2-10 学年縦断的な展開イメージ

2-2-3 実施内容の整理

(1) 各事業年度における実施内容

前項の検討コンセプトを踏まえ、平成２９年度～平成３２年度および平成３０年度における実施内容を以下に示す。

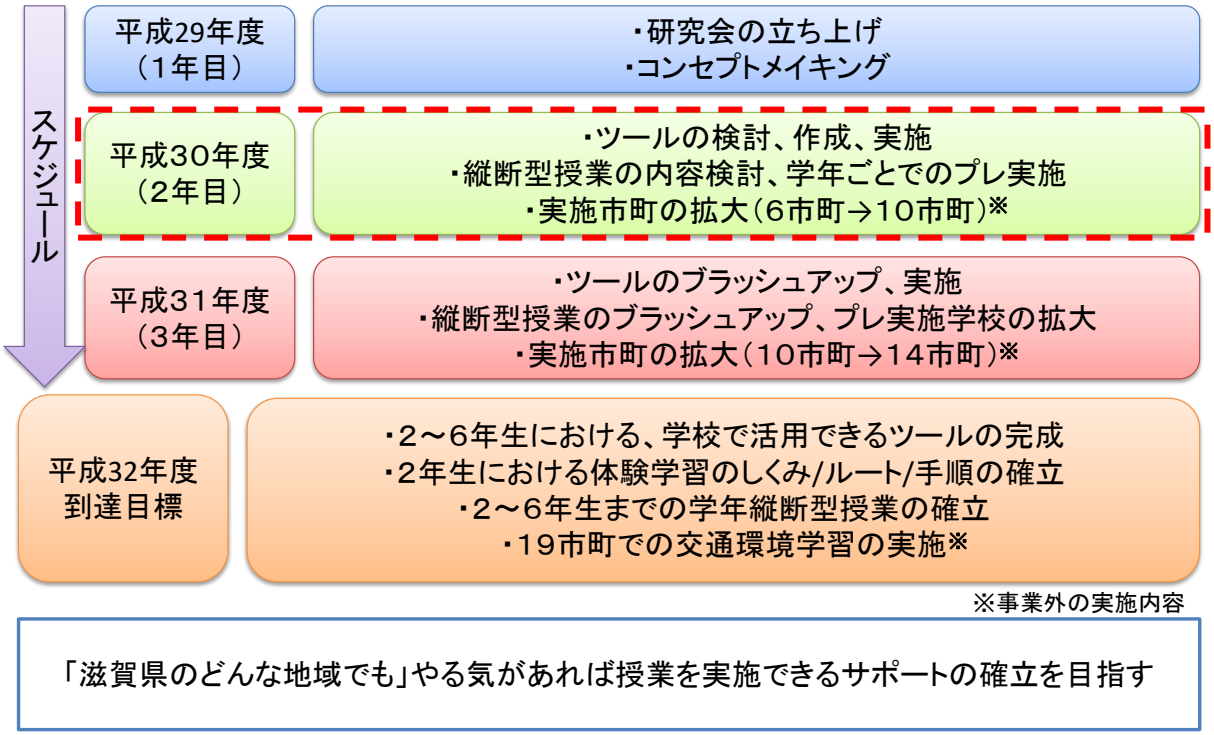


図 2-11 各年度の実施内容

(2) 交通学習プログラムの検討教科・単元

各モデル校の意見を踏まえた H30 における交通学習プログラムの検討教科および単元を以下に示す。

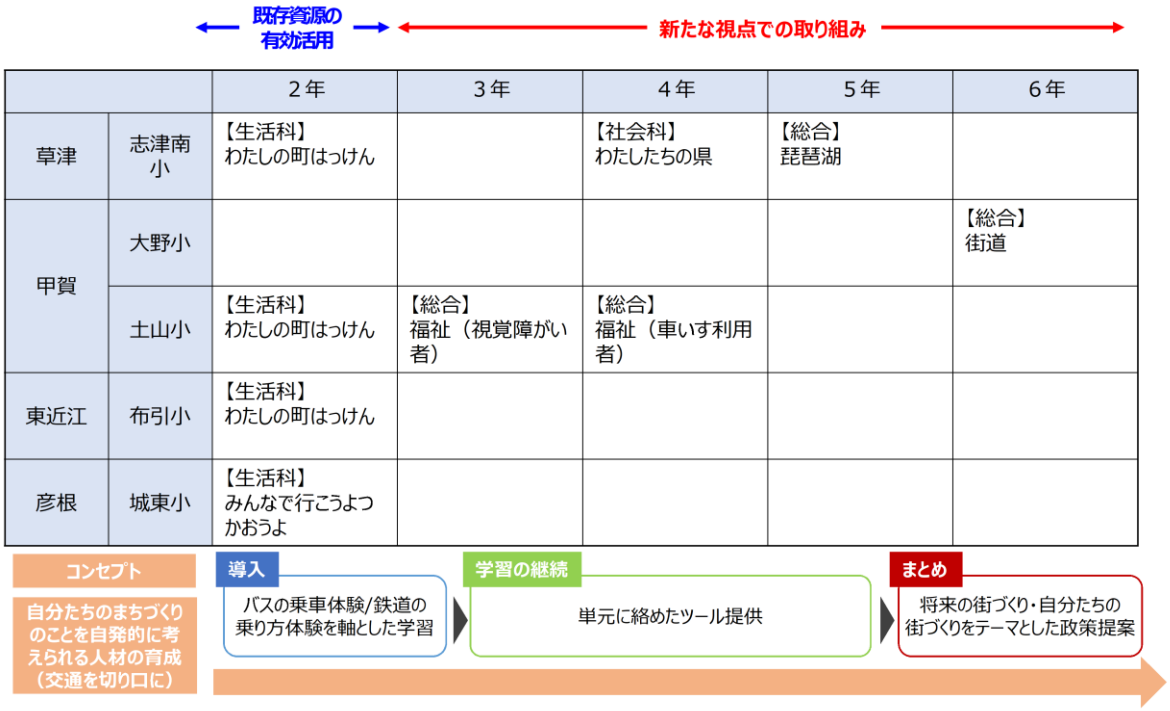


図 2-12 H30 の実施対象校における検討教科・単元

2-3 各小学校における交通学習プログラムの検討

2-3-1 既存資源の有効活用

(1) 検討の考え方

従来の出前授業では、バスの乗り方や乗車マナーについての学習に留まっており、教科単元としての理解を深めるような取り組みになっていなかった。そのため、乗り方教室を実施するだけではなく、乗り方教室で提供している交通素材や体験を有効活用することにより、生活科の単元としての理解を深めていくことができる学習プログラムについて検討をする必要があると考える。

また、前節で整理を行ったコンセプトを踏まえると、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、交通素材を活用した２年生での学習を入り口として機能させ、交通の魅力や有用性を高めることにより、交通素材が生活科や社会科等の学習に活用できるものであると認知してもらう必要がある。

以上より、生活科の学習単元において各学校がねらいとしていることを踏まえ、これを深める学習となるよう、乗り方教室を活かした進め方を検討することとした。

(2) 交通学習プログラムの検討

1) 東近江市立布引小学校

(a) 学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打ち合わせを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表 2-14 布引小学校の考え・意向

実施学年	・２年生
実施教科	・生活科
単元	・わたしの町はっけん
学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する
その他のニーズ	・公共交通の使い方や役割について理解させたい ・昨年度同様、バスの乗り方について学ぶ学習を行いたい ・米原駅舎および醒ヶ井養鱒場へ校外学習を行う予定である

(b) 交通素材を活用した学習の流れ

学校の考え・意向を踏まえた上で、校外学習での公共交通の利用機会を公共施設の理解につなげることを交通環境学習のねらいとして位置付け、乗り方教室で乗車体験することと校外学習で実際に移動することを活かした学習の流れについて検討・調整した。

布引小学校では、乗り方教室での学習が校外学習での移動とつながっていることを認識させるため、公共交通の存在について理解を促す宿題を担任の教師が作成し、乗り方教室の事前学習として実施することとした。

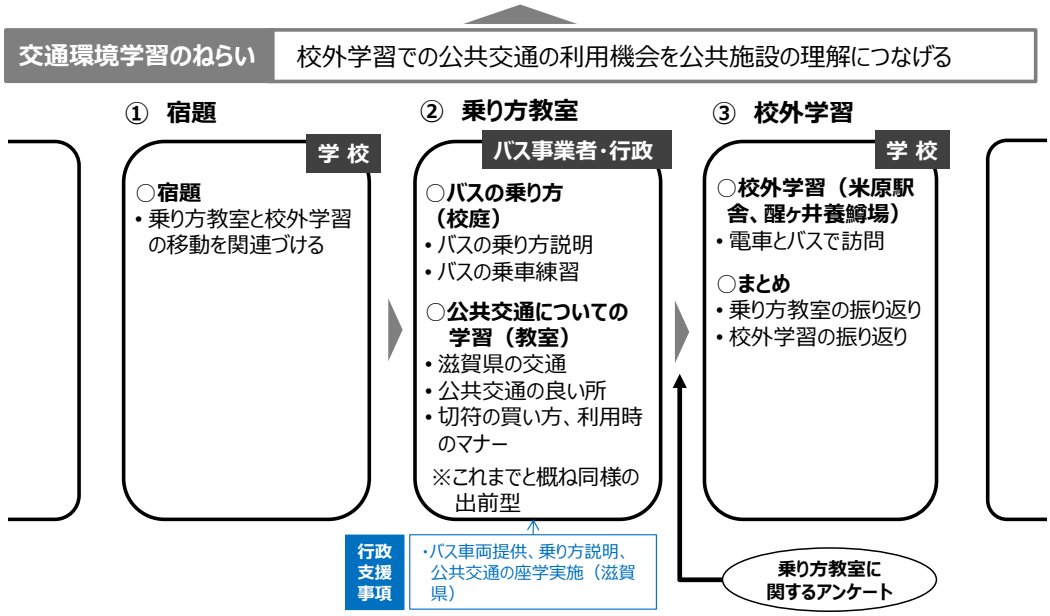


図 2-13 布引小における学習の流れ

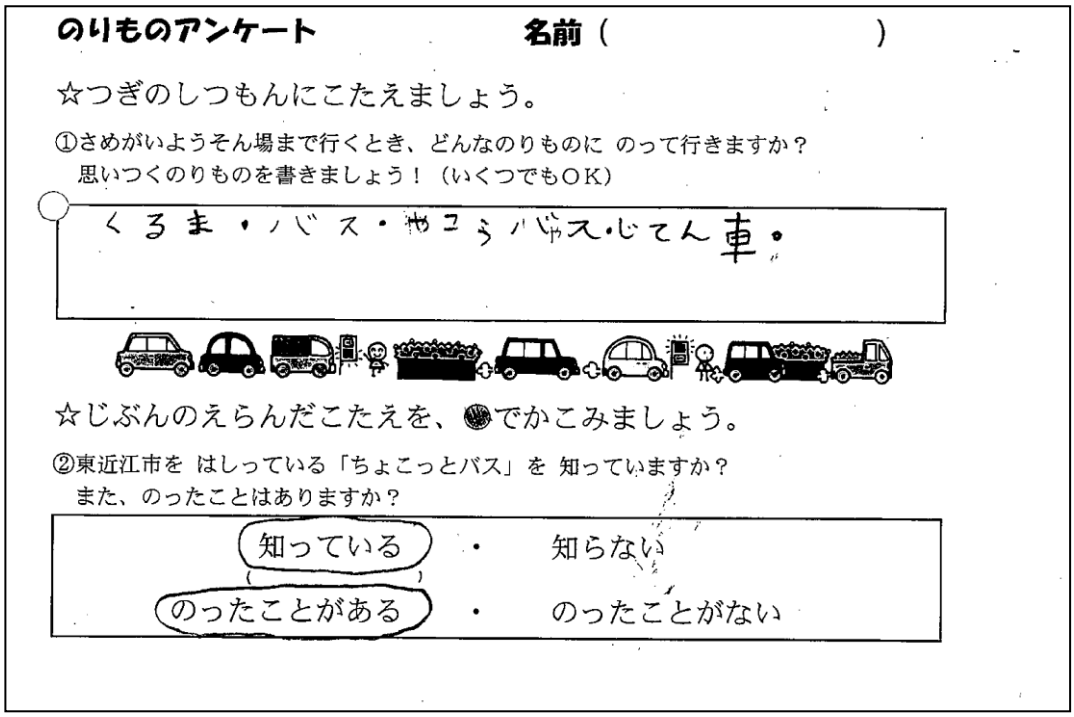
(c) 学習の準備

①乗り方教室の準備

近江鉄道に例年通り、バス車両の提供と児童へのバスの乗り方説明を依頼した。

②学習ツールの作成

校外学習で何を使って移動するか等を乗り方教室の前に質問することで、乗り方教室での体験学習が郊外学習での移動とつながっていることを意識させ、学習効果を高めることをねらうこととした。なお、宿題シートは担任の教師が作成した。


のりものアンケート　　名前（　　）

☆つぎのしつもんにこたえましょう。

①さめがいようそん場まで行くとき、どんなのりものに のって行きますか？
思いつくのりものを書きましょう！（いくつでもOK）

くるま・バス・ゆこらバス・じてん車。

☆じぶんのえらんだこたえを、●でかこみましょう。

②東近江市を はしっている「ちょこっとバス」を 知っていますか？
また、のったことはありますか？

知っている　・　知らない

のったことがある　・　のったことがない

図 2-14 宿題シート

2) 草津市立志津南小学校

(a) 学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打ち合わせを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表 2-15 志津南小学校の考え・意向

実施学年	・２年生
実施教科	・生活科
単元	・わたしの町はっけん
学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する
その他のニーズ	・公共施設の学習に併せて、公共交通の役割を理解させたい ・昨年度同様、バスの乗り方について学ぶ学習を行いたい ・京都水族館へ校外学習を行う予定であるが、借り上げバスでの移動を考えている

(b) 交通素材を活用した学習の流れ

学校の考え・意向を踏まえた上で、バスや電車等の身近な交通を通じて、公共施設の理解を深めることを交通環境学習のねらいとして位置付け、乗り方教室で乗車体験することと校外学習で実際に移動することを活かした学習の流れについて検討・調整した。

志津南小学校では、乗り方教室の学習理解をより深めるため、校外学習での移動で利用する借り上げバスを題材として、路線バスなどの公共交通の役割について考える授業を乗り方教室の振り返りとして実施することとした。

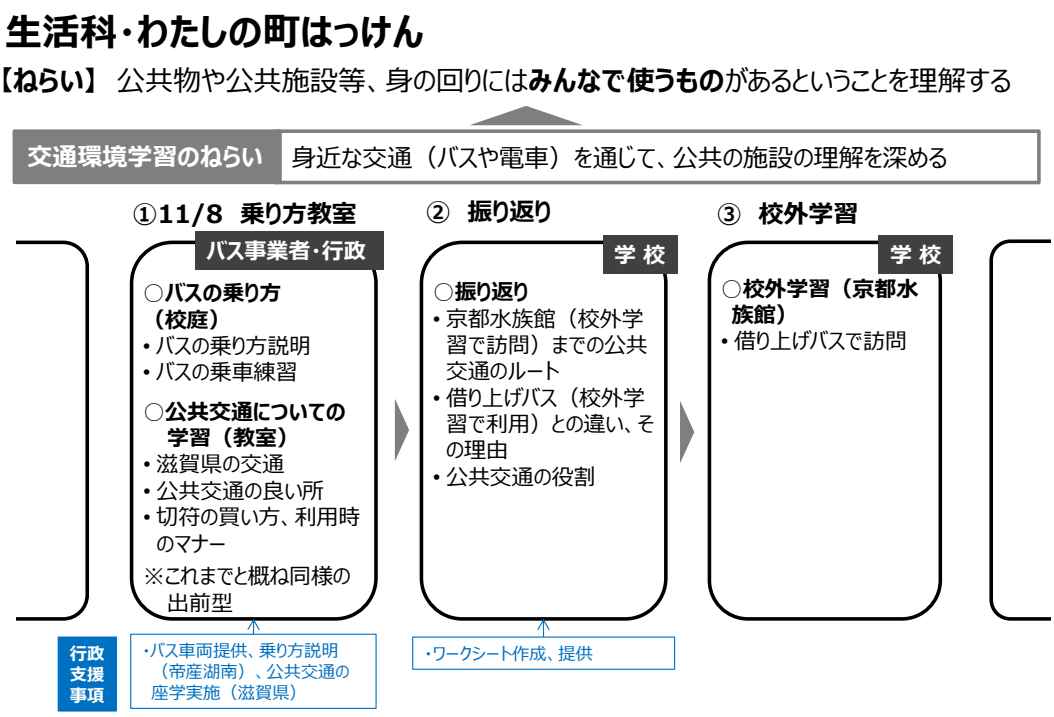


図 2-15 志津南小学校における学習の流れ

(c) 学習の準備

①乗り方教室の準備

帝産湖南交通に例年通り、バス車両の提供と児童へのバスの乗り方説明を依頼した。

②学習ツールの作成

乗り方教室での学習内容と校外学習での移動を関連付けて認識してもらうため、校外学習で借り上げバスを使って移動するルートと実際に路線バスを使って移動するルートの違いやその理由から、「今の路線バスだと多くの人が色んなところに行きやすい」や「地域の人の移動を支えている」といった、路線バスの役割について考えてもらうワークシートを学校と協議の上、作成した。

また、路線バスの役割を考えてもらう際、「家族でのお出かけはいつもどこに行っているか」や「どんな人がバスを使っているか」といった誘導方法や児童から想定される回答について例示した指導書を併せて作成し、実際に授業を行う教師にとって進め方の参考になるように配慮した。

次頁に作成した学習ツールを示す。

志津南小学校 から 京都水族館 まで「バス」をつかってどうやっていけばいいかな？
シート1
バスがはしっている場所をかきこんでみよう！！
かんがえてみよう①
貸切バスはどういうルートをはしっていたかな？
かんがえてみよう②
路線バスと電車でいくときは、
どこをはしっているバスにのればいいかな？
出典：京都府観光ガイド
京都水族館
京都駅
山科駅
大津駅
膳所駅
石山駅
瀬田駅
南草津駅
草津駅
栗東駅
守山駅
守山市
志津南小
こころゆたかに
ゆめをはぐくむ
人にやさしく
力をあわせ
チャレンジする
南っ子
高速道路
大津市
京都府
滋賀県

志津南小学校 から 京都水族館 まで「バス」をつかってどうやっていけばいいかな？
シート2
かんがえてみよう③
バスはどうしてこのようなルートをはしっているのかな？
出典：京都府観光ガイド
京都水族館
京都駅
山科駅
大津駅
膳所駅
石山駅
瀬田駅
南草津駅
草津駅
栗東駅
守山駅
守山市
志津南小
バス路線
貸切バスのルート
こころゆたかに
ゆめをはぐくむ
人にやさしく
力をあわせ
チャレンジする
南っ子
高速道路
大津市
京都府
滋賀県

図 2-16 ワークシート

図 2-17 教師向けに作成した指導書サンプル

3) 彦根市立城東小学校

(a) 学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打ち合わせを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表 2-16 城東小学校の考え・意向

実施学年	・２年生
実施教科	・生活科
単元	・みんなで行こうよつかおうよ
学習のねらい	・身近な公共交通を繰り返し利用しながら、その場所に愛着を持ち、それを支える人がいることを理解する ・安全に気をつけながら、公共交通を正しく大切に利用できるようになる
その他のニーズ	・公共交通の利用を通し、ルールやマナーの定着や公共施設の理解につなげたい ・昨年度同様、バスの乗り方について学ぶ学習を行いたい ・近江鉄道ミュージアムや河辺の森へ校外学習を行う予定であり、河辺の森へは近江鉄道を利用して行くことを考えている ・郊外学習で鉄道に乗車することを踏まえ、切符購入を行う体験を行いたい

(b) 交通素材を活用した学習の流れ

学校の考え・意向を踏まえた上で、実物での学習や利用体験を通じて理解を深めることを交通環境学習のねらいとして位置付け、鉄道事業者と連携した鉄道乗車券の購入体験やバス・電車の乗車体験を取り入れた学習の流れについて検討・調整した。

城東小学校では、乗り方教室や校外学習で学んだ公共交通の乗り方、マナー、乗車券の購入方法などを知識として定着させるための実践機会として、バス・鉄道乗車体験を一連の授業に組み込むこととした。

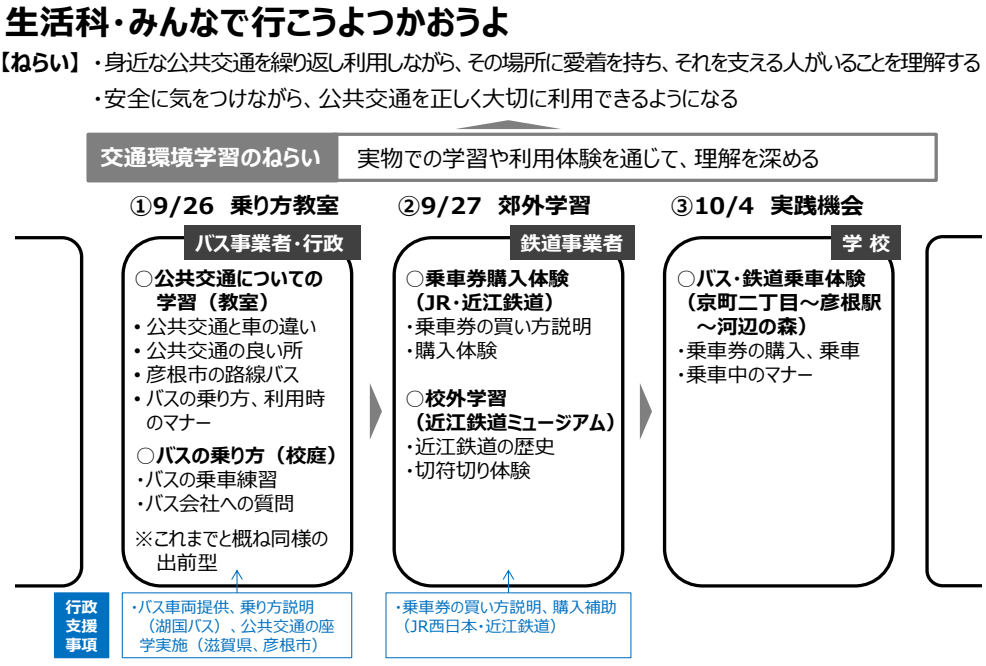


図 2-18 城東小学校における学習の流れ

(c) 学習の準備

①乗り方教室の準備

湖国バスに例年通り、バス車両の提供と児童へのバスの乗り方説明を依頼した。

②校外学習の準備

JR 西日本および近江鉄道に乗車券の買い方説明や乗車券の購入補助を依頼した。

4) 甲賀市立土山小学校

(a) 学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打ち合わせを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表 2-17 土山小学校の考え・意向

実施学年	・２年生
実施教科	・生活科
単元	・わたしの町はっけん
学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する ・公共施設やそのために働いている人たちが自分たちの地域の生活を支えていることを理解する
その他のニーズ	・公共施設の存在や役割を理解させたい ・公共交通で働いている人へのインタビューを通して、そこでの仕事の役割について理解させたい ・昨年度同様、バスの乗り方について学ぶ学習を行いたい ・乗り方を学ぶだけでなく、実際に走行する体験をさせてあげたい ・乗車体験中に乗客へインタビューをすることで、より理解が深まるのではないか

(b) 交通素材を活用した学習の流れ

学校の考え・意向を踏まえた上で、バスや電車等の身近な交通を通じて、公共交通の仕事や公共施設の役割について理解を深めることを交通環境学習のねらいとして位置付け、交通事業者へのインタビューや乗車体験を取り入れた学習の流れについて検討・調整した。

土山小学校では、乗り方教室で学習した内容の理解を深めると同時に、公共交通の存在と役割について理解してもらうため、バス・鉄道乗車体験や事業者等へのインタビューを授業に組み込み、一連の取り組みとしてまとめの授業を実施することとした。

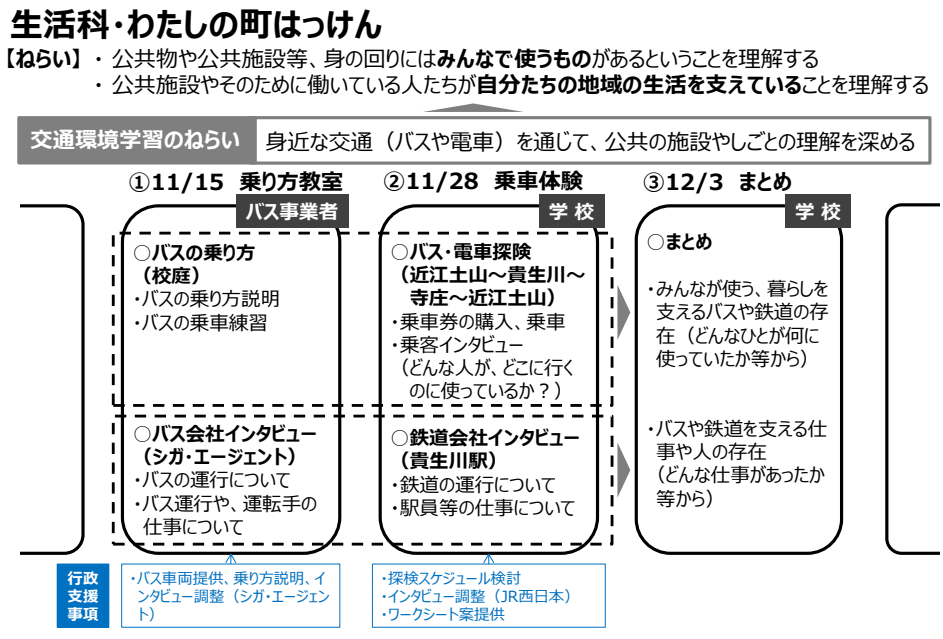


図 2-19 土山小学校における学習の流れ

(c) 学習の準備

①乗り方教室の準備

乗り方教室の準備として、シガ・エージェントシステムにバス車両の提供と児童へのバスの乗り方説明およびバス事業者インタビューの対応について依頼し、当日の流れ・タイムスケジュールの検討や調整も行った。

また、乗り方教室の中でも学習した内容を実践する機会として、土山小学校から最寄りの近江土山バス停までの乗車体験を組み込むとともに、乗車体験の後、バス停の待合室においてバス事業者インタビューを実施することとした。

乗り方教室の当日の流れを以下に示す。

表 2-18 乗り方教室の当日の流れ

時間		9：30～	9:35～	9:55～	10：00～	10：10～
場所		校庭	校庭	移動（バス）	近江土山	移動（歩き）
内容		・開始のあいさつ ・学習内容（バスの乗り方）	・乗り方教室	・乗車体験（校庭から近江土山へ移動）	・運転手等へのインタビュー	
学校	担任の先生	・開会		・移動サポート		・移動サポート
甲賀市		・主旨説明		・移動サポート		・移動サポート
シガ・エージェント		―	・乗り方教室		・インタビュー対応	―
滋賀県		・主旨説明		・移動サポート		・移動サポート

②乗車体験の準備

午前中にバスと鉄道を利用して土山小学校まで戻ってくるとともに、JR 貴生川駅で鉄道事業者へのインタビューを行う時間を確保することを条件として、ルートやスケジュールなど当日の流れについて検討を行った。また、バス・鉄道乗車中には、乗客へのインタビューを行うこととした。

表 2-19 乗車体験の当日の流れ

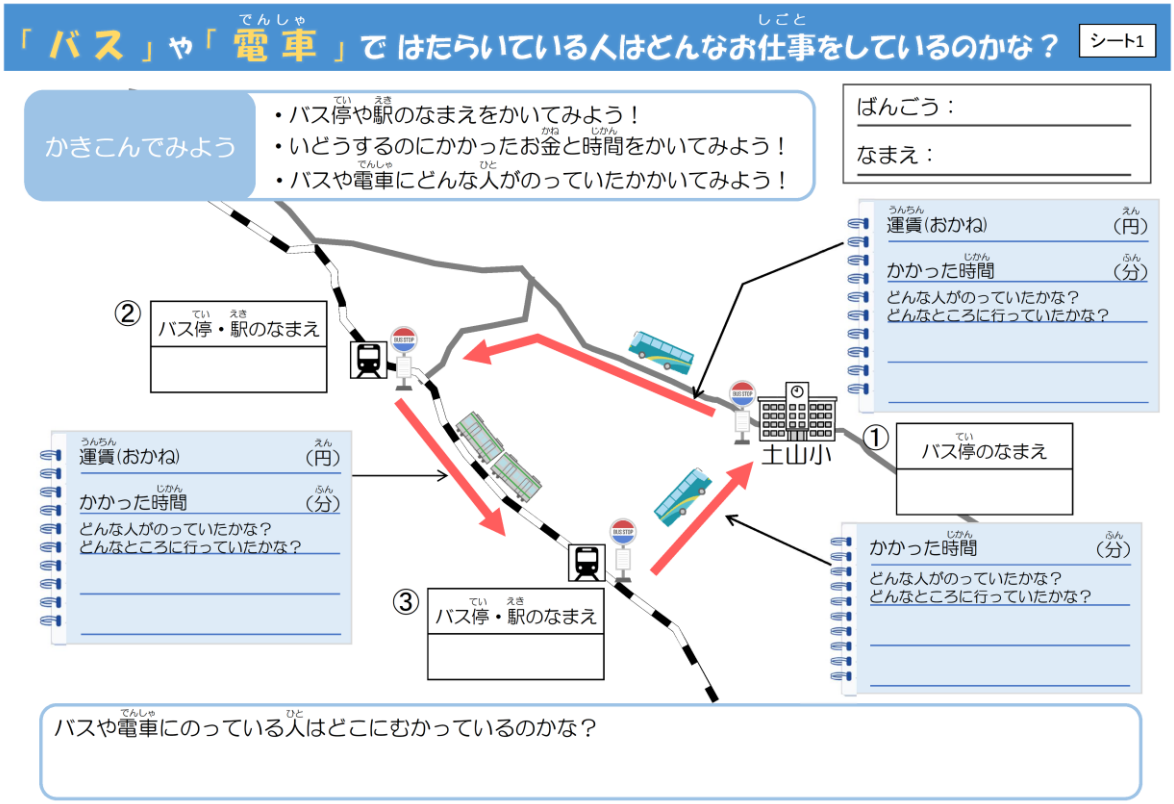
		バス体験（行き）					電車体験				バス体験（帰り）			
時間		8:40～	8:45～	8:50～		9:03～	9:32～	9:35～		10:13～	10:19～	10:45～	11:05～	11:10～
場所		学校	移動	近江土山バス停		バス	貴生川駅			電車	寺庄駅	バス	移動	学校
内容		・乗り方やマナーの説明 ・WS記入方法の説明	・移動 （土山小→近江土山バス停）	・乗車券の説明	・窓口でフリー乗車券を購入	・バスに乗車 （近江土山→貴生川） ・乗客インタビュー ・WS記入	・移動 （バス停→貴生川駅駅舎2階）	・券売機で切符購入	・JR駅員にインタビュー ・WS記入（インタビュー内容）	・電車に乗車 （貴生川→寺庄） ・乗客インタビュー ・WS記入	・ロータリーへの移動 ・WSの記入 ・トイレ休憩？（先生判断に任せる？）	・バスに乗車 （寺庄→近江土山） ・乗客インタビュー ・WS記入	・移動 （近江土山バス停→土山小）	・総括？
学校	担任の先生	・乗り方やマナーの説明 ・WS記入方法の説明	・移動の誘導	—	・乗車券購入の誘導	・WS記入指示 ・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応	・移動の誘導	・切符購入の誘導	—	・WS記入指示 ・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応	・ローターリーへ誘導 ・WS記入指示 ・生徒の対応	・WS記入指示 ・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応	・移動の誘導	
甲賀市		—	・移動サポート	・シガ・エージェントのサポート	・乗車券購入のサポート	—	・移動サポート	・切符購入のサポート	・JR駅員のサポート	—	・移動、トイレ休憩サポート	—	・移動サポート	—
シガ・エージェント		—	—	・乗車券の説明 ・乗車券販売	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
JR駅員		—	—	—	—	—	—	—	・「JR駅員にインタビュー」の対応	—	—	—	—	—
滋賀県		—	・移動サポート	—	・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート	・移動サポート	・切符購入のサポート	—	・WS記入サポート	・移動、トイレ休憩サポート ・WS記入サポート	・WS記入サポート	・移動サポート	—

③学習ツールの作成

乗車体験の学習内容を意識づける観点から、利用したバス停・駅の名前、かかった運賃や乗車時間、鉄道事業者や乗客へのインタビュー結果などの体験内容を書きとめてもらい、まとめ授業での振り返りとして活用できる形にするとともに、「バスや電車にのっている人はどこに向かっているのか」ということを考えてもらうことを通して、公共交通の存在・役割やそれを支える人の努力についての理解を深めてもらうことを意図したワークシートを学校と協議の上で作成した。

また、公共交通の役割を考えてもらう際の誘導方法や児童から想定される回答について例示した指導書を併せて作成し、実際に授業を行う先生にとって進め方の参考になるように配慮した。

次頁に作成した学習ツールを示す。


「バス」や「電車」で はたらいている人はどんなお仕事をしているのかな？
シート1
かきこんでみよう
・バス停や駅のなまえをかいてみよう！
・いどうするのにかかったお金と時間をかいてみよう！
・バスや電車にどんな人がのっていたかかいてみよう！
ばんごう：
なまえ：
運賃(おかね)（円）
かかった時間（分）
どんな人がのっていたかな？
どんなところに行っていたかな？
②
バス停・駅のなまえ
土山小
①
バス停のなまえ
運賃(おかね)（円）
かかった時間（分）
どんな人がのっていたかな？
どんなところに行っていたかな？
かかった時間（分）
どんな人がのっていたかな？
どんなところに行っていたかな？
③
バス停・駅のなまえ
バスや電車にのっている人はどこにむかっているのかな？

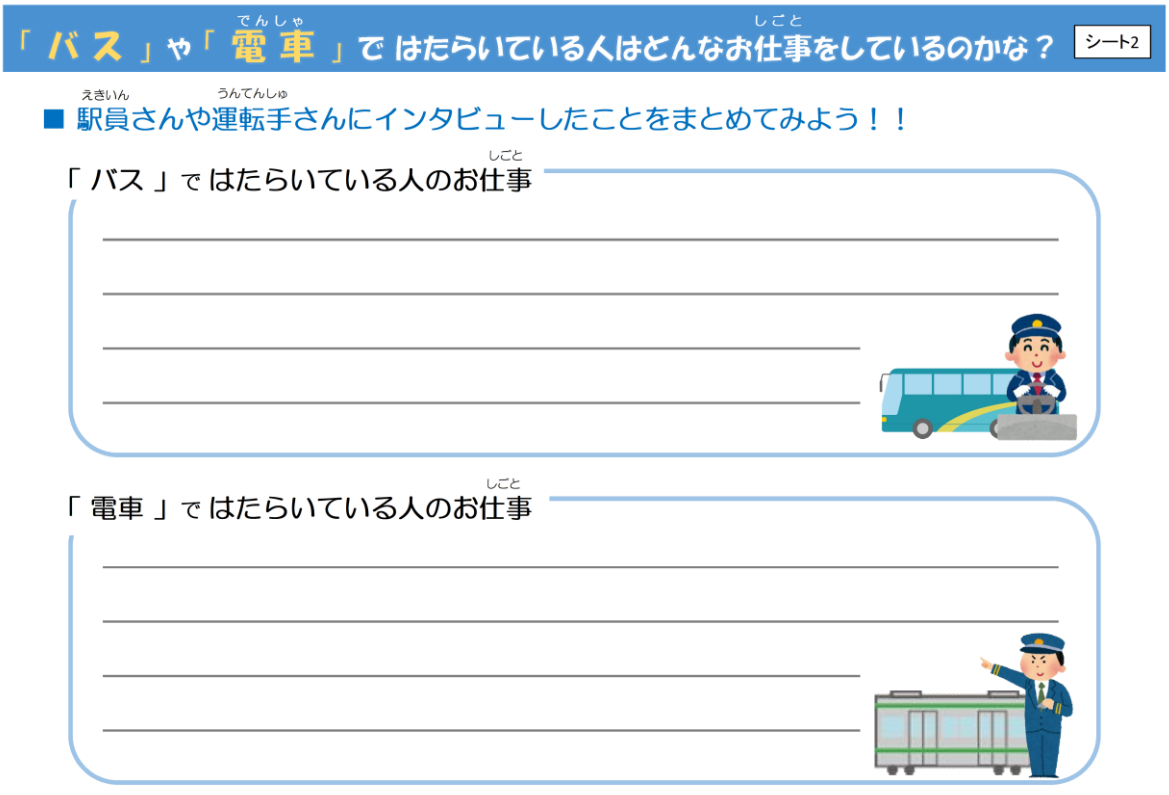

「バス」や「電車」で はたらいている人はどんなお仕事をしているのかな？
シート2
■ 駅員さんや運転手さんにインタビューしたことをまとめてみよう！！
「バス」で はたらいている人のお仕事
「電車」で はたらいている人のお仕事

図 2-20 ワークシート

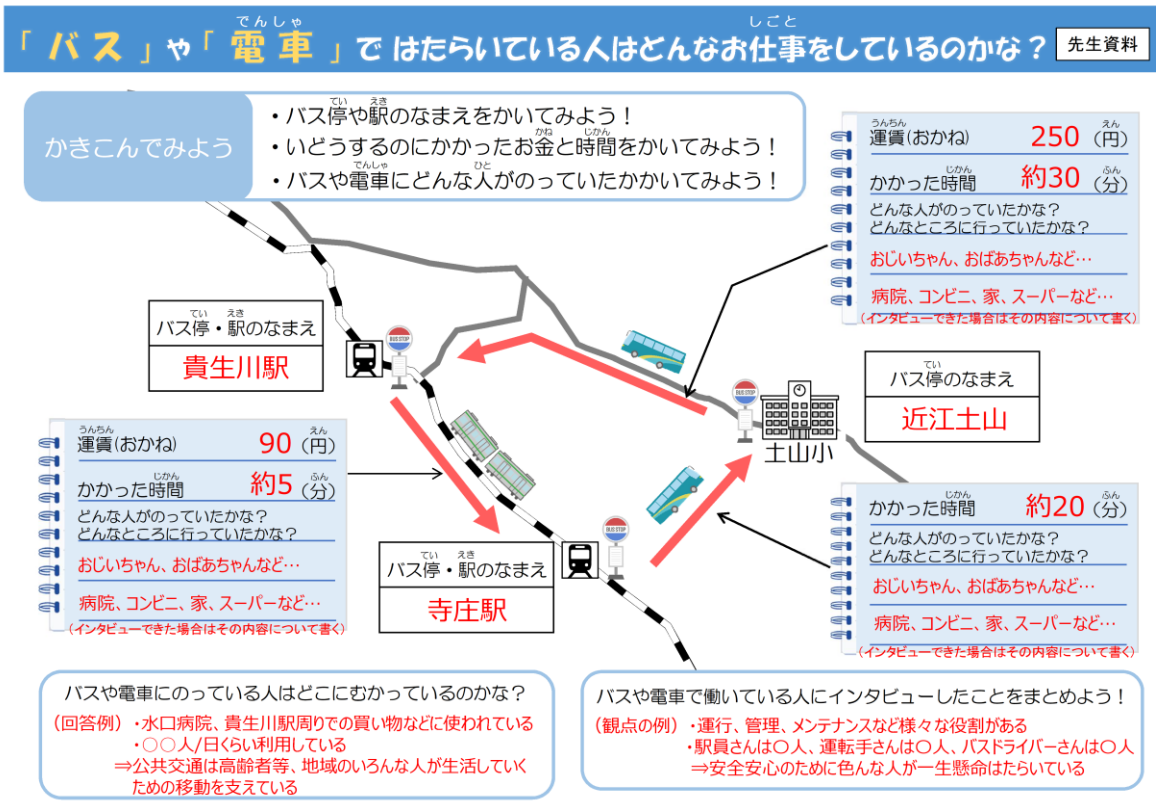


図 2-21 教師向けに作成した指導書サンプル

2-3-2 新たな視点での取り組み

（1）福祉学習における交通素材の活用（甲賀市立土山小学校３年生・４年生、総合学習）

1）検討の考え方

従来の交通環境学習ではバス車両を用いた乗り方教室の実施がほとんどを占めており、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で単元の理解を深めるバス車両の活用方法について検討を行うとともに、交通素材が様々な形で活用できる方法があるということを認知してもらう必要がある。

また、現在小学校で行われている福祉学習では、障がい者へのインタビューや校内での障がい者の疑似体験に留まっているため、学習の理解を深めるためには障がい者の日常により近い体験機会としてバス車両を活用していくことが有効であると考えられる。

以上より、福祉学習の単元の主旨を踏まえた上で、福祉学習の理解を深めるプログラムを実施するための車両を活用したプログラムを検討することとした。

2) 交通学習プログラムの検討

(a) 学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打ち合わせを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表 2-20 土山小学校の考え・意向

実施学年	・３年生 ・４年生
実施教科	・総合学習（福祉学習）
単元	・ともに生きるⅠ ・ともに生きるⅡ
学習のねらい	・移動の際、視覚障がい者（or 車いす利用者）が何に困るかを実物・体験を通じて実感し、自分にできることを考える
その他のニーズ	・この単元では、障がい者へのインタビューや校内での視覚障がい者の体験を考えており、バス車両を用いた授業は、単元の最後の方に子供たちの視点を広げるという位置付けで実施したい ・福祉面での工夫点がわかるようなバス車両・バス停の写真やワークシート、また視覚障がい者の体験キットを提供して頂けるとありがたい ・児童は３年生２クラス 37 人、４年生１クラス 24 人となるので、全員体験するためには授業時間が２時間は必要であると考える ・車いすや体験キットを利用して、いつも通学で通っている公道を歩くことも障がい者の大変さを実感が出来てよいと思う

(b) 交通素材を活用した学習の流れ

障がい者が日頃何に困るのかを身近な交通のひとつであるバス車両での体験を通じて実感し、理解を深めてもらうことを交通環境学習のねらいとして位置付け、学習の流れについて検討・調整した。

交通素材を活用した福祉学習では、バス車両での障がい者体験に先立ち、福祉面での工夫点について調べる車両観察を授業に組み込み、工夫点を予想する導入授業からまとめまでの一連の取り組みとして実施することとした。

次頁に３年生および４年生の学習の流れを示す。

総合学習・ともに生きるⅠ（視覚障がい者）

【ねらい】移動の際、視覚障がい者が何に困るかを実物・体験を通じて実感し、自分にできることを考える

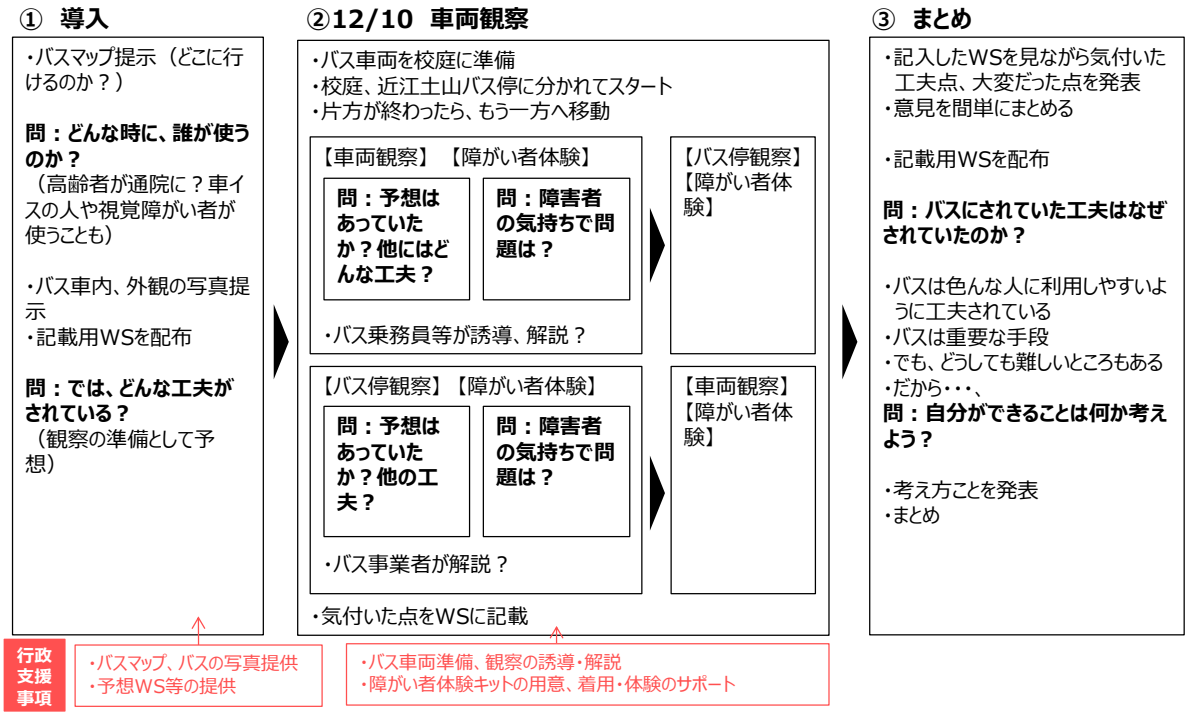


図 2-22 ３年生の学習の流れ

総合学習・ともに生きるⅡ（車いす利用者）

【ねらい】移動の際、車いす利用者が何に困るかを実物・体験を通じて実感し、自分にできることを考える

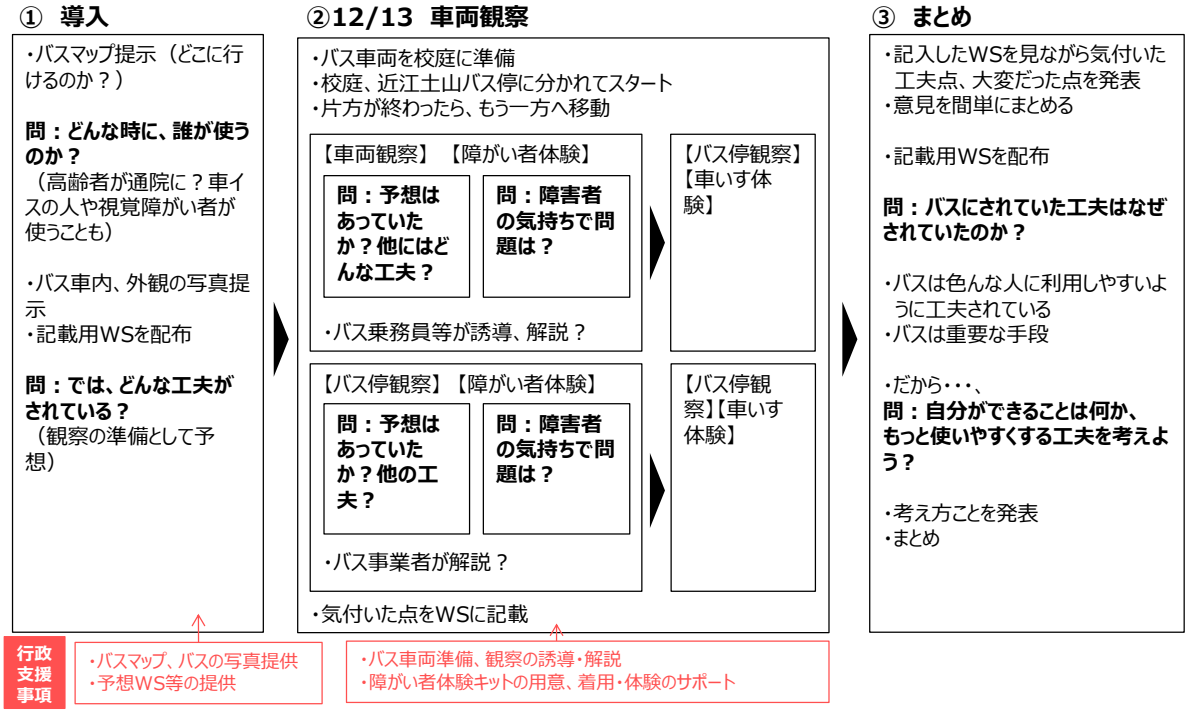


図 2-23 ４年生の学習の流れ

(c) 学習の準備

①障がい者体験・車両観察の準備

障がい者体験および車両観察の準備として、シガ・エージェントシステムにバス車両の提供と福祉面での工夫点の説明について依頼し、当日の流れの検討・調整を行った。

また、日常に近い形での体験となるように近江土山バス停での障がい者体験を授業に組み込み、さらに福祉面の工夫点について理解を深めるため、バリアフリー対応の新型車両と障がい者にとって不便な面の多い旧型車両を提供してもらい、２台の車両を比較しながら観察できる形とした。

障がい者体験および車両観察の当日の流れを以下に示す。

表 2-21　３年生の当日の流れ

<table>
<tr><th colspan="2">時間</th><th>10:45</th><th>10:50</th><th>10:55</th><th>11:00</th><th>11:05</th><th>11:10</th><th>11:15</th><th>11:20</th><th>11:25</th><th>11:30</th><th>11:35</th><th>11:40</th><th>11:45</th><th>11:50</th><th>11:55</th><th>12:00</th><th>12:05</th><th>12:10</th><th>12:15</th></tr>
<tr><td colspan="2">場所</td><td>校庭</td><td colspan="9">校庭</td><td>休憩</td><td>移動</td><td colspan="6">近江土山</td><td>移動</td><td>校庭</td></tr>
<tr><td colspan="2">１組</td><td>・主旨、流れの説明</td><td colspan="4">・車両観察
⇒全員でどこにどんな工夫があるか、回って探す
※乗務員が子供の質問に答える
※バーの色・座席の色、音声案内、二―リング・床が低いのは乗りやすい等
⇒一度集まり、軽く発表、共有
⇒目が悪い人はどんな感じになるかやってみよう</td><td colspan="5">・視覚障害者体験
⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク装着）
⇒入口→後部座席→ボタン→運賃支払い→降車を一周
（１班約３分）
※アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート
⇒サポートとアイマスクが入れ替わって一周
※バス車両の中を同時に回るのは３組で調整
（前の班が後部座席に座ったら入る）
（3分／3班×9班×2＝計18分）
⇒終わったらWSに気付いたことを書く

<必要グッズ数> アイマスク９個、白杖３本</td><td>―</td><td colspan2></td><td colspan="4"></td><td colspan="2"></td><td>・終了あいさつ</td></tr>
<tr><td colspan="2">場所</td><td>校庭</td><td>移動</td><td colspan="6">近江土山</td><td>移動</td><td>休憩</td><td>校庭</td><td colspan="9">校庭</td></tr>
<tr><td colspan="2">２組</td><td>・主旨、流れの説明</td><td>・移動（歩き）</td><td colspan="3">・バス停観察
⇒全員でどこにどんな工夫があるか、回って探す
※シガ・エージェント職員が子供の質問に答える
※点字ブロック、多目的トイレの点字等
⇒一度集まり、軽く発表、共有
⇒目が悪い人はどんな感じになるかやってみよう</td><td colspan="4">・視覚障害者体験
⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク装着）
⇒待合室→バス停→トイレ→待合室一周
（１班役3分）
※アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート
⇒サポートとアイマスクが入れ替わって一周
※同時に回るのは３組で調整
（3分／3班×9班×2＝計18分）
⇒終わったらWSに気付いたことを書く

<必要グッズ数> アイマスク９個、白杖３本</td><td>・移動（視覚障害者キットを付けて歩く）</td><td>―</td><td colspan="6"></td><td colspan="4"></td><td>・終了あいさつ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学校</td><td>１組担任</td><td>・はじめに</td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="5">・障害者体験サポート（残った生徒の対応）</td><td></td><td>・移動</td><td colspan="2">・バス停観察サポート</td><td colspan="3">・障害者体験サポート（残った生徒の対応）</td><td>・移動</td><td></td></tr>
<tr><td>２組担任</td><td></td><td>・移動</td><td colspan="2">・バス停観察サポート</td><td colspan="4">・障害者体験サポート（残った生徒の対応）</td><td>・移動</td><td></td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="4">・障害者体験サポート（残った生徒の対応）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">甲賀市</td><td>A</td><td>・主旨説明</td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="5">・班分け、説明
・障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="4">・班分け、説明
・障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td>・あいさつ</td></tr>
<tr><td>B</td><td></td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="5">・障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="4">・障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">シガ･エージェント</td><td>A</td><td></td><td colspan="4">・進行、観察対応</td><td colspan="5">・進行、障害者体験サポート</td><td></td><td colspan="4">・進行、観察対応</td><td colspan="4">・進行、障害者体験サポート</td><td></td></tr>
<tr><td>B</td><td></td><td></td><td colspan="3">・進行、観察対応</td><td colspan="4">・進行、障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">・進行、観察対応</td><td colspan="3">・進行、障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">滋賀県</td><td>A</td><td>・主旨説明</td><td colspan="19">・全体サポート（状況に応じて車両の対応サポート）</td><td>・あいさつ</td></tr>
<tr><td>B</td><td></td><td></td><td colspan="3">・バス停観察サポート</td><td colspan="4">・班分け、説明
・障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">・バス停観察サポート</td><td colspan="3">・班分け、説明
・障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">運輸支局</td><td>A</td><td></td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="5">・障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="4">・障害者体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td></tr>
</table>

表 2-22　４年生の当日の流れ

<table>
<tr><th colspan="2">時間</th><th>13:35</th><th colspan="2">13:40</th><th>13:45</th><th>13:50</th><th>13:55</th><th>14:00</th><th>14:05</th><th>14:10</th><th>14:15</th><th>14:20</th><th>14:25</th><th>14:30</th><th>14:35</th><th>14:40</th><th>14:45</th><th>14:50</th><th>14:55</th><th>15:00</th><th>15:05</th><th>15:10</th><th>15:15</th><th>15:20</th></tr>
<tr><td colspan="2">場所</td><td>校庭</td><td colspan="10">校庭</td><td>休憩</td><td>移動</td><td colspan="8">近江土山</td><td>移動</td><td>校庭</td></tr>
<tr><td colspan="2">グループ１
（１２名）</td><td>・主旨、流れの説明</td><td colspan="3">・車両観察
⇒全員でどこにどんな工夫があるか、回って探す
※乗務員が子供の質問に答える
※スロープ、二―リング、跳ね上げ椅子、バー、マイク（会話用）等
⇒一度集まり、軽く発表、共有
⇒車いすだとどんな感じになるかやってみよう</td><td colspan="7">・視覚障害者体験
⇒２人一組に分かれて準備（車イスにのる）
⇒スロープから乗車→椅子の跳ね上げ→固定→ボタン→降車を一周（４分）
※一人が車いすにのり、もう一人が押す
※車いすの固定後、乗る人と押す人が交代
※バス中は１組ずつ入れ替わる
（4分×6班＝計24分）
⇒WSに気付いたことを書く

<必要グッズ数> 車いす２台</td><td>―</td><td></td><td colspan="3"></td><td colspan="5"></td><td></td><td>・終了あいさつ</td></tr>
<tr><td colspan="2">場所</td><td>校庭</td><td>移動</td><td colspan="8">近江土山</td><td>移動</td><td>休憩</td><td>校庭</td><td colspan="12">校庭</td></tr>
<tr><td colspan="2">グループ２
（１２名）</td><td>・主旨、流れの説明</td><td>・移動（歩き）</td><td colspan="3">・バス停観察
⇒全員でどこにどんな工夫があるか、回って探す
※シガ・エージェント職員が子供の質問に答える
※スロープ、手すり、点字ブロック、多目的のボタン等
⇒一度集まり、軽く発表、共有
⇒車いすだとどんな感じになるかやってみよう</td><td colspan="5">・視覚障害者体験
⇒２人一組に分かれて準備
⇒待合室→バス停→トイレ→待合室一周（4分）
※一人が車いすにのり、もう一人が押す
⇒乗る人と押す人が入れ替わる
※同時に回るのは3組くらいで調整
（4分／3班×6班×2＝計16分）
⇒WSに気付いたことを書く

<必要グッズ数> 車いす４台</td><td>・移動（車イスで移動）</td><td>―</td><td colspan="4"></td><td colspan="6"></td><td>・終了あいさつ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学校</td><td>担任</td><td>・はじめに</td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="5">・車イス体験サポート（残った生徒の対応）</td><td></td><td>・移動</td><td colspan="2">・バス停観察サポート</td><td colspan="4">・車イス体験サポート（残った生徒の対応）</td><td>・移動</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>・移動</td><td colspan="3">・バス停観察サポート</td><td colspan="4">・車イス体験サポート（残った生徒の対応）</td><td>・移動</td><td></td><td colspan="3">・車両観察サポート</td><td colspan="6">・車イス体験サポート（残った生徒の対応）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">甲賀市</td><td>A</td><td>・主旨説明</td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="6">・班分け、説明
・車イス体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td colspan="3">・車両観察サポート</td><td colspan="6">・班分け、説明
・車イス体験サポート（生徒付き添い）</td><td>・あいさつ</td></tr>
<tr><td>B</td><td></td><td colspan="4">・車両観察サポート</td><td colspan="6">・車イス体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td colspan="3">・車両観察サポート</td><td colspan="6">・車イス体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">シガ･エージェント</td><td>A</td><td></td><td colspan="4">・進行、観察対応</td><td colspan="6">・進行、車イス体験サポート</td><td></td><td colspan="3">・進行、観察対応</td><td colspan="6">・進行、車イス体験サポート</td><td></td></tr>
<tr><td>B</td><td></td><td></td><td colspan="3">・進行、観察対応</td><td colspan="5">・進行、車イス体験サポート</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">・進行、観察対応</td><td colspan="5">・進行、車イス体験サポート</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">滋賀県</td><td>A</td><td>・主旨説明</td><td></td><td colspan="3">・バス停観察サポート</td><td colspan="5">・班分け、説明
・車イス体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td></td><td colspan="2">・バス停観察サポート</td><td colspan="5">・班分け、説明
・車イス体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td>・あいさつ</td></tr>
<tr><td>B</td><td></td><td></td><td colspan="3">・バス停観察サポート</td><td colspan="5">・車イス体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">・バス停観察サポート</td><td colspan="5">・車イス体験サポート（生徒付き添い）</td><td></td><td></td></tr>
</table>

③学習ツールの作成

バス車両・バス停における福祉面での工夫点について、導入授業で予想したことや車両観察時に発見したことを記入するとともに、まとめ授業で「なぜバス車両やバス停で福祉面での工夫がされているのか」や「障がい者の体験を通して大変だったことは何か」などの問いを通じ、自分たちは障がい者のために何ができるのかについて考えてもらうためのワークシートを学校と協議の上で作成した。

また、導入授業でバス車両・バス停における福祉面での工夫点を予想する際の参考となるよう、写真の提供も行った。

次頁に作成した学習ツールおよび提供した写真を示す。

視覚障がい者のために、バスにはどんな工夫があるかな？

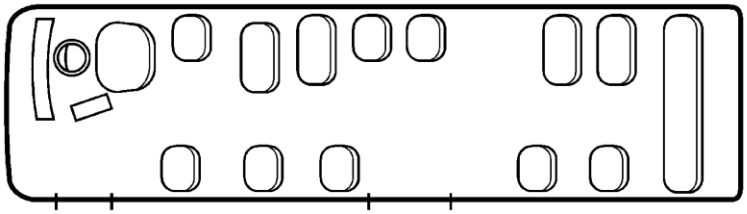
事前シート

予想してみよう！

・バスの車両には工夫があるかな？
・どんな工夫がしてあるかな？

クラス：　　（組）　番号：

名前：



視覚障がい者のために、バスにはどんな工夫があったかな？

体験シート

確認してみよう！

・バスの車両にはどんな工夫がしてあったかな？
・アイマスクをしてみて怖かった、大変だったところは？

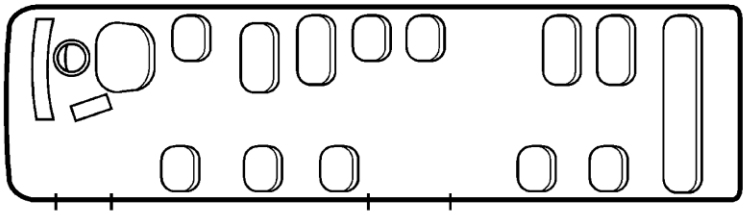


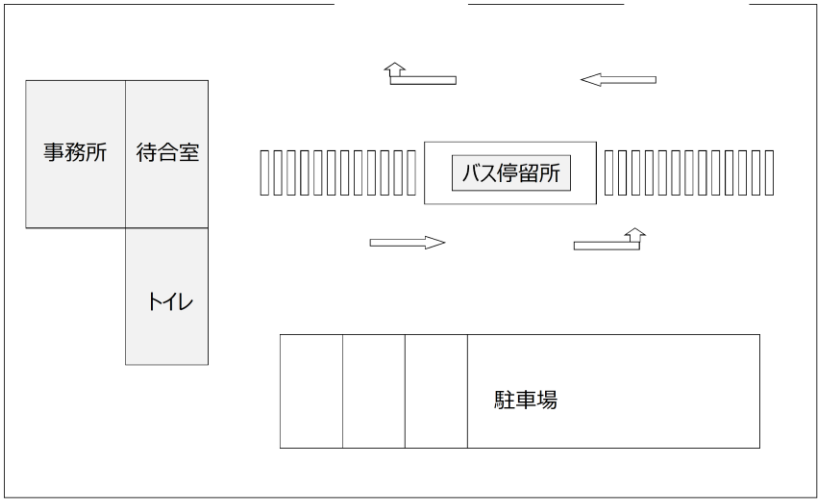
図 2-24　３年生のワークシート（１/３）

視覚障がい者のために、バス停にはどんな工夫があるかな？

事前シート

予想してみよう！

- バス停（近江土山）には工夫があるかな？
- どんな工夫がしてあるかな？



視覚障がい者のために、バス停にはどんな工夫があったかな？

体験シート

予想してみよう！

- バス停（近江土山）にはどんな工夫がしてあったかな？
- アイマスクをしてみて怖かった、大変だったところは？

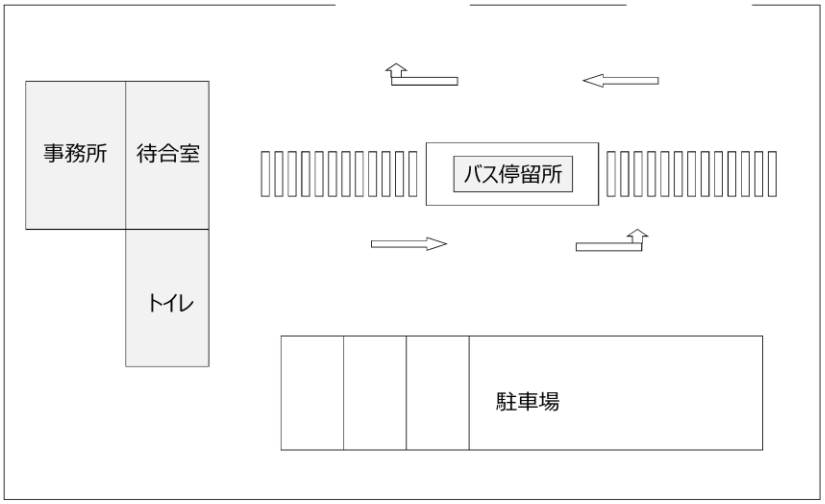


図 2-25　3年生のワークシート（2/3）

バス、バス停に工夫がされていたのはなぜ？

まとめ

「 バス 」にされていた工夫は？ ― それは、なぜされていたのかな？

バス乗ったりするときに、自分ができることは？

まとめ

アイマスクで大変だったことは？ ― 自分に何ができるかな？

図 2-26　３年生のワークシート（３/３）

車イスの人のために、バスにはどんな工夫があるかな？

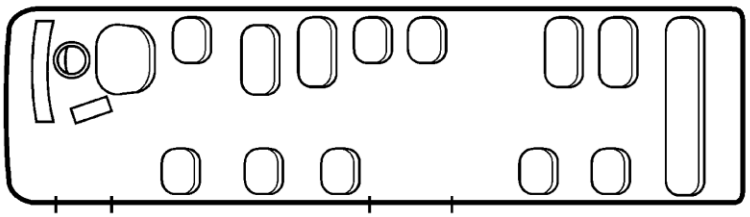
事前シート

予想してみよう！

・バスの車両には工夫があるかな？
・どんな工夫がしてあるかな？

番号：

名前：



車イスの人のために、バスにはどんな工夫があったかな？

体験シート

確認してみよう！

・バスの車両にはどんな工夫がしてあったかな？
・車イスで乗ってみて大変だったところは？

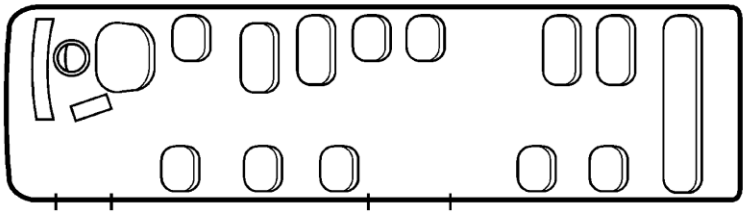


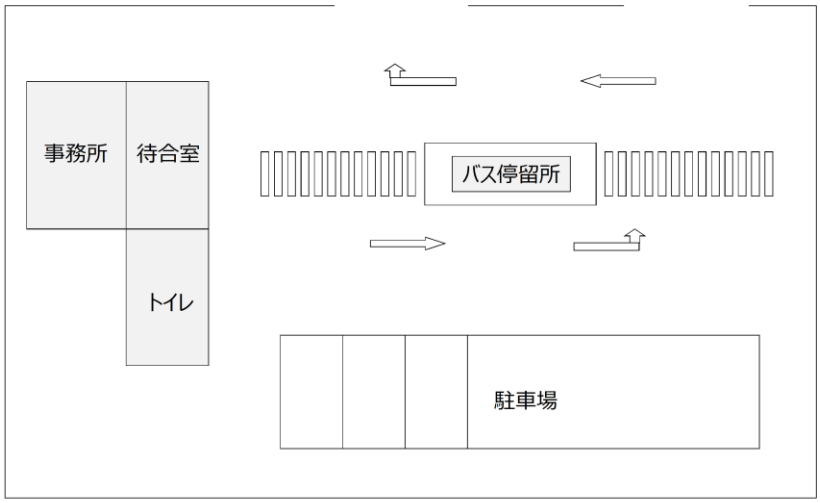
図 2-27　４年生のワークシート（１/３）

車イスの人のために、バス停にはどんな工夫があるかな？

事前シート

予想してみよう！

- バス停（近江土山）には工夫があるかな？
- どんな工夫がしてあるかな？



車イスの人のために、バス停にはどんな工夫があったかな？

体験シート

予想してみよう！

- バス停（近江土山）にはどんな工夫がしてあったかな？
- 車イスに乗ってみて怖かった、大変だったところは？

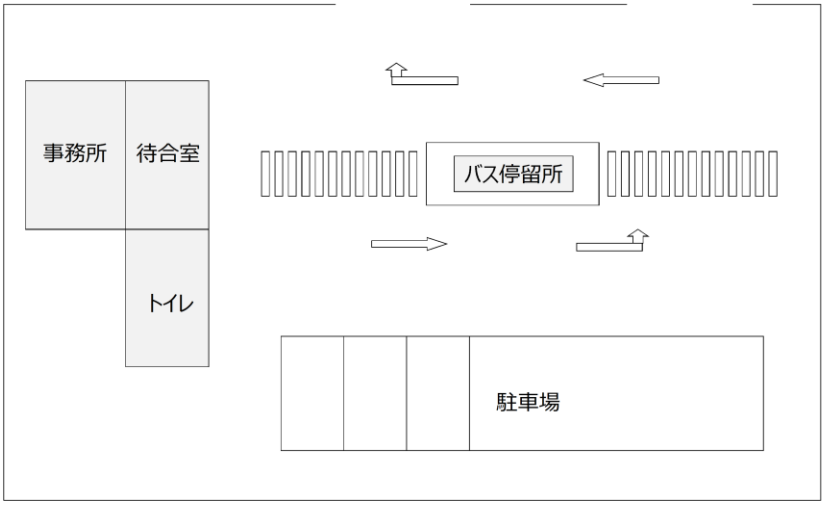


図 2-28　４年生のワークシート（２/３）

バス、バス停に工夫がされていたのはなぜ？

まとめ

「 バス 」にされていた工夫は？ ― それは、なぜされていたのかな？

バス乗ったりするときに、自分ができることは？

まとめ

車イスで大変だったことは？ ― 自分に何ができるかな？

図 2-29　４年生のワークシート（３/３）

図 2-30　3・4年生のへの提供写真（1/3）

図 2-31　3・4年生のへの提供写真（2/3）

図 2-32　3・4年生のへの提供写真（3/3）

(2) 鉄道県土すごろくの検討（草津市立志津南小学校４年生、社会科）

1) 検討の考え方

従来の交通環境学習ではバス車両を用いた乗り方教室の実施がほとんどを占めており、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で単元の理解を深める交通素材の活用方法について検討を行う必要がある。また、学校の負担とならない形で交通環境学習を広げていくためには、担任の教師が授業を行うのではなく、休憩時間等を活用して教科単元の理解を深める学習を実施することも必要であり、その形のひとつとして、子どもたちが興味を持って取り組めるゲーム形式の学習ツールが考えられる。

４年生で学習する社会科単元「わたしたちの県」では、県内各地域の特性を学習する機会があり、県内で広く運行されている鉄道を関連付けた学習も可能と考えられる。鉄道ネットワークを面的に捉え、鉄道での移動を疑似体験できるすごろくゲームは教科単元の理解を深める学習ツールとして有効であると考える。

以上より、社会科の単元の主旨を踏まえた上で、社会科の理解を深めつつ、交通にも親しむことができるゲーム形式の学習ツールを検討することとした。

2) 交通学習プログラムの検討

(a) 学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打ち合わせを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表 2-23 志津南小学校の考え・意向

実施学年	・４年生
実施教科	・社会科
単元	・わたしたちの県
学習のねらい	・自分たちが住む滋賀県の地理的環境の特色、地域の伝統・文化、産業等について理解する
その他のニーズ	・社会科の授業のはじめに遊ぶことができるものがあれば、導入がしやすい ・社会科の使うことを念頭に考えた場合、農産物・食品、地形・自然、歴史・工芸等のそれぞれの分野について学べるものがあると良い ・どのような内容のすごろくにするかは検討することが必要であると思うが、教科単元の理解を深める形であれば、こちら側で試行することは可能である ・すごろくの内容については、子どもたちにとってより良いものとなるように一緒に検討しながら進めたい

(b) 交通素材を活用した学習の流れ

公共交通を疑似的に体験しながら、「県の広がり」や「特色ある地域と人々と暮らし」の教科単元の理解を深めるための学習ツールとして、鉄道県土すごろくを検討することとした。

以下に鉄道県土すごろくを用いた学習の流れを示す。

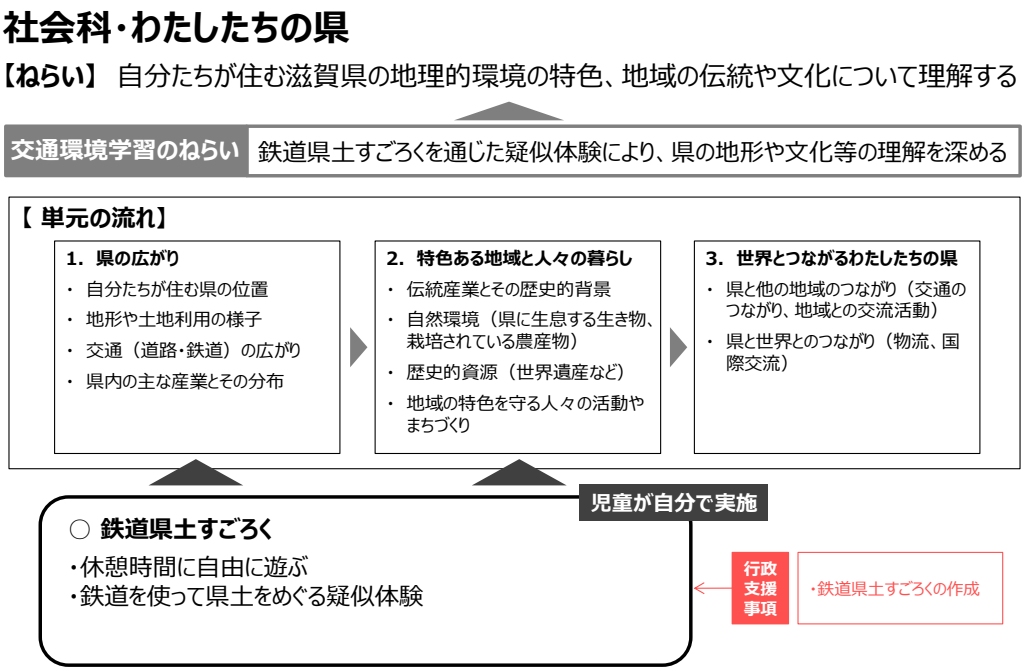


図 2-33 学習の流れ

(c) 学習ツールの検討

①鉄道県土すごろくの考え方

滋賀県の特産物が地形や気候、文化的背景等を活かして生産されていることを知ることを通じ、県の発展や地域の特色についての理解を深めることをねらいとし、また鉄道を使って特産物を探しに行くという疑似体験により、地域の特産物が流通等の形として交通でつながっていることを理解してもらう内容とした。

②ゲーム内容の検討

滋賀県の特色を考えるすごろくゲームとして、以下の内容を考えた。

■概要

・地産地消カフェの店員となり、料理に用いる材料を仕入れに行く
・ゲーム開始時に指定された料理メニューをつくるために、必要な材料を鉄道を使って探しに行く
・必要な食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利

■ゲームの流れ

1. 初めにカフェで提供する料理のメニューカードを引く
2. メニューカードに記載されているヒント（地形や気候 or 最寄り駅など）を基に、必要となる食材の生産場所を予想
   ⇒その食材が県内のどこにあるかはボードには記載されていない
   ⇒ヒントとなるような地形情報や河川の位置等はボードに表示
   （ヒント例）大根：滋賀県と岐阜県の県境に位置する積雪の多い山のふもと
3. 順番にサイコロを振り、出た目の中で食材を入手したいと思う駅まで駒を移動
4. 駅に複数の食材がある場合、どれか一つを選択し、入手する
5. ３～４を繰り返し
6. メニューに記載されている食材をそろえて、初めに戻ってきた人が勝ち

■使用ツール

・ボード
   ⇒周辺で特産物の生産が行われている鉄道駅のすごろくマップ
   ⇒食材やレシピの数に応じて、使用する鉄道駅を絞って調整
   ⇒地形や気候等の特性を把握できるように標高、河川等を記載
・メニューカード
   ⇒メニューのイメージ図や写真等
   ⇒集める材料と、そのヒント
・食材カード
   ⇒鉄道駅で入手できるカード
   ⇒食材のイメージ図、写真等
   ⇒食材の由来や生産時期等

次頁にゲームで使用する予定のメニュー・食材の一覧およびツールのイメージについて示す。

③用いる食材とメニュー

県内の各地域で生産されている滋賀の伝統野菜等を用いてつくることができるメニューを検討した。なお、メニューには食材を３つ用いるものとした。

表 2-24 メニュー・食材の一覧（案）

NO	大分類	小分類	食 材	メニュー														
				鶏肉の南蛮そば	そばの実入りかぶら雑炊	マスのふわふわハンバーグ	湖魚と小エビのかき揚げ	しじみの炊き込みご飯	湖魚の南蛮漬け	焼きなすとかんぴょうの炊き合わせ	根菜と人参のサラダ	かぼちゃとかぶらのそぼろ煮	菜の花と枝豆のペペロンチーノ	豚肉と食用菊の和え物	はさみ揚げレンコンのまくわうりあんかけ	茶葉入りつくね	豚肉とナスのみぞれ煮	牛肉とみょうがのさっぱり炒め
1	そば	そば	多賀そば	●	●													
2			伊吹そば															
3			箱館そば															
4	畜産物	牛	近江牛			●									●			●
5		鶏	近江しゃも	●								●				●		
6		豚	藏尾ポーク（バームクーヘン豚）							●				●			●	
7	湖魚	魚	ビワマス			●												
8			イサザ				●											
9			ホンモロコ						●									
10		甲殻類・貝	スジエビ				●											
11			セタシジミ					●										
12	伝統野菜	大根	山田ねずみ大根								●						●	
13			伊吹大根															
14		茄子	下田なす							●							●	
15			杉谷なす															
16		唐辛子	弥平とうがらし						●				●					
17			杉谷とうがらし															
18		干瓢	水口かんぴょう							●								
19		菜花	鮎河菜										●					
20		山芋	秦荘のやまいも			●												
21		かぶら	北之庄菜															
22			日野菜		●						●	●						
23			赤丸かぶ															
24			万木かぶ															
25	その他の野菜	南瓜	とよ坊かぼちゃん									●						
26		春菊	しゅんぎく娘											●				
27		枝豆	能登川黒ダイヤ										●					
28		生姜	笠原しょうが					●										●
29		茗荷	甲津原みょうが															●
30		葱	豊浦ねぎ	●												●		
31		人参	八日市おとめにんじん		●			●	●		●							
32			多賀にんじん															
33		蓮根	琵琶湖からすま蓮根												●			
34		まくわうり	金太郎まくわ												●			
35		ごぼう	栗原ごぼう				●											
36		菊	坂本菊											●				
37	お茶	お茶	土山茶															
38			朝宮茶													●		
39			政所茶															

④ボードの作成

前項の食材が生産されている箇所を踏まえ、最寄りの駅が食材の入手ポイントとなるよう、情報配置・デザインを検討した。

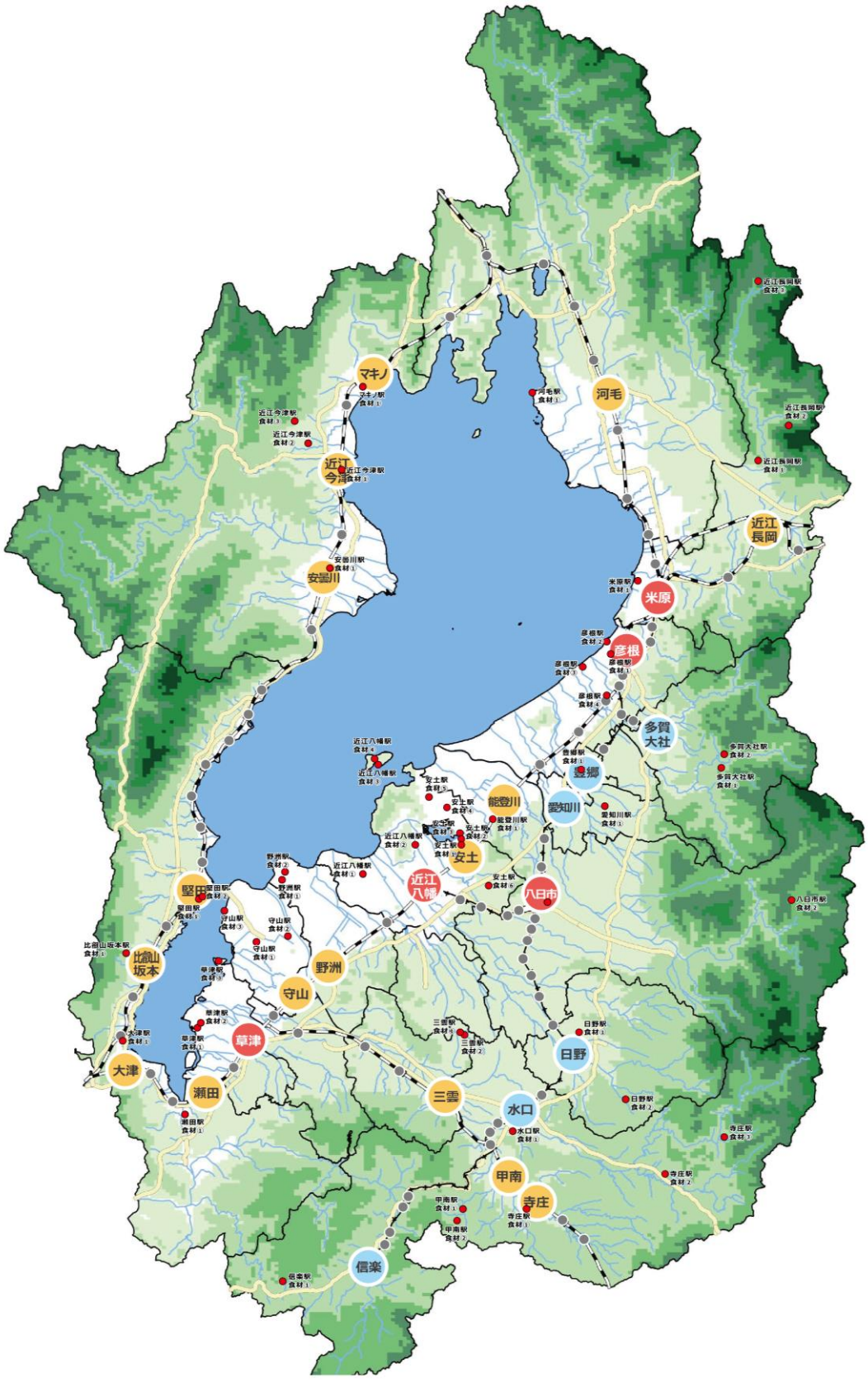


図 2-34 すごろくマップのイメージ案

⑤食材カード・メニューカード

③で整理したメニュー毎に、入手する必要のある食材とその食材がどこで生産されているかを考えるヒントとなる情報を記載したメニューカード（案）を作成した。また、食材の由来や主な産地等の情報を記載した、各駅で入手できる食材カード（案）も作成した。

※メニューカードおよび食材カードの画像は、滋賀のおいしいコレクション HP の画像を使用

図 2-35　メニューカード・食材カードのイメージ案

(3) フローティングスクールでの交通素材の活用（草津市立志津南小学校５年生、総合学習）

1) 検討の考え方

従来の交通環境学習ではバス車両を用いた乗り方教室の実施がほとんどを占めており、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で単元の理解を深める交通素材の活用方法について検討を行うと同時に、交通環境学習の取り組みを広げていくためには、滋賀県の多くの地域で実施しやすいプログラムについて検討を行う必要がある。

現在、滋賀県全域で行われている既存の学習プログラムとして、小学５年生を対象とした「フローティングスクール」があり、このフローティングスクールでは、自分たちの生活と琵琶湖の関わりについて学習していくとともに、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験を通じて、環境に主体的にかかわる力をはぐくむことをねらいとしている。

また、フローティングスクールの学習テーマである「琵琶湖」は、近代以前、政治や文化の中心地であった京都へ物資や人を運ぶ交通の要衝として栄えてきた歴史があり、特に琵琶湖の上を船で移動する湖上交通とまちの発展の関わりは強い。これを踏まえると、交通を視点として琵琶湖学習を行うことにより、自分たちの生活と琵琶湖との関わりについて理解を深めるとともに、県内全域で行われている既存のプログラムを活用することで、交通環境学習を展開していくことも可能と考えられる。

以上より、琵琶湖学習の主旨を踏まえた上で、学習の理解を深めるプログラムを実施するため、琵琶湖の交通を題材としたプログラムを検討することとした。

2) 交通学習プログラムの検討

(a) 学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打ち合わせを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表 2-25 志津南小学校の考え・意向

実施学年	・５年生
実施教科	・総合学習
単元	・琵琶湖学習
学習のねらい	・自分たちの生活と琵琶湖の関わりを理解する
その他のニーズ	・フローティングスクールの流れとしては、１月頃に何を調べていくのかを決めた後、３月上旬頃に、その内容を踏まえてフローティングスクールに行き、理解を深める形になる ・何を調べていくかは子供たちの考え次第だが、ある程度は誘導することもできる ・琵琶湖と交通の関係を考えると、歴史も調べ学習のテーマとなり得ると思うが、歴史を学習するのは６年生であるため、深く学習するのは難しい ・子どもの発想に応じて活用できるツールとして、琵琶湖に関連した資料を行政から提供していただけるのは有難い ・教材を提供して頂いて担任の教師が授業を行うことは可能であるが、まとめ授業の際にこういう視点もあるということを教える形として、専門家の先生に話していただくことも考えられる

(b) 交通素材を活用した学習の流れ

琵琶湖を中心とした物流・交通（湖上交通）のなごりから、琵琶湖周辺にある港が自分たちの生活を支えている、もしくは支えていたことを理解してもらうことを交通環境学習のねらいとして位置付け、宿泊体験の事前学習として実施する学習プログラムについて検討した。

以下に学習の流れを示す。

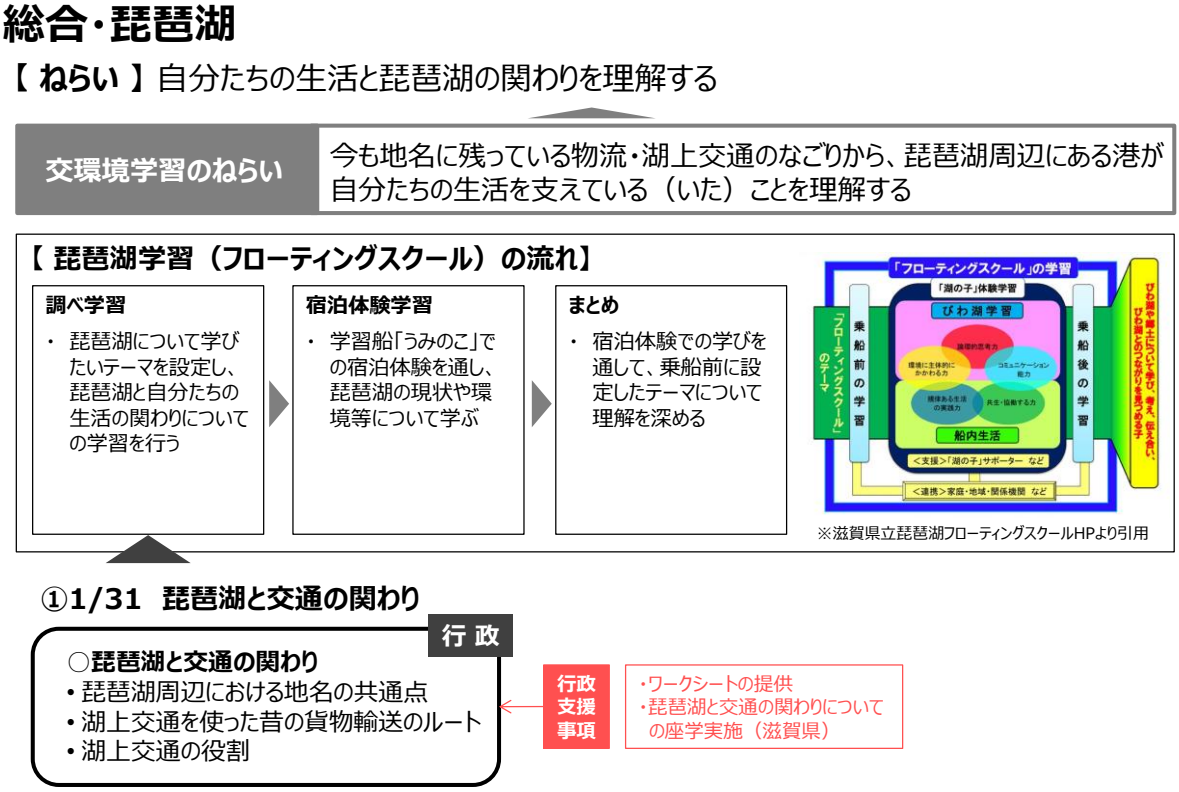


図 2-36 学習の流れ

(c) 学習ツールの作成

琵琶湖周辺の地名に共通する「津」という漢字の意味から、琵琶湖周辺に港がある、もしくはあったことを知ってもらうとともに、昔の物資輸送ルートや現在日常的に利用されているルートの予想を通じて、「京都や大阪、大津まで物資を輸送するために交通が集まっていたこと」や「現在も日常生活に使われる交通が存在していること」を理解してもらい、そこから琵琶湖における湖上交通の役割について考えてもらうワークシートを学校と協議の上、作成した。

また、昔の物資輸送ルートを考える際、「昔どのようにして荷物が運ばれていたか」や「陸上と水上ではどちら方が荷物を運ぶのに便利か」といった誘導方法や児童から想定される回答について例示した指導書を併せて作成し、実際に授業を行う教師にとって進め方の参考になるように配慮した。

以下に授業の流れおよび作成した学習ツールを示す。併せて、これに先立ち、湖上交通を考慮した琵琶湖学習の流れを検討して頂く際の参考として、湖上交通の変化を整理した資料を示す。

【 授業の流れ 】

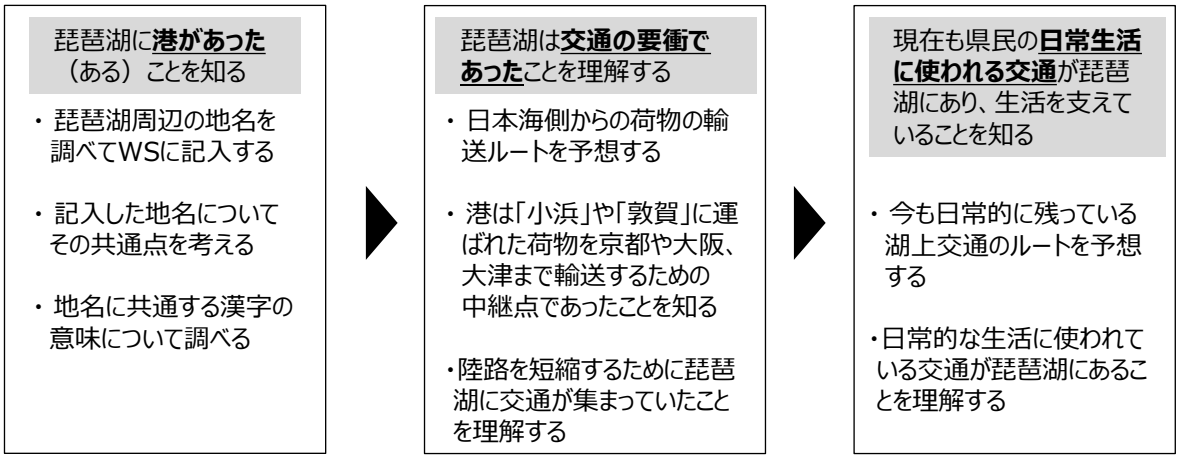


図 2-37 ワークシートを用いた授業の流れ

「昔の琵琶湖（びわこ）」と「今の自分たちの生活」とのつながりについて考えてみよう！！

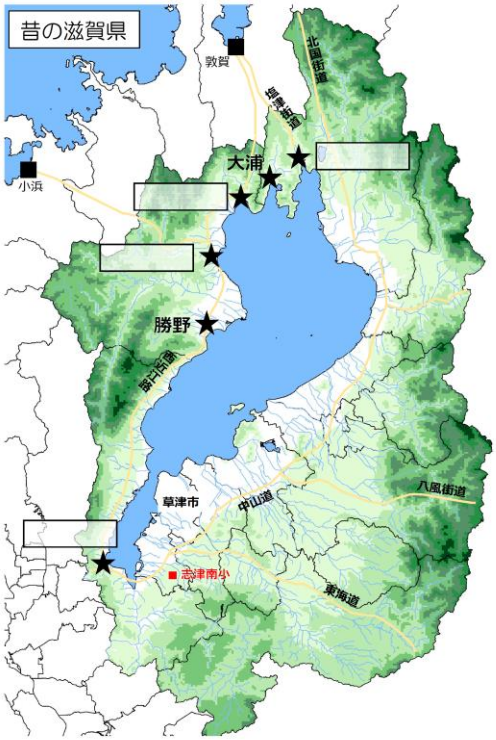
シート1

5年　組　番	名前：

①『★』がついている場所の地名を右の空らんに書き込んでみよう！

② それぞれの地名の共通点について考えてみよう！！

共通点の意味を調べよう！



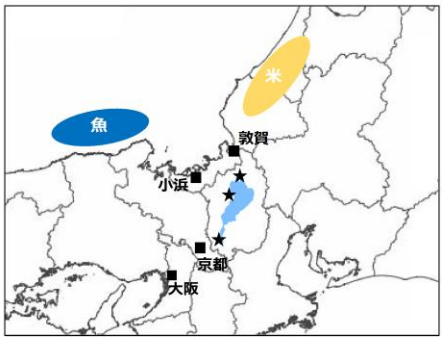
「昔の琵琶湖（びわこ）」と「今の自分たちの生活」とのつながりについて考えてみよう！！

シート2

5年　組　番	名前：

③　なぜ琵琶湖の北側に港が集まっているのか考えよう！

■ 昔(江戸時代)は日本海側で獲れた魚やお米を大阪や京都に運んでいました
その時によく使われていたルートを予想してみよう！！



■ なぜそのルートを通るのかな？琵琶湖はどんな役割を持っていたのかな？

④　今も日常的に使われている湖上交通のルートはどこかな？　下の図に書きこんでみよう！

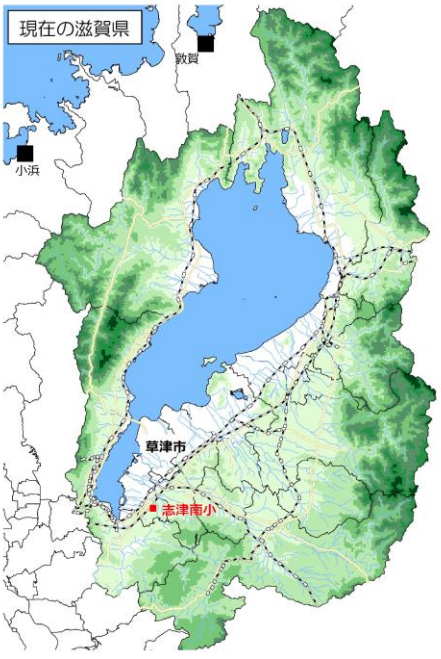


図 2-38 ワークシート

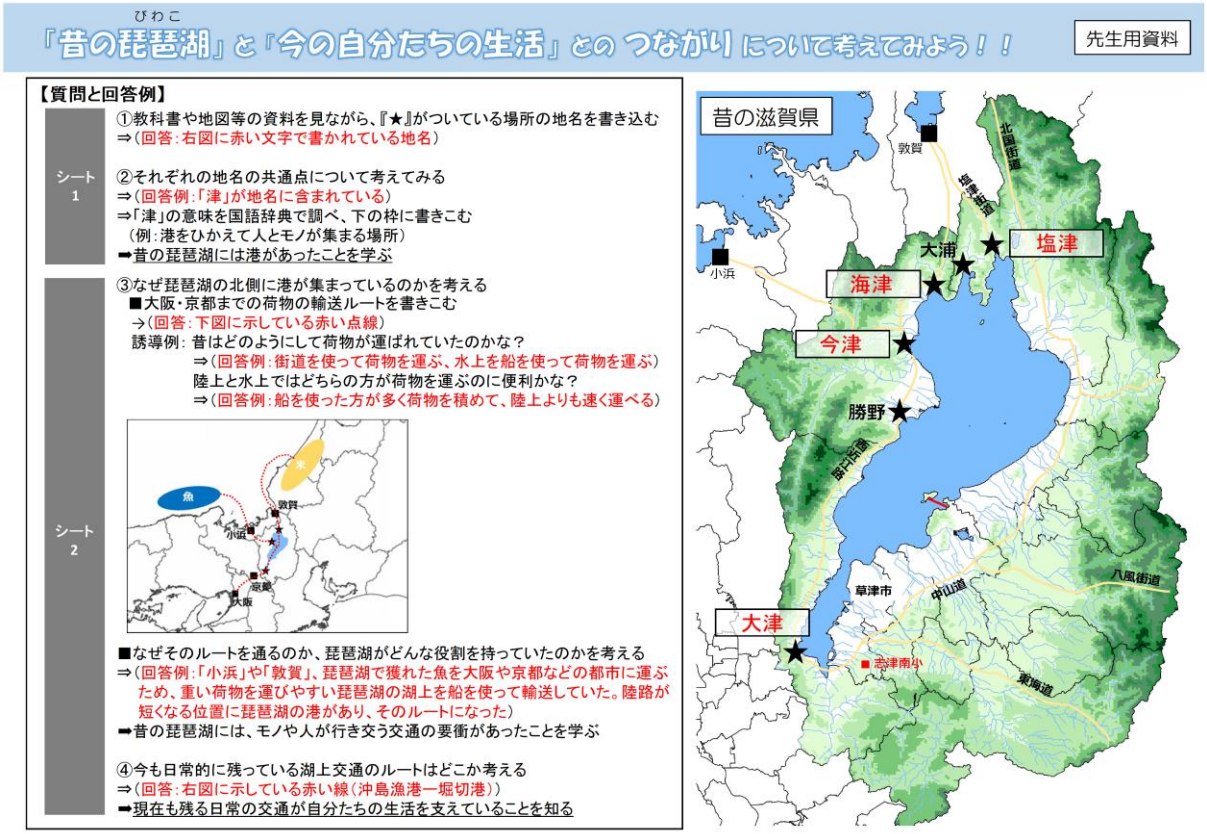


図 2-39 教師向けに作成した指導書サンプル

琵琶湖の湖上交通とまちの変化について　1

【 主旨 】

時代背景や交通技術の発達により、琵琶湖の湖上交通が変化し、まちが変化してきた

【 流れのイメージ（例） 】

導入	・湖上交通のなごりがある？ ⇒なんで湖上交通が変化してきたのか？それに伴ってまちはどうのように変わってきたのか？	
背景調査	例えば、、、 ・太平洋より日本海が航海に適していた ・明治維新の交通技術の発達により、よりはやく運べる蒸気船が利用されるようになっていった	← 各情報（そのまとめ例が本資料）
現地調査	・昔、栄えていたまちは今どうなっているのか？ ・今のまちはどんな様子で、どんな良いところがあったか？	← フローティングスクール
まとめ	・これから琵琶湖周辺のまちはどう変化していくのか？ ・これからどうなっていってほしいか？ ・自分たちは何ができるか？	

琵琶湖湖上交通の歴史（ ～奈良時代 ）　2

・中央の政府は、国家維持や財源確保の目的で、国内の各地域から国家貢納物を徴収していた（布、絹綿、塩、海産物、米など）
・米や塩などの重量物輸送には、水上輸送が行われることがあったが、基本的には運脚が荷物を運ぶ陸上輸送が行われていた
・日本海や瀬戸内海が航海に適していたが、東日本の太平洋側は波も荒く航海に適さなかったためといわれている

■古代～中世の道（五畿七道）

図 2-40　湖上交通とまちの変化（1/7）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 平安時代･鎌倉時代-1 ） 3

・平安時代になると、水上交通が盛んに行われるようになり、各地の津（港）の維持・管理の精度が整えられていった
・米のような重量物は船を用いることが便利なため、海上輸送が原則となっていき、船による貢納物の輸送量が増加
・諸国から送られる貢納物は主に大津や淀津で陸揚げされ、都へ運ばれていった。

■古代～中世の道（五畿七道）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 平安時代･鎌倉時代-2 ） 4

・国の土地であった場所を、有力な社寺や貴族が私的に領有するようになり、荘園制度が発展
・荘園制度のもとでは京都在住の貴族や有力社寺が、日本各地に領有している荘園から財源として年貢を徴収
・比叡山にある延暦寺のお膝元坂本（現在は大津市内）は、延暦寺領の荘園年貢が集まる場所として賑わっていた

■古代～中世の道（五畿七道）

図 2-41 湖上交通とまちの変化（2/7）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 室町時代･戦国時代-1 ） 5

・応仁の乱により延暦寺の権勢は衰退したが坂本の賑わいは衰えることがなかった。その後、浅井氏や六角氏の戦国大名が登場
・織田信長は近江に侵攻し六角氏を追放、さらに浅井氏を滅亡に追い込んだのち、安土城を構築し近江全体の領国化を進めた
・織田信長は居城の安土城、長浜城、坂本城、大溝城と湖上交通の要地に城を建築し、琵琶湖の制海権を掌握しようとした

■近世の道（五街道）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 室町時代･戦国時代-2 ） 6

・信長の死後、後継者としての地位を確立した秀吉は坂本城を廃城し、大阪に出るのが便利な大津へ新たに大津城を築城
・初代大津城城主浅野長吉は、大津居住の船持ちに加え、坂本・堅田・木浜などの諸浦から百艘の船を集めて「大津百艘船」を組織
・大津浦からの荷物・旅人の積み出しを大津百艘船へ独占的に認めるとともに他浦で公用船として使用されることを禁じた

■近世の道（五街道）

図 2-42 湖上交通とまちの変化（3/7）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 江戸時代-1 ） 7

・江戸時代にはいり、大津の中心部は東海道の宿場（大津宿）として物資運送と人々の往来で商業都市として繁栄していった
・その繁栄ぶりは「大津百町」と呼ばれ、約１万８千人の人口をかかえる、東海道宿場町の中でも最大規模のまちとなっていった
・舟運には琵琶湖特有の「丸子船」が約1400隻用いられたとされ、特に塩津湊は主要48港の中で最多数の丸子船を所有していた

■近世の道（五街道）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 江戸時代-2 ） 8

・関ケ原合戦も大津百艘船は従来の特権が認められたが、彦根藩井伊家の庇護を受ける松原・長浜・米原の「彦根三湊」が台頭
・彦根藩は京都守護の役割を担っており、大津に屋敷を拝受していたため、大津百艘船の特権に接触することが多く軋轢が生じていた
・京都所司代は、大津から彦根に積み下ろす荷を大津百艘船には積ませないことを申し渡し、大津百艘船は従来特権を失うに至った

■近世の道（五街道）

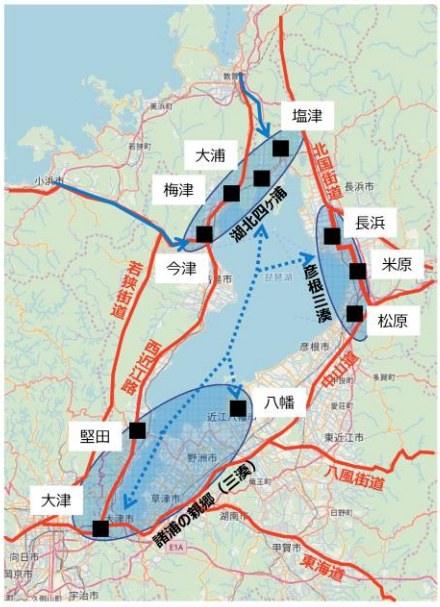
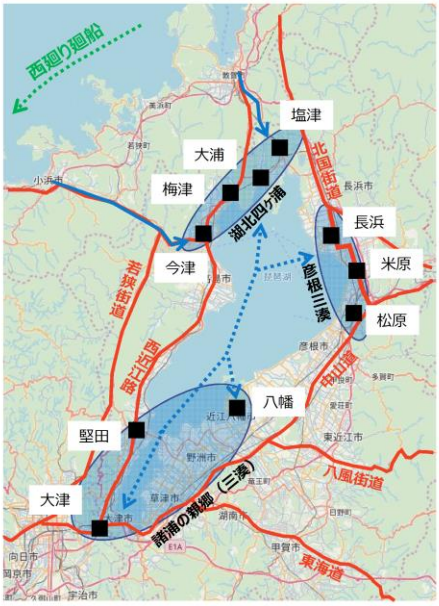


図 2-43 湖上交通とまちの変化（４/７）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 江戸時代-3 ） 9

・大量の米を一度に運ぶために開発された「西廻り航路」により、それまで敦賀や小浜で陸揚げされていた荷物を大阪に直送
・琵琶湖水運の重要性は低下し、限られた積荷をめぐって大津・堅田と他の浦々との抗争が絶えなくなった
・敦賀への米と大豆の入津量は1661年から1736年の間で5分の1に激減し、琵琶湖水運は衰退の一途をたどることとなった

■近世の道（五街道＋航路）



琵琶湖湖上交通の歴史（ 明治時代･大正時代･昭和時代-1 ） 10

・江戸時代を通して、琵琶湖舟運は斜陽化をたどったが、明治維新はその転機をもたらした
・前代の湖上交通の「華」であった丸子船に代わって登場したのが、木造蒸気船であった
・明治2年に木造蒸気船「一番丸」が登場し、大津・塩津間の湖上で主に人を輸送。明治7年までには15隻の蒸気船が就航

■近代の道（鉄道網，明治5年）

図 2-44 湖上交通とまちの変化（5/7）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 明治時代･大正時代･昭和時代-2 ） 11

・東京と京都の両京間を結ぶ「幹線」および東京・横浜間、京都・神戸間、琵琶湖畔から敦賀に至るそれぞれの「支線」が計画
・西南戦争を契機に国内経済状況がいちだんと悪化する厳しい財政の中で、できる限り倹約して最も有効な路線敷設が求められた
・湖東地区鉄道敷設を棚上げして、湖上連絡船（大津―長浜）で結ぶ「船車連絡方式」が採用された

■近代の道（鉄道網, 明治15年）

琵琶湖湖上交通の歴史（ 明治時代･大正時代･昭和時代-3 ） 12

・明治22年（1889年）、東海道本線が全通し湖上連絡船の運航が終了した
・琵琶湖の湖上交通は旅客・貨物輸送を鉄道に奪われ、湖北への中継地として栄えた塩津や飯浦は衰退
・船舶事業の軸足は次第に遊覧船事業に移していくこととなった

■近代の道（鉄道網, 昭和36年）

図 2-45 湖上交通とまちの変化（6/7）

参考文献リスト　13

琵琶湖湖上交通の概要		・太田浩司（2018）『湖の城・舟・湊』
		・丸子船の館（2018.12月時点）『びわ湖水運の歴史』
～奈良時代・平安時代・鎌倉時代・南北朝時代・室町時代		・藤井譲治（2003）『近江・若狭と湖の道（湖上交通と津）』吉川弘文館，p.96-101
		・太田浩司（2018.11）『歴史的文書を考える第11回講演（琵琶湖の水運史）』 p.2-3
		・宮内庁（2003.4）『第3回世界水フォーラム開会式における皇太子殿下記念講演』 http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/02/koen/koen-h15az-mizuforum3th.html
		・大津市（2018.3）『大津市歴史文化の概要』 p.4-6 http://www.city.otsu.lg.jp/material/files/group/67/rbks_s2.pdf
安土桃山時代・江戸時代		・太田浩司（2018.11）『歴史的文書を考える第11回講演（琵琶湖の水運史）』 p.4-6
		・大津市（2018.3）『大津市歴史文化の概要』 p.11-17 http://www.city.otsu.lg.jp/material/files/group/67/rbks_s2.pdf
		・曽我一夫・遠藤真治（2005.7）『ぶらり近江のみち（第25回大津百艘船）』 http://www.honnet.jp/metro/oumi/oumi_25.htm
		・eネットびわ湖高島（2018.12月時点）『びわ湖源流の郷（湖上交通の整備）』 https://biwako-genryu.shiga.jp/?page_id=674
明治・大正・昭和・平成		・太田浩司（2018.11）『歴史的文書を考える第11回講演（琵琶湖の水運史）』 p.7-12
		・大津市（2018.3）『大津市歴史文化の概要』 p.18-27 http://www.city.otsu.lg.jp/material/files/group/67/rbks_s2.pdf
		・曽我一夫・遠藤真治（2006.7）『ぶらり近江のみち（第31回琵琶湖に蒸気船）』 http://www.honnet.jp/metro/oumi/oumi_25.htm
		・びわ湖鉄道歴史研究会（2018.9）『東海道鉄道敷設の歴史Ⅰ～Ⅲ』 http://biwakorail.web.fc2.com/document.htm
その他	堅　田	・Wikipedia（2017.2）『堅田』 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A0%85%E7%94%B0
	大津百艘船	・杉江進（1999）『近世琵琶湖水運の成立とその特質―大津百艘船と船奉行―』交通史研究, Vol.43 p.15-38
	丸子船	・丸子船の館（2018.12月時点）『丸子船図解』 http://www.koti.jp/marco/guide_top.htm
	北前船	・藤井譲治（2003）『近江・若狭と湖の道（湖上交通と津）』吉川弘文館，p.96-101 ・北前船日本推進協議会（2018.12月時点）『北前船とは』 https://www.kitamae-bune.com/about/main/
	大津百町	・大津市商工会議所（2018.12時点）『大津百町百福物語（大津百町の歴史）』 http://otsu-hyakufuku.jp/rekishi/
	琵琶湖汽船（湖南汽船）	・Wikipedia（2017.4）『琵琶湖汽船』 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%90%B5%E7%90%B6%E6%B9%96%E6%B1%BD%E8%88%B9
	太湖汽船	・Wikipedia（2018.3）『太湖汽船』 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AA%E6%B9%96%E6%B1%BD%E8%88%B9

図 2-46 湖上交通とまちの変化（7/7）

(4) 歴史学習における交通素材の活用（甲賀市立大野小学校６年生、総合学習）

1) 検討の考え方

2-3-2 で整理したように、2 年生～5 年生までの学習のまとめとして、６年生で将来の街づくり・自分たちの街づくりをテーマとした政策提言を行っていくことを踏まえると、総合学習の単元の理解を深める学習プログラムの検討に併せ、交通素材がどのようにして政策提言につながるのかを検討する必要がある。

一方で、６年生では歴史の学習があるため、総合学習で地域の歴史を踏まえながら未来の地域のあり方を考えるケースが見られる。そこで、将来のまちのあり方などを学ぶ小学校を対象とし、昔のまちの様子について理解を深めるとともに、まちのあり方に対する見方を与える交通素材の活用方法について検討を行うこととした。

2) 交通学習プログラムの検討

(a) 学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打ち合わせを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表 2-26 大野小学校の考え・意向

実施学年	・６年生
実施教科	・総合学習
単元	・街道学習
学習のねらい	・昔のまちの成り立ちや地域の良さを学び、大野地域を活性化するためにできることを考える
その他のニーズ	・例年６年生の総合学習で歴史を学んでいるが、街道のことを調べて、昔のことを知るだけになっており、今後に向けた展望がない ・提案されたように、現在の交通の状態とまちの状態の関係性を理解した上で街道を観察することで、昔のまちの成り立ちや良さを実感できる学習になると思う ・街道について学んだ中で、総合的学習として子供たちが何を調べていきたいのかを考えていくため、交通が総合学習のテーマにならない可能性も考えられる

(b) 交通素材を活用した学習の流れ

交通とまちの盛衰の関係性から、まちへの理解や自身の考えを深めてもらうことを交通環境学習のねらいとして位置付け、学習の流れについて検討・調整した。

導入授業の際に交通素材を用いた学習の深め方について学校と意見交換を実施し、全体の流れを検討するとともに、調べ学習でまちが変化してきた理由を考える素材として交通に係るデータの提供を行うこととした。

以下に学習の流れを示す。

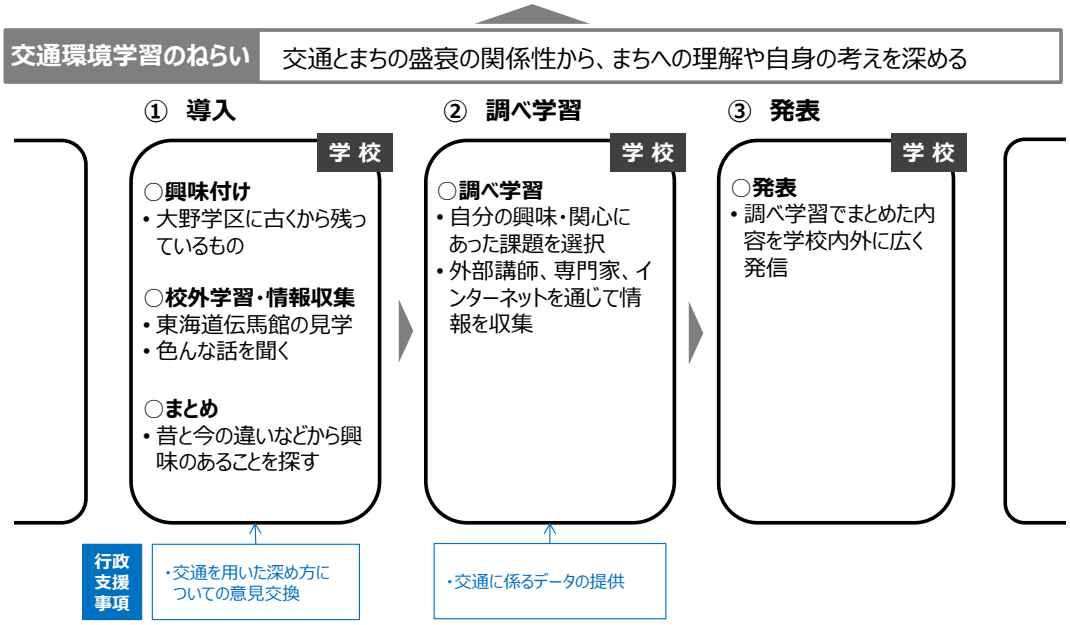


図 2-47 学習の流れ

(c) 学習の準備

①導入授業の準備

交通素材を用いた学習の深め方について学校と意見交換を実施した。

②学習ツールの作成

まちが変化してきた理由を考える素材として、以下のような交通に係るデータを提供した。

＜人口・まちの変化＞

・滋賀県の人口推移
・甲賀市の人口推移
・甲賀市の人口分布（1995 年）
・甲賀市の人口分布（2015 年）
・甲賀市における人口分布の増減

＜交通手段の変化＞

・街道
・鉄道網の変化
・鉄道の利用者数の推移
・船の利用者数の推移
・バスの利用者数の推移
・道路網の変化
・道路整備延長および自動車保有台数の変化
・周辺地域の全自動車交通量
・周辺地域の大型自動車交通量
・バスの輸送人員および自動車保有台数の推移

＜国土軸の変化　東京・神奈川⇔大阪・京都間＞

・伊勢神宮の参拝客数の推移
・交通手段別の旅客輸送量
・交通手段別の貨物輸送量

また、授業でデータを使用する際の参考となるよう、各データから読み取れる内容や授業での使用イメージ例について整理し、担任の教師に提供した。

次頁に各資料の提示方法のイメージと提供データを示す。

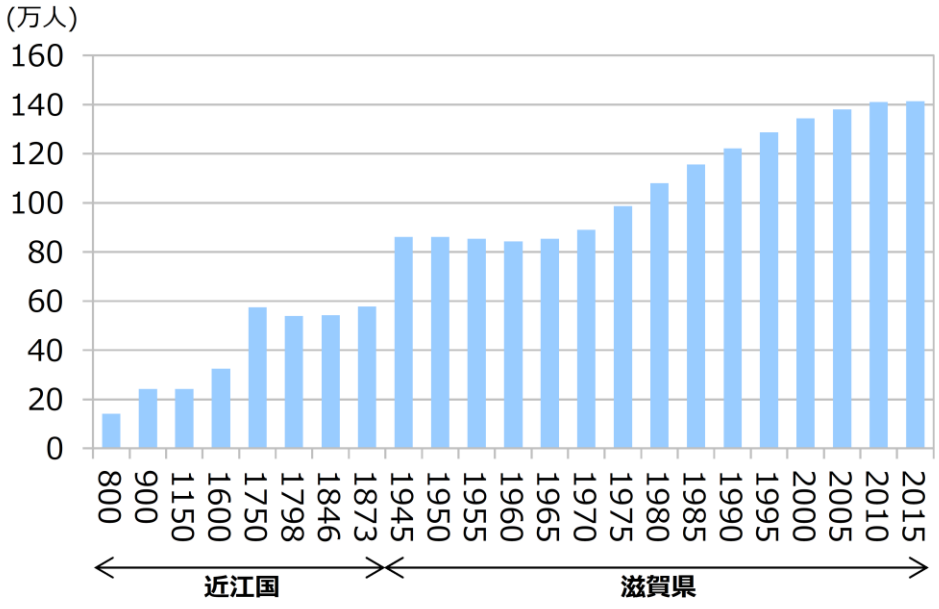
表 2-27 各資料の提示方法のイメージ

	視点		ページ番号	データ・資料	これで分かる事（例）	資料の出し方（例）	備考
周辺地域の変化	人口・まちの変化		P2	・県人口推移	・人口自体は江戸時代からどんどん増加	・年代を削除して予想	県統計書・wikipedia
			P3	・甲賀市人口推移	・甲賀市周辺でも基本的に増加	・最近 20 年くらいを隠してどうなっているか予想	国勢調査
			P4・5	・人口分布	・大野小学校周辺は少な目	・道路と地形の情報から、大野小、貴生川駅、草津駅等がどこか探す	国勢調査
			P6	・人口分布の増減	・大野小付近は減っている	・大野小周辺を隠してどうなっているか予想	国勢調査
	交通手段の変化	街道	P8	・街道図	・東海道以外にもいろいろある		
		鉄道	P9～15	・鉄道網の変化	・明治初期に一気に整備	・年代を隠して何年ごろの図か予想	琵琶湖の鉄道歴史研究会 http://biwakorail.web.fc2.com/document.htm
			P16	・利用者数推移（1957～）	・JR は最近も増加 ・民鉄は最近減少	・凡例を隠してどれがどの会社か予想	県統計書
		船	P17	・利用者数推移（1957～）	・最近は減少		県統計書
		バス	P18	・利用者数推移（1957～）	・最近は大幅に減少 （走行キロは変わっていない）	・最近の 20 年くらいを隠して予想	県統計書
		自動車	P19～P21	・道路網の変化（学校周辺）	・国道 1 号は 1948 年～1988 年頃に整備	・年代を隠して何年ごろの図か予想	航空写真・google 衛生写真
			P22	・道路整備延長、保有台数変化（1957～）	・道路網は継続的に増加 ・乗用車は最近ようやく頭打ち （軽自動車は今でも増加）	・最近の 20 年くらいを隠して予想	県統計書
			P23・24	・周辺の交通量（全車） ・周辺の交通量（大型）	・甲賀市周辺は少ない ・国道 1 号より新名神が大きい		道路交通センサス
		主要手段比較	P25	・鉄道、バス、自動車保有台数の推移	・バス、民鉄が減少し、自動車が増加した		県統計書
国土軸の変化（東京⇔大阪・京都間）	行動パターンの変化	伊勢参り	P27	・参拝客数の推移	・参拝客数は増えている	・最近の 20 年くらいを隠して予想	伊勢市観光統計
	移動の方法		P28	・手段別輸送量 （東京・神奈川⇔大阪・京都）	・新幹線や飛行機もある （車（国道 1 号）や高速道路に移動しただけではない）	・項目を隠して予想	旅客地域流動調査
	物流の方法		P29	・手段別輸送量 （東京・神奈川⇔大阪・京都）	・トラックが多い （今は高速道路を通っている？） ⇒周辺交通量図の大型車バージョンを確認	・項目を隠して予想	旅客地域流動調査

周辺地域の変化①
― 人口･まちの変化 ―

■滋賀県の人口推移

・滋賀県の人口は江戸時代から増加傾向である

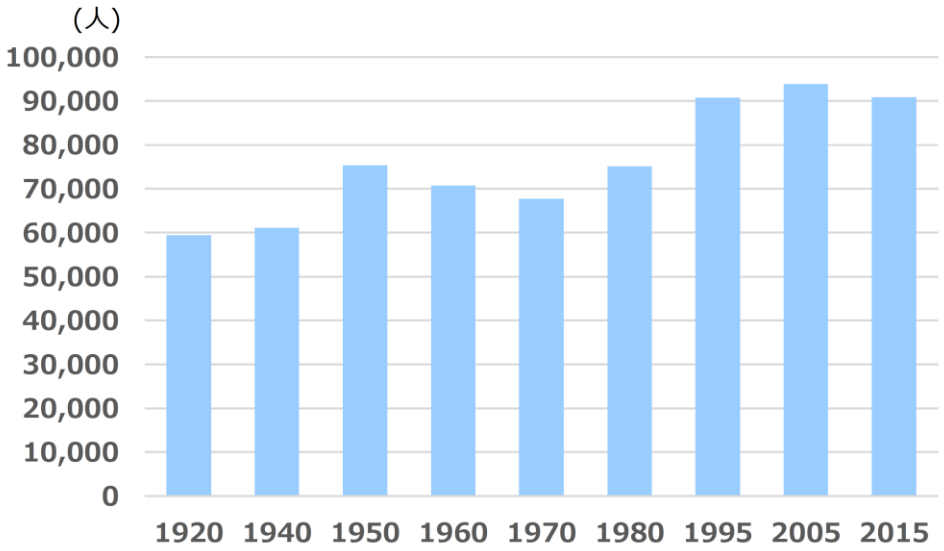


2

図 2-48 提供データ（1/15）

■甲賀市の人口推移

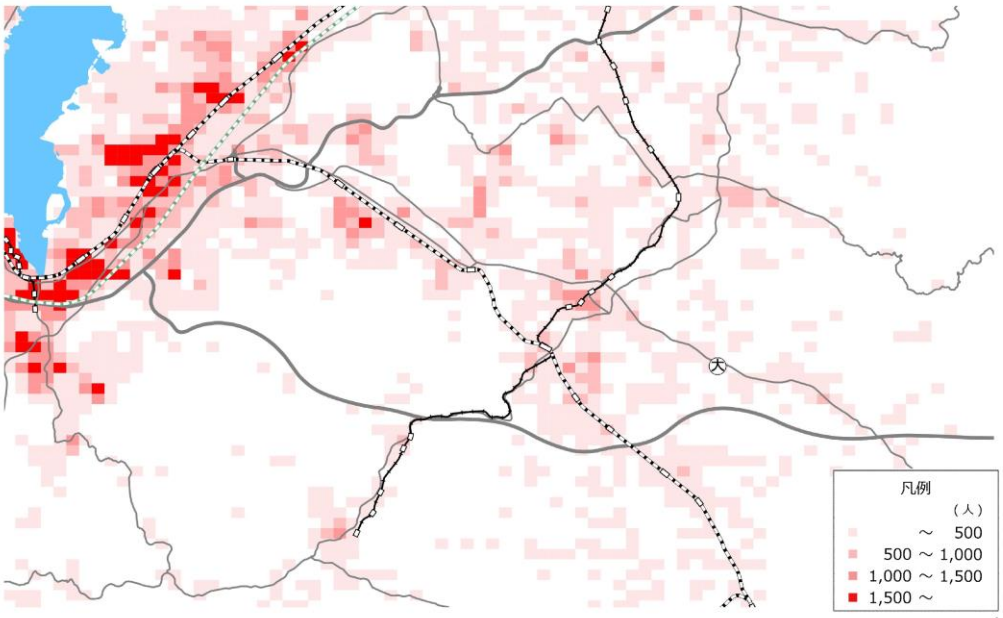
・甲賀市の人口は年々増加しているが、近年は横ばい傾向である



3

■甲賀市の人口分布（1995年）

・JR東海道本線沿いと比較すると大野小学校周辺の人口は少なくなっている

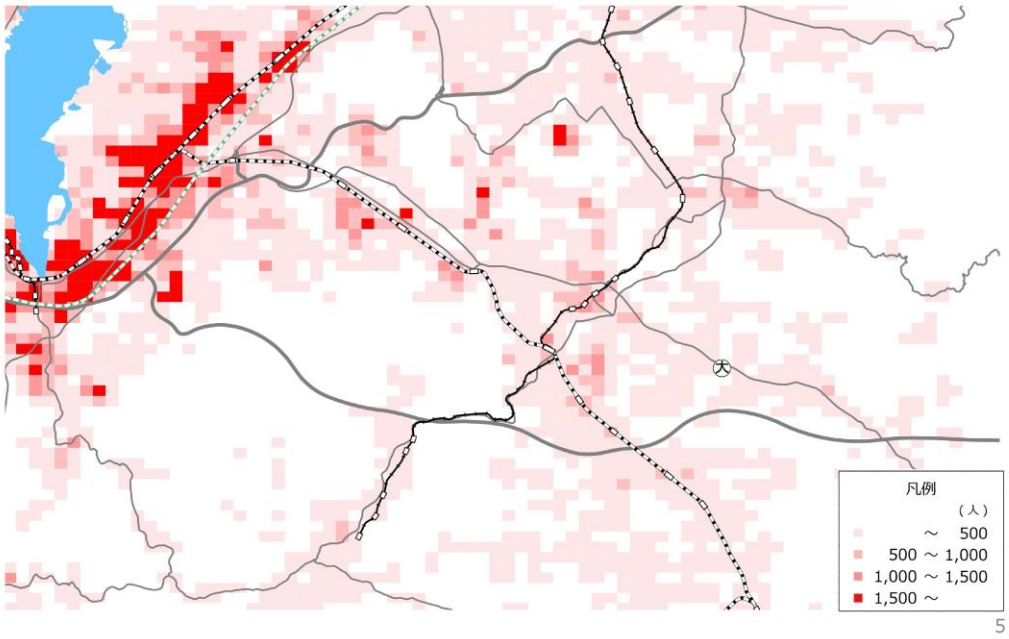


4

図 2-49 提供データ（2/15）

■甲賀市の人口分布（2015年）

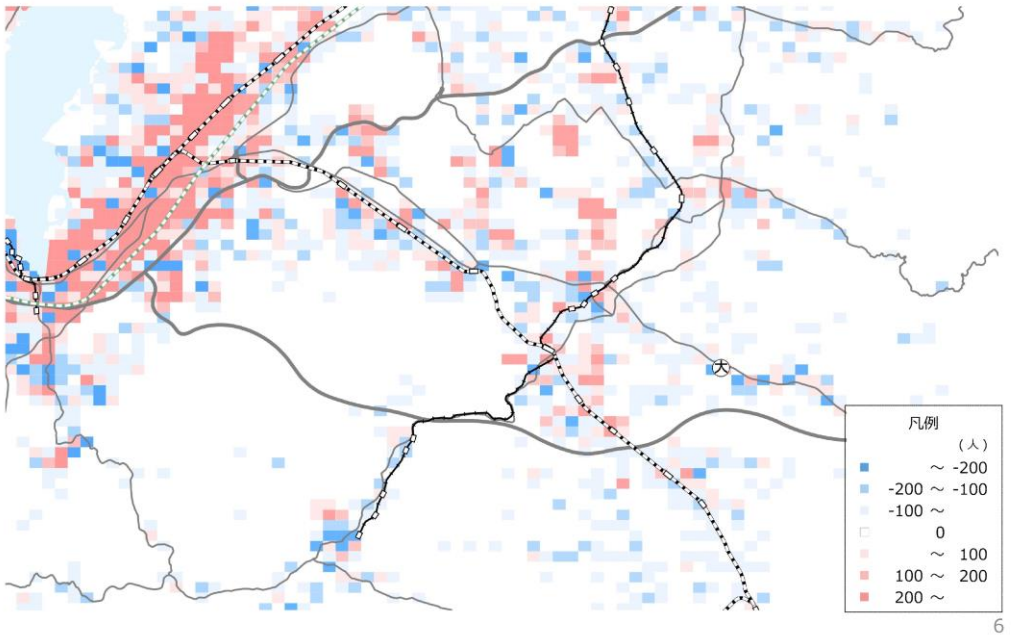
・1995年と比較すると甲賀市全体で人口の増加が見られる



5

■甲賀市における人口分布の増減

・ JR東海道本線沿いは人口が増加しているが、大野小学校周辺は減少している所が多い



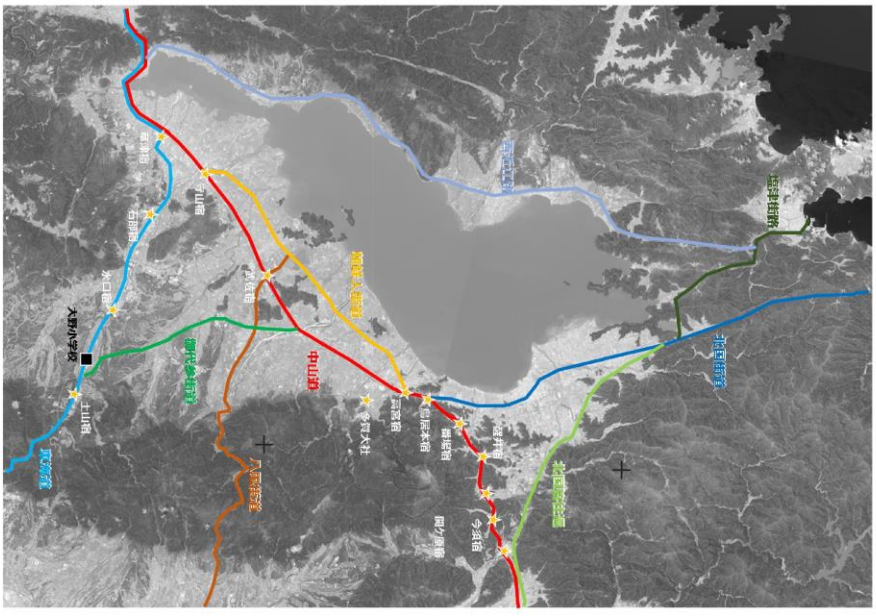
6

図 2-50 提供データ（3/15）

周辺地域の変化②
― 交通手段の変化 ―

■街道

・東海道以外にも様々な街道が見られる

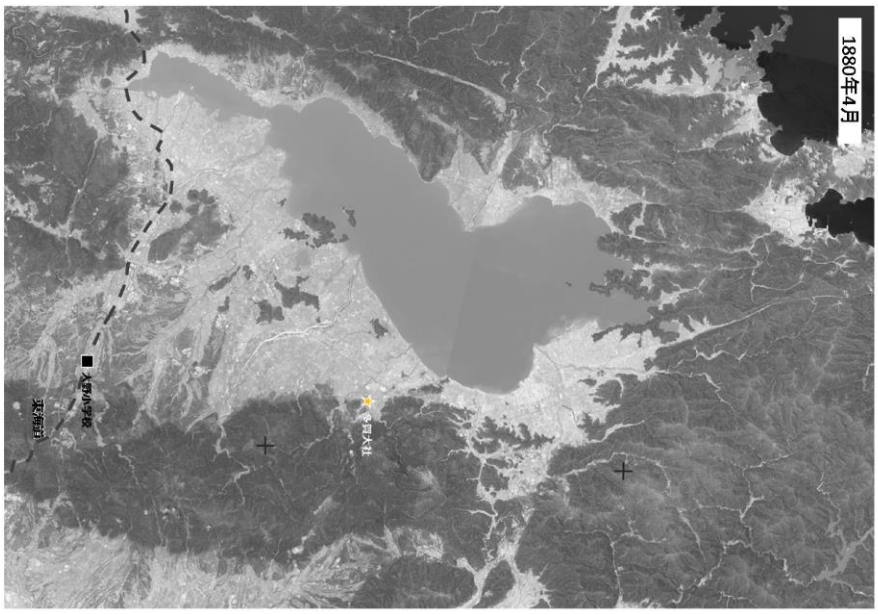


8

図 2-51 提供データ（4/15）

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1880年4月）

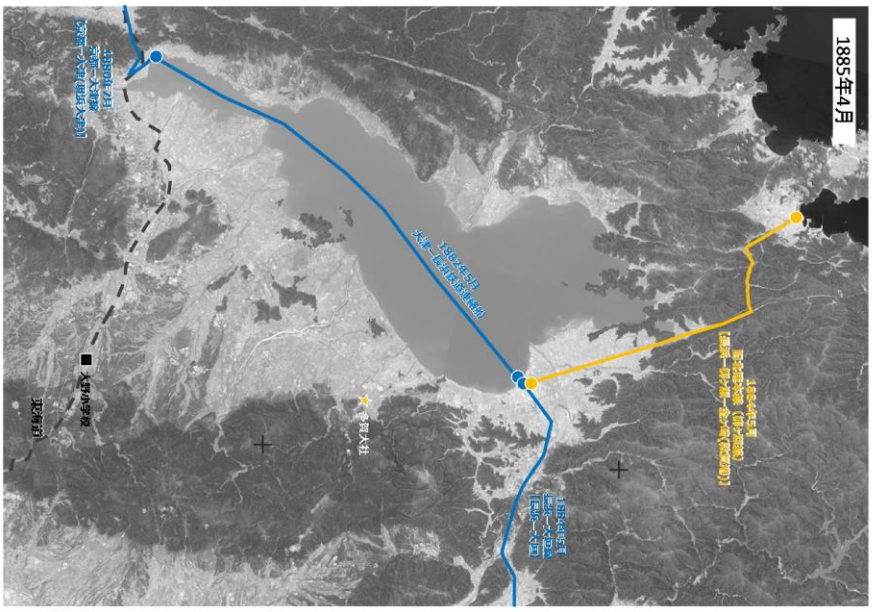
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



9

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1885年4月）

・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている

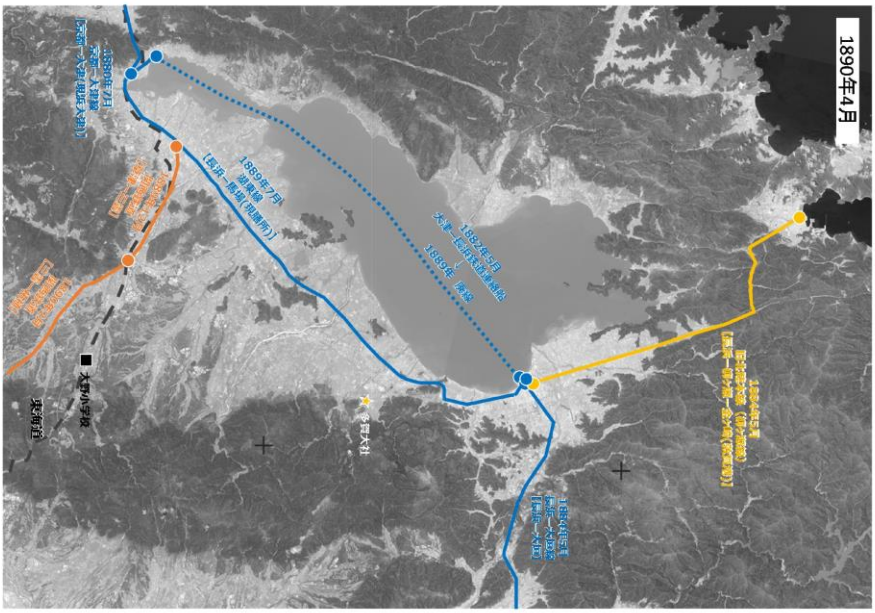


10

図 2-52 提供データ（5/15）

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1890年4月）

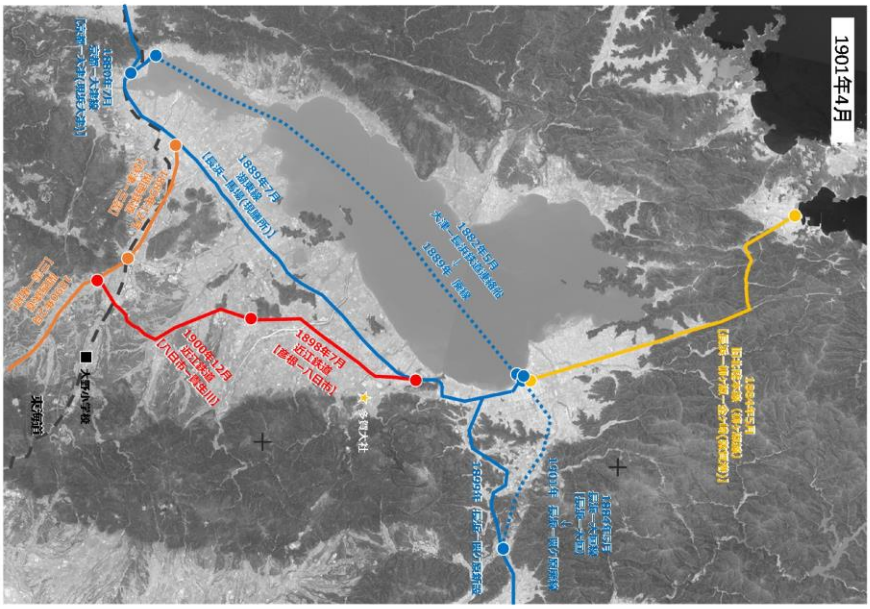
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



11

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1901年4月）

・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている

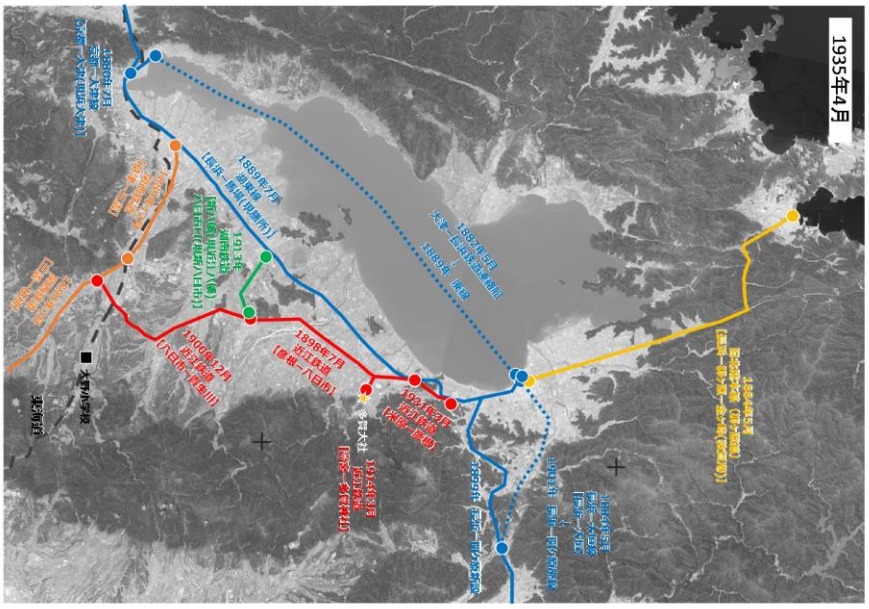


12

図 2-53 提供データ（6/15）

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1935年4月）

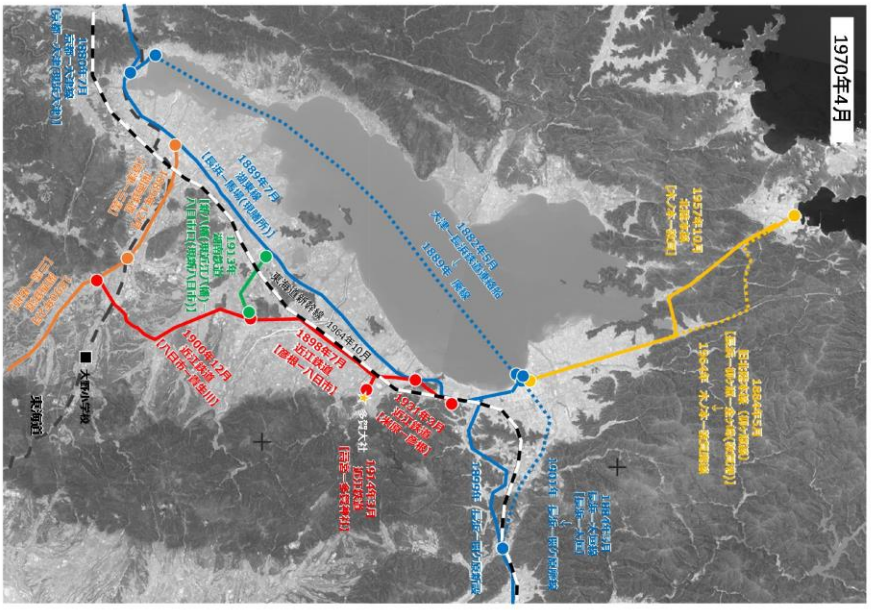
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



13

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1970年4月）

・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている

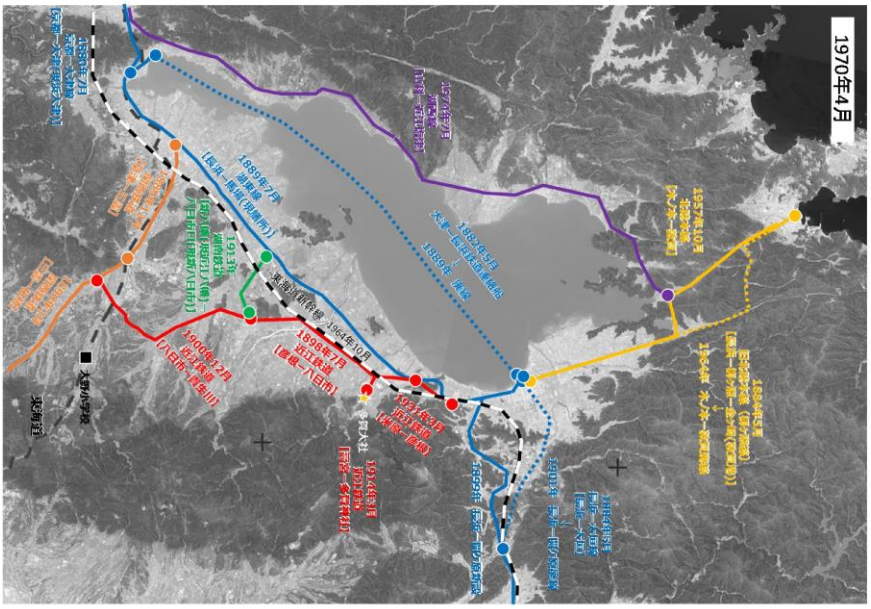


14

図 2-54 提供データ（7/15）

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1980年4月）

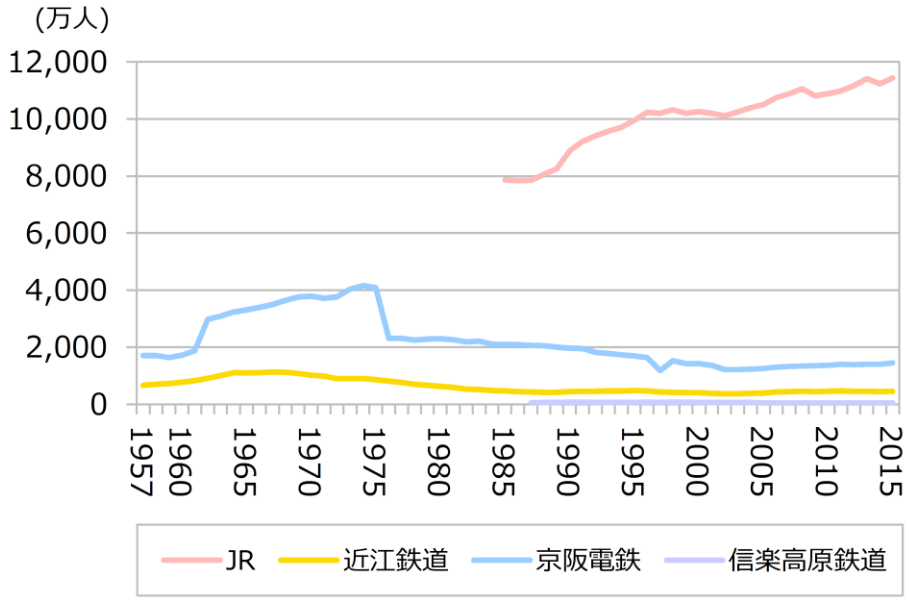
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



15

■鉄道 ― 利用者数の推移

・JRの利用者は近年増加傾向であるが、その他の民間鉄道は減少および横ばい傾向である

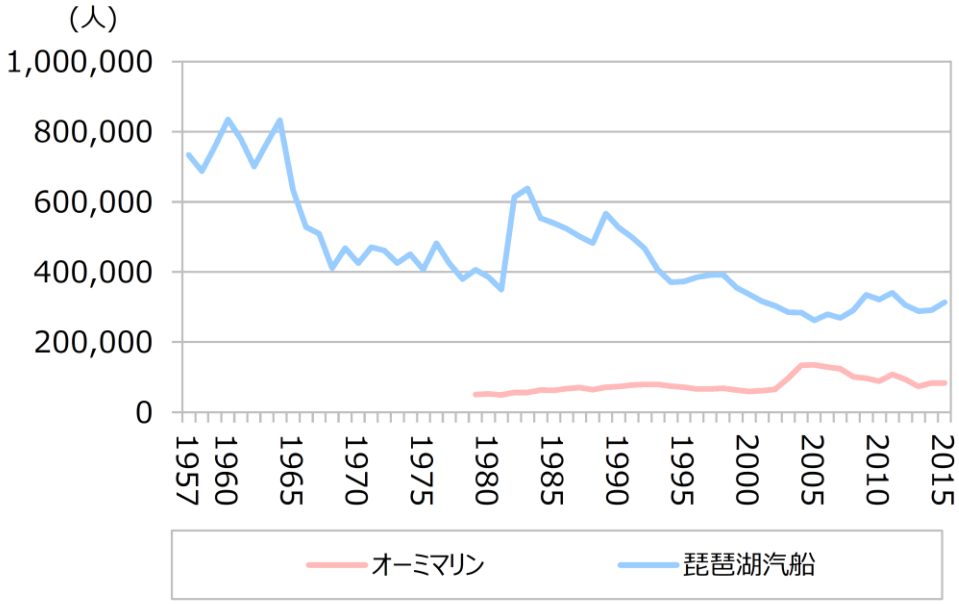


16

図 2-55 提供データ（8/15）

■船 ― 利用者数の推移

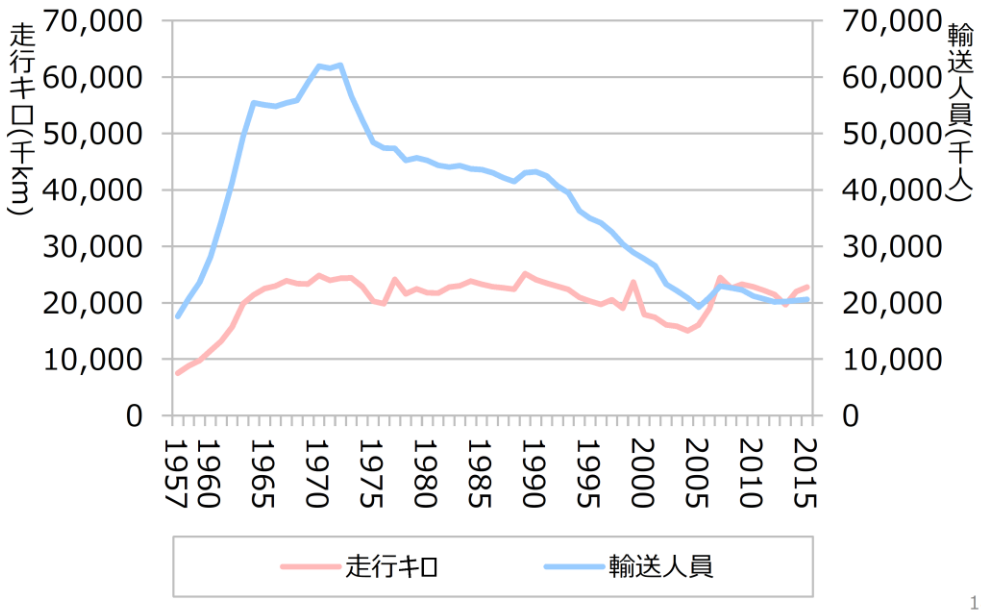
・船舶の利用者数は近年減少傾向である。



17

■バス― 利用者数の推移

・運行距離に変化は見られないものの、利用者数は大きく減少している



18

図 2-56 提供データ（9/15）

■自動車 ― 道路網の変化（1948年）

・1948年から1988年の間に国道1号が整備

19

■自動車 ― 道路網の変化（1988年）

・1948年から1988年の間に国道1号が整備

20

図 2-57 提供データ（１０/１５）

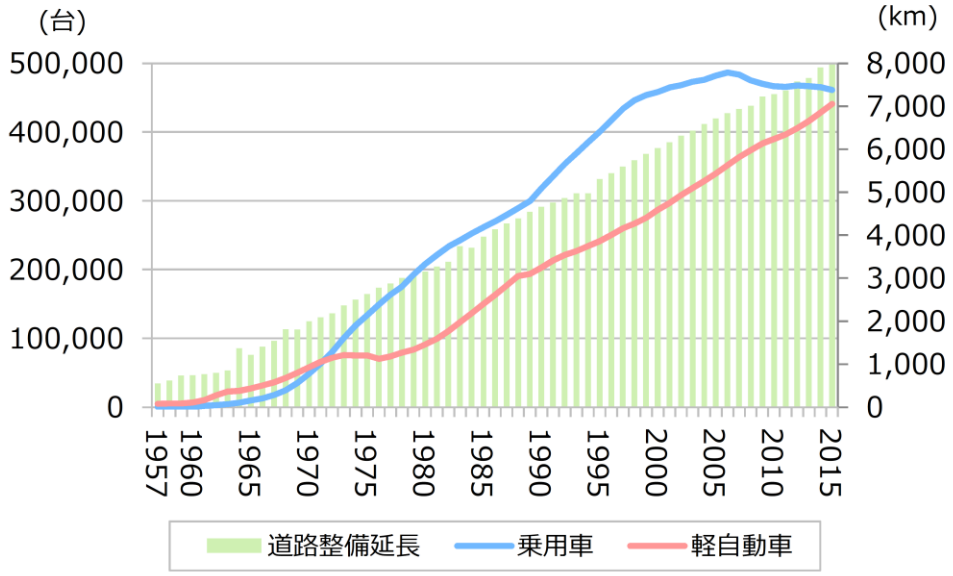
■自動車 ― 道路網の変化（2018年）

・1948年から1988年の間に国道1号が整備

21

■自動車 ― 道路整備延長および自動車保有台数の変化

・道路延長の増大とともに自動車の保有台数は増加している（乗用車は近年横ばい傾向）

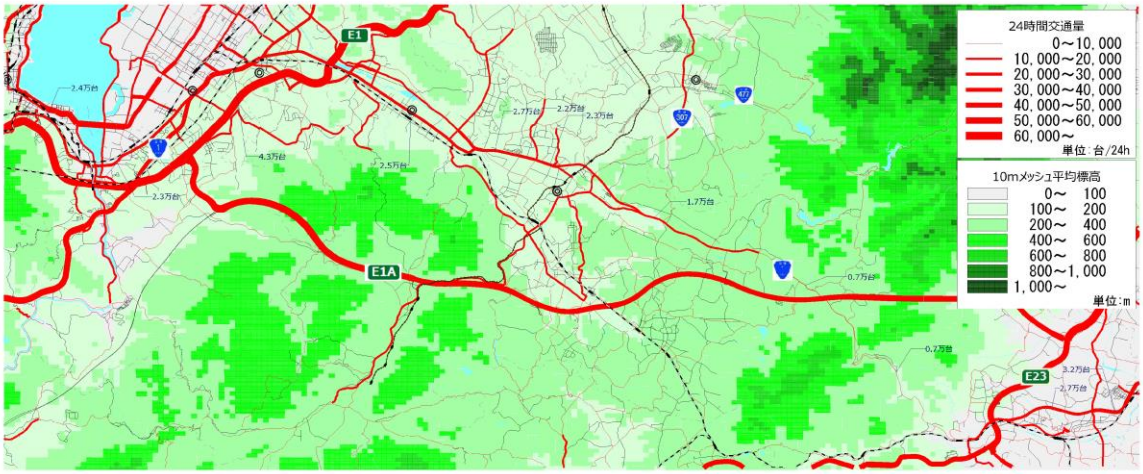


22

図 2-58 提供データ（１１/１５）

■自動車 ― 周辺地域の全自動車交通量

・名神高速道路や新名神高速道路に、国道1号において全自動車の交通量が多くなっている

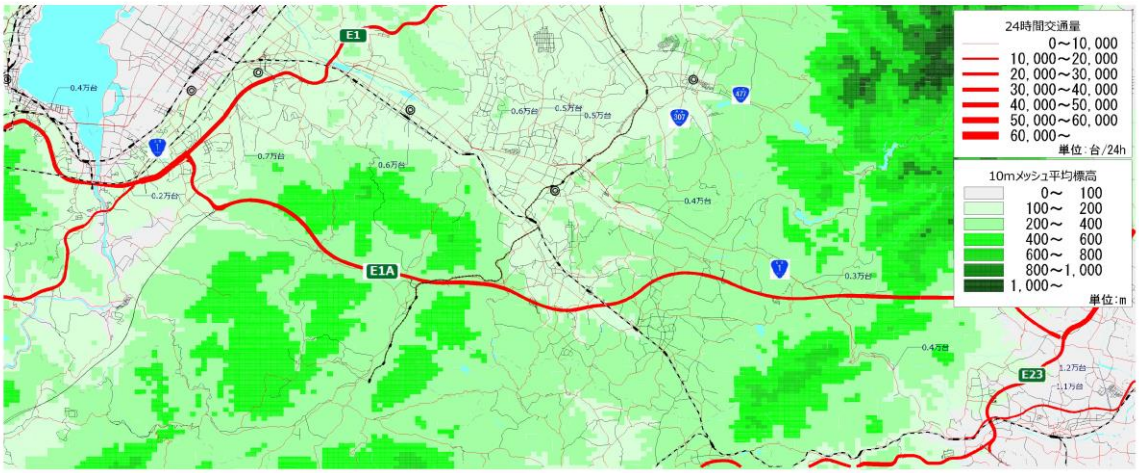


※平成27年における全自動車の24時間交通量

23

■自動車 ― 周辺地域の大型自動車交通量

・大型自動車の交通量は名神高速道路および新名神高速道路に集中している



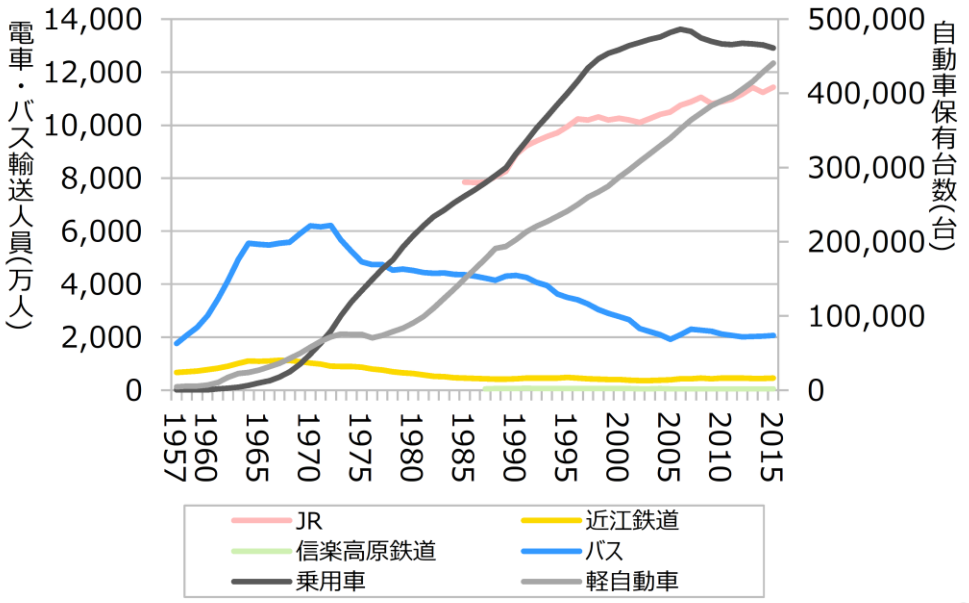
※平成27年における大型自動車の24時間交通量

24

図 2-59 提供データ（１２/１５）

■鉄道・バスの輸送人員および自動車保有台数の推移

・JR以外の公共交通は減少傾向にあるが、自動車の保有台数は増加している



25

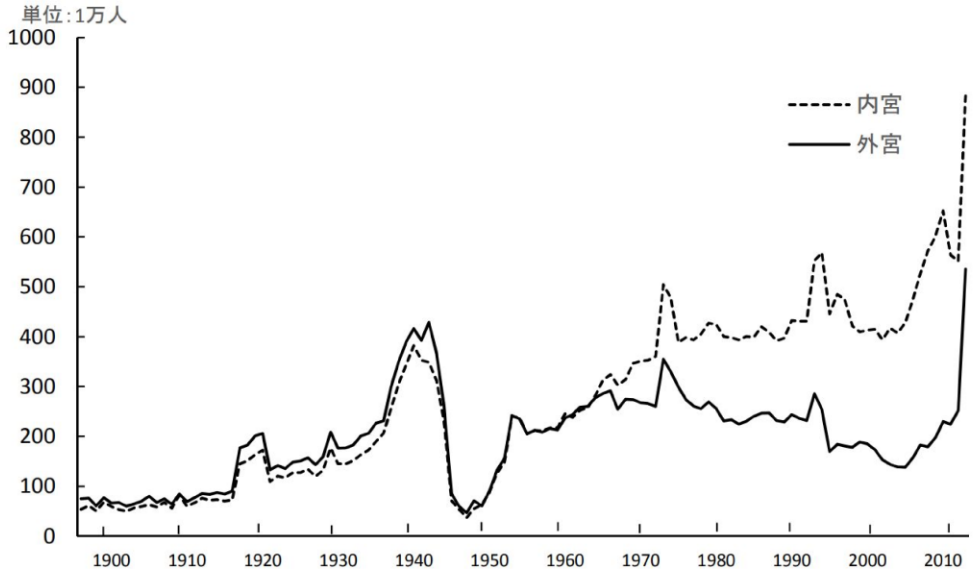
国土軸の変化

― 東京 神奈川 ⇔ 大阪・京都間 ―

図 2-60 提供データ（１３/１５）

■伊勢神宮への参拝客数の推移

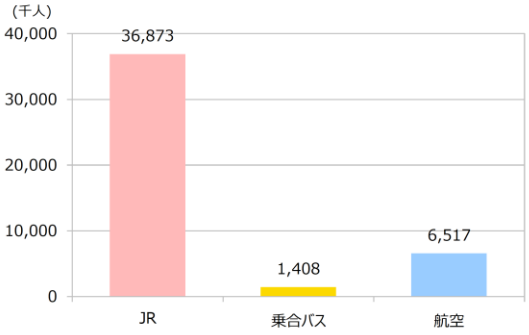
・伊勢神宮への参拝客数は増加傾向である

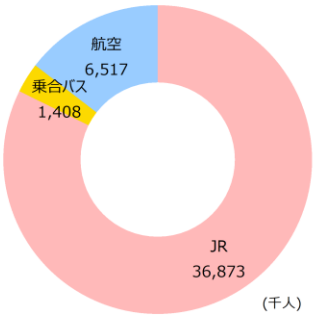


27

■交通手段別の旅客輸送量

・東京・神奈川～大阪・京都間の旅客輸送量は新幹線を含むJRが最も多くなっている





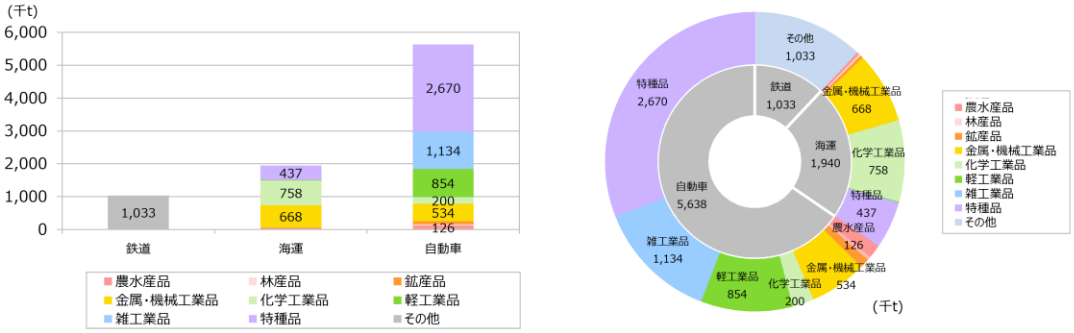
※平成28年における東京・神奈川～大阪・京都間の旅客輸送量

28

図 2-61 提供データ（１４/１５）

■交通手段別の貨物輸送量

・東京・神奈川～大阪・京都間の貨物輸送量はトラックを含む自動車が最も多くなっている



※平成28年における東京・神奈川～大阪・京都間の貨物輸送量

29

図 2-62 提供データ（１５/１５）

第３章　交通学習プログラムの試行

－ 目 次 －

3. 交通学習プログラムの試行 3-1
3-1 取り組みの結果 3-1
3-1-1 既存資源の有効活用 3-1
3-1-2 新たな視点での取り組み.....3-37
3-2 教育関係者へのヒアリング 3-69

3.　交通学習プログラムの試行

3-1　取り組みの結果

3-1-1　既存資源の有効活用

(1) 東近江市立布引小学校

1) 学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

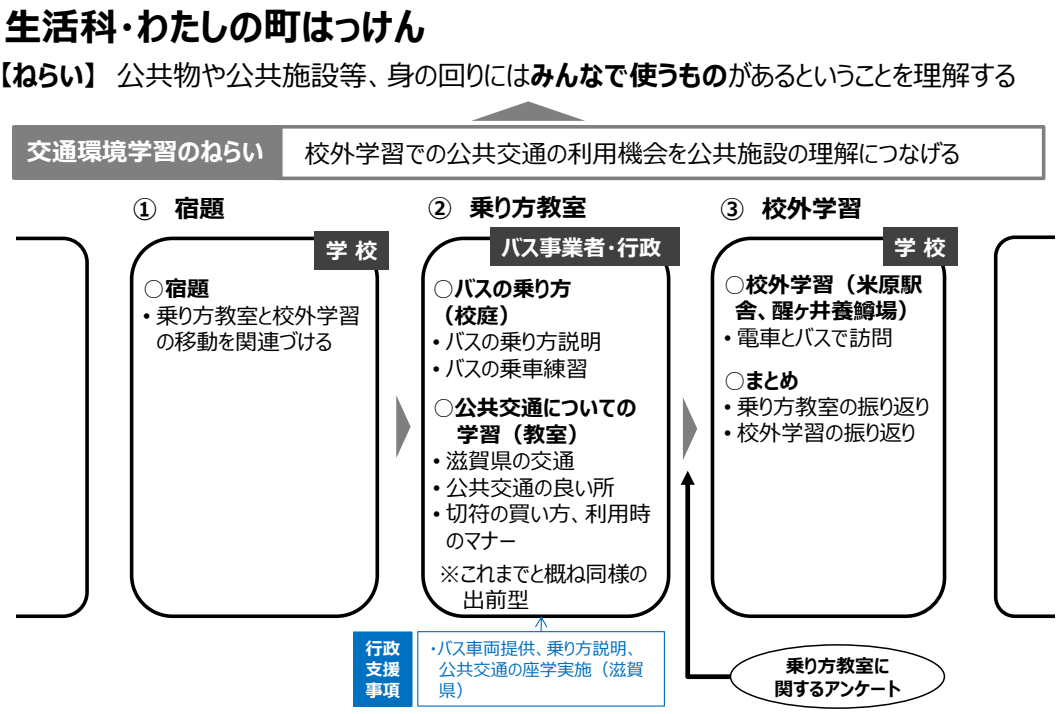


図 3-1　学習の流れ

2）実施内容

(a) 乗り方教室

a) 乗り方説明・乗車練習

バスの乗り方やバスの仕組み等について、バス事業者が説明を行った後、実際のバス車両を用いた乗車練習を行った。実施の様子を以下に示す。

図 3-2 乗り方説明・乗車練習の様子（1/2）

図 3-3 乗り方説明・乗車練習の様子（2/2）

b）公共交通に関する座学

行政が主体となり、滋賀県の公共交通や公共交通の良い所等についての説明を行った。実施の様子を以下に示す。

図 3-4 公共交通に関する座学の様子

3) 教師等へのヒアリング

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-1 教師へのヒアリング結果

日 時	・平成 31 年 1 月 28 日
ヒアリング対象	・校長
ご意見	**＜乗り方教室について＞** ・昨年度同様、バス車両を提供して頂き、**バスの乗り方について良い学習**ができた。来年度もぜひお願いしたい。 **＜宿題について＞** ・宿題の作成は、それほど担任の教師の負担にはなっていないと思うが、乗り方教室を行うバス事業者・行政の教えたい内容と宿題を作成した教師の教えたい内容に**ずれが生じる可能性**がある。 ・他のモデル校のように、**ワークシート等の教材を作成して頂いた方**が、教えたい内容のずれは生じないと思うし、**授業の理解を深める**ことができると考える。 ・ただ、他校で作成されたワークシートを見ると、**その学校でしか活用できない内容**になっており、学校としては有難いが、他の小学校に展開していくことを考えると、小学校ごとに教材を作成するのは**時間と労力**がかかりすぎてしまうと思う。

(2) 草津市立志津南小学校

1) 学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

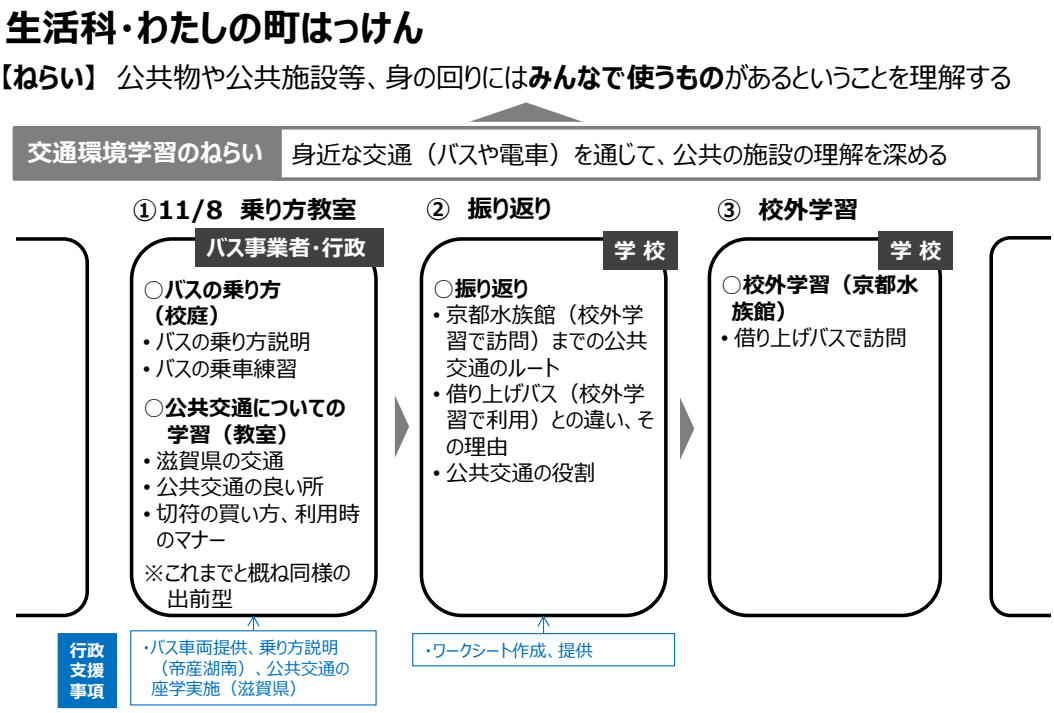


図 3-5 学習の流れ

2）実施内容

(a) 乗り方教室

a) 乗り方説明・乗車練習

バスの乗り方やバスの仕組み等について、バス事業者が説明を行った後、実際のバス車両を用いた乗車練習を行った。実施の様子を以下に示す。

図 3-6 乗り方教室・乗車練習の様子（1/2）

図 3-7 乗り方教室・乗車練習の様子（2/2）

b）公共交通に関する座学

行政が主体となり、滋賀県の公共交通や公共交通の良い所等についての説明を行った。実施の様子を以下に示す。

図 3-8 公共交通に関する座学の様子

(b) 振り返り

作成した以下の乗り方教室の振り返り授業に用いるワークシートおよび指導書サンプルを人数分印刷し、学校に提供した。

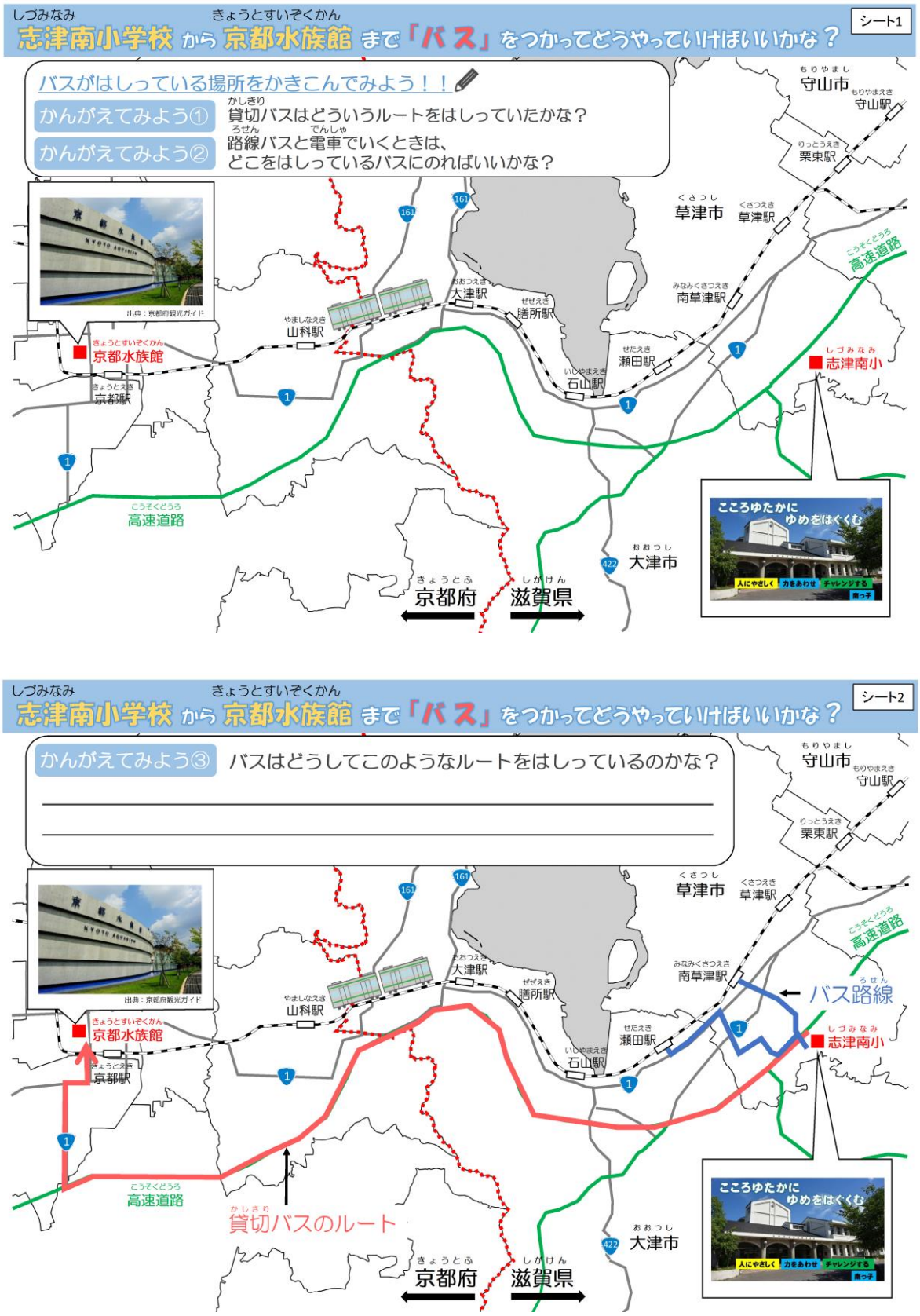


図 3-9 ワークシート

図 3-10 教師向けに作成した指導書サンプル

3) 教師等へのヒアリング

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-2 教師へのヒアリング結果

日 時	・平成 30 年 12 月 7 日
ヒアリング対象	・２年生担当教諭
ご意見	**＜乗り方教室について＞** ・公共交通に関する座学は、環境問題など高学年向けの内容が含まれており、２年生には理解が難しい部分があった。もう少し**公共交通の良さを前面に出した内容**にする方が良いと思う。 ・**実際に運賃箱にお金を入れる体験**があれば、運賃の支払い方法についての理解が深まったのではないかと思う。 ・車両の中で説明を行う際は児童を半分に分けて行う、皆の前で体験する代表者は事業者から指定するのか、学校から指定するのかを事前に決めておく等、**授業の詳細な進め方についてもう少しやり取りができていれば良かった**と思う。

(3) 彦根市立城東小学校

1) 学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

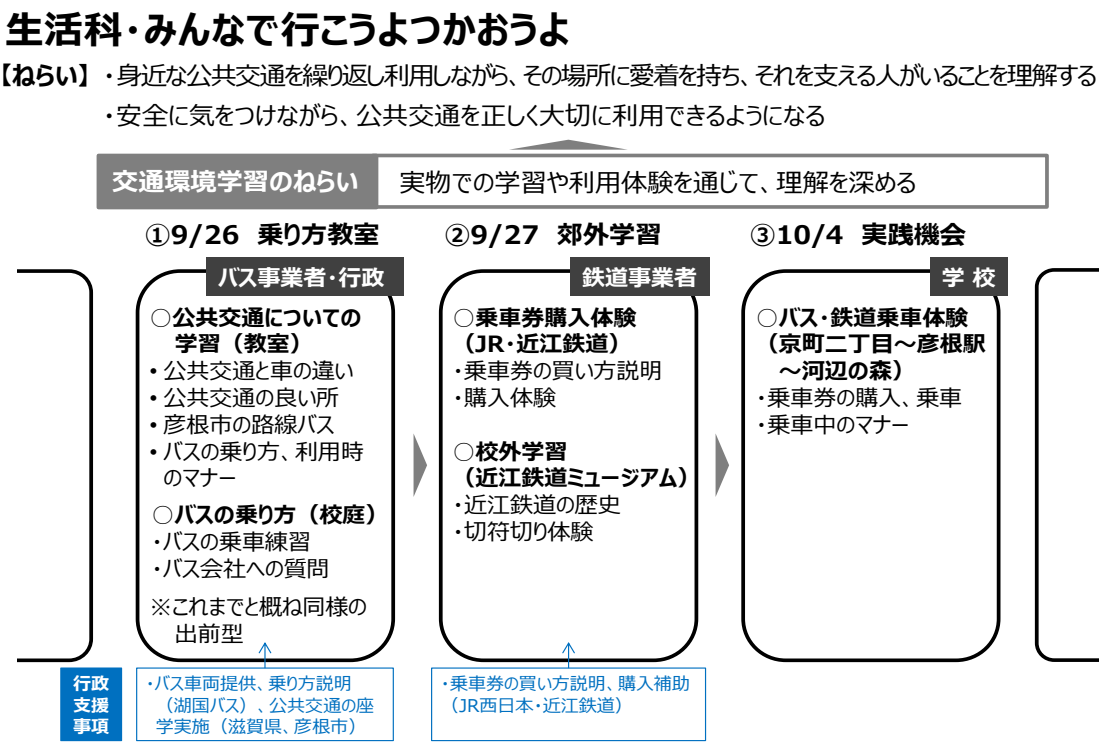


図 3-11 学習の流れ

2) 実施結果

(a) 乗り方教室

a) 乗り方説明・乗車練習

バスの乗り方やバスの仕組み等について、バス事業者が説明を行った後、実際のバス車両を用いた乗車練習を行った。実施の様子を以下に示す。

図 3-12 乗り方教室・乗車練習の様子（1/2）

図 3-13 乗り方教室・乗車練習の様子（2/2）

b) 公共交通に関する座学

行政が主体となり、滋賀県の公共交通や公共交通の良い所等についての説明を行った。実施の様子を以下に示す。

図 3-14 公共交通に関する座学の様子

(b) 校外学習

鉄道事業者が乗車券の購入方法等について説明を行った後、実際に乗車券の購入体験を行った。その後、近江鉄道ミュージアムに移動し、近江鉄道の歴史等についての説明を行った。実施の様子を以下に示す。

図 3-15 校外学習の様子（1/2）

図 3-16 校外学習の様子（2/2）

3) 教師等へのヒアリング

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、行政職員へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-3 行政職員へのヒアリング結果

日 時	・平成 31 年 2 月 28 日
ヒアリング対象	・彦根市行政職員
ご意見	**＜乗り方教室や実践機会について＞** ・公共の施設を利用する際のマナーに気付くことが狙いだったが、実践の際に、「ありがとうございました」と**みんなが元気に言えていた**。あとから気を付けることをきいてみたら、静かにすること、走らないこと、人の邪魔にならないようにすること等、**たくさん挙げてくれた**。 ・バス運転手の方が安全な座り方などについて積極的に指導してくれたが、見せて頂いた写真等に子供たちは**興味深**々だった。

(4) 甲賀市立土山小学校

1) 学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

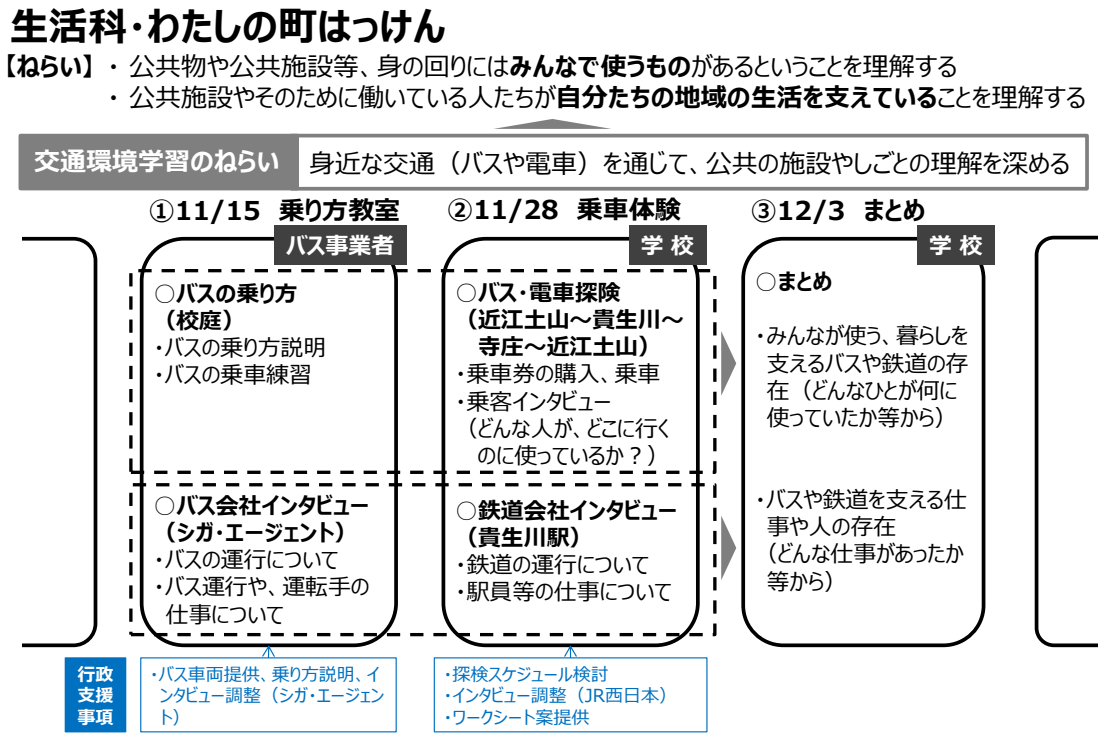


図 3-17 学習の流れ

2) 実施結果

(a) 乗り方教室

a) 乗り方説明・乗車練習

バスの乗り方やバスの仕組み等について、バス事業者が説明を行った後、実際のバス車両を用いた乗車練習を行った。また、乗り方教室で学習した内容を実践する機会として、土山小学校から近江土山バス停まで乗車する体験を行った。実施の様子を以下に示す。

図 3-18 乗り方説明・乗車練習の様子（1/2）

図 3-19 乗り方説明・乗車練習の様子（2/2）

b) バス事業者インタビュー（シガ･エージェント）

近江土山バス停までの乗車体験の後、待合室に移動し、バスの運行や運転手の仕事等についてバス事業者に対するインタビューを実施した。インタビュー内容を以下に示す。

また、実施の様子を次頁に示す。

表 3-4 インタビューの内容

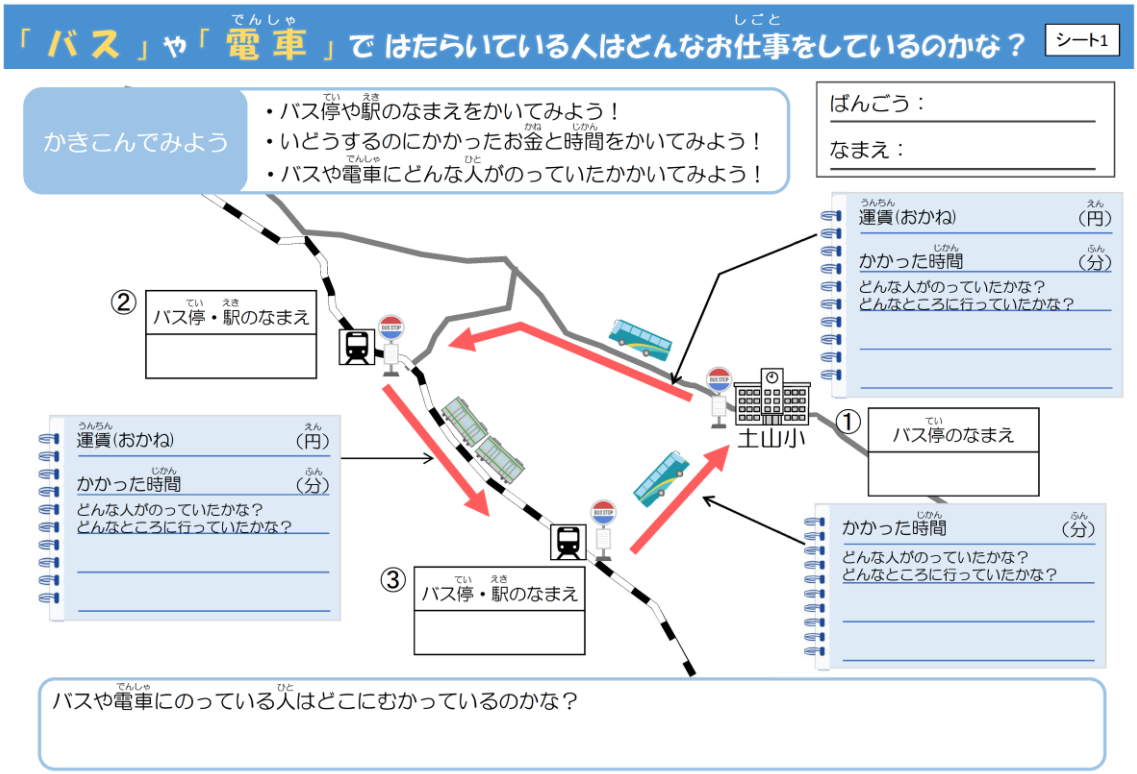
質問	回答
土山地域を走るバスは何台あるのか？	12 台のバスが土山地域を走っている。その内、1 台はバスが故障した時のための予備の車として準備している。
バスは朝何時から夜何時まで走っているのか？	朝の６時から夜の 21 時までバスが走っている。運転手さんの準備時間やバスの片付け時間を含めると、バスの仕事は朝の５時から２２時まである。
バスにはペットを乗せることができるのか？	バスにペットは乗せることができるが、ゲージに入れる必要がある。
バスの座席は何席あるのか？	バスの大きさによって変わるが、乗車練習で乗ってきたバスであれば、座席が２４席あり、立つ人も含めると約５０人乗れる。
近江土山バス停は何年前につくられたのか？	国鉄バスというものが走っていた、昭和５０年に駅舎がつくられたと言われている。しかし、駅舎が老朽化してきたため、最近改修を行い綺麗になったところである。
あいくるバスの名前の由来は何か？	土山地域は「あいの土山」と呼ばれており、その「あいの土山」から来るバスということで、短縮してあいくるという名前がついた。
バスは何 km/h で走っているか？	走るスピードは法律で決められており、あいくるバスは 50km/h で走っている。
バスの長さは何 m か？	バスの大きさによって変わるが、あいくるバスでは一番長いのが１０mで一番短いのが５mとなっている。
バスの寿命は何年か？	バスの寿命は２０年と決められている。しかし、２０年経っていなくても１００万ｋm走ったら、新しいバスと交換しなければならない。
運転手やバスに休憩はあるのか？	運転手さんには必ず 1 時間ほどの休憩がある。また、車の掃除や給油を行うため、バスも運行を休んでいる時間がある。
車のナンバープレートは何種類あるのか？	白、緑、黒、黄の４種類あり、バスは緑色のナンバーをつけて走っている。
あいくるバスは貸切ることができるか？	あいくるバスは乗合バスというものであるため、貸切ることはできないが、貸切専用のバスも運行している。
バスはどの地域まで走っているのか？	あいくるバスは基本的に甲賀市全域を走っている。
バスはいつも同じ運転手さんが運転しているのか？	乗り込むバスや走るコースは毎日変わる。

図 3-20 バス事業者インタビューの様子

(b) 乗車体験

a) ワークシートの作成および提供

作成した以下の乗車体験で運賃等の情報を書きとめるワークシートおよび指導書サンプルを人数分印刷し、学校に提供した。



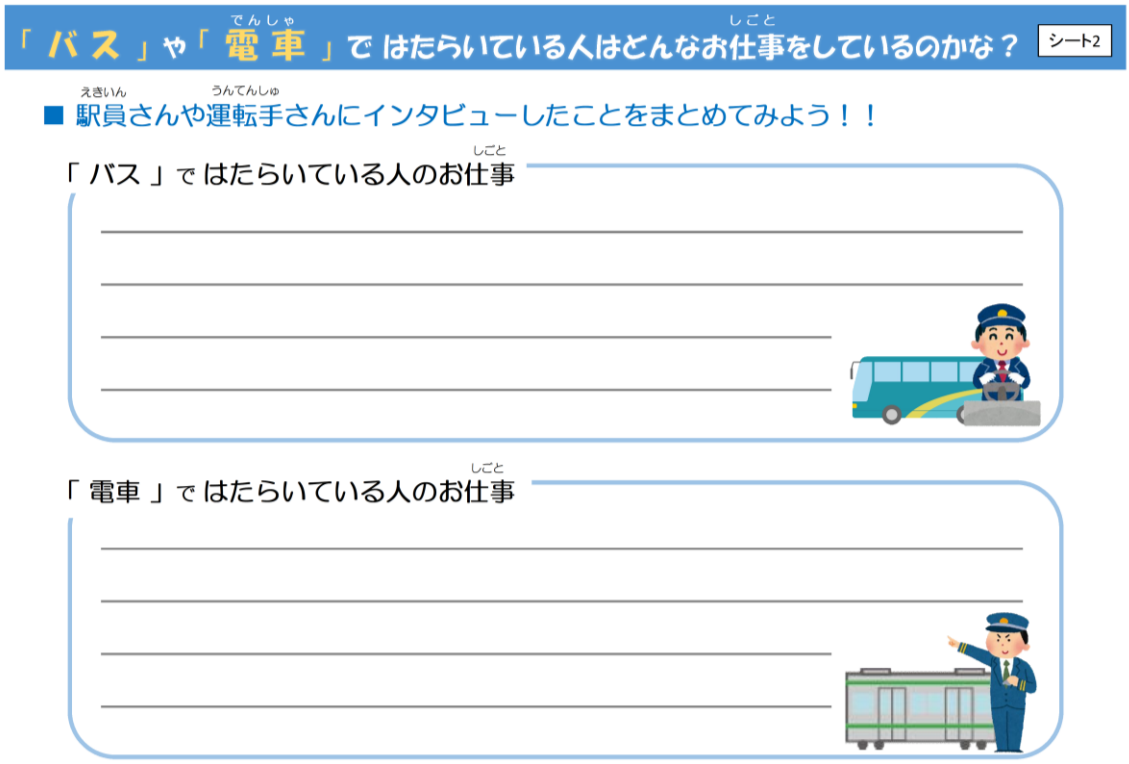


図 3-21 ワークシート

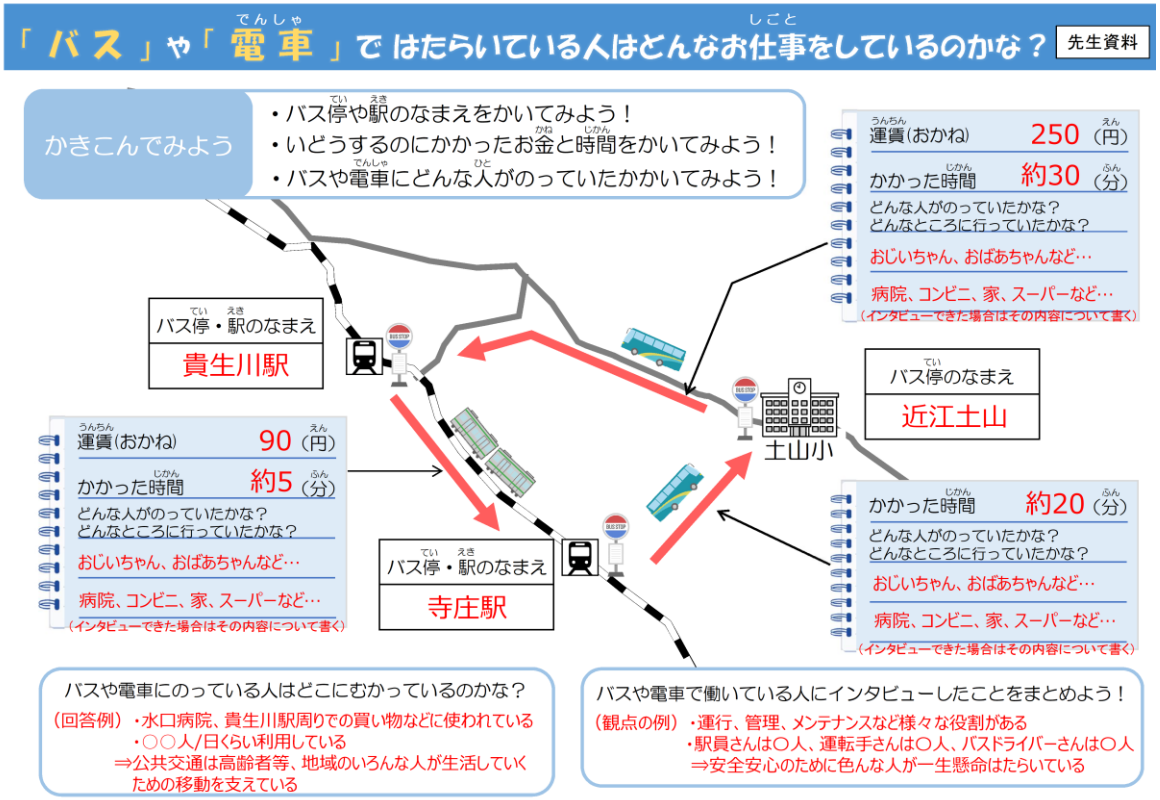


図 3-22 指導書サンプル

b) バス・鉄道乗車体験

乗り方教室を踏まえ、公共交通の役割を知るための体験学習として、バス・鉄道の乗車体験を実施し、窓口での乗車券購入および券売機での切符購入も併せて実施した。また、バス・鉄道乗車中には、乗客インタビューを行った。以下に乗車体験の流れを示す。

また、実施の様子を次頁に示す。

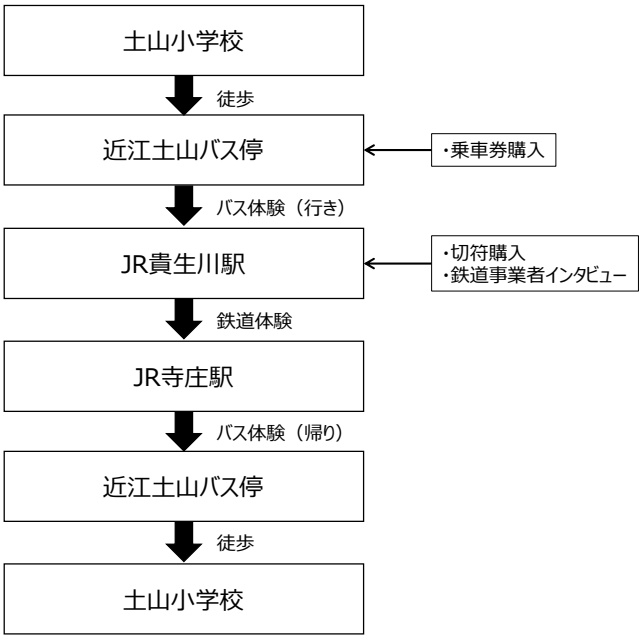


図 3-23 乗車体験の流れ

図 3-24 バス･鉄道乗車体験の様子（1/4）

図 3-25 バス･鉄道乗車体験の様子（2/4）

図 3-26 バス･鉄道乗車体験の様子（3/4）

図 3-27 バス･鉄道乗車体験の様子（4/4）

c) 鉄道事業者インタビュー（ＪＲ西日本）

ＪＲ貴生川駅までの乗車体験の後、鉄道の運行や運転手の仕事等について鉄道事業者に対するインタビューを実施した。インタビュー内容を以下に示す。

また、実施の様子を次頁に示す。

表 3-5 インタビューの内容

質問	回答
駅員は何人いるのか？	貴生川駅では７人の駅員がいる。
電車が故障すると、修理にいくらかかるのか？	電車をつくるのに、１つの車両で１億円ほどするので、修理するだけでも数千万円の費用がかかる。簡単な修理であれば地元の電機屋さんが修理することもある。
電車はどういう所を走っているのか？	草津線であれば JR 草津駅から柘植駅の間を走っている。
電車の車輪はいくつあるのか？	１つの車両に８つの車輪がついている。
電車は毎日どれくらいの便数走っているのか？	平日であれば、草津駅行きが４０本、柘植駅行きが３９本走っている。土日はその数から２本減ってしまう。
雪が降った時、電車はどうやって走っているのか？	レールの雪を融かす装置が付いている。しかし、雪がたくさん積もっているときは、駅員等で雪かきを行い、電車が目的地まで安全に走れるようにしている。
電車が急に停まることがあるのか？	急ブレーキをして止まることもあるので、しっかり椅子に座ってほしい。
一日どれくらいの人が利用するのか？	JR 貴生川駅であれば、１日あたり４０００人の方が利用される。
電車は休まずずっと走っているのか？	いくつもの電車を用意しており、それをローテーションしながら、走らせているため、電車にも休みの日はある。
駅はいくつあるのか？	草津線であれば、９つの駅がある。
運転手が倒れた場合はどうなるのか？	運転手が倒れてもATSという装置で自動に止まるようになっているので安全である。

図 3-28 鉄道事業者インタビューの様子

(c) まとめ

乗車体験や事業者・乗客インタビューを踏まえ、公共交通の役割や地域をまもる仕事についてのまとめ授業を実施した。以下に授業の流れを示す。

また、まとめ授業の様子を次頁に示す。

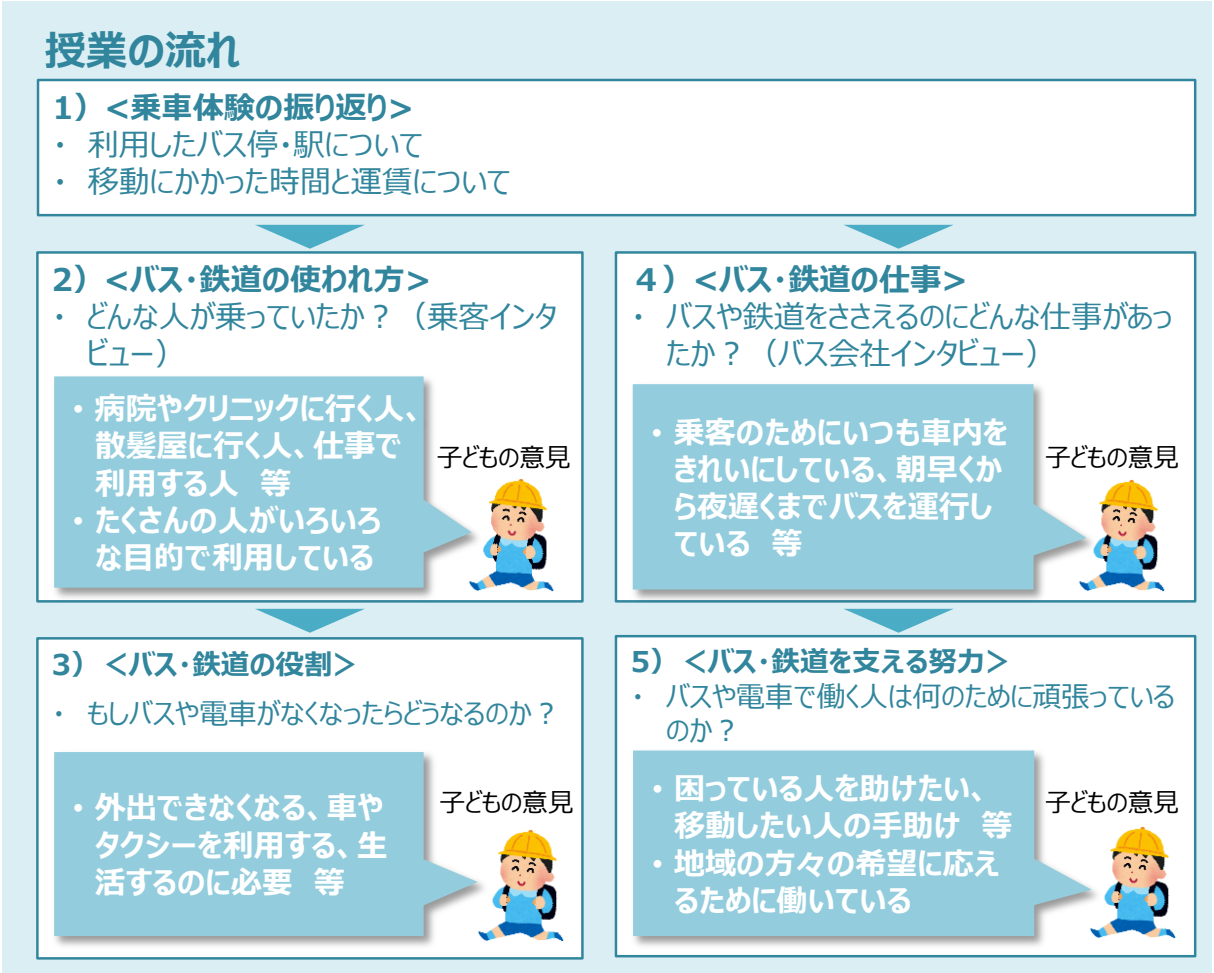


図 3-29 まとめ授業の流れ

図 3-30 まとめ授業の様子

3) 教師等へのヒアリング

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-6 教師へのヒアリング結果

日 時	・平成 30 年 12 月 3 日 ・平成 31 年 3 月 5 日
ヒアリング対象	・校長 ・教頭
ご意見	＜**乗り方教室について**＞ ・担任の先生だけでは、ワークシートの作成等に時間をかけることは難しいので、ワークシート作成や授業の進め方等、**サポートしていただいたのは良かった**。 ＜**乗車体験について**＞ ・実際に体験しても時間が経つと内容を忘れてしまうことがあるので、体験をしている中で**ワークシートをまとめる時間があった**のが良かった。 ・乗客インタビューでは、生徒全員が一生懸命質問をしようとしていたため、乗客の方への負担が大きくなってしまっていた。生徒を 2 つの車両に分ける等、**乗客の方に迷惑がかからない方法**を考える必要があると思われる。 ・乗客インタビューで年齢や利用の目的について聞くことができたので、そこから**電車とバスの役割の違いについて学習展開**していくことができると思う。 ・寺庄駅から近江土山に向かうバスを利用する人はいなかったが、昼間に土山の方面に向かう需要はないということを**知ってもらう機会**になったと思う。 ・バス・電車に実際に乗車する体験は公共交通の利用状況について学ぶいい機会になると思うので、土山地域の課題について考える**６年生の総合学習の時間等への展開も可能**であると思われる。 ・午前で体験できる授業プランであったため、給食の変更をする必要もなく、弁当をつくる**保護者の負担にもならなかった**。 ・バスの到着が遅れたこともあるが、貴生川駅の**駅長インタビューはもう少し時間が長い方が良かった**。 ＜**まとめについて**＞ ・普段の授業傾向を踏まえると、写真を見せながら質問をして発話を求めるという授業形態では、45 分間集中力はもたないと思っていたが、今日のまとめの授業では生徒の発話も活発で**最後まで集中して取り組めていた**。 ・バス・電車の乗車体験や交通事業者へのインタビュー等、**実際に自分の目で見て直接話を聞く体験**があったから発話したい内容がたくさんでき、授業に積極的に取り組めていたのだと思う。 ・「バスや電車が地域からなくなったらどうなるのか」という問いに対して、車やタクシー、自転車を使うという意見があったが、もう少し**生徒の意見を掘り下げる時間**があれば、公共交通の重要性について理解を深めることができたと思う。

3-1-2 新たな視点での取り組み

(1) 福祉学習における交通素材の活用（甲賀市立土山小学校３年生・４年生、総合学習）

1) ３年生

(a) 学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

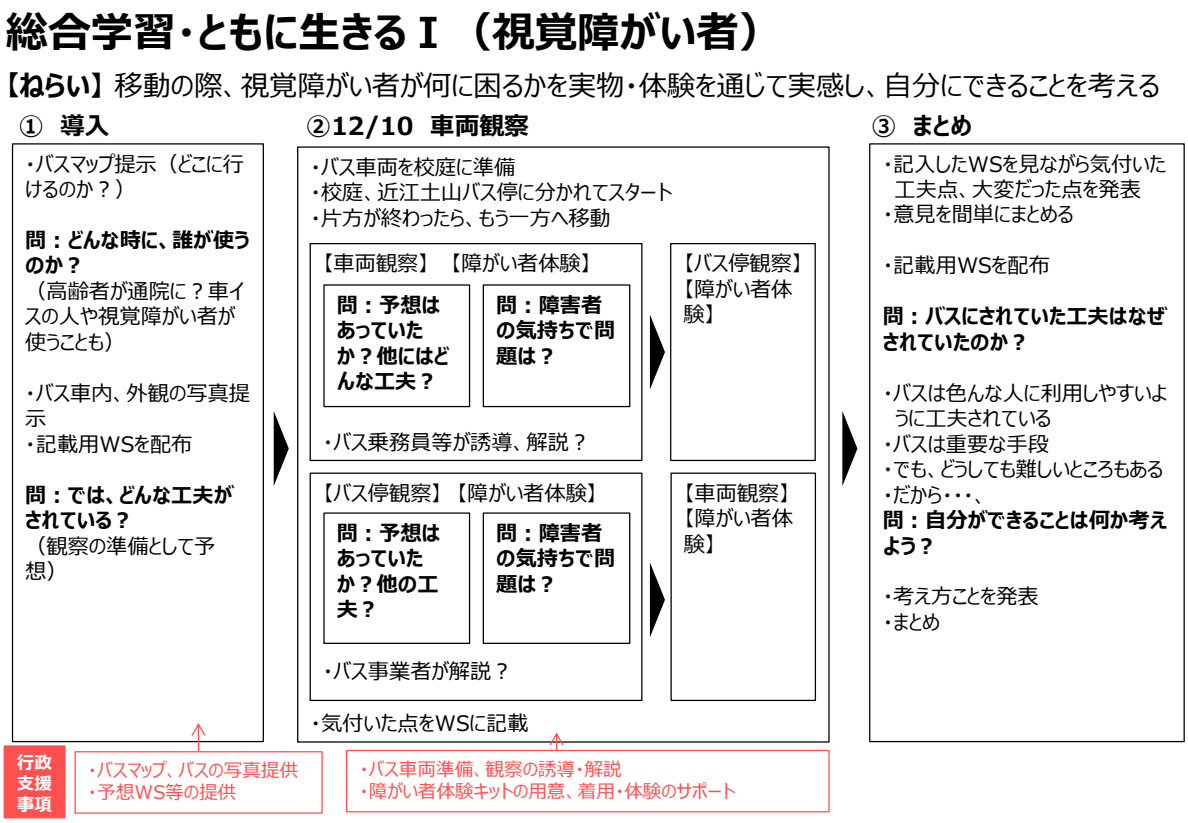
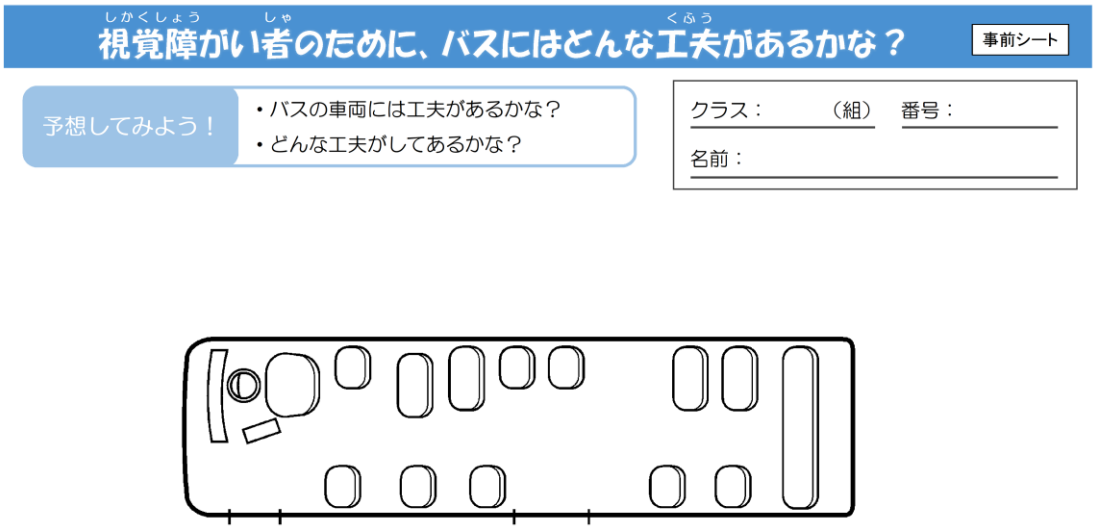


図 3-31 学習の流れ

(b) 実施結果

a) 導入

作成した以下のような福祉面でのバス車両の工夫点を予想し、車両観察および障がい者体験の際に気づいたこと等を書きとめるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。



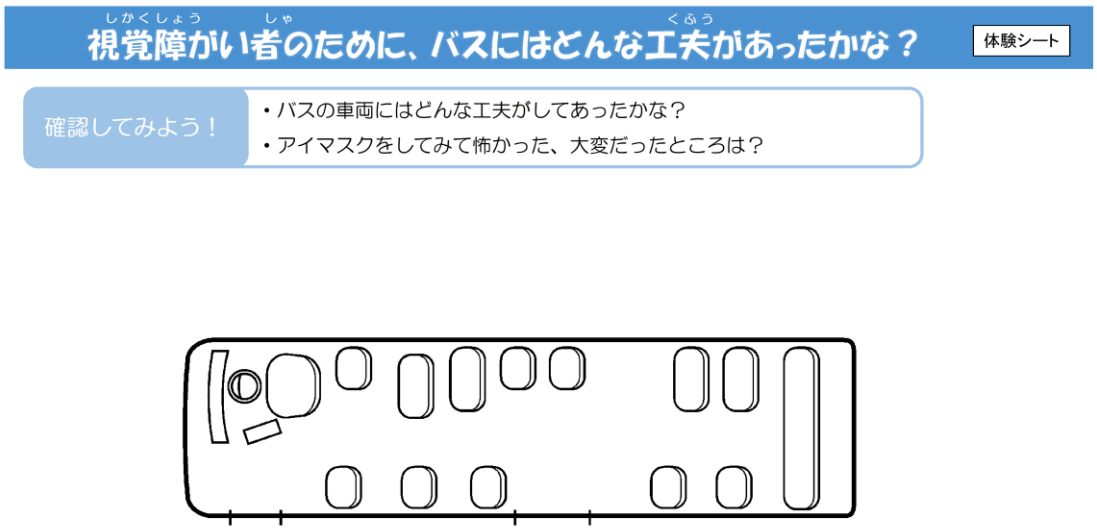


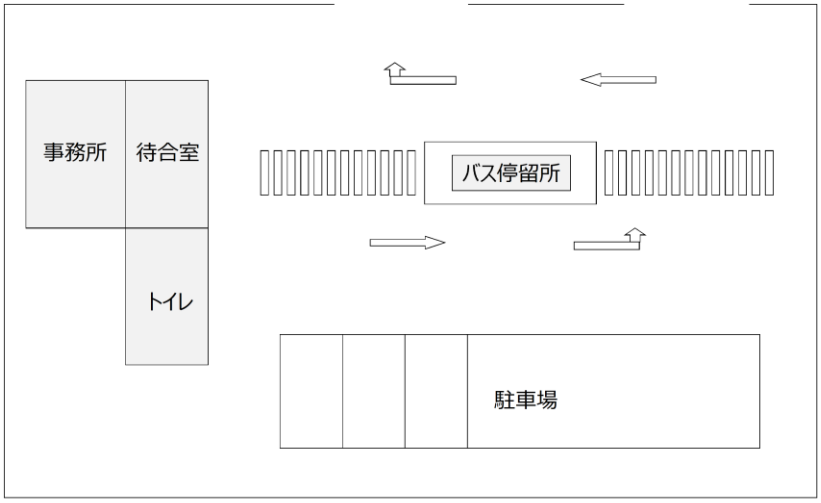
図 3-32 ワークシート（1/2）

視覚障がい者のために、バス停にはどんな工夫があるかな？

事前シート

予想してみよう！

- バス停（近江土山）には工夫があるかな？
- どんな工夫がしてあるかな？



視覚障がい者のために、バス停にはどんな工夫があったかな？

体験シート

予想してみよう！

- バス停（近江土山）にはどんな工夫がしてあったかな？
- アイマスクをしてみて怖かった、大変だったところは？

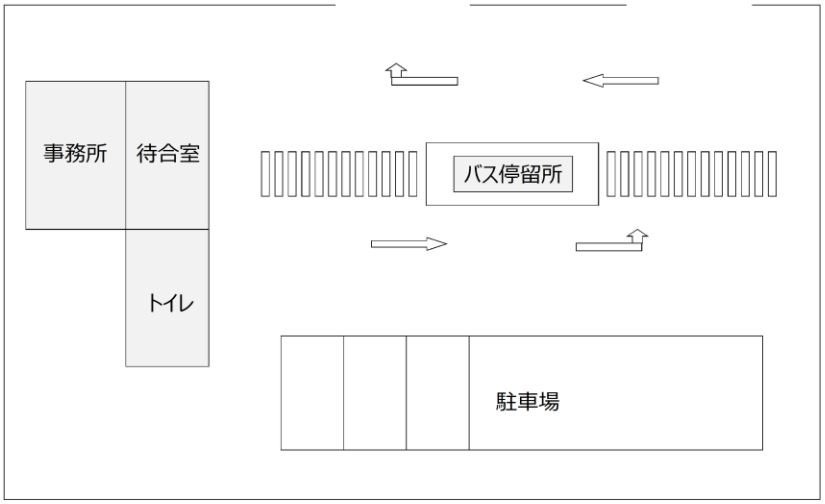


図 3-33 ワークシート（2/2）

b) 車両観察・障がい者体験

導入授業で予想した福祉面での工夫を確認するために車両観察を実施した後、アイマスク等の視覚障がい者体験キットを装着し、乗車から降車までの一連の体験を行った。さらに、バス車両での体験の後、近江土山バス停に移動し、バス停観察および障がい者体験について同様の手順で行った。実施の様子を以下に示す。

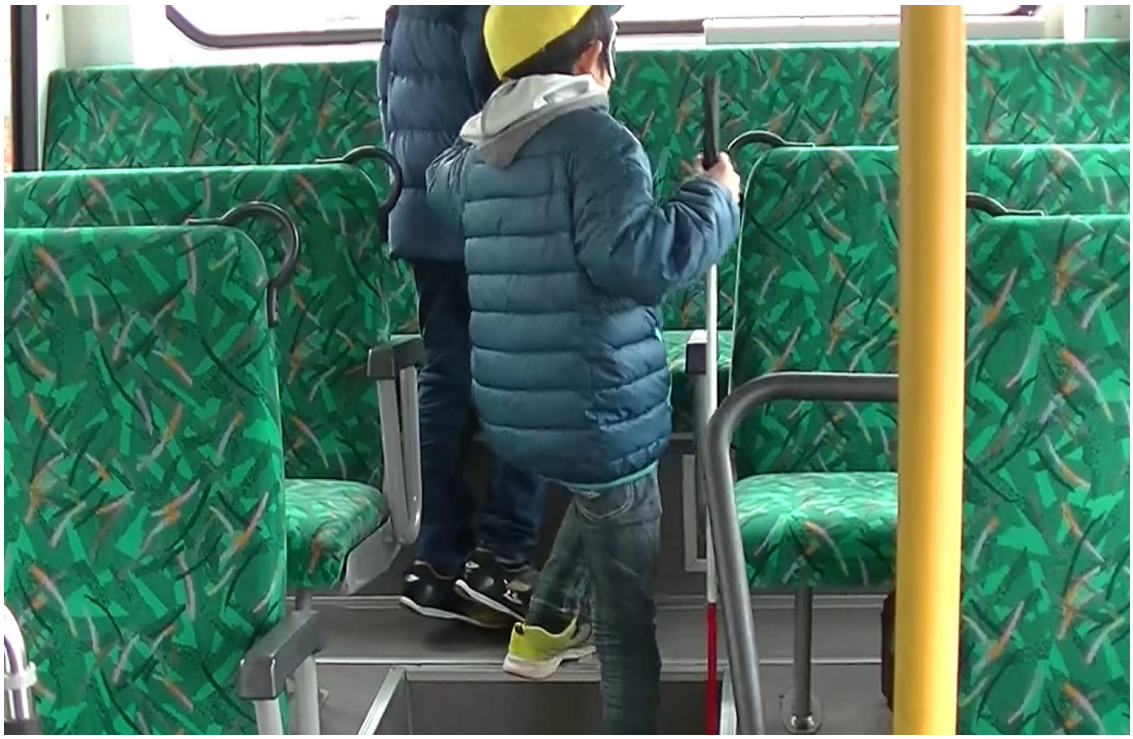
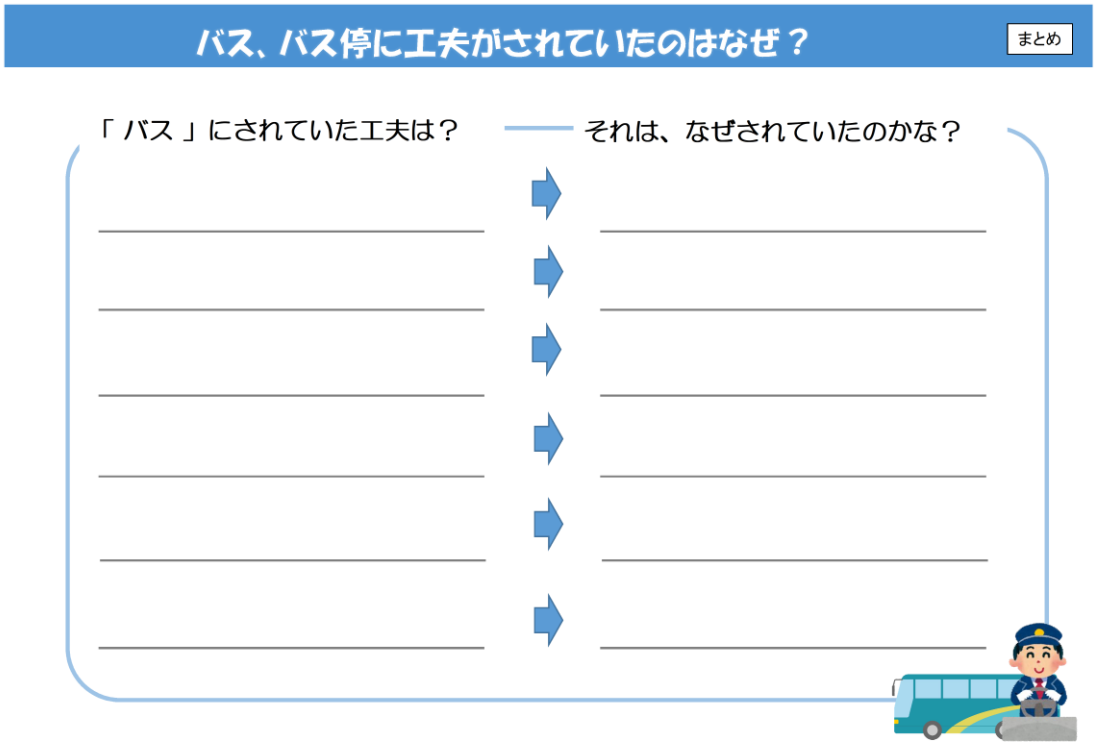


図 3-34 車両観察・障がい者体験の様子（1/2）

図 3-35 車両観察･障がい者体験の様子（2/２）

c) まとめ

作成した以下のような、障がい者のために何ができるのかを考えるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。



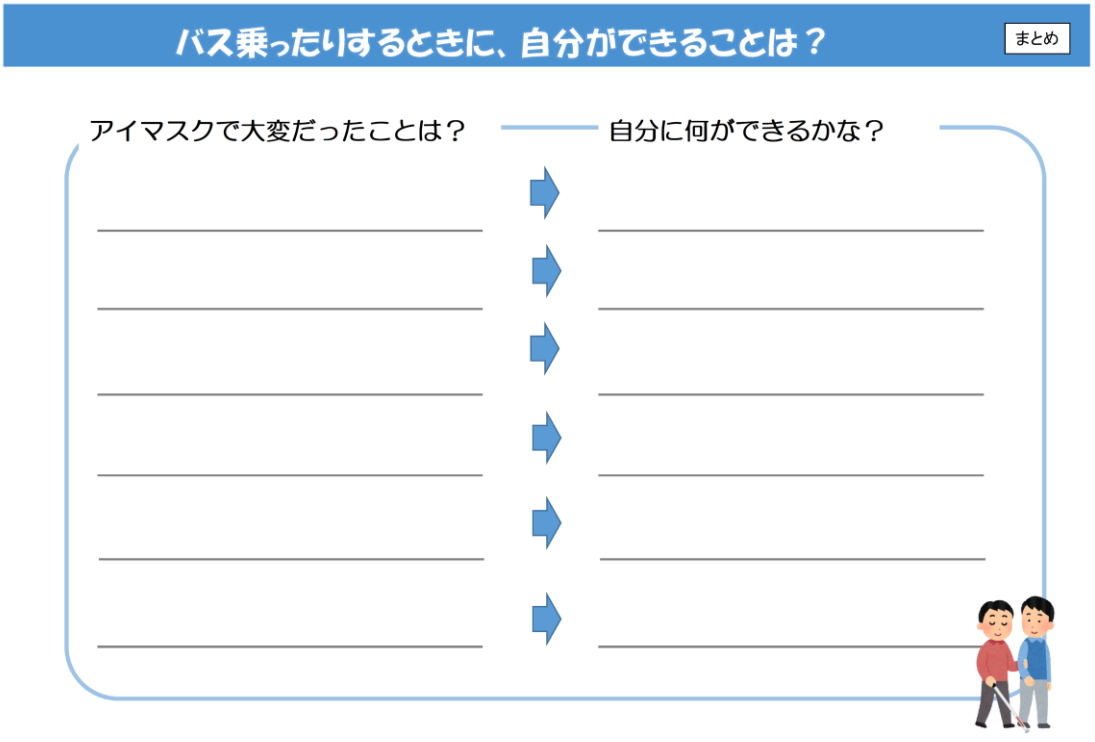


図 3-36 ワークシート

2) ４年生

(a) 学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

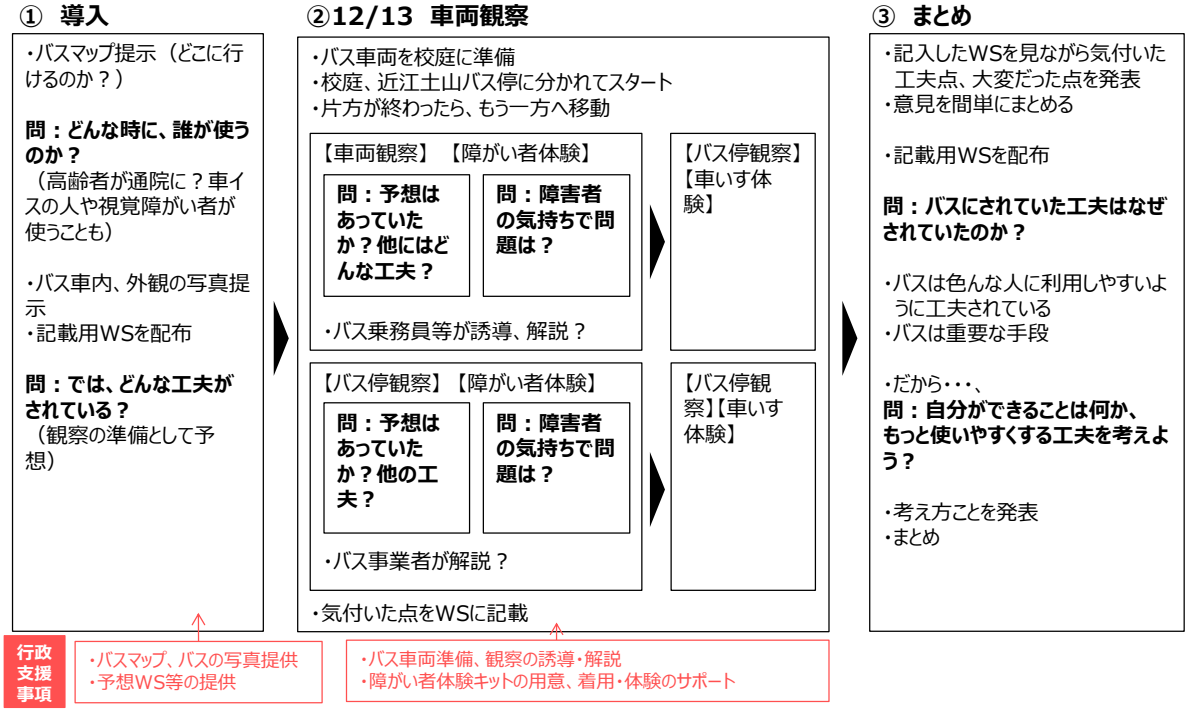
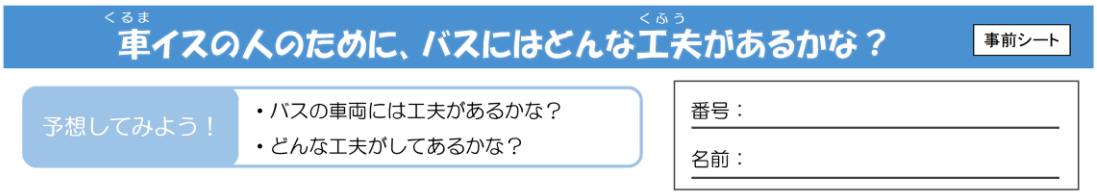


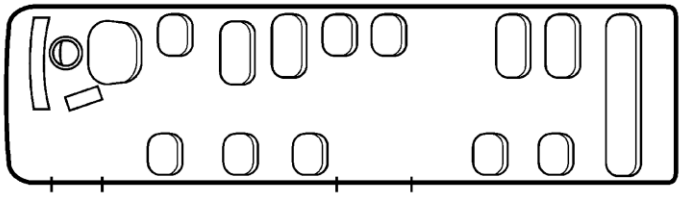
図 3-37 学習の流れ

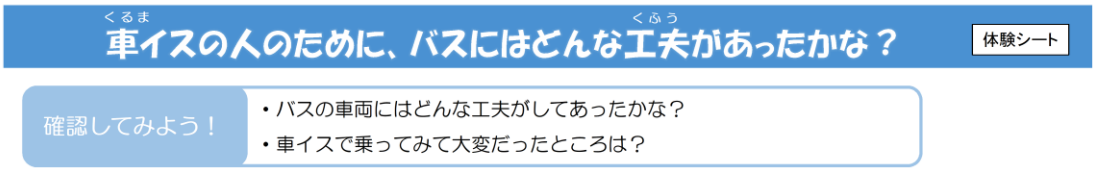
(b) 実施結果

a) 導入

作成した以下のような福祉面でのバス車両の工夫点を予想し、車両観察および障がい者体験の際に気づいたこと等を書きとめるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。







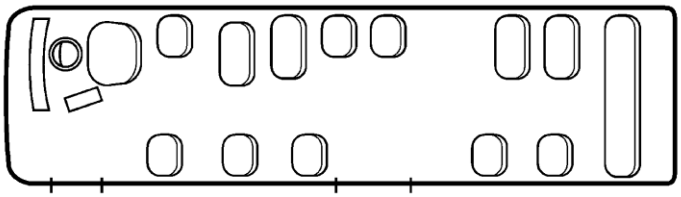


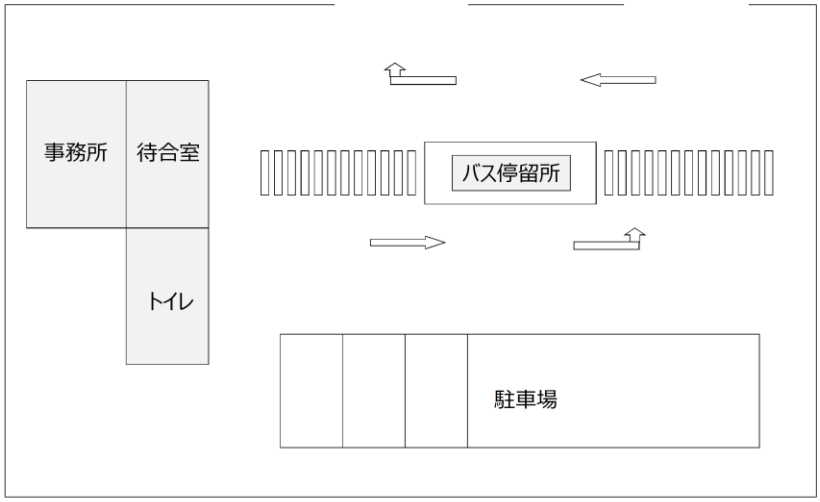
図 3-38 ワークシート（1/2）

車イスの人のために、バス停にはどんな工夫があるかな？

事前シート

予想してみよう！

- バス停（近江土山）には工夫があるかな？
- どんな工夫がしてあるかな？



車イスの人のために、バス停にはどんな工夫があったかな？

体験シート

予想してみよう！

- バス停（近江土山）にはどんな工夫がしてあったかな？
- 車イスに乗ってみて怖かった、大変だったところは？

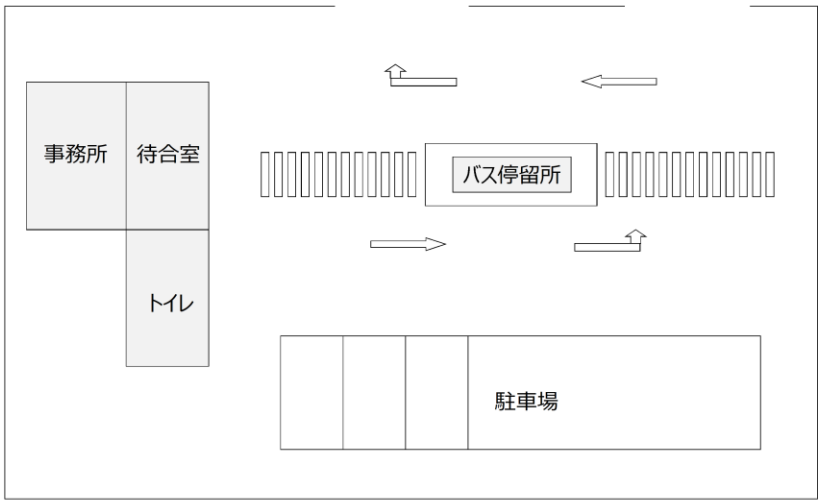


図 3-39 ワークシート（2/2）

b) 車両観察・障がい者体験

導入授業で予想した福祉面での工夫を確認するために車両観察を実施した後、車いすを使用し乗車から降車までの一連の体験を行った。さらに、バス車両での体験の後、近江土山バス停に移動し、バス停観察および障がい者体験について同様の手順で行った。実施の様子を以下に示す。

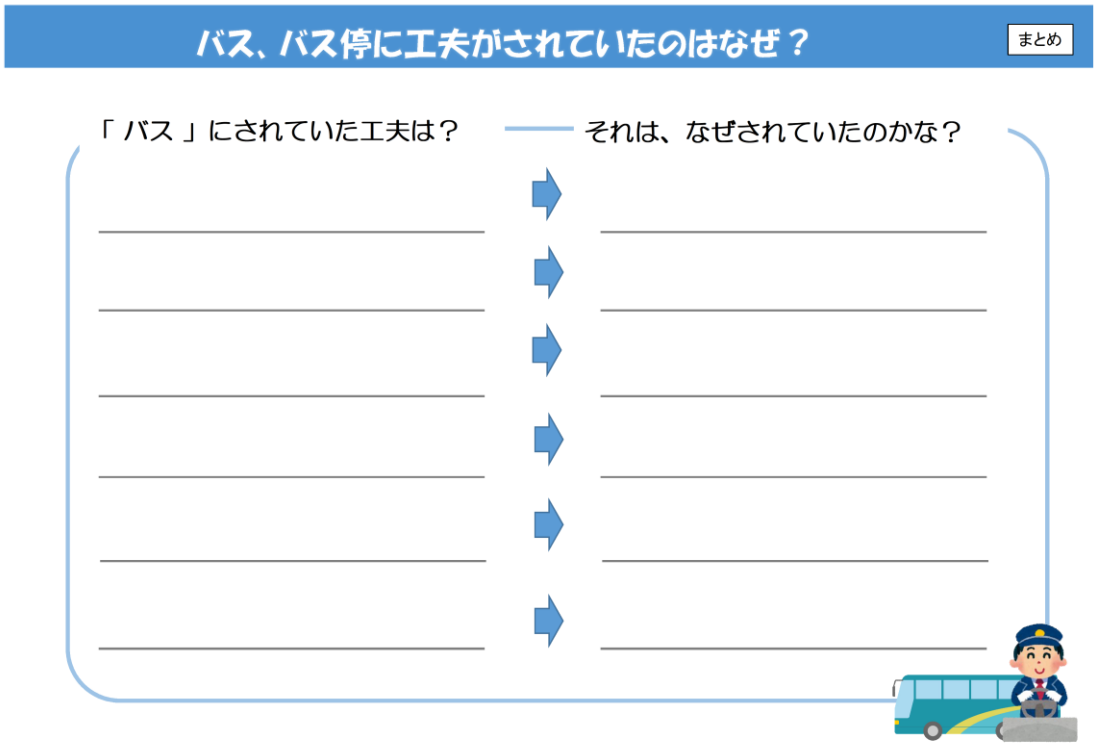
図 3-40 車両観察・障がい者体験の様子（1/3）

図 3-41 車両観察･障がい者体験の様子（2/3）

図 3-42 車両観察･障がい者体験の様子（3/3）

c) まとめ

作成した以下のような、障がい者のために何ができるのかを考えるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。



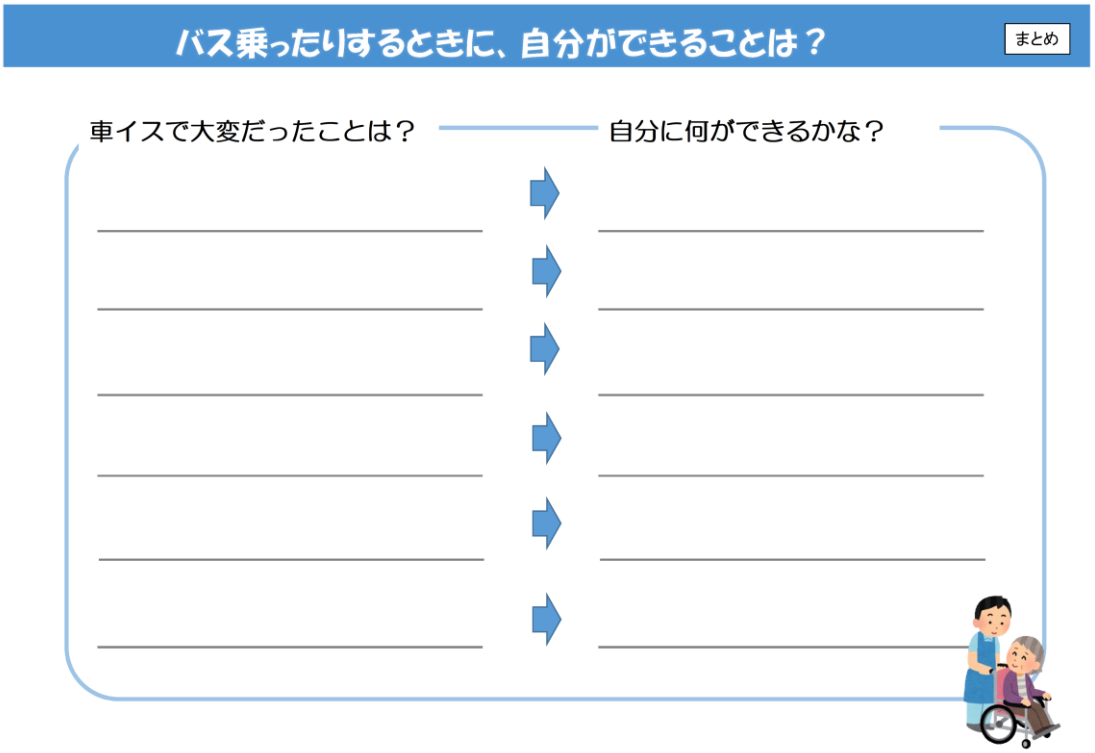


図 3-43 ワークシート

3) 教師等へのヒアリング

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-7 教師へのヒアリング結果

日 時	・平成 31 年 3 月 5 日
ヒアリング対象	・校長 ・教頭
ご意見	＜**車両観察・障がい者体験について**＞ ・３年生で行った、バス車両の狭い空間を３組が行き来する体験は、譲り合わないと移動も思うようにできないという**現実を知ることができる貴重な機会**であり、校内でのアイマスク体験や写真を見るだけでは感じることができない体験であった。 ・４年生についても、スロープの角度や車体傾斜など、**大人も初めて知るような工夫**がたくさんあり、**子どもたちの発見につながる**良い経験になった。 ・知識として身に着けるだけでなく、**実際に生活の中に入った時の知恵になる**広がりや深さのある体験であったと思う。 ・今回の福祉学習では、バス車両の体験だけでなく、盲導犬利用者等の話を聞くことや校内体験などを事前に行っている。バス車両を用いた体験は、実際にまちにでたときはどうしたらよいかという部分の学習にあたり、実際に困っている人の想いを聞いた上で自分も体験してみるという一連の学習としても良く、**単元としての位置付けも良かった**。 ・しかし、バリアフリーに対応したものと対応していないものの２種類の車両を用意して頂いたが、**両方体験する時間がなかった**のが残念であった。一方、近江土山バス停では**待ち時間が長く**、子供たちの集中力がきれてしまっていたため、バス停は説明だけにする、待ち時間も興味を持ち続けれるような素材を用意する等の工夫が必要である。 ・実際に暮らしている視覚障がい者と同じように、障がい者体験キットを装着したまま、**学校からバス停まで歩き、乗車をするという流れ**があれば、子どもたちにとって貴重な体験になったのではないかと思う。例えば、毎日通る通学路であっても、普段とは違う状況の中で歩けば、子どもたちにとっても新たな発見があると思う。

(2) 鉄道県土すごろくの検討（草津市立志津南小学校４年生、社会科）

1) 学習の流れ

鉄道県土すごろくを用いた学習の流れを以下に示す。

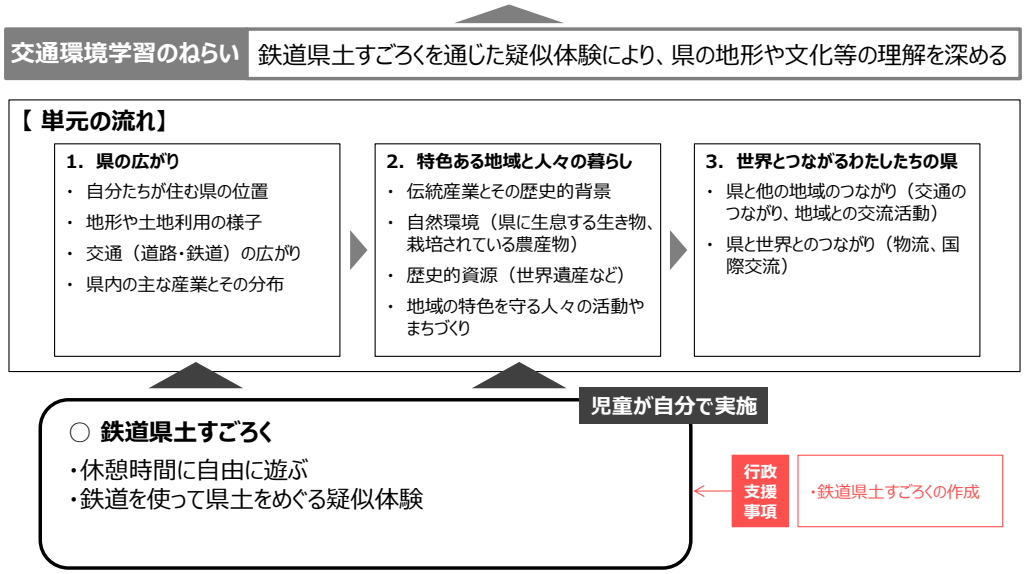


図 3-44 学習の流れ

2) 教師等へのヒアリング

検討中の鉄道県土すごろくの改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-8 教師へのヒアリング結果

日 時	・平成 30 年 12 月 17 日 ・平成 31 年 1 月 24 日
ヒアリング対象	・５年生担当教諭
ご意見	＜**鉄道県土すごろくを用いた学習について**＞ ・地産地消については **5 年生でも学ぶ**ので、上手く活用できれば授業でも使えるような教材になるのではないかと思う。 ＜**ルールやヒントについて**＞ ・沖積平野などヒントに記載されている言葉が難しいものもあるので、もう少し**簡単な言葉で表現**する必要があると思う。 ・地名や地形が分からない子もいっぱいいるので、子供たちが楽しく遊べるようなヒントの出し方が難しいが、**ヒントがわかりやすいもの**であれば、子どもたちにも遊んでもらえると思う。 ・複雑なルールは生徒が混乱するので、できるだけ**シンプルなゲーム内容**にしていく必要があると思う。 ・自分たちの地域を理解してもらうことを考えると**小学校の最寄りの駅をスタート地点**にするのが良い。 ＜**その他**＞ ・**かわいいデザイン**であれば子供たちの興味もひきやすいものになると考える。

(3) フローティングスクールでの交通素材の活用（草津市立志津南小学校５年生、総合学習）

1) 学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

総合・琵琶湖

【 **ねらい** 】自分たちの生活と琵琶湖の関わりを理解する

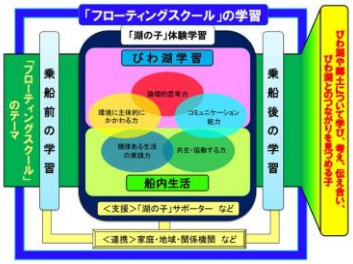
交環境学習のねらい	今も地名に残っている物流・湖上交通のなごりから、琵琶湖周辺にある港が自分たちの生活を支えている（いた）ことを理解する

【 琵琶湖学習（フローティングスクール）の流れ】

調べ学習
- 琵琶湖について学びたいテーマを設定し、琵琶湖と自分たちの生活の関わりについての学習を行う

宿泊体験学習
- 学習船「うみのこ」での宿泊体験を通し、琵琶湖の現状や環境等について学ぶ

まとめ
- 宿泊体験での学びを通して、乗船前に設定したテーマについて理解を深める



※滋賀県立琵琶湖フローティングスクールHPより引用

①1/31　琵琶湖と交通の関わり

行 政

○琵琶湖と交通の関わり
- 琵琶湖周辺における地名の共通点
- 湖上交通を使った昔の貨物輸送のルート
- 湖上交通の役割

行政支援事項
- ワークシートの提供
- 琵琶湖と交通の関わりについての座学実施（滋賀県）

【 授業の流れ 】

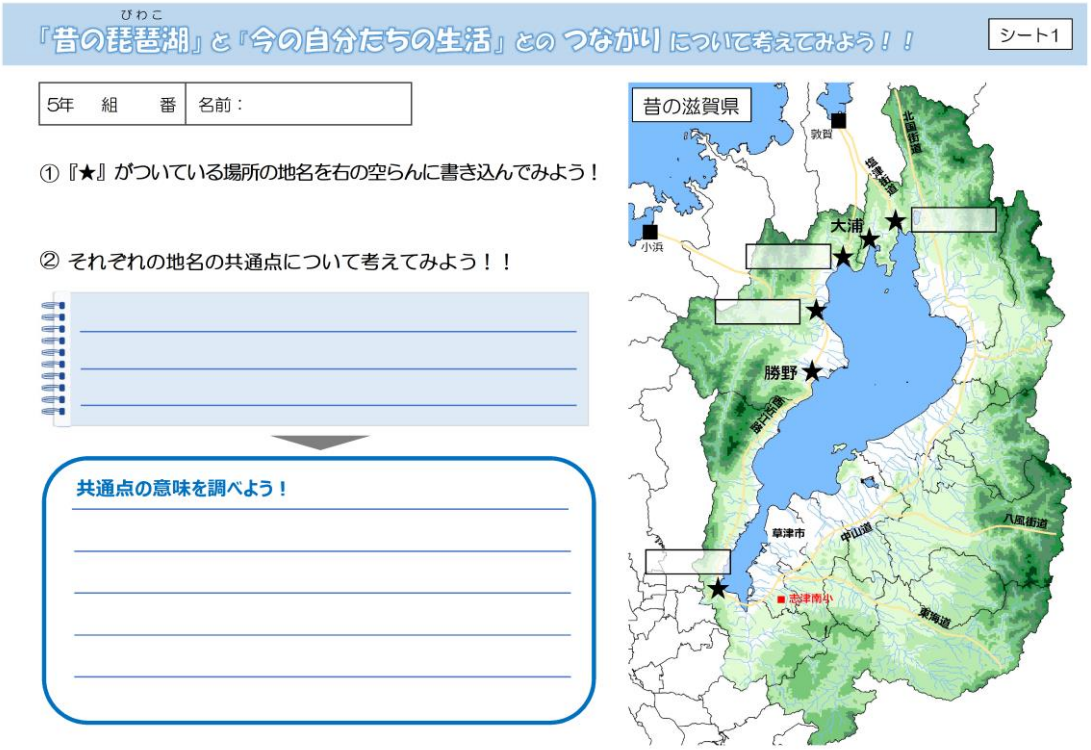
琵琶湖に**港があった**（ある）ことを知る	琵琶湖は**交通の要衝であった**ことを理解する	現在も県民の**日常生活に使われる交通**が琵琶湖にあり、生活を支えていることを知る
・琵琶湖周辺の地名を調べてWSに記入する ・記入した地名についてその共通点を考える ・地名に共通する漢字の意味について調べる	・日本海側からの荷物の輸送ルートを予想する ・港は「小浜」や「敦賀」に運ばれた荷物を京都や大阪、大津まで輸送するための中継点であったことを知る ・陸路を短縮するために琵琶湖に交通が集まっていたことを理解する	・今も日常的に残っている湖上交通のルートを予想する ・日常的な生活に使われている交通が琵琶湖にあることを理解する

図 3-45　学習の流れ

2）実施結果

(a) ワークシートの作成および提供

作成した以下のような、琵琶湖周辺に共通する地名や昔の物資輸送ルートから湖上交通の役割について考えてもらうワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。



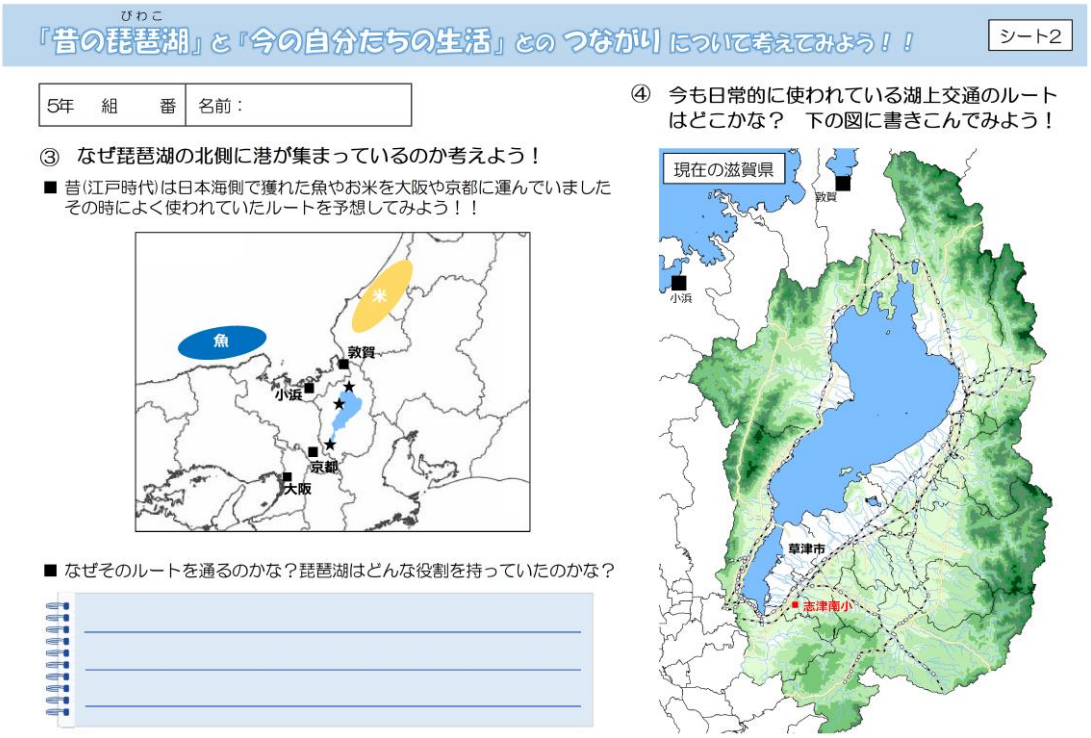


図 3-46 ワークシート

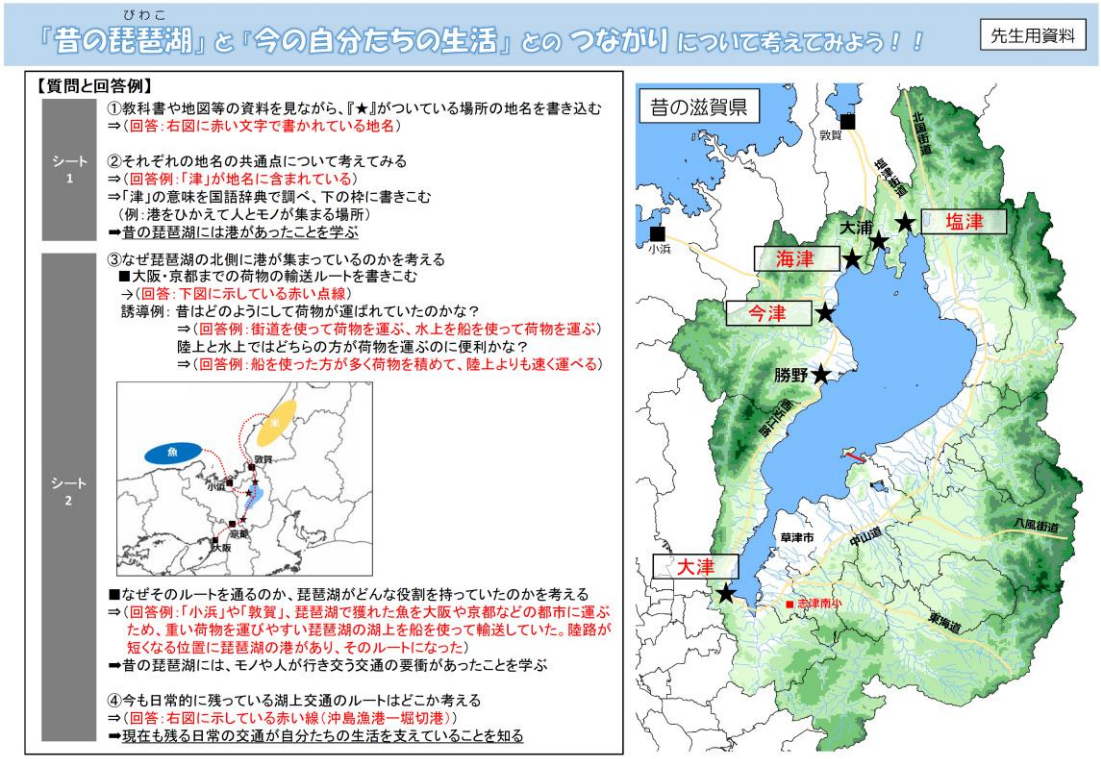


図 3-47 指導書サンプル

(b) 授業の実施

湖上交通の名残から、琵琶湖と交通のかかわりを理解させる授業を行政が実施した。授業の様子を以下に示す。

図 3-48 授業の様子

3) 教師等へのヒアリング

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-9 教師へのヒアリング結果

日 時	・平成 31 年 3 月 7 日
ヒアリング対象	・５年生担当教諭
ご意見	**＜琵琶湖と湖上交通に関する授業について＞** ・丁寧に教えてもらい分かりやすかった。フローティング学習中にも、講師から湖上交通の話が出て、子どもたちからも「あの時話してもらったことだ！」というような**反応**があった。 ・フローティングの**事前学習としてはよかった**。フローティングをする 1 か月前ぐらいにするのがベストだと思う。学習に使った観光マップをもらえたのもありがたかった。 ・ワークシートは、一部何を書いたらいいかわからないところがあった。 ・学校側としては、何種類かの**指導案**がまとまっている冊子をもらって、それに乗っかる形が一番ありがたい。 ・交通学習については、県土の広がりを学習する **４年生が中心**と感じている。

(4) 歴史学習における交通素材の活用（甲賀市立大野小学校６年生、総合学習）

1) 学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

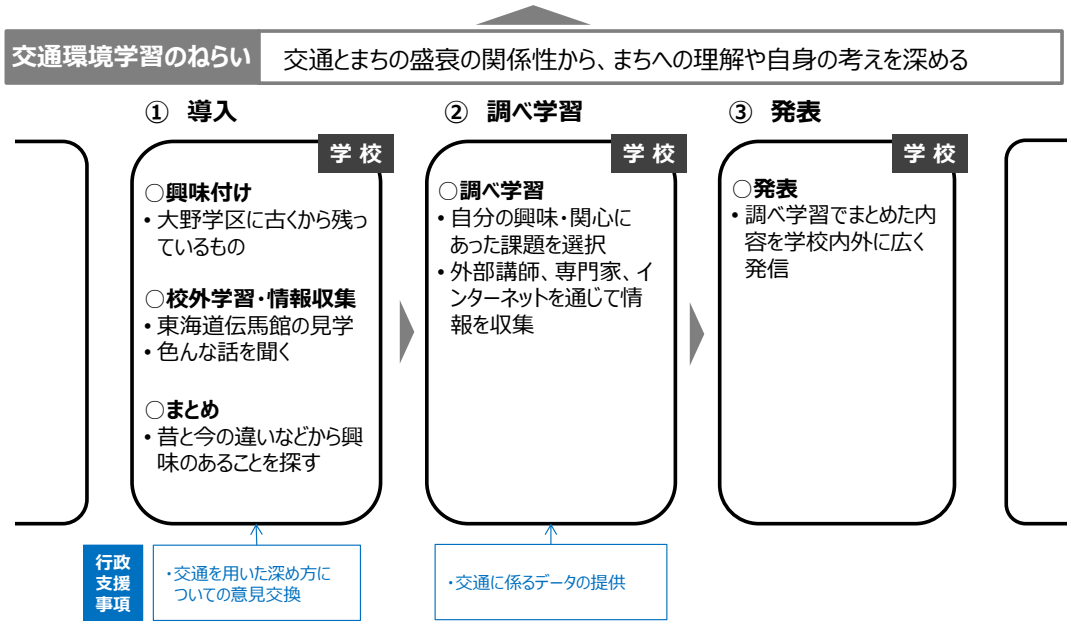


図 3-49 学習の流れ

2) 実施結果

(a) 導入

交通素材を用いた総合学習の深め方について学校と意見交換を実施した。

また、意見交換会を踏まえ、大野地域の将来を考えるきっかけとして、昔と今のまちの違いについて考える授業を学校が実施した。授業の様子を以下に示す。

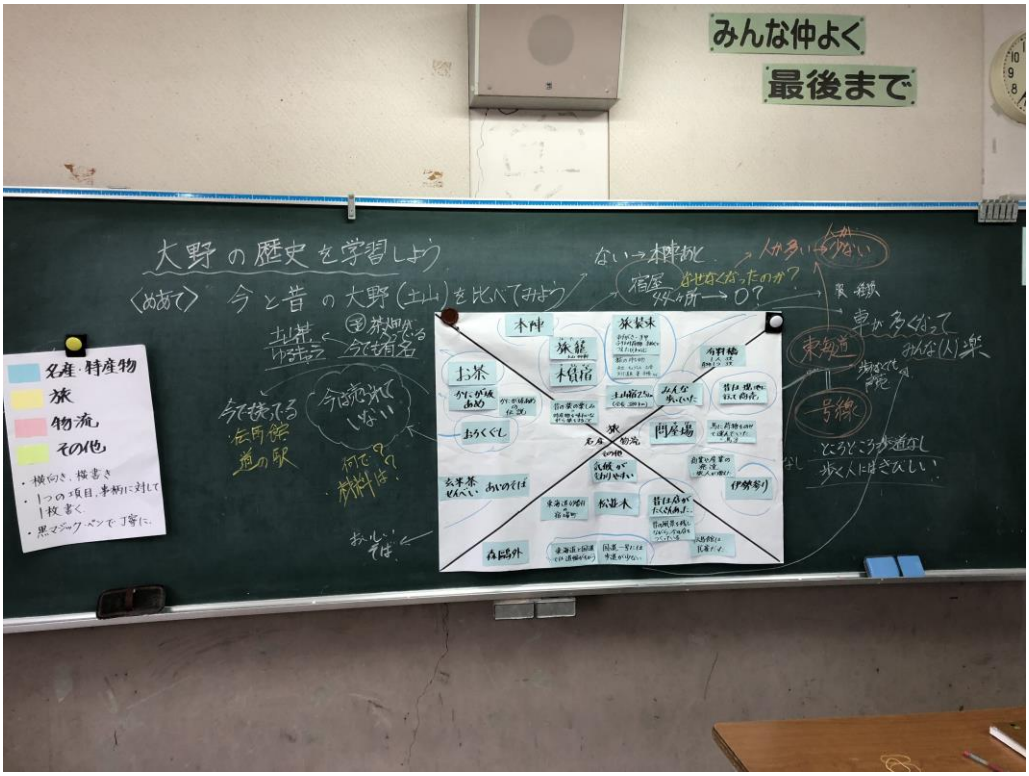


図 3-50 授業の様子

(b) 調べ学習

まちが変化してきた理由を考える素材として、以下のような交通に係るデータを提供した。

＜人口・まちの変化＞

・滋賀県の人口推移
・甲賀市の人口推移
・甲賀市の人口分布（1995 年）
・甲賀市の人口分布（2015 年）
・甲賀市における人口分布の増減

＜交通手段の変化＞

・街道
・鉄道網の変化
・鉄道の利用者数の推移
・船の利用者数の推移
・バスの利用者数の推移
・道路網の変化
・道路整備延長および自動車保有台数の変化
・周辺地域の全自動車交通量
・周辺地域の大型自動車交通量
・バスの輸送人員および自動車保有台数の推移

＜国土軸の変化　東京・神奈川⇔大阪・京都間＞

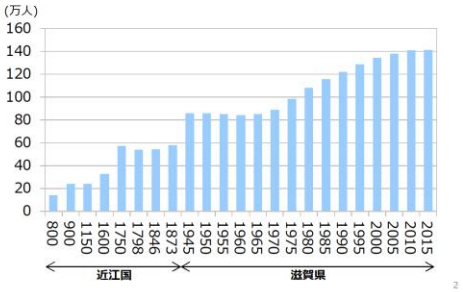
・伊勢神宮の参拝客数の推移
・交通手段別の旅客輸送量
・交通手段別の貨物輸送量

次頁に提供したデータを示す。

周辺地域の変化①
― 人口･まちの変化 ―

■滋賀県の人口推移

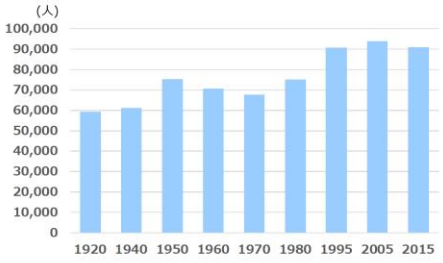
･滋賀県の人口は江戸時代から増加傾向である



2

■甲賀市の人口推移

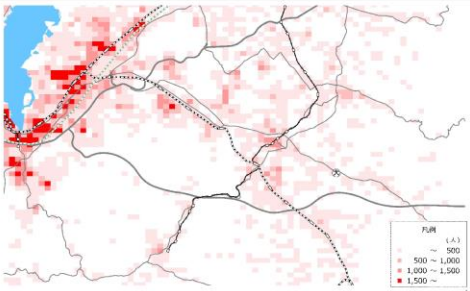
･甲賀市の人口は年々増加しているが、近年は横ばい傾向である



3

■甲賀市の人口分布（1995年）

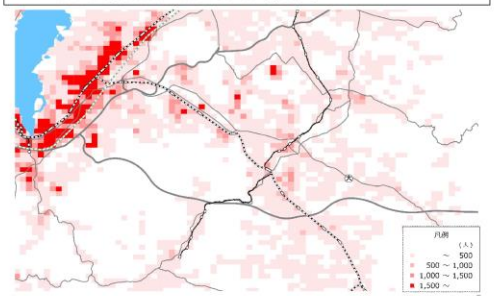
･JR東海道本線沿いと比較すると大野小学校周辺の人口は少なくなっている



4

■甲賀市の人口分布（2015年）

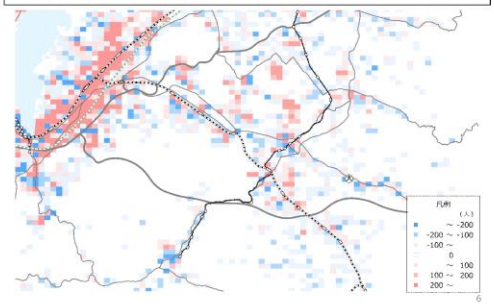
･1995年と比較すると甲賀市全体で人口の増加が見られる



5

■甲賀市における人口分布の増減

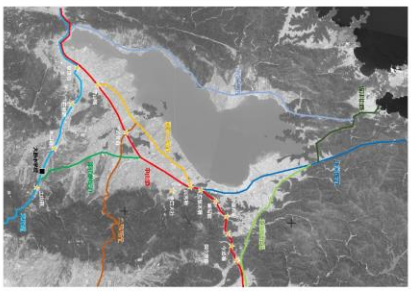
･ JR東海道本線沿いは人口が増加しているが、大野小学校周辺は減少している所が多い



6

■街道

･東海道以外にも様々な街道が見られる



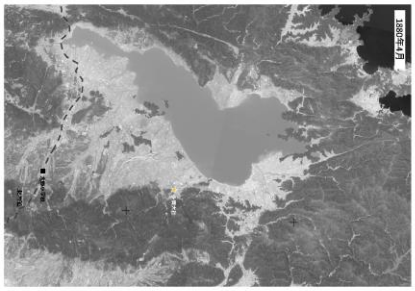
8

周辺地域の変化②
― 交通手段の変化 ―

図 3-51 提供データ（1/4）

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1880年4月）

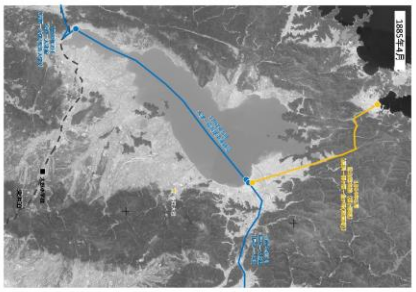
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



9

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1885年4月）

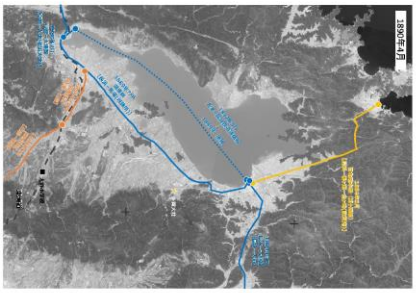
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



10

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1890年4月）

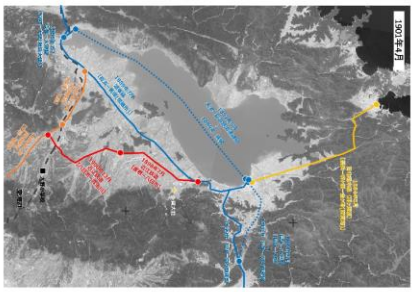
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



11

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1901年4月）

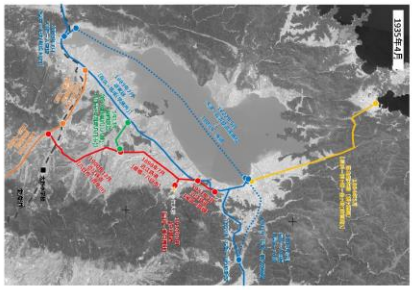
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



12

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1935年4月）

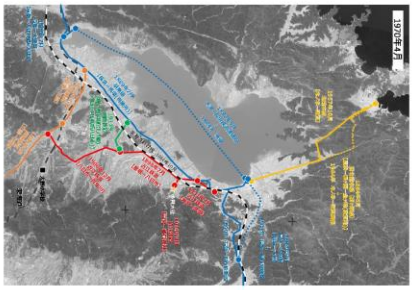
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



13

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1970年4月）

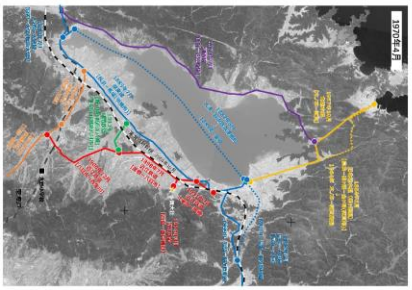
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



14

■鉄道 ― 鉄道網の変化（1980年4月）

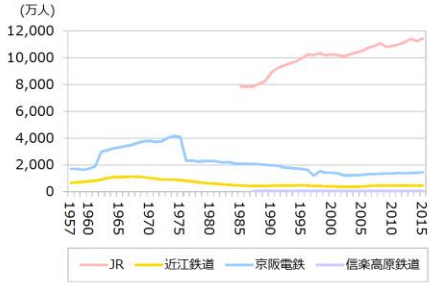
・明治時代初期（1880年～1901年）に急速に整備が進められている



15

■鉄道 ― 利用者数の推移

・JRの利用者は近年増加傾向であるが、その他の民間鉄道は減少および横ばい傾向である



16

図 3-52 提供データ（2/4）

■船 ― 利用者数の推移

・船舶の利用者数は近年減少傾向である。

17

■バス― 利用者数の推移

・運行距離に変化は見られないものの、利用者数は大きく減少している

18

■自動車 ― 道路網の変化（1948年）

・1948年から1988年の間に国道1号が整備

19

■自動車 ― 道路網の変化（1988年）

・1948年から1988年の間に国道1号が整備

20

■自動車 ― 道路網の変化（2018年）

・1948年から1988年の間に国道1号が整備

21

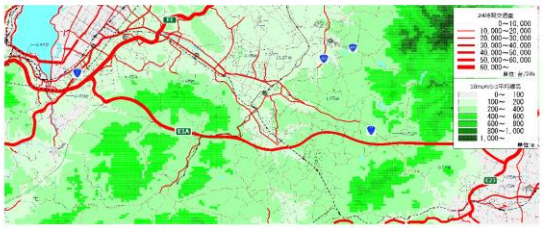
■自動車 ― 道路整備延長および自動車保有台数の変化

・道路延長の増大とともに自動車の保有台数は増加している（乗用車は近年横ばい傾向）

22

■自動車 ― 周辺地域の全自動車交通量

・名神高速道路や新名神高速道路に、国道1号において全自動車の交通量が多くなっている



※平成27年における全自動車の24時間交通量

23

■自動車 ― 周辺地域の大型自動車交通量

・大型自動車の交通量は名神高速道路および新名神高速道路に集中している

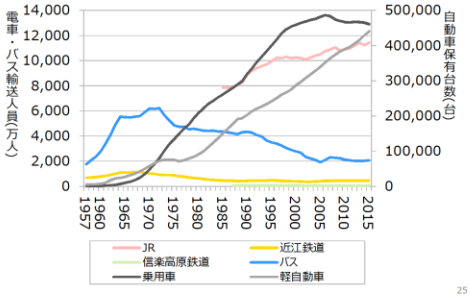
※平成27年における大型自動車の24時間交通量

24

図 3-53 提供データ（3/4）

■鉄道・バスの輸送人員および自動車保有台数の推移

・JR以外の公共交通は減少傾向にあるが、自動車の保有台数は増加している

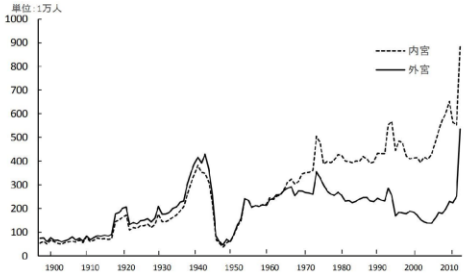


25

国土軸の変化
― 東京 神奈川 ⇔ 大阪・京都間 ―

■伊勢神宮への参拝客数の推移

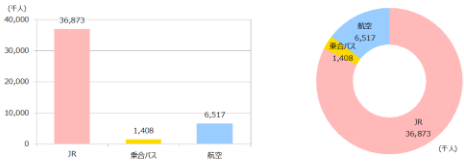
・伊勢神宮への参拝客数は増加傾向である



27

■交通手段別の旅客輸送量

・東京・神奈川～大阪・京都間の旅客輸送量は新幹線を含むJRが最も多くなっている

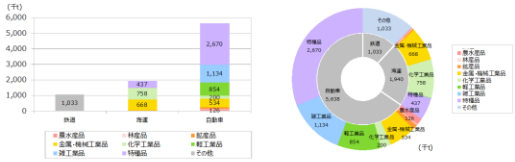


※平成28年における東京・神奈川～大阪・京都間の旅客輸送量

28

■交通手段別の貨物輸送量

・東京・神奈川～大阪・京都間の貨物輸送量はトラックを含む自動車が最も多くなっている



※平成28年における東京・神奈川～大阪・京都間の貨物輸送量

29

図 3-54 提供データ（4/4）

a) 発表

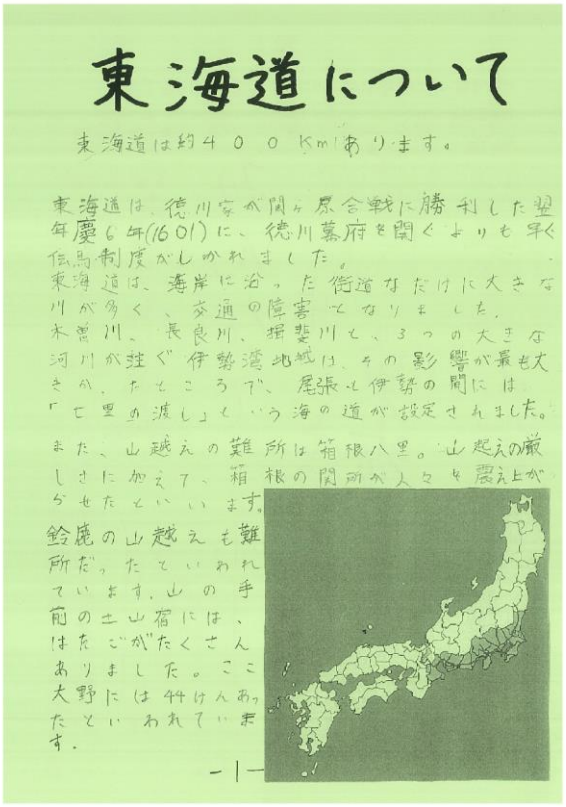
調べ学習を通してまとめた、大野地域を活性化するためのアクションプランの発表を学校が実施した。以下に、子どもたちが考えたアクションプランの内容を示す。

表 3-10 アクションプランの内容

アクションプラン	内容
インスタ映えスポットの紹介	たくさんの人に来てもらうため、大野の絶景スポット（インスタ映えスポット）を探し、まとめたものを紹介
お茶摘み体験の紹介	大野の茶摘みをたくさんの人に体験してもらうため、大野のお茶摘み体験についてまとめたものを紹介
地元カフェのメニューの考案	たくさんの人に地元のカフェ（吉笑庵）に訪れてもらえるように、カフェで提供するメニューを考案
ご当地キャラクター制作	大野のお茶の魅力を知ってもらうために、お茶の学習を行っている３年生と協力して、お茶に着目したご当地キャラクターを制作
看板制作	大野のカフェや東海道を多くの人に知ってもらうために、看板を制作
パンフレット制作	たくさんの人に来てもらうための情報発信として、他の班の取り組みを一つに集約し、パンフレットを制作。また、東海道の紹介として、東海道の歴史をまとめ、東海道に関するクイズを作成。

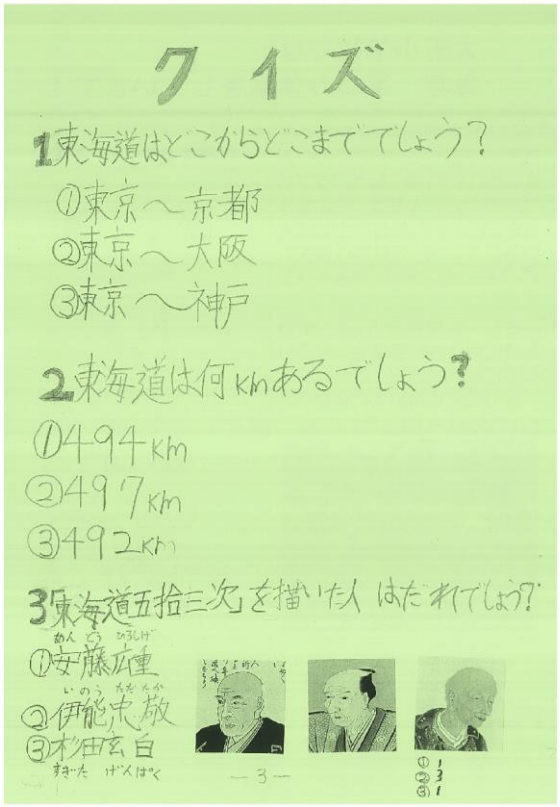
発表の様子および東海道に関する内容が掲載されたパンフレットを次頁に示す。

図 3-55 発表の様子


東海道について

東海道は約４００kmあります。

東海道は、徳川家が関ヶ原合戦に勝利した翌年慶長6年(1601)に、徳川幕府を開くよりも早く伝馬制度がしかれました。
東海道は、海岸に沿った街道なだけに大きな川が多く、交通の障害となりました。
木曽川、長良川、揖斐川と、3つの大きな河川が並ぐ伊勢湾地域は、その影響が最も大きく、たところで、尾張と伊勢の間には「七里の渡し」という海の道が設定されました。
また、山越えの難所は箱根八里。山越えの厳しさに加えて、箱根の関所が人々を震え上がらせたといいます。
鈴鹿の山越えも難所だ、たていわれています。山の手前の土山宿には、はたごがたくさんありました。ここ大野には44けんあったといわれています。


クイズ

1東海道はどこからどこまでてしょう?
①東京～京都
②東京～大阪
③東京～神戸

2東海道は何kmあるでしょう?
①494km
②497km
③492km

3「東海道五拾三次」を描いた人はだれでしょう?
①安藤広重
②伊能忠敬
③杉田玄白

※大野小学校６年生パンフレット制作班が作成

図 3-56 東海道についてまとめたパンフレット

3) 教師等へのヒアリング

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

また、今年度の取り組みを踏まえ、担任の教師が作成した総合学習の指導計画書を次頁に示す。

表 3-11 教師へのヒアリング結果

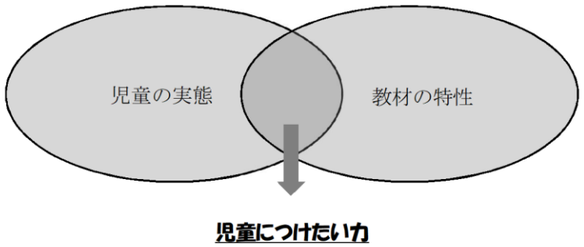
日 時	・平成 30 年 12 月 7 日 ・平成 31 年 2 月 26 日
ヒアリング対象	・教頭 ・6 年生担当教諭 ・6 年生副担当教諭
ご意見	**＜交通を活用した総合学習の振り返り＞** ・総合学習のカリキュラムは決まったものがなかったが、本年度の取組を通じて、大まかな指導計画ができたので、**来年度以降も活用していきたい**と思う。 ・資料の中身や体裁などについて、**打合せが不足していた**と感じる。夏休み中に、一度すり合わせを行った上で、授業の立てつけを決められたら、より良い活用方法があったのではないかと思う。 **＜交通に係るデータについて＞** ・教材を作成する時間が限られている学校側にとって、**詳細な交通データを提供していただけるのは非常にありがたい**。 ・提供いただいたデータは**小学生にとって理解が難しい**ものも多いため、土山 IC の利用者数・甲賀市の人口分布・自動車の周辺地域の交通量等の利用できそうなデータを選び、交通・物流や人口変化について学習する際に課題を見つける 1 つのツールとして利用させていただいた。 ・一項目だけを取り上げたようなグラフよりも、「一号線の開通と反比例して、東海道の利用者が減ってきた」というような、**問題点が明確にわかるような資料**の方が活用しやすい。 ・数値がもとになっているものが多かったが、鉄道敷設の際のやり取り等がわかる請願書等、**住んでいた人の考え方が分かるような資料**もあると面白い。 **＜まとめの発表について＞** ・**自分たち自身ができることに重点をおいて考えていた**ため、手作りの看板を作って広報をする等の子供らしい発想のテーマが多く、交通に関係するようなテーマがでてこなかった。 ・授業開始当初から地域のつながりやその良さを発信することを学習目標として設定し、そこから逆算して授業を構成していたため、**交通に関係するテーマに誘導するような時間が取れなかった**。 ・子供たちの課題発見の段階で、鉄道敷設に係る請願書とかの資料があって、「大野の人たちは、お茶を守るためにこんなことをした」といったことがわかれば、**今回の学習の方向性や結論も違っていた**かもしれない。

甲賀市立大野小学校　総合学習実践報告

単元名　「温故知新プロジェクト」

めざす児童の姿
・大野の歴史に興味を持ち、地域活性につなげていくことへ主体的に探究・発見する姿
・互いに考えを伝え合うことを通して、学習を深め合う姿

児童の実態
　学級は大野が大好きという児童が多い。ただ、将来、大野を出て他の土地で過ごそうと考える児童と大野に残って過ごそうと考える児童の割合がほぼ５０％ずつ。児童たちの中で、大野にはよいところがたくさんあるが、PR できていないことを含め、人を惹きつける観光地にはほど遠いと多くの児童が考えている様子であった。児童が一つの課題に対して、相手の意見を踏まえつつ、自分の意見を表現し、学級で取り組んでいく、そして学習したことを発信できる力をつけていきたいと考えた。



単元としての目標
・児童が一つの課題に対して、相手の意見を踏まえつつ、自分の意見を表現し、学級で取り組んで行く、そして学習したことを発信できる力が身につくようにしたい。
・自分が生まれ育った大野のよさ、足りない部分を知り、それらを踏まえた上で自分の町の活性化につなげていく力、まわりに発信できる力が身につくようにしたい。
　→自分たちで資料を集めること・交通戦略課の方からの資料提供

６．指導計画（計２０時間）

時間	学習内容（学習活動）
２０	アンケートをする。 自分のまちについてのアンケート （自分の町が好きか、将来住みたいかなど理由を含め）
	・東海道について学習するため、伝馬館に行く。 見学の指標として「旅、特産品、東海道、その他」にポイントをしぼる
	・昔の土山町（土山宿を中心に）調べてきたことを発表する。 見学してきたポイントごとに、グループで発表する。（６班）
	・今と昔の土山を比べ、大野の課題を話し合い、学習問題を見つける。 ・観光地として力が弱い。（観る、食べる、遊ぶ） →３つのグループに分かれ、調べ学習をする。（資料集め、課題分析） 《お茶グループ》 本、インターネット、聞き込み、インタビューをする。 ゲストティーチャーを招き、お茶についてと地域活性化についての手がかりを知る。 交通戦略課の方からの資料を選別、分析する。 《東海道グループ》 本、インターネット、聞き込み、インタビューをする。 交通戦略課の方からの資料を選別、分析する。 《特産品グループ》 本、インターネット、聞き込み、インタビューをする。
	・調べたことをもとに、まちを活性化するためのアクションプランを考える。 茶摘み体験 インスタ映えスポット 看板作り パンフレット作り メニュー作り（ゲストティーチャーの店） キャラクター作り
	・自分の取り組みたいアクションプランを実践、発信する。
	・取り組んだ活動を振り返る。 ・将来、大野に住んでみよう。

図 3-57　担任の教師が作成した指導計画書

3-2 教育関係者へのヒアリング

今年度の取り組みについて、改善点等について教育関係者（布引小学校校長、県教育委員会）へヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-12 教育関係者へのヒアリング結果

項目			意見
今年度の取組に対する意見	既存資源の有効活用	ワークシート等の教材について	・単元とその時間の**指導案**があれば、教師は理解がしやすく、活用につながると思う ・教員が異動しても授業内容がイメージしやすいように、どの学校でも活用できるようなワークシートを作成してほしい
	新たな視点での取り組み	車両を用いた障がい者体験について	・**福祉をテーマに総合学習を行う学校は多い** ・担任の先生が興味を持てば、他の学校に展開していくことは可能であると思う
		湖上交通を題材にしたフローティングスクールの事前学習について	・本来、フローティングスクールは、「水」や「琵琶湖の生き物」を学習する場であるため、湖上交通を組み込んでいくには工夫が必要
		鉄道県土すごろくについて	・4 年生の滋賀県の学習においても、学校によって学習のねらいをどのように位置付けているのかで、すごろくに求める内容は異なると思うので、**色々なバージョン**があると良いと思う ・ゲーム中に長い文章を読む児童はあまりいないと思うので、**カードに書くヒント等は最低限の文字数**にする方が良いと思う
その他	教師・学校間での波及について		・今年度に実施した学校教師と来年度に実施予定である**学校教師を集めて情報共有**をすると、次に授業を行う先生にとって内容のイメージがしやすいと思う
	多様な連携について		・（新たな担い手の 1 つとして）大学生が MM 授業に参加することや授業を行ってもらうことは可能
	取り組みの発表について		・総合学習での**学習成果を外部へ発表**するのは、子どもたちにとっても良い機会になると思う ・しかし、交通環境学習に取り組もうと思った学校があっても、外部発表が強制であれば、取り組み自体をやめてしまう学校もあると思う

第４章　試行結果などを踏まえた課題や ブラッシュアップ方針の検討

－ 目 次 －

4. 試行結果などを踏まえた課題やブラッシュアップ方針の検討 4-1

4-1 試行結果を踏まえた課題 4-1

4-1-1 H30 の取り組み結果の整理 4-1

4-1-2 今後の課題 4-2

4-2 ブラッシュアップ方針の検討 4-4

4-2-1 既存資源の有効活用 4-4

4-2-2 新たな視点での取り組み 4-5

4. 試行結果などを踏まえた課題やブラッシュアップ方針の検討

4-1 試行結果を踏まえた課題

4-1-1 H30 の取り組み結果の整理

前章の交通学習プログラムの実施結果および教師の感想を踏まえ、H30 の検討成果と課題について以下のように整理した。

表 4-1 H30 の検討成果と課題

		良かった点・成果	課題
既存資源の有効活用	布引小学校 ２年生	・ 乗り方教室を継続的に実施 ・ 乗り方教室に加え、郊外学習までを意識づける宿題を担任の先生が作成、実施	・ 単元単位での活用についてイメージが共有できるよう、より**密な議論・例示**等が必要 ・ 宿題を活用する場合、先生との認識のずれをなくす工夫が必要
	志津南小学校 ２年生	・ 従来の出前授業に加え、公共交通について考える WS を作成し、学校が授業を実施	・ 乗り方教室としての価値を高める工夫、調整（運賃の支払い、事前の当て方の確認等） ・ WS による振り返りについて詳細を再度確認し、**精度向上**等を検討
	城東小学校 ２年生	・ 実践機会等の導入により、使い方やマナーを**定着・効果向上**	・ 単元の中での効果等について詳細を再度確認し、検討
	土山小学校 ２年生	・ 交通を用いて生活科の**理解・考えを深めるサポート**ができた（乗り方教室を活用して生活科の学習を深める**一つのモデル**を構築） ・ 他の単元での活用につながる形で、**“交通”の効果について理解**していただいた	・ 乗車体験を取り入れた生活科授業の**他の地域への展開、適用方法**検討 ・ 土山小学校での**他の学年・単元への発展**
新たな視点での取り組み	土山小学校 ３年生・４年生	・ 交通体験を通じて福祉学習の**理解を深めるサポート**ができた（３年生以上での**汎用性の高いバリエーション**を構築）	・ 観察部分の**効果的、効率的な実施方法**検討（改善点への対応＋省力化） ・ 福祉学習以外の単元（3 年生社会等）での連携・サポート
	志津南小学校 ４年生	・ 出前授業等の手間を掛けずに実施できる内容を**教師とともに検討**し、ツールとして**概ね具体化**（他にも、興味を持っていただいている学校・教師もある）	・ 志津南小、その他学校での、ゲーム実施、問題把握、ブラッシュアップ
	志津南小学校 ５年生	・ 滋賀県の全小学校で実施する琵琶湖学習において、琵琶湖と自分の関わりの一つとしての湖上交通を、コンパクトに紹介・興味付けできる**プログラムを具体化**	・ 結論部分の**ブラッシュアップ、指導書**の精度向上、学習に役立つ琵琶湖マップの提供等を行いながら、**学校による実施**を後押し ・ 内容がより**効果的となる地域へ**の展開（○○津での琵琶湖とまちの学習等）
	大野小学校 ６年生	・ 大野小学校における**指導計画の整理に寄与** ・ 街道学習における交通からの学習深化の**可能性の確認**、モデル校との**連携強化**	・ 大野小学校との密な連携により、**データの加工・提示方法**や、**請願書**等も含めた活用できる資料の再検討、その他資料作成等を実施

4-1-2 今後の課題の整理

(1) 研究会での意見

今年度の取り組み結果に対する第４回研究会での意見を以下に示す。

表 4-2 第４回研究会での意見

委員	意見
市川会長	・湖上交通を題材とした学習は、フローティングスクールでの活用だけでなく、**琵琶湖博物館学習にも活用**できるのではないかと考える。
水山副会長	・乗車体験を組み込んだ生活科のまち探検は、調べ学習として非常に良いものであるが、少し高度な学習であるため、**３年生の地域学習**で行う方が良いかもしれない。 ・バス車両を活用した福祉学習を土山小学校の３・４年生で実施されていたが、２年生の段階から**福祉の視点を取り入れた学習**を実施することも考えられる。 ・災害時の移動に着目する等、**交通の視点から防災について考える**ことで、学習の理解を深めることができると考える。 ・湖上交通の変化を整理した資料や交通に係るデータの資料は、小学生には少し難しい内容であるため、中学生等へ活用する方が効果的であると考える。
野村副会長	・バス協会でも運転手に対してバリアフリーの講習を行っているところであるが、土山小学校での福祉学習の取り組みを上手く活かし、**児童だけでなく運転手の理解も深めるような形**ができれば良いと思う。
平中委員	・どんなに良い取り組みであっても学習指導要領に則した内容でなければ、学校で実施することができないため、**学習指導要領に基づいた学習プログラム**を検討して頂きたい。
本間委員	・現在はバス車両を活用した既存資源の有効活用が中心であり、このまま取り組みの実施市町を拡大していくとなると、**バス事業者が対応できなくなる可能性**があるため、バス車両を提供できない場合の対応も考えて頂きたい。

(2) 課題整理

前項で整理した研究会での意見や３章の教育関係者へのヒアリング結果を踏まえ、H31 以降の課題について学年段階ごとに以下のように整理した。

表 4-3 今後の課題

		2年	3年	4年	5年	6年
草津	志津南小	【生活科】 ・振返学習用のWSを作成、実施 ⇒WS等の精度向上等	―	【社会科】 ・ゲームを使った方法を検討、具体化 ⇒試行、ブラッシュアップ	【総合】琵琶湖 ・湖上交通を用いたプログラムを具体化 ⇒ブラッシュアップ ⇒効果的地域への展開	―
甲賀	大野小	―	―	―	―	【総合】街道 ・交通からの活用可能性確認 ⇒データ提示方法、資料の再検討
	土山小	【生活科】 ・乗車体験により生活科を深めるモデル形成 ⇒他地域への展開	【総合】福祉 ・車両を用いて福祉の理解を深めるバリエーション構築 ⇒効果的、効率的な実施方法検討		―	―
東近江	布引小	【生活科】 ・宿題を担任が作成、実施 ⇒密な議論・例示等必要	―	―	―	―
彦根	城東小	【生活科】 ・実践機会による効果定着 ⇒継続・ブラッシュアップ	―	―	―	―
H31の課題		**【生活科】** ○活用**パターン整理**へ ⇒**モデル校での取り組み**を他校へ展開 ⇒ブラッシュアップ・効率化の検討（**WS形式**の精度向上、**乗り方教室なしパターン**の検討等） ⇒**その他の観点**での活用検討（防災・福祉）	**【社会科】** ○２年生活科の**取り組みの発展**として実施 **【福祉・バリアフリー】** ○**パターン整理**へ ⇒引き続きブラッシュアップしながら実施し、**効果向上・効率化**を図る ⇒**バス協会の取り組み**との連携	**【社会科】** ○**試行、ブラッシュアップ**	**【総合】琵琶湖** ○**H30の視点も踏まえ**、より学習に役立つ方法を検討 ⇒H30の視点での**ブラッシュアップ**・効果的地域への展開 ⇒**琵琶湖博物館**での校外学習との連携	**【総合】街道** ○**H30の視点を軸**に、再検討 ⇒効果的な**資料やデータ提供方法**について、密に議論、検討

4-2 ブラッシュアップ方針の検討

4-2-1 既存資源の有効活用

既存資源の有効活用に関して、前項の課題を踏まえ H31 の基本方針やアウトプットを整理した上で、モデル校における取組内容案を検討した。

表 4-4 H31 の取組内容案（既存資源の有効活用）

			【２年生活科】まち	【３年社会科】市
基本方針			・**モデル校での取り組み**を他校へ展開 ・ブラッシュアップ・効率化の検討（**WS形式**での精度向上、**乗り方教室なしパターン**の検討、実施） ・**その他の観点**での検討（福祉・防災）	・2年生の取り組みの発展として、**3年生の市の学習**での適用を検討
アウトプット			⇒乗り方教室の**活用パターン整理** ⇒各パターンの**標準指導案・ツール案**整理	⇒3年での**実施モデル**を構築

			2年	３年
H31の取組内容（案）	草津	志津南小	【生活科】わたしの町はっけん ・担任等と協議し、今年度の**ブラッシュアップ** or **モデルの展開**検討	
	甲賀	土山小	【生活科】わたしの町はっけん ・乗り方教室（事業者）⇒バス・電探検⇒まとめ の**精度向上**	【社会】市町のようす ・公共交通から**市域の広がり予想**⇒**バス探検**⇒まとめ の検討・実施
	東近江	布引小	【生活科】わたしの町はっけん ・担任等と協議し、今年度の**ブラッシュアップ** or **モデルの展開**検討	
	彦根	城東小	【生活科】わたしの町はっけん ・乗り方教室（事業者）⇒実践体験 の**精度向上**	
	その他の小学校		並行して検討	並行して検討

4-2-2 新たな視点での取り組み

新たな視点での取り組みに関して、前項の課題を踏まえ H31 の基本方針やアウトプットを整理した上で、モデル校における取組内容案を検討した。

表 4-5　H31 の取組内容案（新たな視点での取り組み）

	【４年総合】福祉	【４年社会科】鉄道県土すごろく	【５年総合】琵琶湖	【６年総合】歴史（街道）
基本方針	【総合】福祉（車いす利用者） ・引き続きブラッシュアップしながら実施し、効果向上・効率化を図る ・バス協会との連携も検討	【社会科】わたしたちの県 ・児童に対してすごろくの試行、調整	・H30の視点でのブラッシュアップ・効果的な地域への展開 ・琵琶湖博物館での校外学習との連携	【総合】街道 ・H30年度の視点を軸に、資料やデータ提供方法について、密に議論、検討
アウトプット	⇒車両活用のパターン整理 ⇒標準指導案・ツール案整理	⇒すごろくツールの実用化 ⇒展開方法の検討	⇒琵琶湖学習での実施モデルを構築	⇒歴史学習での実施モデルを構築

			4年	5年	6年
H31の取組内容（案）	草津	志津南小	【社会科】わたしたちの県 ・鉄道県土すごろく試行、調整	【総合】琵琶湖 ・琵琶湖学習の素材提供⇒交通を絡めた調べ学習の精度向上	
	甲賀	土山小	【総合】福祉（車いす利用者） ・工夫の予想⇒バス車両観察（事業者）⇒まとめ の精度向上		【総合】街道 ・歴史まちづくり学習の素材提供⇒調べ学習 の精度向上
		大野小			【総合】街道 ・歴史まちづくり学習の素材提供⇒調べ学習 の精度向上
	東近江	布引小	【社会科】わたしたちの県 ・鉄道県土すごろく試行、調整		
	その他の小学校		並行して検討	並行して、湖北・湖西エリアの学校での実施を検討	並行して検討

第５章　周知･サポート体制づくりの検討

－ 目 次 －

5. 周知･サポート体制づくりの検討 5-1
5-1 検討方針 5-1
5-2 今後の実施内容の検討 5-2
5-2-1 研究会での意見 5-2
5-2-2 実施内容の検討 5-3
5-3 検討スケジュール 5-4

5.　周知・サポート体制づくりの検討

5-1　検討方針

H32 以降の仕組みづくりに向けて、本事業においては県単位での素地づくりが必要である。そのためには、「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるようにサポートの確立を目指すとともに、将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況を目指す必要がある。

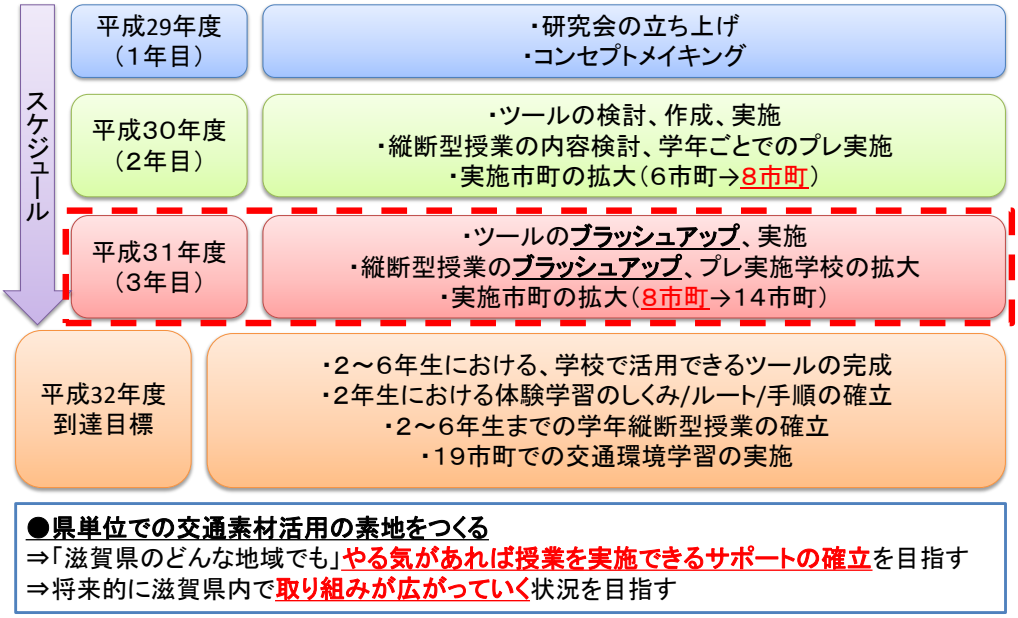


図 5-1　各年度の実施内容

上記の２点に対して、他地域の事例等も踏まえると、以下のような観点で考えていく必要があると考える。

＜取り組みの観点＞

・「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるサポートの確立を目指すために・・・

○知る機会をつくる

⇒全体的な取り組み周知（１）

⇒教師間の情報伝達・波及（２）

○実施しようと思った時にやれるようにする

⇒交通素材の提供体制の確保（３）

⇒成功例の収集、事例の発信（４）

・将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況を目指すために・・・

○実施を促すインセンティブを確保

⇒顕彰、発表機会の創出（５）

⇒一連の学習に対する資金支援（６）

⇒副読本等への組み込み（７）

それぞれの観点に対して、実施すべき内容を考えるものとし、次節にて検討を行った。

5-2 今後の実施内容の検討

5-2-1 研究会での意見

今年度の取り組み結果に対する第４回研究会での意見を以下に示す。

表 5-1 第４回研究会での意見

委員	意見
平中委員	・実践事例の取り組み結果を整理されているが、「乗り方教室を継続的に実施した」等の実施内容の記載に留まっており、その取り組みの結果として**子どもたちにどのような効果があったのか**ということが分からない。 ・学校に提案する際は、子どもたちがどのようなことを学んだのか等を伝え、**その姿が学習目標に合っていると思ってもらう**ことが必要。 ・草津市で作成されている「わたしたちの草津」等の副読本は、予算の関係から最近はつくられておらず、副読本を使用している学校は**昔作成されたものを授業に上手く活用**している。 ・校外学習を行う際は安全なルートの確認や待機する場所の許可取り等、授業を行うまでの段取りにかなりの労力を要する。その段取りを**行政の方でサポート**してもらえるなら、取り組みをやってみようという学校が出てくるかもしれない。 ・取り組みを周知していく方法としては、**滋賀県教育委員会から学校に案内**を出すというやり方も考えられる。

5-2-2 実施内容の検討

前項で整理した研究会での意見や３章に示したモデル校教師・教育関係者等の意見を踏まえ、各観点の実施内容を検討・整理した。

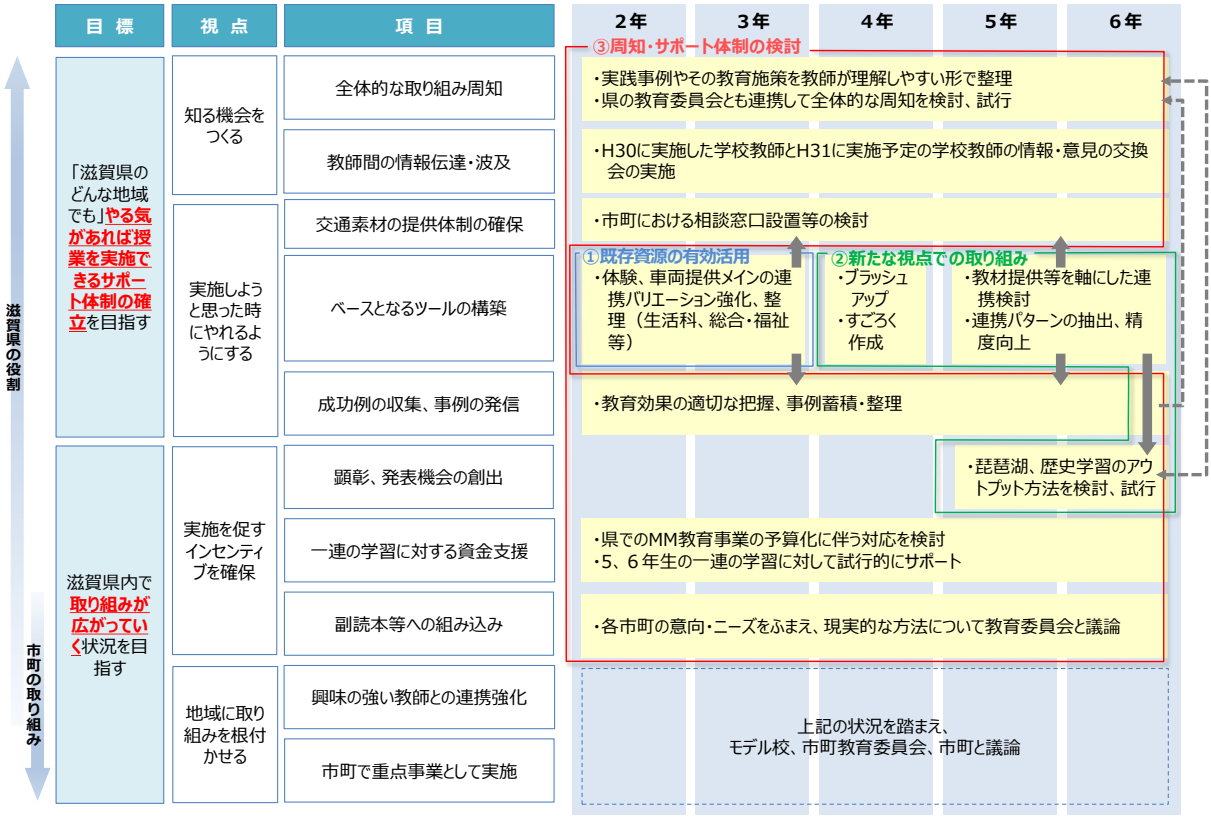


図 5-2 実施内容のイメージ

5-3 検討スケジュール

前項の実施内容を踏まえ、H31 の検討スケジュールを以下のように整理した。

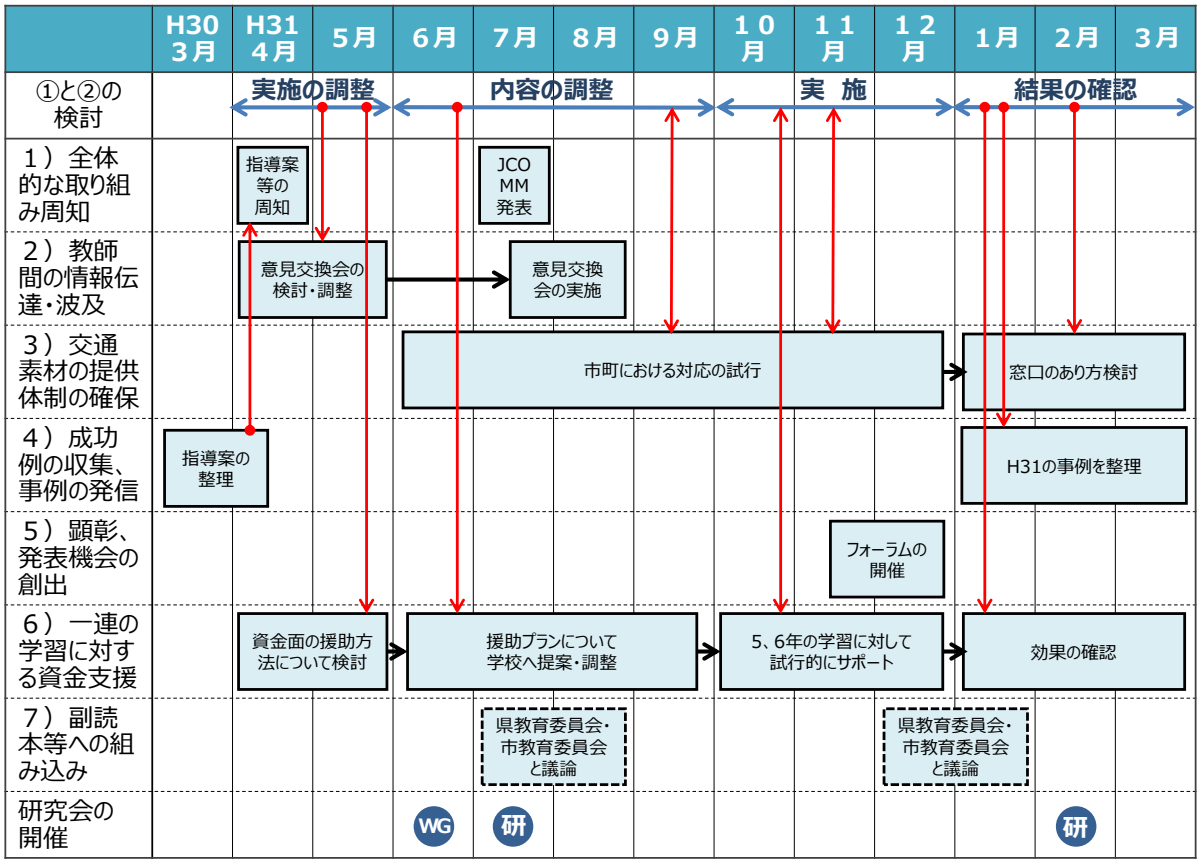


図 5-3 検討スケジュール

第６章　研究会･部会の運営補助

－ 目 次 －

6. 研究会･部会の運営補助 6-1

6-1 開催概要 6-1
6-2 第１回既存資源の活用検討部会 6-2
6-2-1 部会の概要 6-2
6-2-2 会議資料 6-3
6-2-3 議事概要 6-22
6-3 第１回新たな視点での検討部会 6-26
6-3-1 部会の概要 6-26
6-3-2 会議資料 6-27
6-3-3 議事概要 6-32
6-4 第３回研究会 6-36
6-4-1 研究会の概要 6-36
6-4-2 会議資料 6-37
6-4-3 議事概要 6-62
6-5 既存資源の活用検討部会･モデル校視察① 6-66
6-5-1 モデル校視察の概要 6-66
6-5-2 議事概要 6-67
6-6 新たな視点での検討部会･モデル校視察① 6-69
6-6-1 モデル校視察の概要 6-69
6-6-2 議事概要 6-70
6-7 新たな視点での検討部会･モデル校視察② 6-71
6-7-1 モデル校視察の概要 6-71
6-8 第４回研究会 6-72
6-8-1 研究会の概要 6-72
6-8-2 会議資料 6-73
6-8-3 議事概要 6-103

6. 研究会・部会の運営補助

6-1 開催概要

滋賀県におけるモビリティ・マネジメント教育のコンセプトやプログラム等の検討に際し、交通教育に関係する学識経験者、県・関係市町村、教育委員会、事業者・団体等で組織された研究会・部会を開催した。

以下に開催概要を示す。

表 6-1 研究会の開催概要

	開催日時	議題
第１回 既存資源の 活用検討部会	平成 30 年 6 月 25 日	１．開会 ２．昨年度までの振り返り ３．既存資源の活用検討部会について ４．議題 （１）検討のコンセプト、スケジュールについて （２）小学校へのヒアリング結果 （３）今年度の検討の進め方
第１回 新たな視点での 検討部会	平成 30 年 6 月 25 日	１．開会 ２．新たな視点での検討部会について ３．議題 （１）今年度の検討の進め方
第３回 近江の心を育む 交通環境学習の 普及・検討研究会	平成 30 年 7 月 3 日	１．開会 ２．昨年度までの状況 ４．議題 （１）検討のコンセプト、スケジュールについて （２）小学校へのヒアリング結果 （３）既存の資源を活用した取り組みの検討方法 （４）新たな視点での取り組みの検討方法 （５）分科会の設置について
既存資源の活用検討部会・モデル校視察①	平成 30 年 12 月 3 日	・土山小学校２年生　まとめ授業の視察
新たな視点での検討部会・モデル校視察①	平成 30 年 12 月 7 日	・大野小学校６年生　アクションプラン発表の視察
新たな視点での検討部会・モデル校視察②	平成 30 年 12 月 10 日	・土山小学校３年生　視覚障がい者体験の視察
第４回 近江の心を育む 交通環境学習の 普及・検討研究会	平成 31 年 3 月 12 日	１．開会 ２．議題 （１）今年度の位置付け・取り組み状況 （２）来年度の検討方針・スケジュール

6-2 第１回既存資源の活用検討部会

6-2-1 部会の概要

第１回既存資源の活用検討部会の開催概要を以下に示す。

表 6-2 第１回既存資源の活用検討部会の概要

項目	内容
開催日時	平成 30 年 6 月 25 日（月）13：00～14：00
開催場所	滋賀県庁大津合同庁舎　3-A 会議室
出席者	【会長】市川　智史(滋賀大学　環境総合研究センター　教授) 【副会長】野村　義明(滋賀県バス協会　専務理事) 【委員】　本間　倭(代理)(東近江市　交通政策課) 高岡　良秀(草津市　交通政策課　課長) 近藤　直人(甲賀市　公共交通推進課　課長) 永井　慎太郎(教育委員会　幼小中教育課　指導主事) 芝　久生(滋賀県土木交通部　交通戦略課　参事) 【事務局】岡本　英晃(交通エコロジー・モビリティ財団　交通環境企画課　担当課長) 森　陽介(滋賀県土木交通部　交通戦略課　主事) 小林　知子(滋賀県土木交通部交通戦略課　エコ交通推進員) 土崎　伸(株式会社オリエンタルコンサルタンツ　総合計画部　副主幹)
議事次第	１．開会 ２．昨年度までの振り返り ３．既存資源の活用検討部会について ４．議題 （１）検討のコンセプト、スケジュールについて （２）小学校へのヒアリング結果 （３）今年度の検討の進め方
資料	議事次第 資料１　昨年度までの状況 資料２　分科会設置規程（案） 資料３　既存資源の活用検討部会について 資料４　コンセプト・スケジュール 資料５　小学校ヒアリング結果 資料６　今年度の検討の進め方

6-2-2 会議資料

(1) 議事次第

第１回　近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会　既存資源の活用検討部会

議事次第

日　時　平成 30 年 6 月 25 日（月）13：00～14：00
場　所　滋賀県大津合同庁舎 3-A 会議室

１．開会

２．昨年度までの振り返り　資料１

３．既存資源の活用検討部会について　資料２・資料３

４．議題

（１）検討のコンセプト、スケジュールについて　資料４

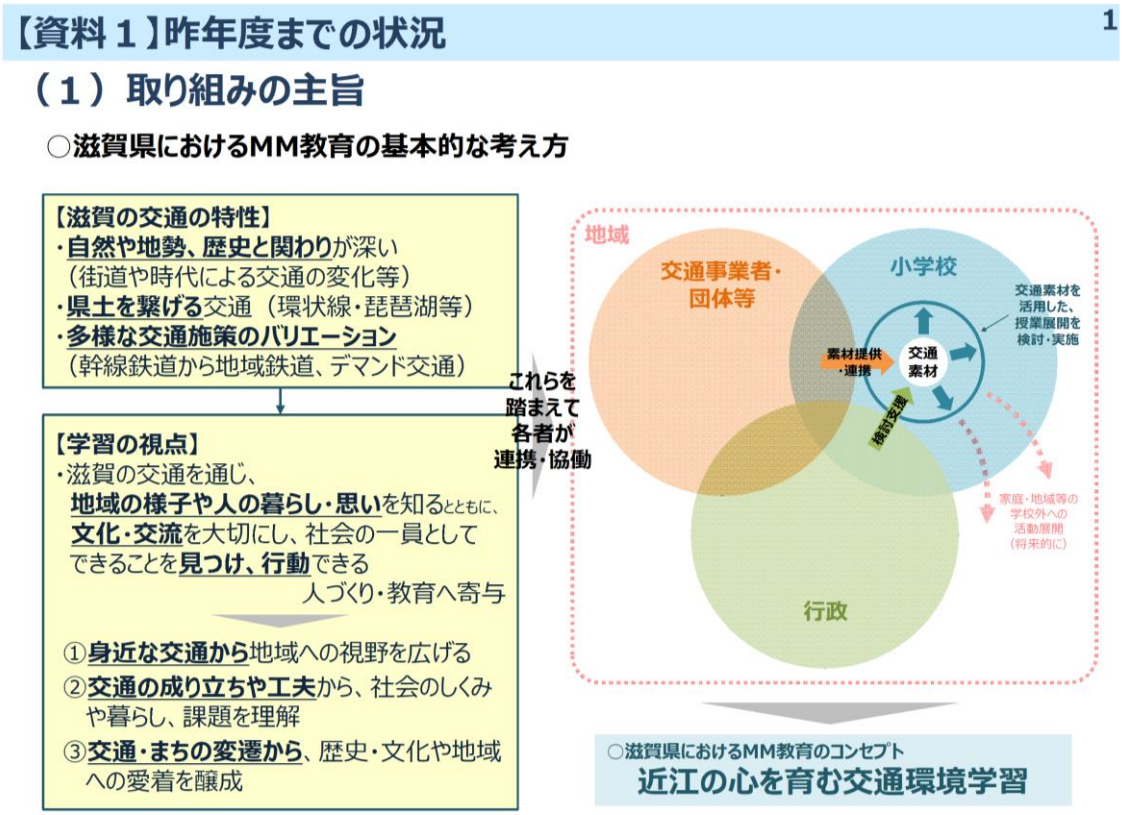
（２）小学校へのヒアリング結果　資料５

（３）今年度の検討の進め方　資料６

【配布資料】
議事次第
資料１　昨年度までの状況
資料２　分科会設置規程（案）
資料３　既存資源の活用検討部会について
資料４　コンセプト・スケジュール
資料５　小学校ヒアリング結果
資料６　今年度の検討の進め方

図 6-1　議事次第

(2) 資料１　昨年度までの状況



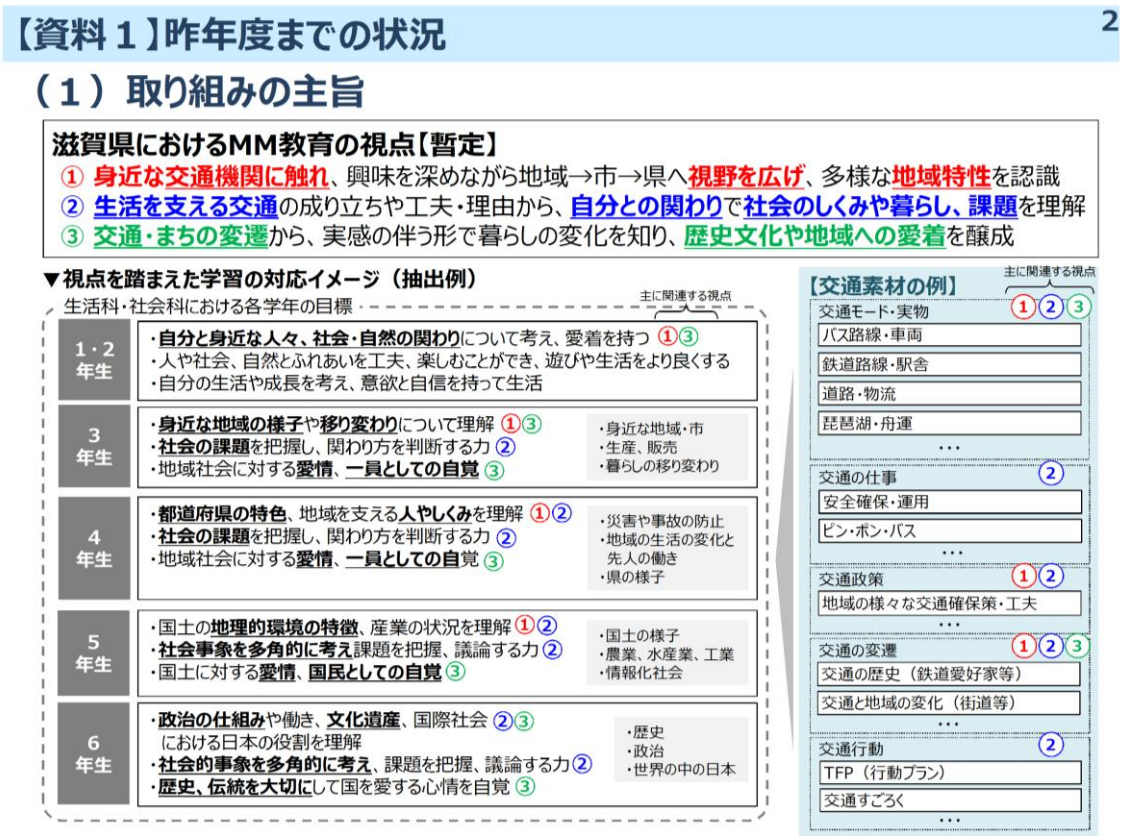
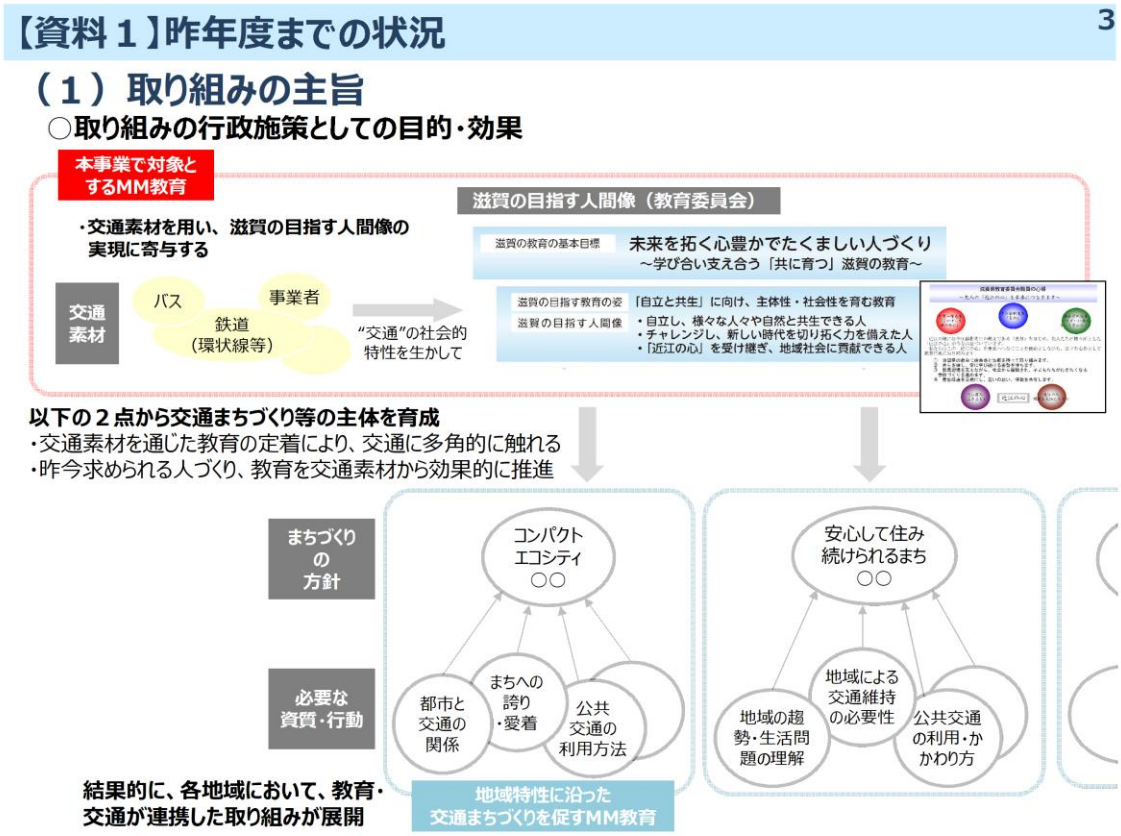


図 6-2　資料１－昨年度までの状況（１/５）



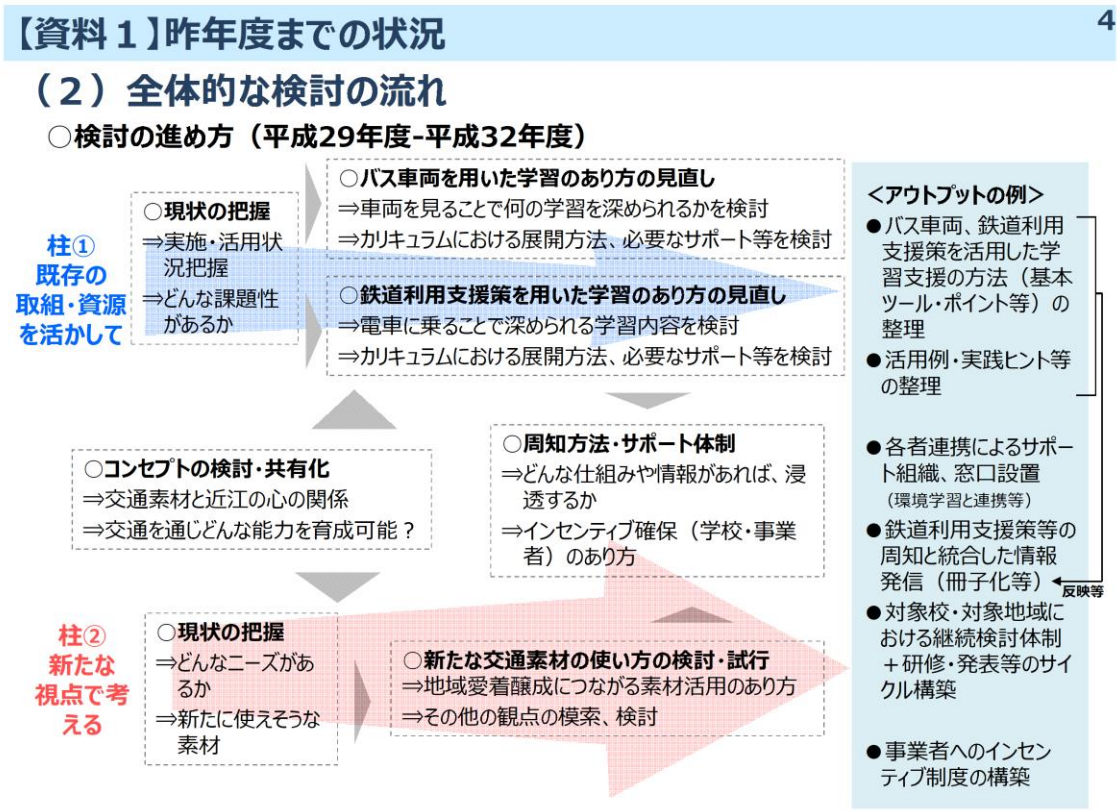


図 6-3 資料１－昨年度までの状況（２/５）

【資料１】昨年度までの状況

5

（３）既存の取り組みの検討イメージ

○バス車両の有効活用の方針案

バス車両を用いた学習についての課題

＜H29ヒアリング結果＞

・バス車両は「動学」への資源として可能性あり。
・探検の準備の機会として重宝されているが、交通から社会認識・理解が深めるという活用は限定的と考えられる。
・プログラムの固定化は望ましくない。
・福祉や県、政治の学習での活用可能性がある。

検討方針案

○単なる移動ツールとしてではなく、**交通に触れることでまちへ認識を深める工夫**の仕方（２年生生活科）や、福祉等での活用を検討
○学校の活用、アレンジしやすい**素材提供の方法・関わり方**を検討
⇒これまで実施されている学校において検討
⇒そのうち、1校程度で他の単元での活用を検討

【資料１】昨年度までの状況

6

（３）既存の取り組みの検討イメージ

○バス車両を用いた学習の検討イメージ

体験・実物をメインとした学習活動　　事前・事後の学習

	検討例
生活科・特別活動での有効活用	●単なる移動ツールとしてではなく、交通に触れることでまちへ認識を深める工夫を検討 ⇒バスを通じて、**地域の広がりをより実感**できるように ⇒バス等がまちの中で**どんな役割**を持っているか、**どんな人が使ったり運転**しているか実感できるように ＜有効活用・工夫の例（生活科）＞ **事前**：○**乗り方等の予想**・どうやったら行きたい所に行って帰ってこれるか？・いくらで行ける？得な乗り方は？・どうやって乗るか、全員乗れるか？・運転手はどんな人か？・本番ではどんな人が利用するか？ ※心の準備も兼ねて ・マップ、時刻表、運賃表等を提供・バスの写真等を提供 **予行演習（車両体験）**：○**校庭で乗車体験**・乗り方・乗れる人数があっているか確かめる（一度にたくさん乗れることを実感）・できれば走って安全な乗り方も確認 ○**運転手インタビュー**・どんな人か聞いてみる（運転手になった理由等） ・バス車両を提供・乗車体験をサポート **本番**：○**まち探検**・バスで移動・バスから見える施設やどんな人が乗ってきたかを記録（バスが繋ぐ地域の姿をより良く理解） **まとめ**：○**まとめ**・まちのようすの振り返り・バスの機能を確認、共有
新たな単元等での活用	●福祉での活用 ⇒バス車両等を見ることで、色んな場面で福祉面の**工夫や問題点を感じられる**ように ⇒高齢者や障害者の**気持ちを理解**し、（バス利用やマナー等を含め）**行動**が取れるように ＜試行の例（福祉学習／総合学習等）＞ **事前**：○**何に困っているかの予想**・高齢化等の動向を知る・生活のパターンを考える・バスや電車で移動する場合、どんな場面で困るのか？ ・バス停等の施設写真、構造が分かる図面などを提供 **車両観察**：○**どんな工夫があるのか**・工夫を探す、使いにくいところを探す・工夫の理由を考える・困る場面など再整理 ・バス車両を提供、観察をサポート・高齢者体験キット、車イスを貸出し **確認**：○**高齢者・障害者の話を聞く**・整理をもとに、どんなことに困るかを聞く **まとめ**：○**まとめ**・どんな工夫がどんな思いでされているか・もっと必要な工夫は・自分にできることは ・提案を聞く・感想、評価

図 6-4　資料１－昨年度までの状況（３/５）

【資料１】昨年度までの状況

7

（３）既存の取り組みの検討イメージ

○鉄道体験の有効活用の方針案

鉄道利用体験についての課題

＜ヒアリング結果＞

・地域を見に行く機会として重宝されている。

・交通から社会認識・理解が深めるという活用は限定的と考えられる。

・補助の申請にハードルが存在。

検討方針案

○単なる移動ツールとしてではなく、**鉄道に触れることで県土へ認識を深める工夫**を検討

○学校の活用、アレンジしやすい**素材提供の方法**を検討

⇒これまで補助を実施されている学校において検討

【資料１】昨年度までの状況

8

（３）既存の取り組みの検討イメージ

体験・実物をメインとした学習活動　　事前・事後の学習

○鉄道利用体験を用いた学習の検討イメージ

検討例

●単なる移動ツールとしてではなく、交通に触れることで県土へ認識を深める工夫を検討

⇒鉄道を通じて、**地域の広がりをより実感**できるように

⇒鉄道や交通との関わりから、地域特性の違いに**どのような社会的背景**があるのか実感できるように

社会科（県の学習）での活用

＜例（地形・気候を生かした産業）＞・・・移動を通じて、特徴的な農業の成り立ちを実感

事前	調べ学習	体験学習	まとめ
○県の広がり ・県の人口分布と産業の関係を整理 ・特徴ある農業の地域を把握 ・なぜそうなっているのか？	○地域の背景 ・その地域の農業の背景を調べる（地形、気候の関係について）	○環状線乗車体験 ・その地域に電車で行ってみる ・目的地までの地形特徴の変化を観察、撮影等（地形特性を実感） ○地域体験 ・産業の様子を見る、体験する ・地形的特性との関係を確認	○まとめ ・県の地形特性の振り返り ・農業とのかかわりの確認、共有
・行政の統計データ等を提供		・環状線プログラム補助 ・車窓から見られる資源等の情報提供	

＜例（古い町並みが残る地域）＞・・・交通と関連付けて見ることで、古い町並みが残る理由、町並みの特性を理解

（交通と地域の関わりの強さ、公共交通拠点周辺の賑わい等を理解）

事前	ゲスト講義・調べ学習等	体験学習	まとめ
○県の広がり ・現在と昔の人口、町の広がり ・同じところ、違うところはどこか？ ・なぜそうなっているのか？ それぞれどんな所か？	○鉄道整備の歴史 ・今と昔の鉄道網 ・変遷の概況 ○昔の街道 ・街道の種類、成り立ち ○仮説整理 ・まちと交通の関係を予想（昔から交通があった所と新たな所？）	○環状線乗車体験 ・昔と今で変わった地域／変わらない地域に電車で行ってみる ・目的地に向かうまでの町並みの変化を観察、撮影等 ○地域体験 ・駅の周りの町の様子を見る ・どんな特徴があるかを観察、記録	○まとめ ・街の変化と交通の関係について振り返り ・町並みの違いとその背景を整理、共有
・行政の統計データ等を提供	・ゲストティーチャーの紹介、調整	・環状線プログラム補助 ・車窓から見られる資源等の情報提供	

図 6-5　資料１－昨年度までの状況（４/５）

【資料１】昨年度までの状況

9

（４）新たな視点の取り組み検討イメージ

○新たな視点での検討方針案

新たな視点での検討の課題

＜H29小学校ヒアリング結果＞

・交通から地域へ愛情を醸成する観点での検討は、効果的な切り口になる可能性がある。特に、今後の地域での取り組みの発展に寄与する可能性がある。

・交通を街道等の資源と結びつけることも視点として考えられる。

地域愛着の構成要素 ※小学校学習指導要領解説社会編P29/③「学びに向かう力，人間性等」に関する目標 より

○国土に対する愛情

・身近な地域や市、県の様子についての指導を踏まえて、我が国の国土の**地理的環境**とそこで営まれている産業の様子などの理解を図り、我が国の国土に対する愛情を育てる

○我が国の歴史に対する愛情

・**市を中心とした地域の人々の生活の変化**や県を中心とした地域の**伝統や文化**、地域の発展に尽くした先人の働きの指導を踏まえ、我が国の歴史に対する理解を深めるとともに、我が国の歴史に対する愛情を育てる

検討方針案

○公共交通や街道等の資源を用い、地域愛着につながる**地域社会の理解**（地域の地理特性や人々の生活、その変化や伝統・文化等）**を醸成する活用のあり方**を検討

⇒今後小学校と協議を進めながら検討

※その他の視点についても、引き続き模索しつつ必要に応じて検討する

【資料１】昨年度までの状況

10

（４）新たな視点の取り組み検討イメージ

○新たな視点での検討イメージ

体験・実物をメインとした学習活動　　事前・事後の学習

	新たな視点での検討イメージ
地域愛着の醸成	・街道や交通から、社会を理解し愛着を持つ ⇒街道や交通を通じて、**地域の変化**を理解・実感できるように ⇒（公共交通や街の衰退を含め）**変化がどのような問題につながっているか**理解できるように ＜例＞ **事前** ○**交通の変化** ・昔の街道、数十年前・現在の道路、バス等のネットワークの違い ・なぜ変化したか、どんな暮らしの変化があったか？ ・昔の地図等を提供 **体験学習** ○**街道歩き** ・街道沿、幹線道路沿いそれぞれを探索 ・それぞれでみられるもの（沿道の施設・道路の車線数・バス路線の状況、車の数、人の数等）を記録、比較 **調べ学習** ○**暮らしの変化** ・街でみたものや写真・文献などから調べる（現場では分からなくなっていることを補足） ・昔の暮らし（居住箇所・移動・日常生活等）の様子、今に残っている名残りは？ ・最近起こった変化、暮らしの変化、それによる問題は？ ・昔の写真、文献、街道に関する情報等を提供 **まとめ** ○**まとめ** ・暮らしの変化、変遷ついて振り返り ・暮らしの変化により発生している問題
その他	・ゲーム形式で、交通や位置関係を意識しつつ、興味を持って単元に入れる仕掛等を検討 （例：県内各地域の自然特性編・文化特性編・歴史エピソード編）

図 6-6 資料１ー昨年度までの状況（５/５）

(3) 資料２　分科会設置規程（案）

資料２

近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会
分科会設置規程

（趣旨）

第１条　この規程は、近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会設置要綱（以下「設置要綱」という。）第５条の規定に基づき、近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会（以下「研究会」という。）の分科会に関し、必要な事項を定めるものとする。

（分科会の設置）

第２条　設置要綱第２条に掲げる事項について専門的な調査および検討を行うため、次に掲げる分科会を設置する。

(1)　既存資源の活用検討部会

(2)　新たな視点での検討部会

（組織）

第３条　分科会の委員は、次に掲げる者をもって充てる。

(1) 設置要綱第３条に規定する委員（当該委員の所属する機関が分科会の委員として推薦した者を含む。）のうちから研究会の会長（以下「会長」という。）が指名した者

(2)会長が調査検討のため必要と認めて指名した者

２　分科会の委員（設置要綱第３条の規定により既に依頼された委員を除く。）は、会長が依頼する。

（会議）

第４条　分科会の会議（以下「会議」という。）は、会長が必要に応じて招集する。

２　分科会は、必要があると認めるときは、当該分科会の委員以外の者に対して、資料を提出させ、または会議への出席を依頼し、意見、助言等を求めることができる。

（事務）

第５条　分科会の事務は、研究会の事務局において処理する。

（報告）

第６条　事務局は、分科会の協議経過および結果について、研究会に報告するものとする。

（その他）

第７条　この規程に定めるもののほか、各分科会で必要な事項は、会長が別に定める。

付　則

この規程は、平成 30 年 6 月　日から施行する。

図 6-7 資料２－分科会設置規程（案）

(4) 資料３　既存資源の活用検討部会について

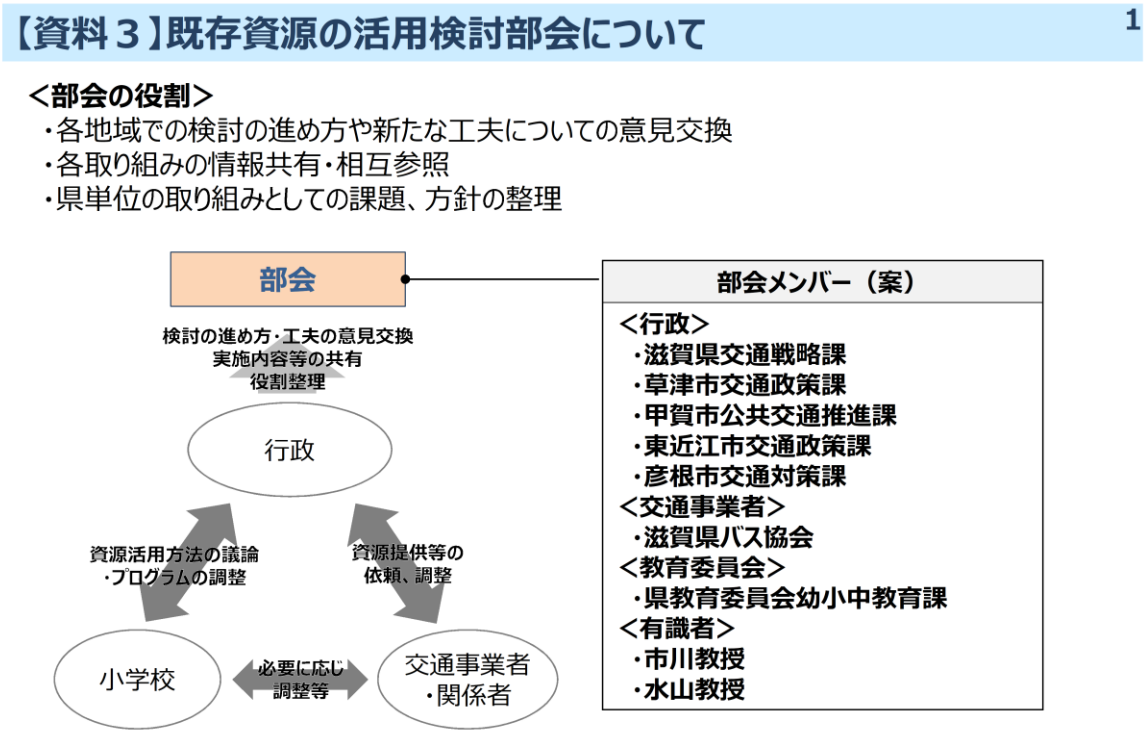


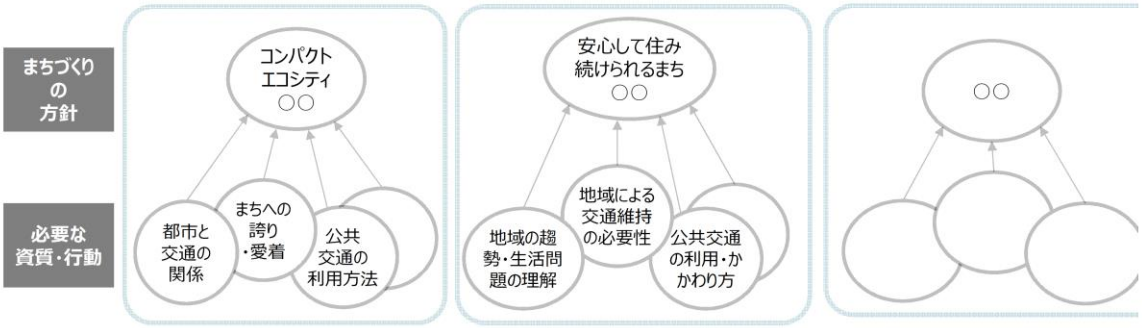
図 6-8　資料３－既存資源の活用検討部会について

(5) 資料４　コンセプト･スケジュール

【資料４】コンセプト･スケジュール　1

（１）検討コンセプト

（仮）自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成
（交通を切り口に）



未来のまちづくり･地域社会をになう子供たちにとって有益な学習を、
教育素材として「交通」を切り口として実施（サポート）していく。

効果的な学習方法、ツール、サポート方法の検討において、モデル校を制定し、検討を進めていく

【資料４】コンセプト･スケジュール　2

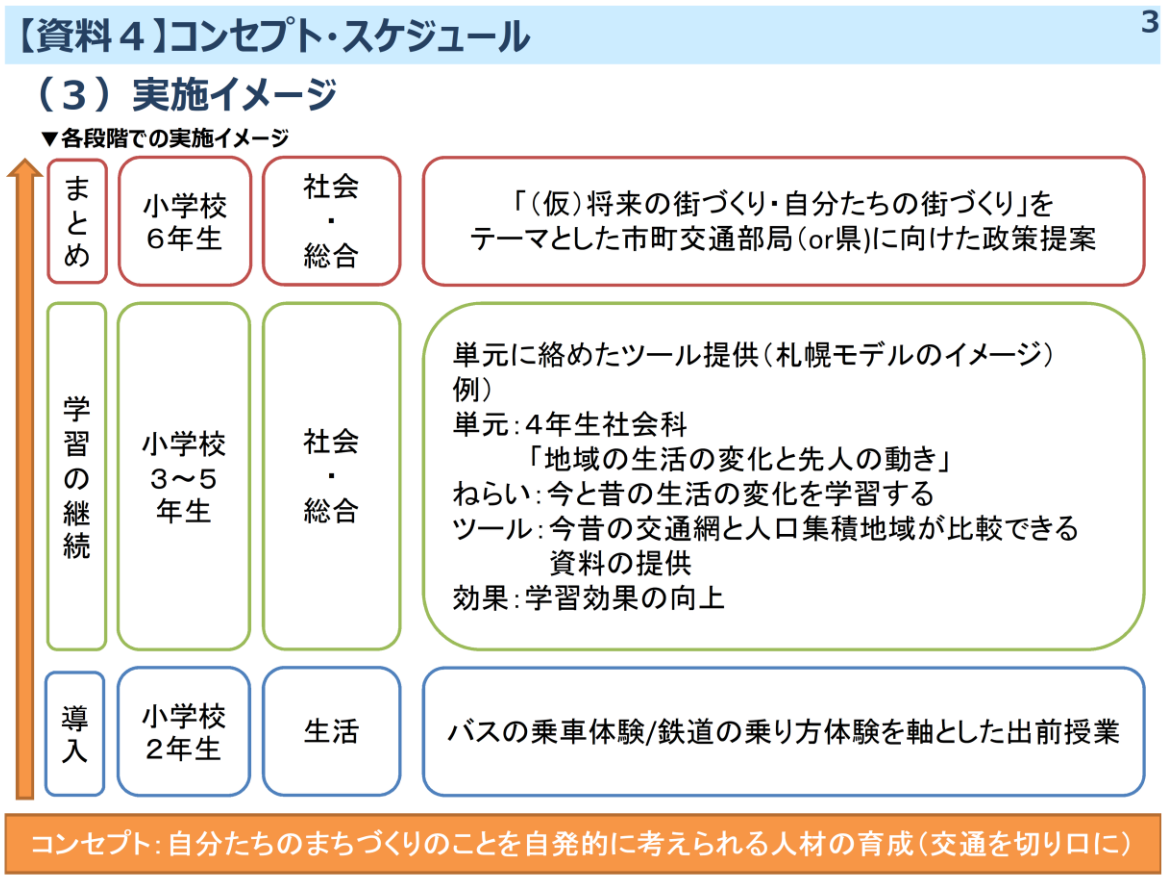
（２）検討スケジュール

スケジュール

平成29年度（1年目）	･研究会の立ち上げ ･コンセプトメイキング
平成30年度（2年目）	･ツールの検討、作成、実施 ･縦断型授業の内容検討、学年ごとでのプレ実施 ･実施市町の拡大（6市町→10市町）
平成31年度（3年目）	･ツールのブラッシュアップ、実施 ･縦断型授業のブラッシュアップ、プレ実施学校の拡大 ･実施市町の拡大（10市町→14市町）
平成32年度到達目標	･2～6年生における、学校で活用できるツールの完成 ･2年生における体験学習のしくみ/ルート/手順の確立 ･2～6年生までの学年縦断型授業の確立 ･19市町での交通環境学習の実施

「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるサポート体制の確立を目指す

図 6-9　資料４－コンセプト･スケジュール（１/２）



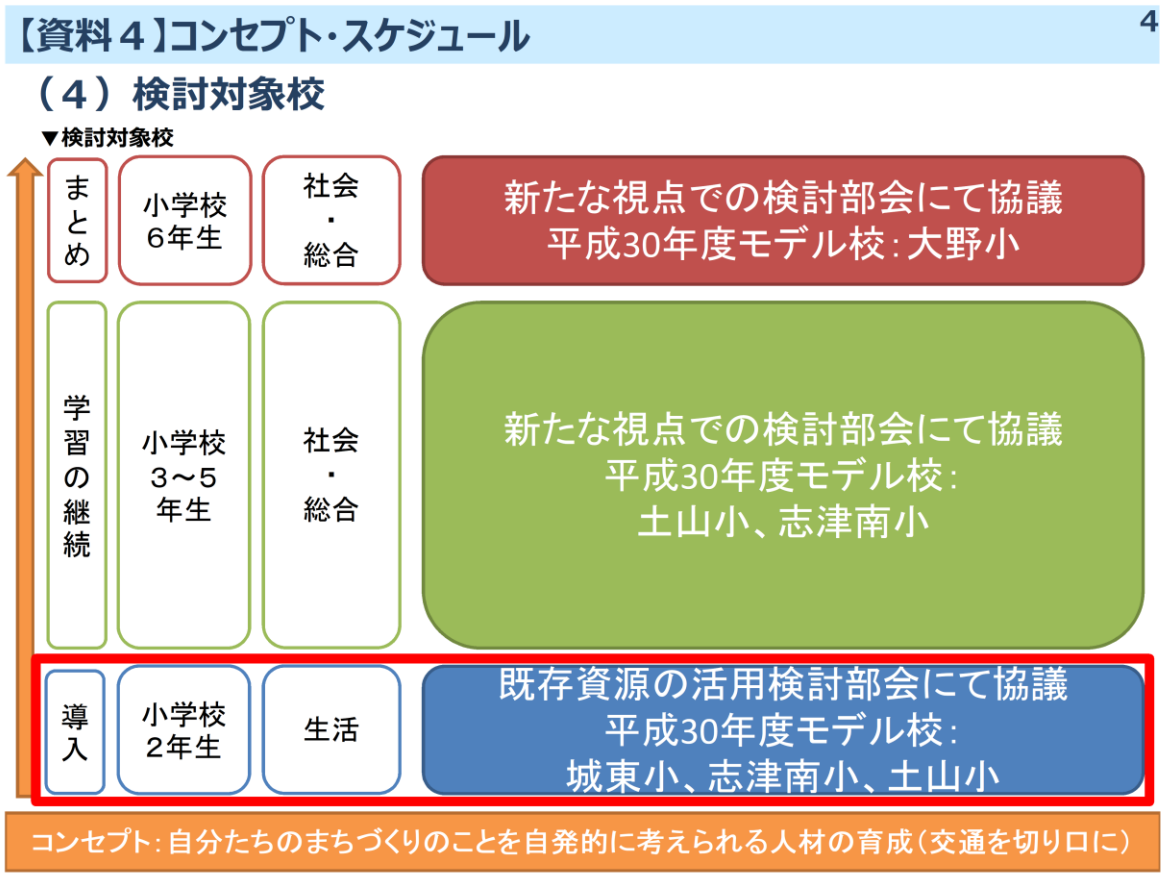


図 6-10 資料４－コンセプト・スケジュール（２/２）

(6) 資料５　小学校ヒアリング結果

【資料５】小学校ヒアリング結果　1

（１）対象とした小学校

○昨年度実施後のヒアリングを行った５校の今年度の先生へ、既存の取り組みの活用や新たな視点での取り組みの意向についてヒアリング

▼ヒアリング対象校

		対象の先生	備考
東近江市	布引小学校	・校長	・昨年度バスの乗り方教室を実施 ・校長先生が以前交通戦略課に在籍
彦根市	城東小学校	・2年生担当教諭（2名）	・彦根市独自で5年間実施
草津市	志津南小学校	・5年生担当教諭 ・4年生担当教諭	・2年前よりバスの乗り方教室を実施
甲賀市	大野小学校	・教頭 ・6年生担当教諭	・昨年度バスの乗り方教室を実施
	土山小学校	・校長 ・教頭	・昨年度バスの乗り方教室を実施

【資料５】小学校ヒアリング結果　2

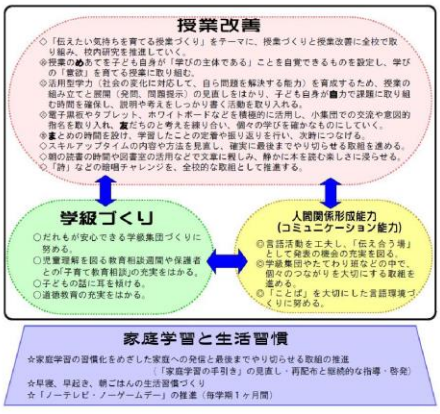
（２）東近江市・布引小学校

▼概要

住所	滋賀県東近江市今堀町５８１－１０
生徒数	２５５人
目指す子供像	［自分よし］ねばり強く学習する子 ［相手よし］友だちを大切にする子 ［社会よし］みんなで高め合える子
MM教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施 ・校長先生が以前交通戦略課に在籍

▼位置図（広域）

▼布引小学ぶ力向上策



▼周辺の交通状況

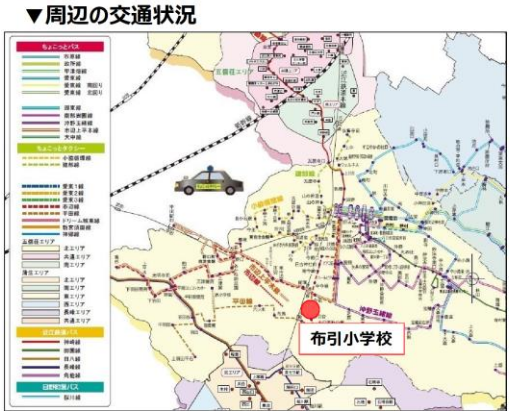


図 6-11　資料５－小学校ヒアリング結果（１/６）

【資料５】小学校ヒアリング結果 3

（２）東近江市・布引小学校

実施日時	・平成30年5月22日
ヒアリング対象	・校長
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度の２年生での取り組みは**同様に実施**したいと考えている。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・昨年度の出前授業以外で、交通について学ぶ授業は基本的に今まで行われていない。 ・4年や6年の総合学習で扱える可能性はあるが、基本的に個人やグループが自身で考えたテーマについて探求するものとしており、こちらからテーマとして与えるべきではないと考えている。 ・実際に、地域の偉人や歴史をテーマとするグループが多く、交通をテーマにするケースほとんど見られない。現段階で、特別に交通に対する意識がない中で交通を学ぶ**授業時間を確保するのは難しい**と思う。 ・各単元における交通に関する資料提供やサポートについて、現段階では具体的にイメージができないが、**検討された内容について意見やアドバイス**を言うという形での連携は可能である。

【資料５】小学校ヒアリング結果 4

（３）彦根市・城東小学校

▼概要

住所	滋賀県彦根市京町2丁目2番19号
生徒数	２７６人
目指す子供像	・自分にきびしく、人にやさしく
MM教育実施状況	・彦根市独自で5年間実施

▼位置図（広域）

▼学校経営全体管理計画（一部抜粋）

▼周辺の交通状況

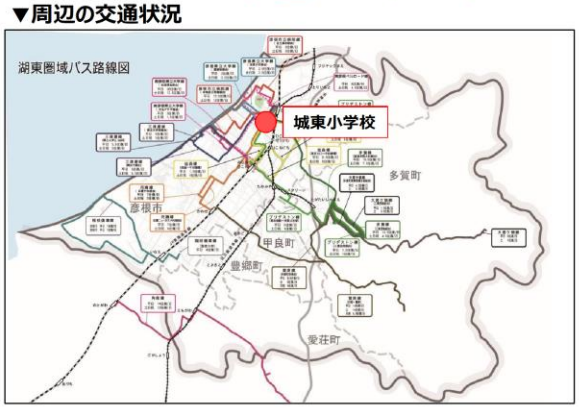


図 6-12 資料５－小学校ヒアリング結果（２/６）

【資料５】小学校ヒアリング結果

5

（３）彦根市・城東小学校

実施日時	・平成30年5月29日
ヒアリング対象	・2年生担当教諭（2名）
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度2年生の生活科で実施してもらった取り組みは、交通のことを学ぶきっかけとしてはすごく良かった。実際にバスに乗る方法などが分かるのは助かる。**昨年度の出前授業をベースに実施**していただけるのはありがたい。 ・事前にマップなどを見るのは授業でお出かけをした際のまちの広がりに対する認識が広がり**とても良い**と思う。サポートしてもらえるなら**やってみたい**。 ・関連単元の学習計画を提供する。 （⇒学習計画を踏まえて、事務局からサポートできる事項を検討し、夏休み頃に協議を実施） **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・４年生の福祉（総合学習）などは、バスを活用してできるかもしれない。 ・今回せっかくバスが来てくれるので、他の学年で**興味があれば活用してもらうように促したい**。

【資料５】小学校ヒアリング結果

6

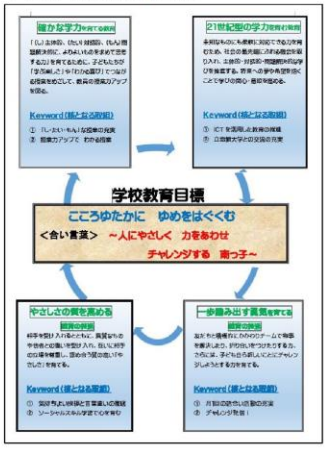
（４）草津市・志津南小学校

▼概要

住所	滋賀県草津市若草2丁目16-2
生徒数	７０７人
目指す子供像	・人にやさしく、力をあわせ、チャレンジする南っ子
MM教育実施状況	・2年前よりバスの乗り方教室を実施

▼位置図（広域）

▼志津南小教育目標



▼周辺の交通状況

図 6-13　資料５－小学校ヒアリング結果（３/６）

【資料５】小学校ヒアリング結果 7

（４）草津市・志津南小学校

実施日時	・平成30年5月31日
ヒアリング対象	・5年生担当教諭 ・4年生担当教諭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・２年生生活科での取り組みは、校外学習に現在良いところがないかを探しているような状況だが、**昨年度並みの学習**はしてもらえるとありがたい。 ・前後の素材活用についても、現時点で大がかりなことは難しいが、理解が深まって良いと思う。一緒に**考えてもらえるのはありがたい**。 ・夏休み頃になるかもしれないが、当該単元の学習計画ができたら打ち合わせしたい。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・２年生以外で興味があるかどうかは**声掛けをしてみる**。３年生での地域学習、５年の**フローティングスクール**の事前学習、福祉学習などにも関連づけられる可能性があると思う。 ・昨年度、アイディアとして話に出ていた**すごろくはどうなっているか**。4年生等の学習にちょうど**良いものがあれば使える**と思っている。 ・夏休みであれば比較的時間も取れるので**一緒に検討することも可能**。次年度等に、試行することも可能である。 （⇒夏休みの打合せにあわせ、すごろくの方向性を検討し意見交換）

【資料５】小学校ヒアリング結果 8

（５）甲賀市・大野小学校

▼概要

住所	滋賀県甲賀市土山町大野949
生徒数	１１８人
目指す子供像	・思いやりいっぱいの大野っ子 ・自ら学ぶ大野っ子 ・笑顔であいさつ大野っ子
MM教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施

▼位置図（広域）

▼周辺の交通状況

図 6-14 資料５－小学校ヒアリング結果（４/６）

【資料５】小学校ヒアリング結果

9

（５）甲賀市・大野小学校

実施日時	・平成30年5月24日
ヒアリング対象	・校長 ・6年生担当教諭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討） ・土山における交通を活かした取り組みのイメージ
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度は生徒が少なかったため2年生の校外学習をバス・電車を利用したが、今年度は22人おり要支援の子供もいる。そのため今年度は**貸切バスを利用**の予定。 ・草津線は利用するため昨年のような**切符の買い方等の学習**はお願いしたい。 ・バス通学の子供も多く、３年生の警察署やフレンドマート見学、６年生の演劇鑑賞などでもバスを使うため、２年生で無理にバス学習をすることはないと考えている。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・６年生の政治で市が**コミュニティバスを運行する理由**等は良い素材になると思う。 ・また、この地域は歴史的な交通の要衝である。東海道で野洲川を渡るのに橋が無かったため、大野付近に旅籠がたくさんあるという特徴もある。 ・例年６年生の総合学習で歴史を学んでいるが昔を知るだけになっており**展望がない**。交通を絡めて変化を学んでいくと、**自分の生活に活かせるような学習になる**のではないかと感じる。クラスを４～６くらいのグループに分けて、提案をこども未来会議ような形で市役所にぶつけたりするとよい経験になる。 ・これまでの基本的な流れをベースに、**一緒に検討**してみたい。 （⇒学習計画を踏まえてサポートできる事項を検討し、夏休み頃に協議を実施）

【資料５】小学校ヒアリング結果

10

（６）甲賀市・土山小学校

▼概要

住所	滋賀県甲賀市土山町北土山1462
生徒数	１７８人
目指す子供像	・(夢)：好奇心／冒険心／意欲／元気があふれる元気な子 ・(力)：学びにむかう力／思考力／表現力／判断力があふれる考える子 ・(心)：豊かな心／助け合う心／関わる心があふれる助け合う子
MM教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施

▼位置図（広域）

▼土山小学ぶ力向上策（一部抜粋）

▼周辺の交通状況

図 6-15 資料５－小学校ヒアリング結果（５/６）

【資料５】小学校ヒアリング結果 11

（６）甲賀市・土山小学校

実施日時	・平成30年5月28日
ヒアリング対象	・校長 ・教頭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討） ・土山における交通を活かした取り組みのイメージ
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・バスマップで２年生のまち探険を深めたり、インタビュー等をして４年生の地域を支える仕事を実感すると言った視点は意義があると思う。 ・現状で2年以外でも、3年生の学区の学習、４年生の水・ごみの学習、5年生のホールの子等で足としてバスを使用している。これをきっかけに**土山学が子供にとってより良いものに**なると良いと感じる。 ・これまでの出前授業をベースにしていくことを考えると、とりあえずは**2年生や3年生を対象として単元での活用**の仕方を検討するのが良いと考える。 ・2年生・3年生の当該単元の学習計画の略案を提示する。 （⇒学習計画を踏まえてサポートできる事項を検討し、夏休み頃に協議を実施） **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・次年度以降、**4年生や5年生**なども検討できると良い。地域学習を進めたいと考えており複数年かけ**幅広い学年の学習を深める研究**ができるのはとてもありがたい。 ・土山宿の空き家問題や再整備について、学校も入り地域で協議をしている。長期的にはそのような活動にも寄与するものになると良い。

【資料５】小学校ヒアリング結果 12

（７）まとめ

○既存の取り組み３校、新たな取り組み２校の実施意向を確認
○布引小は、他校の具体的な取り組み情報を提供しながら今後できそうなことを検討

▼ヒアリング結果を踏まえた今年度の検討対象

		既存資源を活用した取り組み	新たな視点の取り組み
東近江市	布引小学校	△ ※他地域の取り組みなどの具体的なイメージを提示しながら実施できそうなことを意見交換	△ ※他地域の取り組みなどの具体的なイメージを提示しながら実施できそうなことを意見交換
彦根市	城東小学校	○ ・バス車両出前授業の活用 （２年生生活科）	― ※他の学年への声掛けの結果によって必要があれば検討
草津市	志津南小学校	○ ・バス車両出前授業の活用 （２年生生活科）	○ ・すごろくゲームの活用 （４年生等の社会科）
甲賀市	大野小学校	―	○ ・まちの歴史の学習における活用 （６年生社会科・総合学習）
	土山小学校	○ ・バス車両出前授業の活用 （２年生生活科）	○ ・バスを使った校外学習の活用 （３年生社会科） ※次年度以降、4・５年生等を含めて検討

図 6-16 資料５－小学校ヒアリング結果（６/６）

(7) 資料６　今年度の検討の進め方

【資料６】今年度の検討の進め方　1

（１）今年度のポイント

○各校での検討・試行結果から、展開方法・必要なツール等を整理

今年度の目的・ポイント

・既存の交通に触れる機会（車両や校外学習での乗車等）をより活かす
単元の**展開方法や必要なツールの抽出・整理**、**適用特性の考察**
⇒城東、志津南、土山小の3校で**学校とともに検討、試行**
・・・児童への単元後アンケート（単元の深まり・交通への意識の変化）
・・・学校との実施後の意見交換、コミュニケーション
・・・その他の学年での要望等に**柔軟に対応**
⇒**各校での実施結果や経緯**から、展開方法や活用できるツールについて**考察・整理**
⇒他校（布引小学校等）への取り組み**情報展開、意見交換**

次年度の展開イメージ（現時点の想定）

・同じ学校で継続実施し**ブラッシュアップ**、自治体単位での**省力・定着化**検討
・**他の地域、学校**へ展開（布引小等）
・他の**学年の展開・バリエーション**を検討（城東小・志津南小）　等

【資料６】今年度の検討の進め方　2

（２）検討の進め方

○当該単元の学習計画を受領・事務局イメージを検討し、夏休みに協議

▼スケジュール

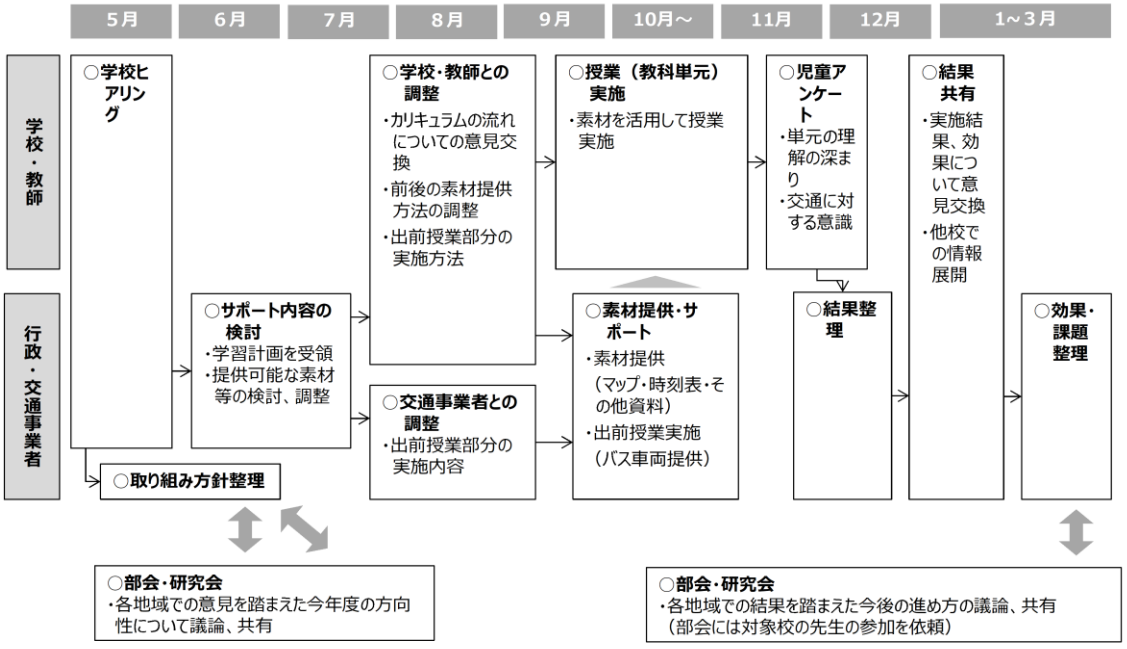


図 6-17　資料６－今年度の検討の進め方（１/３）

【資料６】今年度の検討の進め方　3

（３）工夫についての意見交換

学校教育目線

①生活科における資源の有効活用について

○単元学習において、どんな活用や工夫が考えれるか

⇒どんな観点の事前学習をすると良いか

⇒学習に使えそうな資源はないか（マップ、時刻表、人・・・）

主にバスによる校外学習が実施されている単元

▼生活科単元配列（東京書籍）　**東京書籍**

「新編 新しい 生活 下」（２年） 単元内容一覧表（学習指導要領の内容との関連表）

単元名	小単元名	時数	ページ	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	単元の目標
春だ 今日から 2年生 6時間	（単元扉）	-	1	○				◎				◎	春の身近な自然を観察したり，新しい1年生と交流したりする活動を通して，四季の変化や春の訪れに気付くとともに，進級によって自分たちの役割が増えたことが分かり，意欲的に2年生の生活を送ろうとすることができる。
	春を さがそう	3	2-3	○				◎			○	◎	
	1年生を むかえよう	3	4-5	○				◎			◎	◎	
春の くらし		-	6-7	○		○		◎					
まちの あんぜん		-	8	◎		◎	◎						
大きく なあれ わたしの 野さい 9時間	（単元扉）	-	9							◎	○		身近な野菜の栽培に関心をもち，世話の仕方を自分たちで調べたり，人に聞いたりしながら大切に世話をする中で，それらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに，愛着をもって，継続的に育てることができる。
	野さいを そだてよう	3	10-11					○		◎	○		
	野さいの せわを つづけよう	3	12-13							◎	○		
	野さいを しゅうかくしよう	1	14-15							◎	○	◎	
	野さいの ことを まとめよう	2	16-17	○						◎	◎	◎	
	野さい 図かん	-	18-19							◎			
	秋や 冬にも そだてよう	-	20					◎		◎			
どきどき わくわく まちたんけん 9時間	（単元扉）	-	21			◎	○	○					自分たちで計画を立てて，身近な地域に出かけ，さまざまな場所を調べたり，地域の場所や人との関わりを広げたりするとともに，地域に親しみをもち，人々と適切に接したり，安全に気を付けて生活したりすることができる。
	まちの ことを 話そう	1	22-23			◎	○	○			◎		
	まちたんけんの 計画を 立てよう	2	24-25			◎	○				○		
	まちたんけんに 行こう	3	26-27			◎	○	○			◎		
	見つけた ことを 教え合おう	3	28-29		○	◎					◎	○	
	まちで さがそう	-	30-31			◎	◎	○					
	ちがいを さがそう	-	32	○		◎	◎						
生きもの なかよし 大作せん 12時間	（単元扉）	-	33							◎	○		生き物を探して捕まえたり，飼育したりする中で，それらの育つ場所，変化や成長の様子が分かり，自分たちと同じように生命をもっていることなどに気付くとともに，生き物への親しみをもって，大切に世話を続けることができる。
	生きものを さがしに 行こう	3	34-35			◎		◎		◎	○		
	生きものを とりに 行こう	4	36-37							◎	○		
	生きものを そだてよう	2	38-39							◎	○		
	生きものの ことを つたえよう	3	40-41			○				◎	◎	◎	
	生きもの 図かん	-	42-43							◎			
夏の くらし		-	44-45	○		○		◎					
夏休みの 思い出を つたえ合おう		-	46		○	○	○	◎	○	○	◎	○	身近にあるものを使って，動くおもちゃを試行錯誤してつくり，友達と競争したり，工夫を教え合ったりしながら，よりよく動くように改良することを通して，動くおもちゃの面白さや不思議さを実感するとともに，遊び方を工夫して，みんなで遊びを楽しむことができる。
うごく うごく わたしの おもちゃ 12時間	（単元扉）	-	47						◎		○		
	うごく おもちゃを つくろう	3	48-49						◎				
	もっと くふうしよう	3	50-51						◎		◎		
	あそび方を くふうしよう	6	52-53						◎		◎	○	
	おもちゃ 図かん	-	54-56						◎				
みんなで つかう まちの しせつ 6時間	（単元扉）	-	57				◎				○		身近な公共施設を利用し，公共施設やそこにある公共物は，みんなで使うものであることや，それらを支えている人々がいることが分かり，それらを大切に使ったり，安全に気を付けて，正しく利用したりすることができる。
	図書かんに 行こう	3	58-59			◎	◎				○		
	図書かんの ことを 聞いて みよう	3	60-61			◎	◎				○		
	行って みよう つかって みよう	-	62-63			◎	◎						
秋の くらし		-	64-65	○		○		◎					
サツマイモを しゅうかくしよう		-	66-67					◎	○	◎	○		質問をしたり，いっしょに何かをしたりするなどして，地域の人々と関わる活動を通して，地域には生活したり，働いたりしている人がいることや，それらの人々と自分たちの生活との関わりに気付き，地域の人々に親しみや愛着をもつとともに，人々と適切に接したり，安全に生活したりすることができる。
まちの くふう		-	68	○		◎	◎						
もっと なかよし まちたんけん 12時間	（単元扉）	-	69			◎	○	○			○		
	まちたんけんの 計画を 立てよう	3	70-71			◎	○				○		
	もう いちど たんけんに 行こう	3	72-73			◎	◎	◎			○		
	まちの 人と なかよく なろう	3	74-75			◎	◎	◎			○		
	なかよく なった 人の ことを しょうかいしよう	3	76			◎					◎	◎	
つたわる 広がる わたしの 生活 12時間	（単元扉）	-	77			◎	◎				◎	◎	地域の人々と関わったことを振り返り，自分の心に残った地域の出来事を身近な人々に伝えたいという思いをもち，表現する方法を考え，新聞やポスター，パンフレットなどの作品にまとめ，それを身近な人々と伝え合う活動を通して，身近な人々と関わることの楽しさが分かり，進んで交流することができる。
	つたえたいな まちの すてきな できごと	2	78-79			◎	◎				◎	○	
	つたえる じゅんびを しよう	4	80-81			◎	◎				◎	○	
	もっと くわしく しらべよう	3	82-83			◎	◎				◎	○	
	まちの すてきを つたえよう	3	84			◎	◎				◎	○	
	まちに つたえに 行こう	-	85			◎	◎				◎	◎	
冬の くらし		-	86-87	○		○		◎					
冬の 行じに さんかしよう		-	88-89			◎	◎	◎			○		
自分の ことを ふりかえろう		-	90			◎	◎				◎	◎	自分の生活や成長を振り返ったり，身近な人々にインタビューしたりして，それらを作品にまとめたり，伝え合ったりする中で，自分ができるようになったことや大きくなったこと，役割が増えたことなどが分かるとともに，これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち，これからの成長への願いをもって，意欲的に生活することができる。
あしたへ ジャンプ 27時間	（単元扉）	-	91									◎	
	大きく なった 自分の ことを ふりかえろう	3	92-93	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	
	大きく なった 自分の ことを しらべよう	3	94-95	○	○	○	○				◎	◎	
	大きく なった 自分の ことを まとめよう	9	96-97	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	
	ありがとう はっぴょう会を ひらこう	9	98-99	○	○	○	○		○		◎	◎	
	すてきな 3年生に なろう	3	100-101	○	○						◎	◎	
べんりてちょう	（べんりてちょう扉）	-	103	○	○	○					◎	◎	
	あんぜんに 気を つけよう けんこうに くらそう	-	104-105	◎	◎	◎	○	○	○	○			
	なかよく なろう	-	106-107	◎	◎	◎	◎				◎		
	まちの 人に 聞いて みよう	-	108-109			◎	◎				◎		
	手紙や 電話で つたえよう	-	110-111		○	◎	◎				◎		
	見つけた ことから 考えよう	-	112-113	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	
	まとめよう つたえよう	-	114-115	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	
	道ぐを つかおう	-	116-117			○	○		◎	○	◎		
	大切に つかおう あとかたづけを しよう	-	118-119	◎	◎	○	◎		◎	◎			
	のりものに のろう	-	120-121			◎	◎						
年間授業時数 105 時間													

平成 26 年 4 月現在（内容は，今後変更されることがあります。）

【資料６】今年度の検討の進め方　4

（３）工夫についての意見交換

学校教育目線

①生活科における資源の有効活用について

<交通に触れることでまちへの認識を深める工夫の例>

・バスを通じて、**地域の広がりをより実感**できるように

・バス等がまちの中で**どんな役割**を持っているか、**どんな人が使ったり運転**しているか実感できるように

事前

○**乗り方等の予想**
- どうやったら行きたい所に行って帰ってこれるか？
- いくらで行ける？得な乗り方は？
- どうやって乗るか、全員乗れるか？
- 運転手はどんな人か？
- 本番ではどんな人が利用するか？
  ※心の準備も兼ねて

・マップ、時刻表、運賃表等を提供
・バスの写真等を提供

予行演習（車両体験）

○**校庭で乗車体験**
- 乗り方・乗れる人数があっているか確かめる（一度にたくさん乗れることを実感）
- できれば走って安全な乗り方も確認

○**運転手インタビュー**
- どんな人か聞いてみる（運転手になった理由等）

・バス車両を提供
・乗車体験をサポート

本番

○**まち探検**
- バスで移動
- バスから見える施設やどんな人が乗ってきたかを記録（バスが繋ぐ地域の姿をより良く理解）

まとめ

○**まとめ**
- まちのようすの振り返り
- バスの機能を確認、共有

体験・実物をメインとした学習活動

事前・事後の学習

図 6-18 資料６－今年度の検討の進め方（２/３）

【資料６】今年度の検討の進め方

5

（３）工夫についての意見交換

学校教育目線

②「電車の乗り方」の切符購入模擬体験ソフトの作成について

・現状
2年生の体験学習において、小学校から「ＪＲの切符の買い方について学習したい」という依頼がある。

・課題
依頼に対する対応として、現状は・段ボールで模擬的な装置を作成する・実際の駅の購入端末の写真を撮り、打ち出したものを黒板にはり、模擬体験をしてもらう等、実体験とは遠い手法しか取れていなかった。

・対応案
鉄道各社に協力いただき、タブレット端末で「電車の乗り方」を体験できるソフト（アプリ）を開発する。

・利点
タッチパネル方式なので、ＪＲ駅で切符を購入する場合とほぼ同じ体験を提供することができる。ソフト化することで、県内において幅広い学校で簡単に使用することができる。

・実現に対する課題
鉄道各社からデータを提供してもらうことが可能かどうか。
ソフト（アプリ）開発に係る費用がねん出できるのかどうか。

【資料６】今年度の検討の進め方

6

（３）工夫についての意見交換

交通行政目線

③効果測定および事後体験を促す「利用体験クーポン」の作成・配布について

・現状
体験学習を行った後は、授業に対するアンケートのみを実施している。
事後体験（実際の路線バス等に乗車してみる）を行う動機づけがない。

・課題
体験学習後に実際に路線バスに乗っているかどうかの効果測定ができていない。
学習後の事後体験を促すような仕組みが存在しない。

・対応案
バス事業者各社に協力いただき、「乗車体験学習児童限定乗車クーポン」を作成、配布する。
＊クーポン内容：大人1名以上と乗車するとき、同クーポンを持っている児童の子供料金のみ無料とする。（子供同士のみの利用は不可とする）

・利点
学習における事後行動への推移について、実数字で効果測定ができる。
普段乗車しないであろう層（親御さん層）が乗車をすることで、バス事業者の収益を向上させることができる（可能性がある）。

・実現に対する課題
県内バス事業者の協力が得られるかどうか。
普段乗車しないであろう層（親御さん層）については、実数字を持っているわけではなく推測であるため、実際に利益向上につながるかどうかは実施してみないと不明。

図 6-19 資料６－今年度の検討の進め方（３/３）

6-2-3 議事概要

第１回既存資源の活用検討部会の議事概要を以下に示す。

１．開会	
事　務　局　：	只今より、「平成３０年度第１回近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会・既存資源の活用検討部会」を始めさせていただく。それでは開会にあたり、滋賀県土木交通部交通戦略課の芝よりご挨拶をお願い申し上げたい。
芝　委　員　：	本日は公私なにかとお忙しい中、既存資源の活用検討部会にお越し頂き厚く御礼申し上げる。 既存資源の活用検討部会では、昨年度から実施している「近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会」の検討部会という形で実施させて頂き、バス車両を用いた出前授業を活用した取り組みについて検討を行っていきたいと考えている。また、後半の新たな視点での検討部会については、従来の出前授業だけでなく、様々な交通素材を活用した新たな学習プログラムについて検討を行う予定である。 委員の皆様方には忌憚のないご意見を頂き、研究会がより良いものとなるようお願い申し上げたい。
事　務　局　：	それでは早速議事の方にはいっていきたいと思う。昨年度までの振り返りについてと既存資源の活用検討部会について事務局よりご報告申し上げる。
２．昨年までの振り返り	
事　務　局　：	【資料-１　昨年度までの状況】について説明 【資料-２　分科会設置規程（案）】について説明 【資料-３　既存資源の活用検討部会】について説明
芝　委　員　：	昨年度は主に滋賀県におけるＭＭ教育の考え方やコンセプトについて議論をさせて頂いたが、まだ正式に決定はされていない。本年度においては、明確なコンセプトになるように引き続き検討を進めていくと同時に、取り組み内容についても検討を行いたいと考えており、より具体的な内容について議論を行う場として、既存資源の活用検討部会を設置させて頂いた次第である。 資料２の分科会設置規程は、この既存資源の活用検討部会と後半で実施する新たな視点での検討部会に関し、必要な事項を定めており、次回の研究会で設置規程の承認を受けたいと考えている。また、この設置規程の中には、会長を定めるという規程はないが、検討会としての会長を選任させて頂きたいと考えており、既存資源の活用検討部会については野村副会長に、新たな視点での検討部会については水山副会長にお願いしたいと考えている。
野村副会長　：	既存資源の活用検討部会の会長として任されるのは良いが、一言だけ意見を述べさせて頂きたい。 交通環境学習として、具体的な取り組み内容について議論をしていくということであるが、結局学校現場や教育委員会に受け入れてもらえなければ、実現に至らず終わってしまうのではないかという想いもある。 バスに関係する話なので、バス協会としても協力はさせて頂きたいと考えているが、実現に

	向けての調整については事務局の方で頑張って頂きたいと思う。
芝　委　員　：	実現に向けて学校と調整をしていくということよりも、学校とどんな取り組み内容であれば受け入れてもらえるのかを検討する際の材料としてプログラムやツールの作成に重点を置きたいと考えており、その内容について皆様とご議論をしていきたいと考えている。 では、既存資源の活用検討部会の会長は野村副会長にお願いしたいと思うが皆様よろしいか。
委　員　：	異議なし
芝　委　員　：	それでは野村副会長を既存資源の活用検討部会での会長に指名させて頂く。野村副会長には何かとご迷惑をおかけすると思うが、よろしくお願い申し上げる。 それでは、議題に入らせて頂きたい。

３．議題１　検討のコンセプト、スケジュールについて

事　務　局　：	【資料-４ コンセプト・スケジュール】について説明
芝　委　員　：	皆様の方からご質問やご意見はあるか。
野村副会長　：	Ｐ３の実施イメージに記載されている、交通環境学習の導入としてバスの乗車体験を軸とした出前授業を行うのはイメージできるが、３年生～５年生の実施内容に記載されている「今と昔の生活変化の学習」は、２年生の学習からいきなり高度な内容となっており、実際に授業として実施できるのか疑問である。
事　務　局　：	３年生～５年生の実施内容に記載しているのは、あくまで一例であり、実際に行うという意味ではない。この内容は札幌市で実際に行われた学習であり、他にも各学年のレベルに合わせた内容の学習が展開されている。
野村副会長　：	２年生で行う出前授業の次の学習として、この内容の授業を行うのではなく、学年に合わせたプログラムを実施していくということか。
事　務　局　：	各学年のレベルに合わせてプログラムを検討・実施し、縦断的に交通環境学習を行っていきたいと考えている。
芝　委　員　：	他にご意見やご感想等はあるか。
市　川　会　長　：	Ｐ１の検討コンセプトに記載されているまちづくりの方針で、バリエーションが様々あるのは、各市町が掲げるまちづくりの方針が考え方や地域の特色で異なっているため、多種多様な方針があるというイメージを示しているのか。
事　務　局　：	市川会長のご指摘の通り、各市町のまちづくりの方針のイメージとして記載させて頂いている。
市　川　会　長　：	一番上には「（交通を切り口として）自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成」というコンセプトが記載されているが、最終的にバスや電車を利用してもらうという目的を踏まえると、「公共交通を切り口として」の方がよいと思うが、交通に着目するので良いのか。 あと「交通を切り口として」が、カッコで囲まれているが、カッコを使わずにわかりやすい文章で表現できれば良いと思う。
事　務　局　：	子どもたちが自分たちのまちづくりについて考えていくことを踏まえると、バスや電車等の公共交通だけでなく、徒歩や自転車といった移動手段全般を含めて、考えていくことが必要である思い、交通に着目したコンセプトにさせて頂いている。 また、カッコを使って表現しているのは、良い言葉が思い浮かばなかったためであり、皆様から良いアイディアがあればご提案を頂きたい。

市　川　会　長　：	研究会として目指す方向性は、ここに記載されている内容で良いと思うので、あとは文章を上手く表現して頂きたい。
芝　委　員　：	バスや電車を利用する人を増やしたいというのはもちろんあるが、公共交通を切り口にしてしまうと、学習の幅が狭まってしまうと考える。まちづくりの視点を取り入れることを踏まえると、自動車や自転車等のあり方を含めて自分たちのまちの将来について考えてほしいと思う。 もし学校として教えるならば、どちらに着目して授業を行うのが良いか、永井委員のご意見を伺いたい。
永　井　委　員　：	現場の先生は交通と公共交通の違いについてあまり意識はしていないと思うが、子どもたちの学習の理解を深めるためには、あまり難しい言葉を使わない方が良いので、交通という形で示す方が良いのではないかと考える。
事　務　局　：	では、検討コンセプトの方向性については、この内容で進めていくということで良いか。 その他、ご意見や異議等はあるか。
委　員　：	異議なし
事　務　局　：	それでは検討コンセプトの方向性については、この内容で進めていきたいと思う。また、コンセプトの文章表現は、小学校へのヒアリングを踏まえた上で、再度検討を行い、皆様に提示させていただきたい。 では、他にご意見がないようなので、次の議題に進みたい。

４．議題２　小学校へのヒアリング結果

事　務　局　：	【資料-５　小学校ヒアリング結果】について説明
芝　委　員　：	小学校へのヒアリング結果について何かご意見やご感想等はあるか。 ご意見がないようなので、引き続き次の議題に進めさせていただく。

５．議題３　今年度の検討の進め方

事　務　局　：	【資料-６　今年度の検討の進め方】について説明
芝　委　員　：	今年度の進め方について何かご意見やご感想等はあるか。
市　川　会　長　：	鉄道事業者にお願いして、使用していない券売機等を提供して頂くのは難しいのか。
事　務　局　：	切符の購入体験ができる機械等はあるのかＪＲ西日本に確認したが、購入体験ができるものはなく、券売機の貸出しも行っていないとのことであった。
市　川　会　長　：	タブレット端末で切符購入を体験できるソフトの開発するのも良いが、やはり実際に切符が出てこないとイメージがしづらいのではないかと思う。 あと、どこかの小学校で鉄道すごろくの取り組みの検討を行っていたと思うが、そちらの方はどうなっているのか。
事　務　局　：	鉄道すごろくについては、新たな視点での検討部会で具体的な内容について説明させて頂く。 普段から小学校や交通事業者と連携しながら色んな取り組みを行っている市町の皆様からもご意見を頂きたいと思うが、何かご意見やご感想等はあるか。
本　間　代　理　：	東近江市では、昨年度から期間限定でバスの運賃が大人１人につき小学生２人まで無料になる「ＥＣＯサマー」という取り組みを実施させて頂いている。ＥＣＯサマーのチラシには、どんな目的でバスを利用したのか等を記入する欄を設けており、全て記入して頂いた方に抽選で景品のプレゼントも行っている。このように自分たちの移動について子供たちに考えてもらうこともＭＭ教育であると考えており、この事業においてもＥＣＯサマーを上手く活用するこ

	とができるのではないかと思う。また、昨年度は、コミュニティバスでの利用に限定していたが、今年度は近江鉄道と連携し対象路線の拡大を行っており、このような複数の市町を運行する路線バスを活かして、取り組みを広げていくことができるのではないかと思う。 　また、今年度の検討の進め方に記載されているような内容は、近江鉄道と連携して実施していきたいと考えているところである。
野村副会長：	東近江市で実施されているような取り組みも良いと思うが、運賃を無料にするのではなく、普段の運賃でバスを利用する中で、日頃の自分たちの移動にこれだけのお金がかかっていることを認識してもらうことも大切であると考える。自動車等を利用する普段の移動と比べて、バスの運賃に対する批判が出てくるのも公共交通について考えてもらうという意味では良いのかもしれない。
事務局：	バスでの移動にどれだけのお金がかかるのかを実際に体験してもらうことで、公共交通に対してもっと考えてもらえるようになるということか。
野村副会長：	小学校高学年であれば、そのようなことまで考えてもらえると思うが、バスの運賃が高いという認識が広がってしまうと、逆効果になる可能性も考えられる。
芝委員：	学校に受け入れてもらえる形であれば、そのような内容の取り組みにすることも考えられるが、具体的な取り組み内容については今後検討していきたい。
事務局：	交通環境学習として２年生を対象に乗り方教室を実施させて頂いているが、現在は止まっているバスに乗っての学習に留まっており、実際にまちを走るバスに乗る体験とはなっていない。それを踏まえ、今年度の取り組みでは実際に運行するバスで体験ができるようなプログラムについて検討を行いたいと考えている。 　また、野村副会長のご意見にありました通り、小学校高学年には交通のあり方や公共交通と自動車の違い等について考えてもらえるようなプログラムを実施することも考えているところである。
野村副会長：	実際に運行しているバスに乗る体験を促すのであれば、先ほど東近江市の取り組みは効果的であると思うので、上手く活用して頂きたい。
市川会長：	バスの乗り方教室のあとに校外学習が実施されているということであるが、その校外学習を行う際の移動には公共交通は利用されているのか。
事務局：	校外学習での移動には、貸切バスや電車が主に利用されているが、乗合バスを利用する小学校はほとんどない。しかし、学校の近くにバス停がある小学校であれば利用されるケースも見られる。
市川会長：	取り組み内容を検討していく際の参考になると思うので、各小学校の校外学習の行き先や利用する移動手段等についてもヒアリングして頂きたい。
芝委員：	他にご意見やご感想等はあるか。 　ご意見がないようなので、既存資源の活用検討部会は以上で閉会とさせて頂く。

6-3 第１回新たな視点での検討部会

6-3-1 部会の概要

第１回新たな視点での検討部会の開催概要を以下に示す。

表 6-3 第１回新たな視点での検討部会の概要

項目	内容
開催日時	平成 30 年 6 月 25 日（月）14：00～15：00
開催場所	滋賀県庁大津合同庁舎　3-A 会議室
出席者	【会長】市川　智史(滋賀大学　環境総合研究センター　教授) 【副会長】水山　光春(京都教育大学　教育学部 教授) 野村　義明(滋賀県バス協会 専務理事) 【委員】　本間　倭(代理)(東近江市　交通政策課) 高岡　良秀(草津市　交通政策課 課長) 近藤　直人(甲賀市　公共交通推進課 課長) 永井　慎太郎(教育委員会　幼小中教育課　指導主事) 芝　久生(滋賀県土木交通部　交通戦略課 参事) 【事務局】岡本 英晃(交通エコロジー・モビリティ財団　交通環境企画課 担当課長) 森　陽介(滋賀県土木交通部 交通戦略課 主事) 小林　知子(滋賀県土木交通部交通戦略課 エコ交通推進員) 土崎　伸(株式会社オリエンタルコンサルタンツ　総合計画部 副主幹)
議事次第	１．開会 ２．新たな視点での検討部会について ３．議題 （１）今年度の検討の進め方
資料	議事次第 資料１　新たな視点での検討部会について 資料２　今年度の検討の進め方

6-3-2 会議資料

(1) 議事次第

第１回 近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会 新たな視点での検討部会

議事次第

日 時 平成 30 年 6 月 25 日（月）14：00～15：00
場 所 滋賀県大津合同庁舎 3-A 会議室

１．開会

２．新たな視点での検討部会について　資料１

３．議題

（１）今年度の検討の進め方　資料２

【配布資料】
議事次第
資料１ 新たな視点での検討部会について
資料２ 今年度の検討の進め方

図 6-20 議事次第

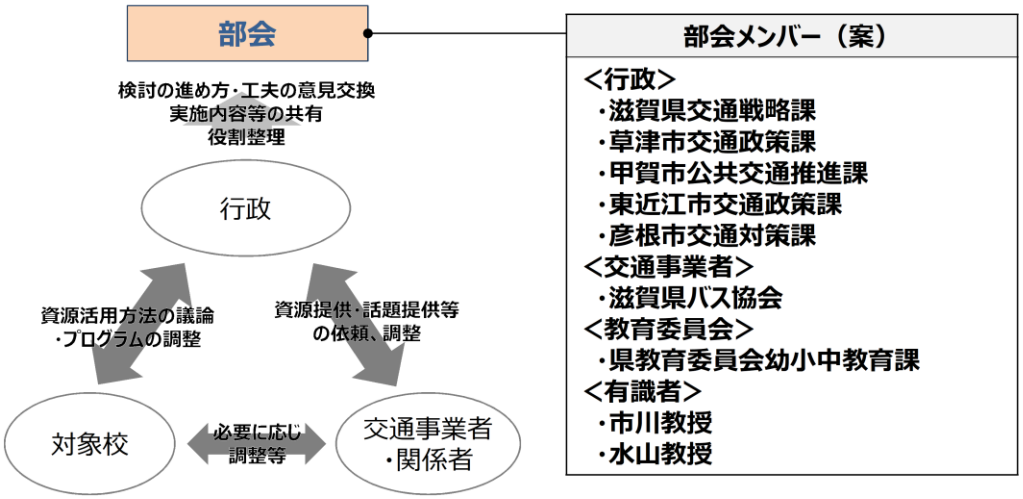
(2) 資料１　新たな視点での検討部会について

【資料１】新たな視点での検討部会について

1

＜部会の役割＞

・各地域での検討の進め方や新たな工夫についての意見交換
・各取り組みの情報共有・相互参照
・県単位の取り組みとしての課題、方針の整理

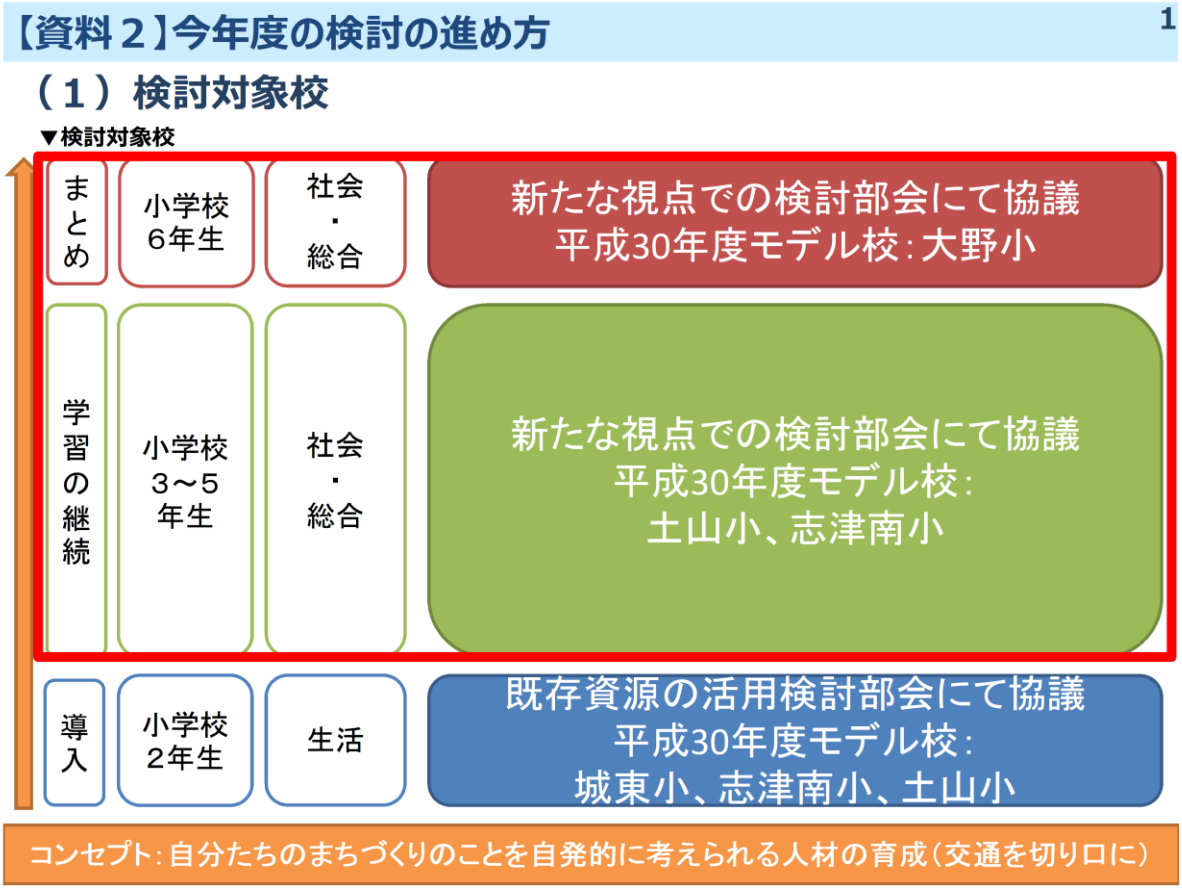


＜部会の実施タイミング＞

・年２から３回程度実施

図 6-21　資料１ー新たな視点での検討部会について

(3) 資料２　今年度の検討の進め方



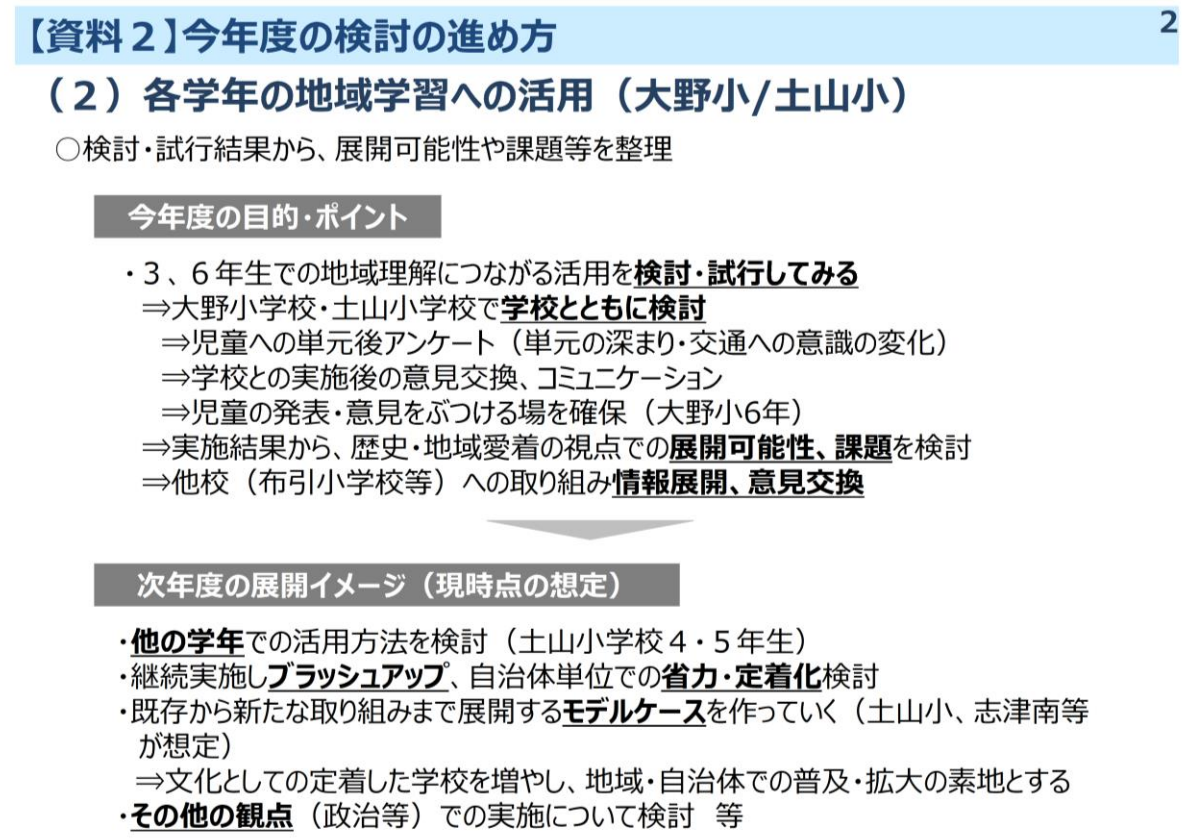


図 6-22　資料２－今年度の検討の進め方（１/３）

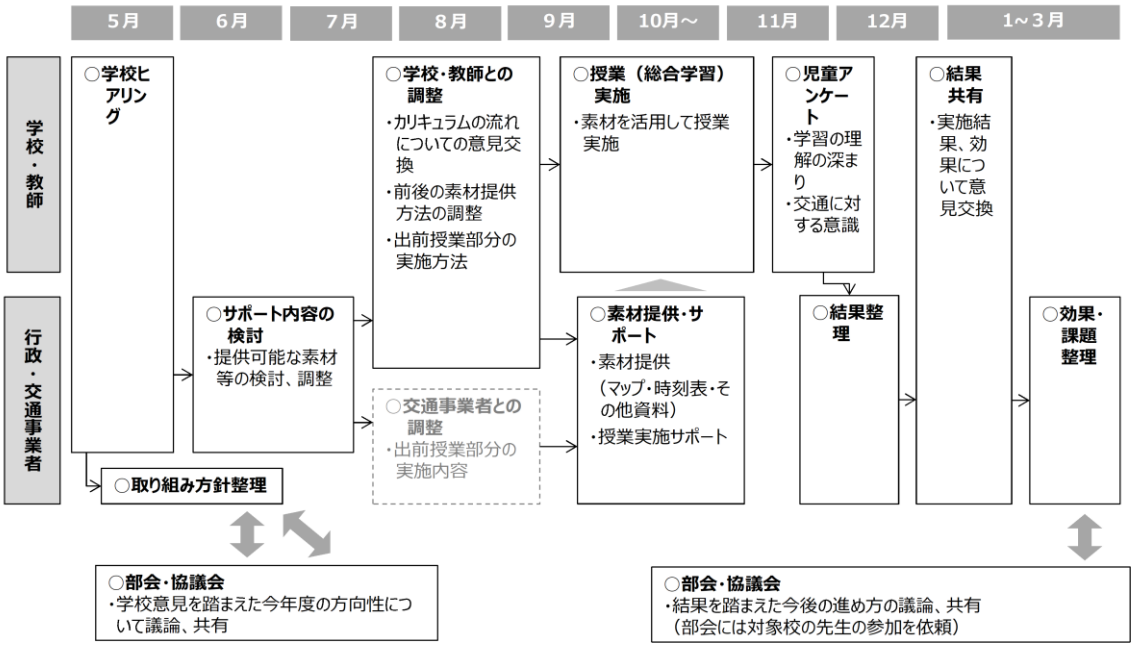
【資料２】今年度の検討の進め方

3

（２）各学年の地域学習への活用（大野小/土山小）

○学習計画を受領・事務局イメージを検討し、夏休みに協議

▼スケジュール



【資料２】今年度の検討の進め方

4

（３）鉄道すごろくの活用（志津南小）

○次年度の試行に向けて、すごろくの見直し案を検討、制作

今年度の目的・ポイント

・鉄道すごろくの見直し案を制作
　⇒志津南小学校で**学校とともに検討**
　⇒他校（布引小学校等）への取り組み**情報展開、意見交換**

次年度の展開イメージ（現時点の想定）

・志津南小学校、その他で活用の試行
・必要なバリエーションについて検討　等

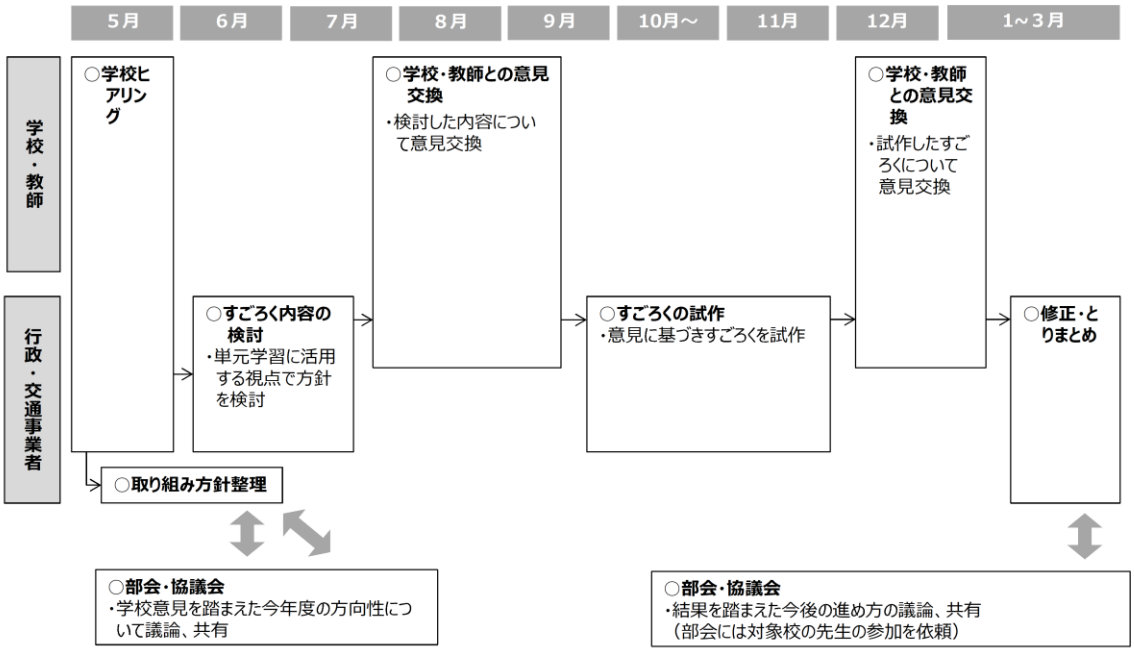
図 6-23　資料２－今年度の検討の進め方（２/３）

【資料２】今年度の検討の進め方 5

（３）鉄道すごろくの活用（志津南小）

○既存の取り組みに合わせ内容方針を検討し、夏休みに協議

▼スケジュール



【資料２】今年度の検討の進め方 6

（４）工夫についての意見交換

①交通資源を用いて地域愛着を醸成するための工夫について

○地域愛着につなげるための工夫
⇒どんな観点で交通を使うと良いか
⇒学習に使えそうな資源はないか
（マップ、時刻表、人・・・）

＜交通素材を通じ、歴史的な地域への理解・愛着を醸成するプログラムの例＞
・交通と地域の交流が生む街道文化やまちの風景について、日常の交通行動から理解、実感する
・併せて、現在の車中心の交通文化に対する見方を持つ

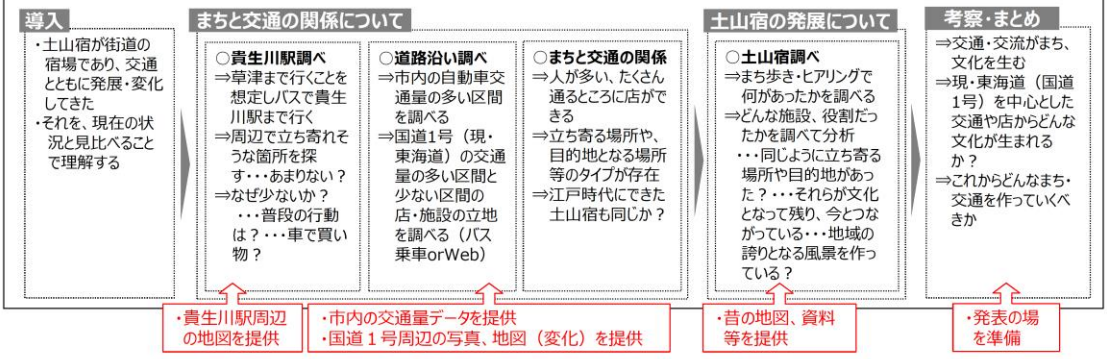


図 6-24 資料２－今年度の検討の進め方（３/３）

6-3-3 議事概要

第１回新たな視点での検討部会の議事概要を以下に示す。

１．開会	
事　務　局　：	只今より、「平成３０年度第１回近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会・新たな視点での活用検討部会」を始めさせていただく。 先ほどの既存資源の活用検討会でもありましたように本検討部会においても、会長を選任させて頂きたいと考えている。既存資源の活用検討部会についてはバス等を用いた出前授業が中心ということもあり、バス協会の野村副会長にお願いをさせて頂いたが、新たな視点での活用検討部会については、２年生から６年生までの縦断的な学習機会の提供、また６年生のまとめとして政策提言に係る学習を考えており、京都市でフォーラムの開催に携わられている水山副会長に新たな視点での検討部会会長にお願いしたいと思うが皆様よろしいか。
委　　員　：	異議なし
事　務　局　：	それでは水山副会長を新たな視点での検討部会の会長に指名させて頂く。水山副会長には何かとご迷惑をおかけすると思うが、よろしくお願い申し上げる。 それでは、まず初めに新たな視点での検討部会について説明をさせて頂く。
２．新たな視点での検討部会について	
事　務　局　：	【資料-１新たな視点での検討部会について】について説明
芝　委　員　：	皆様の方からご質問やご意見はあるか。 ご意見がないようなので、引き続き議題に進みたい。
３．議題　今年度の検討の進め方	
事　務　局　：	【資料-２　今年度の検討の進め方】について説明
芝　委　員　：	今年度の検討の進め方について何かご質問やご意見はあるか。
市　川　会　長　：	鉄道すごろくを作成するということであるが、先生と相談しながら事務局が作成するのか、それとも子どもたちに作成してもらうのか、どちらを想定しているのか。
事　務　局　：	先生と意見交換をしながら作成することを想定していたが、子供に作ってもらうことも一つの案としては考えられる。 昨年度、志津南小学校に行き、既存の鉄道すごろくについて説明をさせて頂いた。既存の鉄道すごろくは情報量が多く、どんな学習に活用したら良いか分かりにくいと指摘されたが、滋賀県の地理的特徴や産業等について学習する社会科の授業前に遊べるものがあれば良いというご提案を頂いたため、今後単元に併せてどのような情報を掲載すれば良いかを整理していくことを考えている。
市　川　会　長　：	学校の先生とのイメージ共有ができているのであれば方向性を無理に変える必要はないが、既存の鉄道駅やバス停を用いて作成するだけでなく、各地域の土地利用等を子供に調べて作ってもらうことで地域学習にもつながると考える。 また他府県では、紙ベースのすごろくを作るのではなく、答えの書かれた座布団をマスに見立てて、すごろくとして遊んで学習している事例もある。

事　務　局　：	他府県の事例については今後の参考にさせて頂く。 資料の補足をさせて頂くと、資料２のＰ６に記載している歴史的地域を理解する学習プログラムは、事務局で考えている一例であり、実際に行うということではないので、その点は留意して頂きたい。 また、大野小学校へのヒアリングを行った際に、この学習プログラムの例を提示させて頂いたが、現在行っている総合学習は歴史を知るだけで終わってしまっており、例示されている内容であれば今後のまちのあり方を考える学習としてつなげていくことができるかもしれないというご意見を頂いた。そこでこれを踏まえ、例年通りの総合学習を行うことを基本とした上で、その中にこちらが提示させていただいた内容をどう組み込んでいけるか先生と意見交換を行いながら検討していきたいとを考えている。
市　川　会　長　：	土山小学校も６年生の総合学習として歴史について学習しているのか。
事　務　局　：	土山小学校でも同様の内容を学習している。
市　川　会　長　：	具体的な取り組み内容については、学校の先生と相談しながら進めていく必要があると思うが、発表のまとめ方のアイディアや計画はあるのか。
事　務　局　：	自分たちのまちの将来について考える未来会議のような場で、市町の交通部局の担当者に対し提案を行うイメージを考えている。しかし、どのような発表の仕方が良いのかについては、委員の皆様からのご意見を頂きながら進めていきたい。
近　藤　委　員　：	甲賀市では、未来会議として「甲賀市子ども議会」というものがあり、政策提言を行う場として活用することもできると思うが、実際に行うかどうかは学校の先生の意向を踏まえた上で検討していく必要があると考える。
事　務　局　：	大野小学校の教頭先生からは、「発表を行うのであれば、議場でできたら子供たちの良い経験になる」とご意見を頂いたが、実際に行うとなると甲賀市の議会との調整を行う必要があるので、その辺については慎重に検討していきたい。
芝　委　員　：	大野小学校や土山小学校が行う学習に対して交通素材を上手く活用していき、それが今後３年間検討していく際の一つの事例になれば良いと思う。 また、交通すごろくについても、市川会長のお話しにもあった誰が作成するのかということだけでなく、エリアを地域に特化したものにするのか、県全体を対象としたものにするのかということも考えていく必要がある。地域に特化したもので、バリエーションが増えてしまうとツールの作成だけで相当な負担となってしまうと思うので、その辺りも今後検討していきたいと考えている。
市　川　会　長　：	交通とは何かということを考えた時に、「乗り物」と「道路」と「乗り方」の３つの観点があり、その３つの観点をどうまちづくりの学習に組み込んでいくかが難しいと思うが、自分たちのまちの交通の様子と理想とするまちの将来像がマッチしているのかを調べていく学習は良いかもしれない。
水山副会長　：	少し話が変わるが、２点ほど質問をさせて頂く。 この新たな視点での検討部会は、学校の先生に入って頂いて意見交換を行う予定はないのか。 あと、学校では交通環境学習を実施するための体制ができているのか。
事　務　局　：	学校の先生に検討会の委員に入って頂くことは考えていないが、検討会のテーマに応じて、アドバイザーという形で参加して頂きたいとは考えている。 また学校内の体制については、事務局から何か働きかけて体制をつくって頂くということはし

	ていない。
水山副会長：	体制がつくられていないのであれば、学校とはどのような取り決めをしているのか。例えば、契約書の様なものを交わしてあったりするのか。
事務局：	現在は学校との取り決めは行っていない。しかし、東近江市の布引小学校へヒアリングを行った際にも、交通環境学習を実施するという何らかの取り決めが必要なのではないかというご意見を頂いたので、モデル校については依頼文という形で出させて頂きたいとは考えている。
芝委員：	現状としては、学校と何らかの取り決めをしているのではなく、学校の校長先生や担当教諭と個別にお話しをさせて頂き、交通環境学習に取り組んでいこうとなっている状態である。きちんとした体制があれば良いとは思うが、そのような体制をつくらなければいけないとなると、この取り組みを実施して頂ける学校が少なくなってしまうのではないかと考える。
水山副会長：	詳細な取り決めをする必要はないと思うが、今は学校がやる気になっていたとしても、途中でやめられてしまう可能性があるため、その点は不安である。それを考えると、学校と関係性が強い教育委員会に入ってもらい、何かの枠組みを作っておいた方が良いと考える。
芝委員：	今年度は、滋賀県教育委員会の方にも研究会委員として入って頂いており、市の教育委員会と連携する一つのモデルについては、現在東近江市の教育委員会の方とお話しをさせて頂いているところである。 また、他の学校でも、市町の中で交通セクションと教育セクション間で話をして頂き、進めてもらっている。
近藤委員：	水山副会長のお話しにあったように、学校との間で実施体制をつくって頂いていたら、学校の担当者が変わったとしても話を進めていきやすいと思うし、やはり学校に話をしに行く場合は、教育委員会と連携できた方が市町の担当職員としても有難い。
水山副会長：	少し話しを戻させて頂くが、やはりこのメンバーで検討会を進めていくよりも、常に学校の先生を入れる形にして進めていく必要があると考える。
芝委員：	学校の先生については夏休み期間中に取り組み内容について打ち合わせを行う予定であるが、もしこのような研究会の場に来てもらうとなった場合は大きな枠組みというより具体的な取り組み内容について議論していくイメージで良いのか。
水山副会長：	研究会の中でこのような枠組みで進めていくことになりましたと言われても、学校からすると勝手に事を進められている印象がするのではないか。それを考えると、具体的な取り組み内容の議論だけでなく、大きな枠組みや全体の流れについて議論を行う場にも参加して頂いた方が良いと考える。また、学校文化の中で過ごしてきた先生にとって、行政職員や交通事業者等、教育関係者以外の人もこのように学校教育について議論をしていることを知ってもらうのも意義があると思うので、ぜひご検討をお願いしたい。 校長先生だけがやる気になっているのか、それとも担任の先生がやる気になっているのかも重要であり、どちらか一方がやる気になっていても上手くはいかないので、どちらの先生も研究会に来てもらえる形ができれば良いと思う。
事務局：	水山副会長のご指摘の通り、お互いに顔を合わせた上で議論をした方が互いの考えをより理解できると思うので、学校の意向次第ではあるが可能であれば学校の先生方にも参加して頂きたいと思う。 取り組み内容については何かご意見等はあるか。
水山副会長：	京都市でも似たような取り組みを行っているが、上手くいっていないケースもあるので、どんな取り組みをするかということだけでなく、先ほどお話しさせて頂いたような学校との関係性をつ

	くっていくことも忘れずに進めて頂きたい。
市　川　会　長　：	では、研究会に来てもらうか、検討部会の方に来てもらうかは考える必要があると思うが、夏休みの間に一度学校の先生を交えて話をするということで良いか。
事　務　局　：	モデル校については、情報交換も含めて学校同士の顔合わせはできたら良いと思っていたので、その会を研究会や検討部会と併せて実施するように調整を行いたい。
芝　委　員　：	他に何かご意見やご感想等はあるか。 　ご意見がないようなので、次回の研究会について案内をさせて頂きたい。
４．その他	
事　務　局　：	次回の研究会は、７月３日の１４時から場所は大津合庁で行う予定である。お忙しいところ恐縮ではありますが、ご参加頂きますようよろしくお願い申し上げる。
芝　委　員　：	委員の皆様、長時間にわたり活発なご議論・ご提案を頂き有難く思う。学習プログラムの内容については引き続き検討を進めていきたいと思うので、皆様のご協力をお願い申し上げる。以上をもって、「平成３０年度第１回近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会・新たな視点での活用検討部会」を閉会とする。

6-4 第３回研究会

6-4-1 研究会の概要

第３回研究会の開催概要を以下に示す。

表 6-4 第３回研究会の概要

項目	内容
開催日時	平成 30 年７月３日（火）14：00～16：00
開催場所	滋賀県庁大津合同庁舎　５-A 会議室
出席者	【会長】市川　智史(滋賀大学　環境総合研究センター　教授) 【副会長】水山　光春(京都教育大学　教育学部 教授) 野村　義明(滋賀県バス協会 専務理事) 【委員】　畔柳　滋(トヨタ自動車　未来開拓室 担当部長) 野口　明(ＪＲ西日本　地域創生室　　室長) 本間　倭(代理)(東近江市　交通政策課) 宮永　幹雄(彦根市　交通対策課 課長) 高岡　良秀(草津市　交通政策課 課長) 近藤　直人(甲賀市　公共交通推進課 課長) 永井　慎太郎(教育委員会　幼小中教育課　　指導主事) 道久　聡(国土交通省　滋賀運輸局 主席運輸企画専門官) 芝　久生(滋賀県土木交通部　交通戦略課 参事) 【事務局】岡本 英晃(交通エコロジー・モビリティ財団　交通環境企画課 担当課長) 丸本　絵巳(滋賀県土木交通部 交通戦略課 主任主事) 森　陽介(滋賀県土木交通部 交通戦略課 主事) 小林　知子(滋賀県土木交通部交通戦略課 エコ交通推進員) 土崎　伸(株式会社オリエンタルコンサルタンツ　総合計画部 副主幹) 東川　祐樹(株式会社オリエンタルコンサルタンツ　総合計画部 技師)
議事次第	１．開会 ２．昨年度までの状況 ４．議題 （１）検討のコンセプト、スケジュールについて （２）小学校へのヒアリング結果 （３）既存の資源を活用した取り組みの検討方法 （４）新たな視点での取り組みの検討方法 （５）分科会の設置について
資料	議事次第 資料１　昨年度までの状況 資料２　コンセプト・スケジュール 資料３　小学校ヒアリング結果 資料４　既存の資源を活用した取り組みの検討方法 資料５　新たな視点での取り組みの検討方法 資料６　分科会設置規程（案） 資料７　分科会について

6-4-2 会議資料

(1) 議事次第

第３回 近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会

議事次第

日 時 平成 30 年 7 月 3 日（火）14：00～16：00
場 所 滋賀県大津合同庁舎 5-A 会議室

１．開会

２．昨年度までの状況　資料１

３．議題

（１）検討のコンセプト、スケジュールについて　資料２

（２）小学校へのヒアリング結果　資料３

（３）既存の資源を活用した取り組みの検討方法　資料４

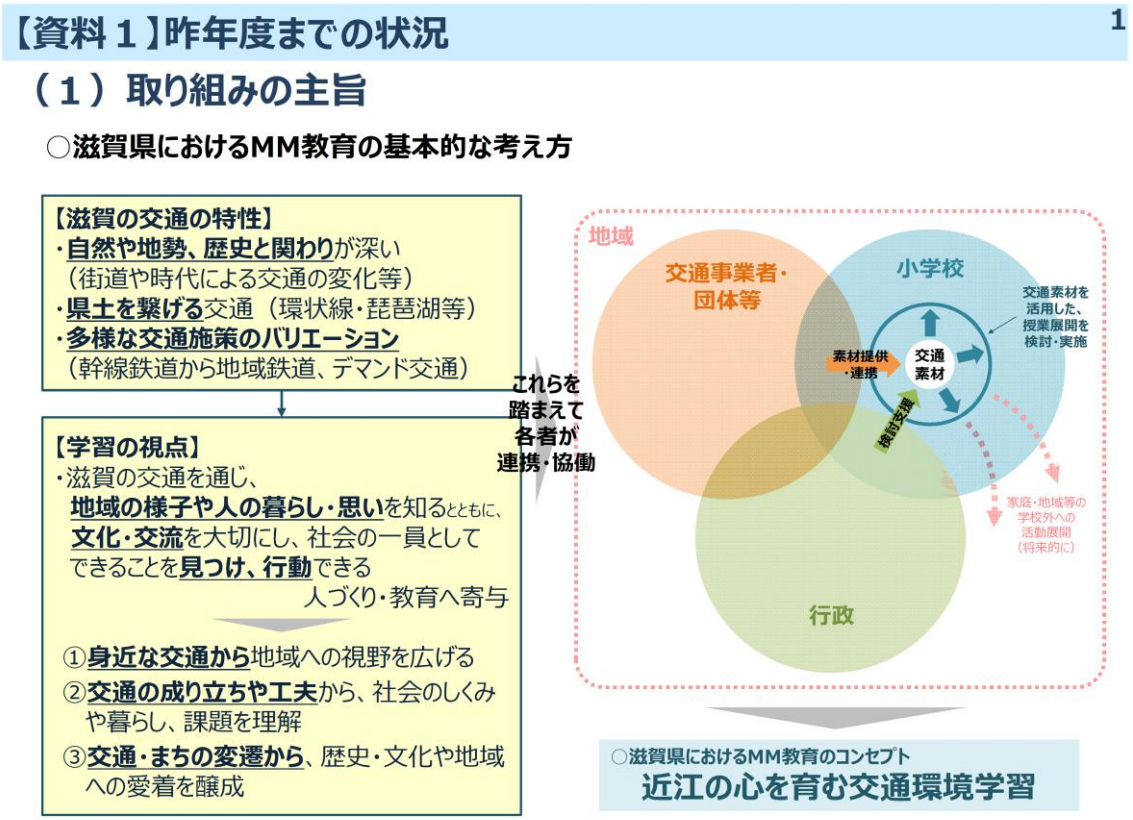
（４）新たな視点での取り組みの検討方法　資料５

（５）分科会の設置について　資料６・資料７

【配布資料】
議事次第
資料１ 昨年度までの状況
資料２ コンセプト・スケジュール
資料３ 小学校ヒアリング結果
資料４ 既存の資源を活用した取り組みの検討方法
資料５ 新たな視点での取り組みの検討方法
資料６ 分科会設置規程（案）
資料７ 分科会について

図 6-25 議事次第

(2) 資料１　昨年度までの状況



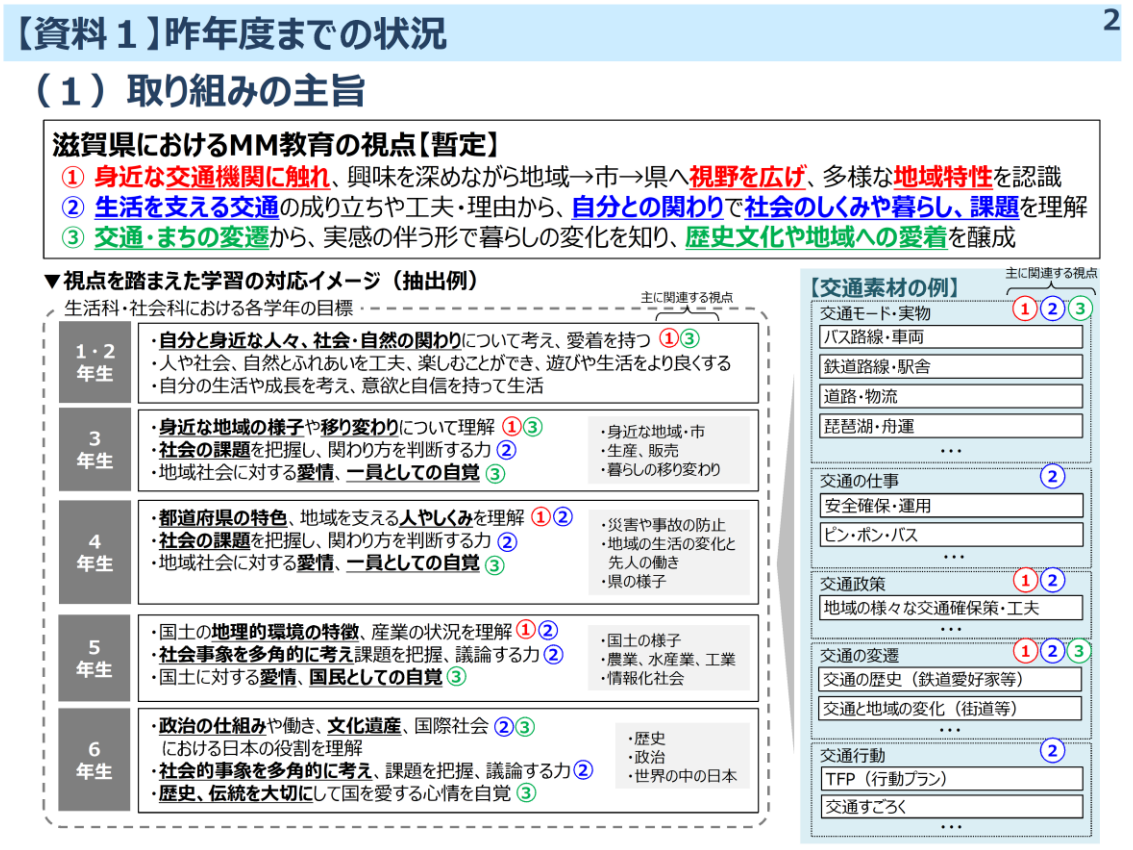


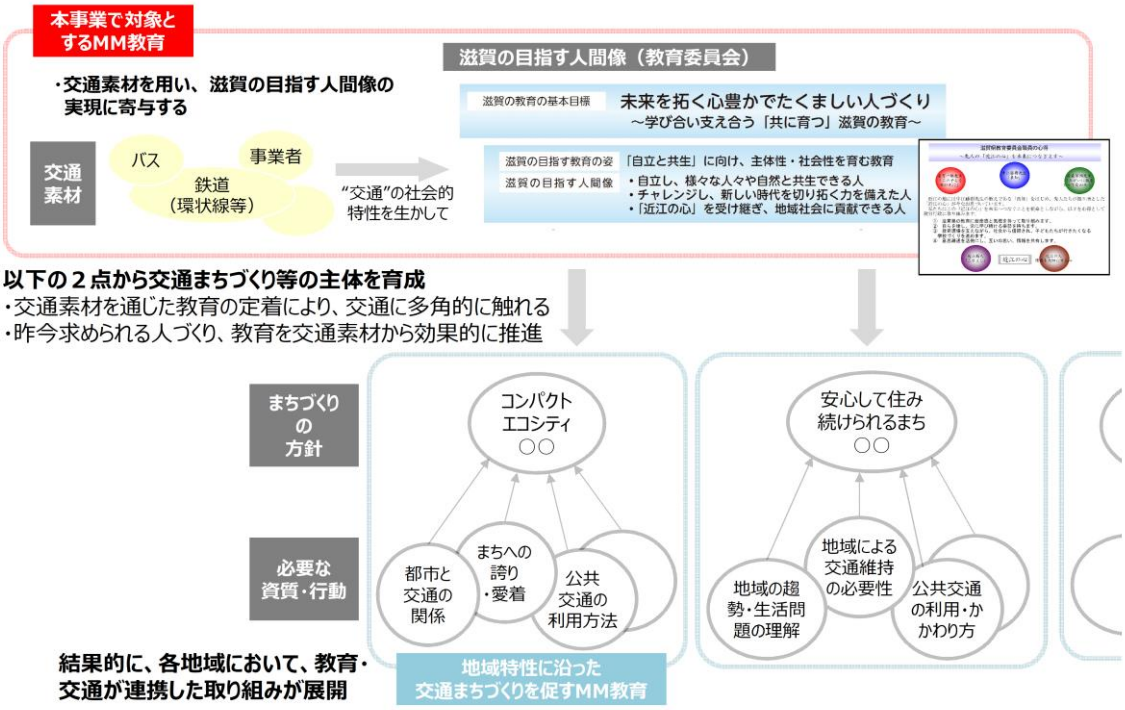
図 6-26　資料１－昨年度までの状況（１/５）

【資料１】昨年度までの状況

3

（１）取り組みの主旨

○取り組みの行政施策としての目的・効果



【資料１】昨年度までの状況

4

（２）全体的な検討の流れ

○検討の進め方（平成29年度-平成32年度）

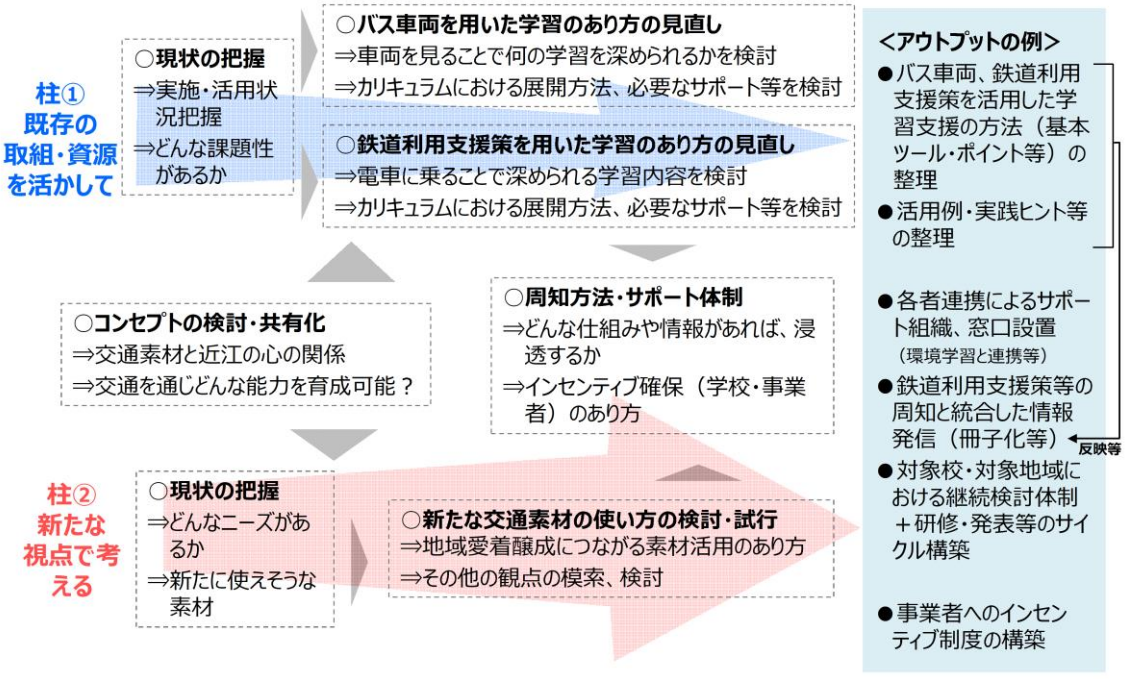


図 6-27 資料１－昨年度までの状況（２/５）

【資料１】昨年度までの状況 5

（３）既存の取り組みの検討イメージ

○バス車両の有効活用の方針案

バス車両を用いた学習についての課題

＜H29ヒアリング結果＞

・バス車両は「動学」への資源として可能性あり。
・探検の準備の機会として重宝されているが、交通から社会認識・理解が深めるという活用は限定的と考えられる。
・プログラムの固定化は望ましくない。
・福祉や県、政治の学習での活用可能性がある。

検討方針案

○単なる移動ツールとしてではなく、**交通に触れることでまちへ認識を深める工夫**の仕方（２年生生活科）や、福祉等での活用を検討
○学校の活用、アレンジしやすい**素材提供の方法・関わり方**を検討
⇒これまで実施されている学校において検討
⇒そのうち、1校程度で他の単元での活用を検討

【資料１】昨年度までの状況 6

（３）既存の取り組みの検討イメージ

○バス車両を用いた学習の検討イメージ

体験・実物をメインとした学習活動　事前・事後の学習

	検討例
生活科・特別活動での有効活用	●単なる移動ツールとしてではなく、交通に触れることでまちへ認識を深める工夫を検討 ⇒バスを通じて、**地域の広がりをより実感**できるように ⇒バス等がまちの中で**どんな役割**を持っているか、**どんな人が使ったり運転**しているか実感できるように ＜有効活用・工夫の例（生活科）＞ **事前** ○**乗り方等の予想** ・どうやったら行きたい所に行って帰ってこれるか？ ・いくらで行ける？得な乗り方は？ ・どうやって乗るか、全員乗れるか？ ・運転手はどんな人か？ ・本番ではどんな人が利用するか？ ※心の準備も兼ねて ・マップ、時刻表、運賃表等を提供 ・バスの写真等を提供 **予行演習（車両体験）** ○**校庭で乗車体験** ・乗り方・乗れる人数があっているか確かめる（一度にたくさん乗れることを実感） ・できれば走って安全な乗り方も確認 ○**運転手インタビュー** ・どんな人か聞いてみる（運転手になった理由等） ・バス車両を提供 ・乗車体験をサポート **本番** ○**まち探検** ・バスで移動 ・バスから見える施設やどんな人が乗ってきたかを記録（バスが繋ぐ地域の姿をより良く理解） **まとめ** ○**まとめ** ・まちのようすの振り返り ・バスの機能を確認、共有
新たな単元等での活用	●福祉での活用 ⇒バス車両等を見ることで、色んな場面で福祉面の**工夫や問題点を感じられる**ように ⇒高齢者や障害者の**気持ちを理解**し、（バス利用やマナー等を含め）**行動**が取れるように ＜試行の例（福祉学習／総合学習等）＞ **事前** ○**何に困っているかの予想** ・高齢化等の動向を知る ・生活のパターンを考える ・バスや電車で移動する場合、どんな場面で困るのか？ ・バス停等の施設写真、構造が分かる図面などを提供 **車両観察** ○**どんな工夫があるのか** ・工夫を探す、使いにくいところを探す ・工夫の理由を考える ・困る場面など再整理 ・バス車両を提供、観察をサポート ・高齢者体験キット、車イスを貸出し **確認** ○**高齢者・障害者の話を聞く** ・整理をもとに、どんなことに困るかを聞く **まとめ** ○**まとめ** ・どんな工夫がどんな思いでされているか ・もっと必要な工夫は ・自分にできることは ・提案を聞く ・感想、評価

図 6-28　資料１－昨年度までの状況（３/５）

【資料１】昨年度までの状況

7

（３）既存の取り組みの検討イメージ

○鉄道体験の有効活用の方針案

鉄道利用体験についての課題

＜ヒアリング結果＞

・地域を見に行く機会として重宝されている。

・交通から社会認識・理解が深めるという活用は限定的と考えられる。

・補助の申請にハードルが存在。

検討方針案

○単なる移動ツールとしてではなく、**鉄道に触れることで県土へ認識を深める工夫**を検討

○学校の活用、アレンジしやすい**素材提供の方法**を検討

⇒これまで補助を実施されている学校において検討

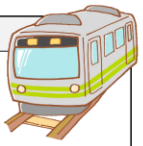
【資料１】昨年度までの状況

8

（３）既存の取り組みの検討イメージ

体験・実物をメインとした学習活動　　事前・事後の学習

○鉄道利用体験を用いた学習の検討イメージ



検討例

●単なる移動ツールとしてではなく、交通に触れることで県土へ認識を深める工夫を検討

⇒鉄道を通じて、**地域の広がりをより実感**できるように

⇒鉄道や交通との関わりから、地域特性の違いに**どのような社会的背景**があるのか実感できるように

＜例（地形・気候を生かした産業）＞・・・移動を通じて、特徴的な農業の成り立ちを実感

社会科（県の学習）での活用	事前	調べ学習	体験学習	まとめ
	○県の広がり ・県の人口分布と産業の関係を整理 ・特徴ある農業の地域を把握 ・なぜそうなっているのか？	○地域の背景 ・その地域の農業の背景を調べる（地形、気候の関係について）	○環状線乗車体験 ・その地域に電車で行ってみる ・目的地までの地形特徴の変化を観察、撮影等（地形特性を実感） ○地域体験 ・産業の様子を見る、体験する ・地形的特性との関係を確認	○まとめ ・県の地形特性の振り返り ・農業とのかかわりの確認、共有
	・行政の統計データ等を提供		・環状線プログラム補助 ・車窓から見られる資源等の情報提供	

＜例（古い町並みが残る地域）＞・・・交通と関連付けて見ることで、古い町並みが残る理由、町並みの特性を理解（交通と地域の関わりの強さ、公共交通拠点周辺の賑わい等を理解）

	事前	ゲスト講義・調べ学習等	体験学習	まとめ
	○県の広がり ・現在と昔の人口、町の広がり ・同じところ、違うところはどこか？ ・なぜそうなっているのか？ それぞれどんな所か？	○鉄道整備の歴史 ・今と昔の鉄道網 ・変遷の概況 ○昔の街道 ・街道の種類、成り立ち ○仮説整理 ・まちと交通の関係を予想（昔から交通があった所と新たな所？）	○環状線乗車体験 ・昔と今で変わった地域／変わらない地域に電車で行ってみる ・目的地に向かうまでの町並みの変化を観察、撮影等 ○地域体験 ・駅の周りの町の様子を見る ・どんな特徴があるかを観察、記録	○まとめ ・街の変化と交通の関係について振り返り ・町並みの違いとその背景を整理、共有
	・行政の統計データ等を提供	・ゲストティーチャーの紹介、調整	・環状線プログラム補助 ・車窓から見られる資源等の情報提供	

図 6-29　資料１－昨年度までの状況（４/５）

【資料１】昨年度までの状況

9

（４）新たな視点の取り組み検討イメージ

○新たな視点での検討方針案

新たな視点での検討の課題

＜H29小学校ヒアリング結果＞

・交通から地域へ愛情を醸成する観点での検討は、効果的な切り口になる可能性がある。特に、今後の地域での取り組みの発展に寄与する可能性がある。

・交通を街道等の資源と結びつけることも視点として考えられる。

地域愛着の構成要素 ※小学校学習指導要領解説社会編P29/③「学びに向かう力，人間性等」に関する目標 より

○国土に対する愛情

・身近な地域や市、県の様子についての指導を踏まえて、我が国の国土の**地理的環境**とそこで営まれている産業の様子などの理解を図り、我が国の国土に対する愛情を育てる

○我が国の歴史に対する愛情

・**市を中心とした地域の人々の生活の変化**や県を中心とした地域の**伝統や文化**、地域の発展に尽くした先人の働きの指導を踏まえ、我が国の歴史に対する理解を深めるとともに、我が国の歴史に対する愛情を育てる

検討方針案

○公共交通や街道等の資源を用い、地域愛着につながる**地域社会の理解**（地域の地理特性や人々の生活、その変化や伝統・文化等）**を醸成する活用のあり方**を検討

⇒今後小学校と協議を進めながら検討

※その他の視点についても、引き続き模索しつつ必要に応じて検討する

【資料１】昨年度までの状況

10

（４）新たな視点の取り組み検討イメージ

○新たな視点での検討イメージ

体験・実物をメインとした学習活動　事前・事後の学習

	新たな視点での検討イメージ
地域愛着の醸成	・街道や交通から、社会を理解し愛着を持つ ⇒街道や交通を通じて、**地域の変化**を理解・実感できるように ⇒（公共交通や街の衰退を含め）**変化がどのような問題につながっているか**理解できるように ＜例＞ **事前** ○**交通の変化** ・昔の街道、数十年前・現在の道路、バス等のネットワークの違い ・なぜ変化したか、どんな暮らしの変化があったか？ ・昔の地図等を提供 **体験学習** ○**街道歩き** ・街道沿、幹線道路沿いそれぞれを探索 ・それぞれでみられるもの（沿道の施設・道路の車線数・バス路線の状況、車の数、人の数等）を記録、比較 **調べ学習** ○**暮らしの変化** ・街でみたものや写真・文献などから調べる（現場では分からなくなっていることを補足） ・昔の暮らし（居住箇所・移動・日常生活等）の様子、今に残っている名残りは？ ・最近起こった変化、暮らしの変化、それによる問題は？ ・昔の写真、文献、街道に関する情報等を提供 **まとめ** ○**まとめ** ・暮らしの変化、変遷ついて振り返り ・暮らしの変化により発生している問題
その他	・ゲーム形式で、交通や位置関係を意識しつつ、興味を持って単元に入れる仕掛等を検討 （例：県内各地域の自然特性編・文化特性編・歴史エピソード編）

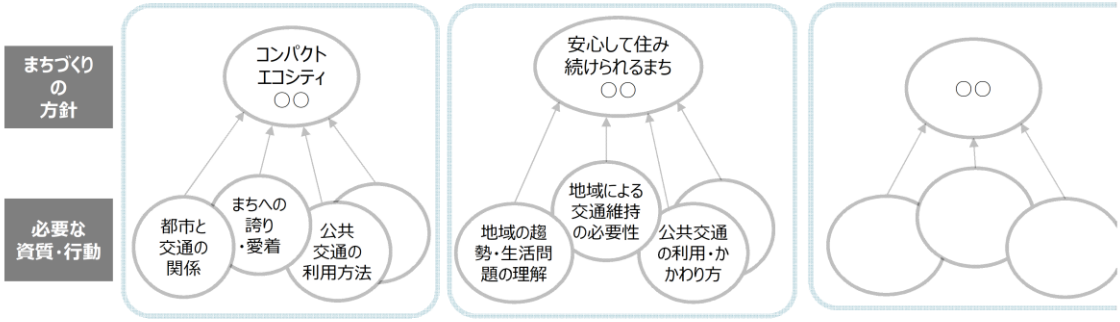
図 6-30　資料１－昨年度までの状況（５/５）

(3) 資料２　コンセプト･スケジュール

【資料２】コンセプト･スケジュール　1

（１）検討コンセプト

（仮）自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成
（交通を切り口に）



未来のまちづくり･地域社会をになう子供たちにとって有益な学習を、
教育素材として「交通」を切り口として実施（サポート）していく。

効果的な学習方法、ツール、サポート方法の検討において、モデル校を制定し、検討を進めていく

【資料２】コンセプト･スケジュール　2

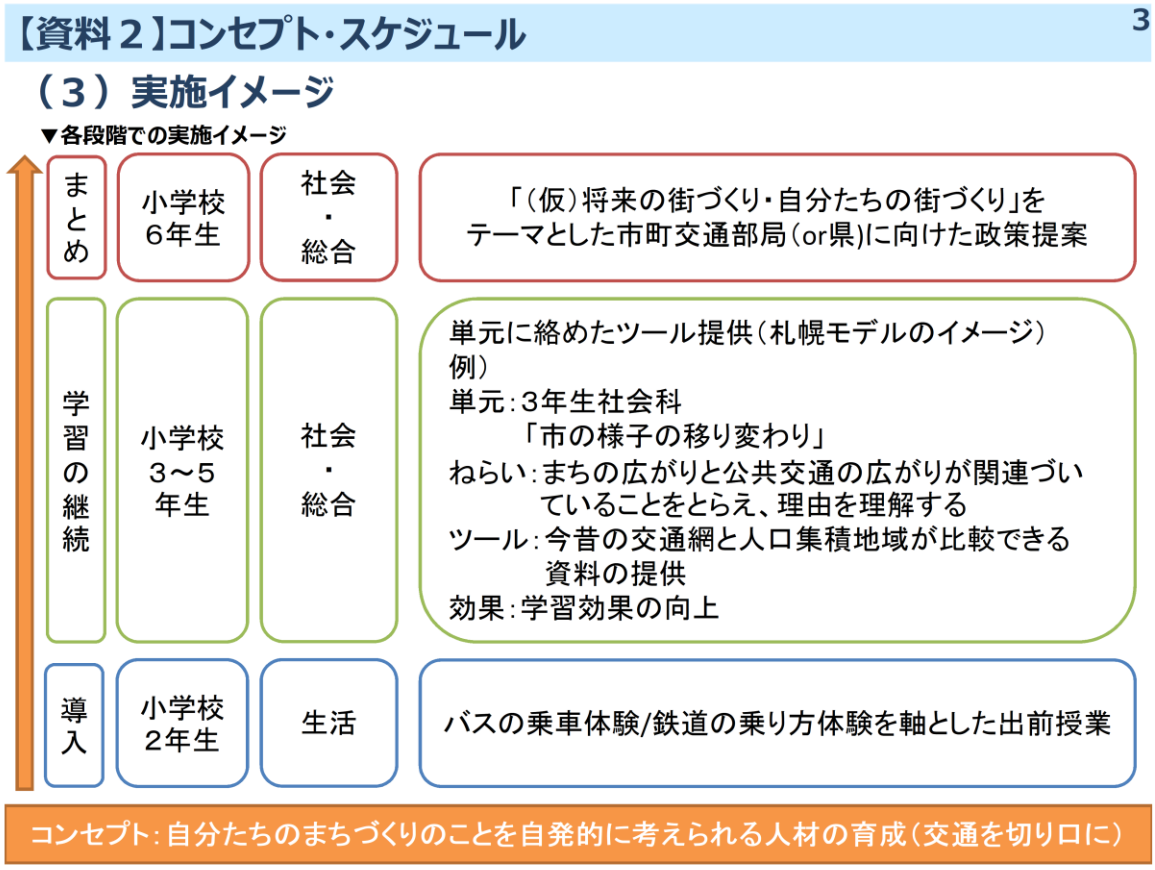
（２）検討スケジュール

スケジュール

平成29年度（1年目）	･研究会の立ち上げ ･コンセプトメイキング
平成30年度（2年目）	･ツールの検討、作成、実施 ･縦断型授業の内容検討、学年ごとでのプレ実施 ･実施市町の拡大（6市町→10市町）
平成31年度（3年目）	･ツールのブラッシュアップ、実施 ･縦断型授業のブラッシュアップ、プレ実施学校の拡大 ･実施市町の拡大（10市町→14市町）
平成32年度到達目標	･2～6年生における、学校で活用できるツールの完成 ･2年生における体験学習のしくみ/ルート/手順の確立 ･2～6年生までの学年縦断型授業の確立 ･19市町での交通環境学習の実施

「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるサポート体制の確立を目指す

図 6-31　資料２－コンセプト･スケジュール（１/２）



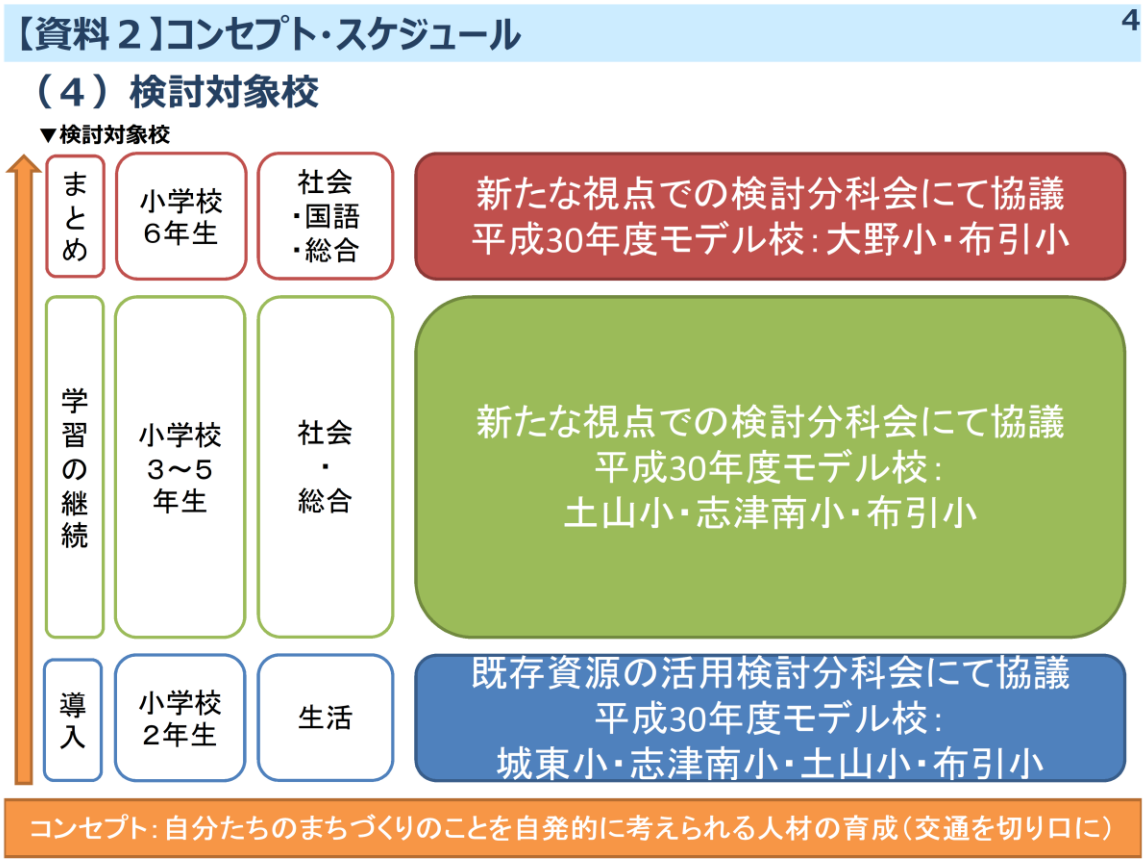


図 6-32 資料２－コンセプト・スケジュール（２/２）

(4) 資料３　小学校ヒアリング結果

【資料３】小学校ヒアリング結果　1

（１）対象とした小学校

○昨年度実施後のヒアリングを行った５校の今年度の先生へ、既存の取り組みの活用や新たな視点での取り組みの意向についてヒアリング

▼ヒアリング対象校

		対象の先生	備考
彦根市	城東小学校	・2年生担当教諭（2名）	・彦根市独自で5年間実施
草津市	志津南小学校	・5年生担当教諭 ・4年生担当教諭	・2年前よりバスの乗り方教室を実施
甲賀市	大野小学校	・教頭 ・6年生担当教諭	・昨年度バスの乗り方教室を実施
	土山小学校	・校長 ・教頭	・昨年度バスの乗り方教室を実施
東近江市	布引小学校	・校長	・昨年度バスの乗り方教室を実施 ・校長先生が以前交通戦略課に在籍

【資料３】小学校ヒアリング結果　2

（２）彦根市・城東小学校

▼概要

住所	滋賀県彦根市京町2丁目2番19号
生徒数	２７６人
目指す子供像	・自分にきびしく、人にやさしく
MM教育実施状況	・彦根市独自で5年間実施

▼位置図（広域）

▼学校経営全体管理計画（一部抜粋）

▼周辺の交通状況

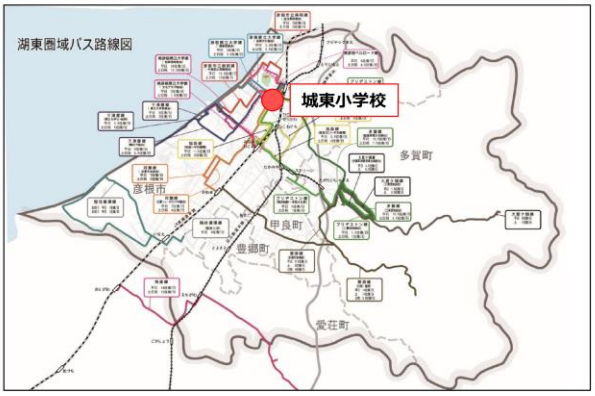


図 6-33　資料３－小学校ヒアリング結果（１/６）

【資料３】小学校ヒアリング結果

（２）彦根市・城東小学校

実施日時	・平成30年5月29日
ヒアリング対象	・2年生担当教諭（2名）
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度2年生の生活科で実施してもらった取り組みは、交通のことを学ぶきっかけとしてはすごく良かった。実際にバスに乗る方法などが分かるのは助かる。**昨年度の出前授業をベースに実施**していただけるのはありがたい。 ・事前にマップなどを見るのは授業でお出かけをした際のまちの広がりに対する認識が広がり**とても良い**と思う。サポートしてもらえるなら**やってみたい**。 ・関連単元の学習計画を提供する。 （⇒学習計画を踏まえて、事務局からサポートできる事項を検討し、夏休み頃に協議を実施） **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・４年生の福祉（総合学習）などは、バスを活用してできるかもしれない。 ・今回せっかくバスが来てくれるので、他の学年で**興味があれば活用してもらうように促したい**。

【資料３】小学校ヒアリング結果

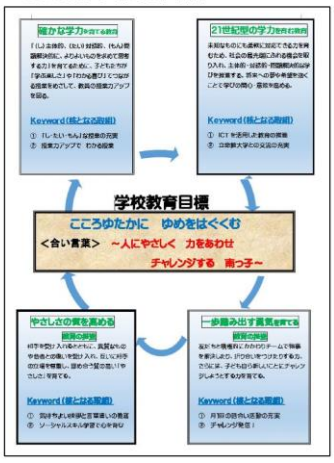
（３）草津市・志津南小学校

▼概要

住所	滋賀県草津市若草2丁目16-2
生徒数	７０７人
目指す子供像	・人にやさしく、力をあわせ、チャレンジする南っ子
MM教育実施状況	・2年前よりバスの乗り方教室を実施

▼位置図（広域）

▼志津南小教育目標



▼周辺の交通状況

図 6-34　資料３－小学校ヒアリング結果（２/６）

【資料３】小学校ヒアリング結果

5

（３）草津市・志津南小学校

実施日時	・平成30年5月31日
ヒアリング対象	・5年生担当教諭 ・4年生担当教諭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・２年生生活科での取り組みは、校外学習に現在良いところがないかを探しているような状況だが、**昨年度並みの学習**はしてもらえるとありがたい。 ・前後の素材活用についても、現時点で大がかりなことは難しいが、理解が深まって良いと思う。一緒に**考えてもらえるのはありがたい**。 ・夏休み頃になるかもしれないが、当該単元の学習計画ができたら打ち合わせしたい。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・２年生以外で興味があるかどうかは**声掛けをしてみる**。３年生での地域学習、５年の**フローティングスクール**の事前学習、福祉学習などにも関連づけられる可能性があると思う。 ・昨年度、アイディアとして出ていた**すごろくはどうなっているか**。4年生社会科等の単元の**事前学習等にちょうど良い**ものがあれば放課中等に**使える**と思っている。 ・夏休みであれば比較的時間も取れるので**一緒に検討することも可能**。次年度等に、試行することも可能である。 （⇒夏休みの打合せにあわせ、すごろくの方向性を検討し意見交換）

【資料３】小学校ヒアリング結果

6

（４）甲賀市・大野小学校

▼概要

住所	滋賀県甲賀市土山町大野949
生徒数	１１８人
目指す子供像	・思いやりいっぱいの大野っ子 ・自ら学ぶ大野っ子 ・笑顔であいさつ大野っ子
MM教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施

▼位置図（広域）

▼周辺の交通状況

図 6-35 資料３－小学校ヒアリング結果（３/６）

【資料３】小学校ヒアリング結果 7

（４）甲賀市・大野小学校

実施日時	・平成30年5月24日
ヒアリング対象	・教頭 ・6年生担当教諭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討） ・土山における交通を活かした取り組みのイメージ
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度は生徒が少なかったため2年生の校外学習をバス・電車を利用したが、今年度は22人おり要支援の子供もいる。そのため今年度は**貸切バスを利用**の予定。 ・草津線は利用するため昨年のような**切符の買い方等の学習**はお願いしたい。 ・バス通学の子供も多く、３年生の警察署やフレンドマート見学、６年生の演劇鑑賞などでもバスを使うため、２年生で無理にバス学習をすることはないと考えている。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・６年生の政治で市が**コミュニティバスを運行する理由**等は良い素材になると思う。 ・また、この地域は歴史的な交通の要衝である。東海道で野洲川を渡るのに橋が無かったため、大野付近に旅籠がたくさんあるという特徴もある。 ・例年６年生の総合学習で歴史を学んでいるが昔を知るだけになっており**展望がない**。交通を絡めて変化を学んでいくと、**自分の生活に活かせるような学習になる**のではないかと感じる。クラスを４～６くらいのグループに分けて、提案をこども未来会議のような形で市役所にぶつけたりするとよい経験になる。 ・これまでの基本的な流れをベースに、**一緒に検討**してみたい。 （⇒学習計画を踏まえてサポートできる事項を検討し、夏休み頃に協議を実施）

【資料３】小学校ヒアリング結果 8

（５）甲賀市・土山小学校

▼概要

住所	滋賀県甲賀市土山町北土山1462
生徒数	１７８人
目指す子供像	・(夢)：好奇心／冒険心／意欲／元気があふれる元気な子 ・(力)：学びにむかう力／思考力／表現力／判断力があふれる考える子 ・(心)：豊かな心／助け合う心／関わる心があふれる助け合う子
MM教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施

▼位置図（広域）

▼土山小学ぶ力向上策（一部抜粋）

▼周辺の交通状況

図 6-36 資料３－小学校ヒアリング結果（４/６）

【資料３】小学校ヒアリング結果

9

（５）甲賀市・土山小学校

実施日時	・平成30年5月28日
ヒアリング対象	・校長 ・教頭
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討） ・土山における交通を活かした取り組みのイメージ
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・バスマップで２年生のまち探険を深めたり、インタビュー等をして４年生の地域を支える仕事を実感すると言った視点は意義があると思う。 ・現状で2年以外でも、3年生の学区の学習、４年生の水・ごみの学習、5年生のホールの子等で足としてバスを使用している。これをきっかけに**土山学が子供にとってより良いものに**なると良いと感じる。 ・これまでの出前授業をベースにしていくことを考えると、とりあえずは**2年生や3年生を対象として単元での活用**の仕方を検討するのが良いと考える。 ・2年生・3年生の当該単元の学習計画の略案を提示する。 （⇒学習計画を踏まえてサポートできる事項を検討し、夏休み頃に協議を実施） **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・次年度以降、**4年生や5年生**なども検討できると良い。地域学習を進めたいと考えており複数年かけ**幅広い学年の学習を深める研究**ができるのはとてもありがたい。 ・土山宿の空き家問題や再整備について、学校も入り地域で協議をしている。長期的にはそのような活動にも寄与するものになると良い。

【資料３】小学校ヒアリング結果

10

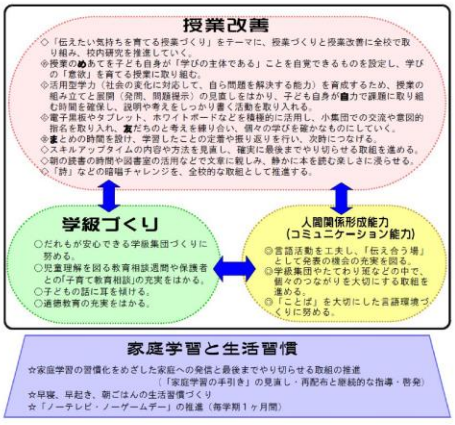
（６）東近江市・布引小学校

▼概要

住所	滋賀県東近江市今堀町５８１－１０
生徒数	２５５人
目指す子供像	［自分よし］ねばり強く学習する子 ［相手よし］友だちを大切にする子 ［社会よし］みんなで高め合える子
MM教育実施状況	・昨年度バスの乗り方教室を実施 ・校長先生が以前交通戦略課に在籍

▼位置図（広域）

▼布引小学ぶ力向上策



▼周辺の交通状況

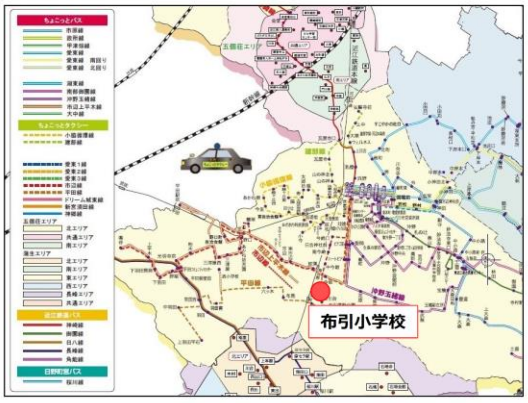


図 6-37 資料３－小学校ヒアリング結果（５/６）

【資料３】小学校ヒアリング結果

11

（６）東近江市・布引小学校

実施日時	・平成30年5月22日/6月26日
ヒアリング対象	・校長
提示内容	・交通環境学習のコンセプト（過年度検討） ・既存の取り組み、新しい視点の取り組みの実施イメージ（過年度検討）
ご意見	**＜既往の取り組みについて＞** ・昨年度の２年生での取り組みは**同様に実施**したいと考えている。 **＜その他の視点・時間での交通素材の活用について＞** ・その他で可能性があるのが、**３年生の布引博士**の学習と６年生の**まちの幸福論**の学習である。 ・布引博士は地域の人に話を聞いたりして地域のことを学んで行く。まちの幸福論は布引のまちがどのようになれば良いか考えてプレゼンをするという内容。布引小の地域にはバスも鉄道も街道もあり、いずれも**交通にも関わる**内容である。 ・ただし、子供自身が興味を持ったことを調べていくことが前提で、**交通に誘導することは難しい**。 ・個人的には**鉄道すごろくにも興味**がある。 （⇒２年生の出前授業をこれまでと同様に実施する中で、３年生や６年生の学習状況、すごろくの検討状況を共有し、必要に応じ行政が支援を試行）

【資料３】小学校ヒアリング結果

12

（７）まとめ

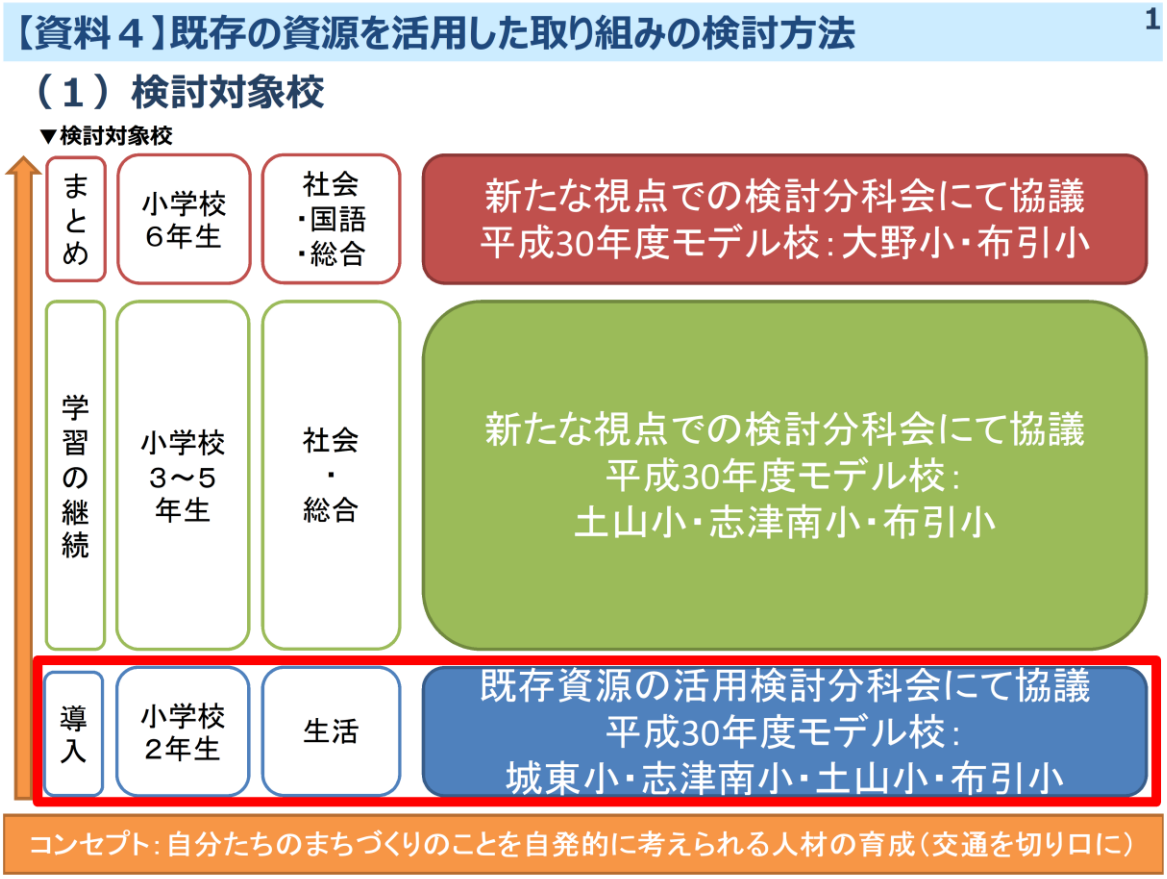
○既存の取り組み４校、新たな取り組み３校の実施・検討意向を確認

▼ヒアリング結果を踏まえた今年度の検討対象

		既存資源を活用した取り組み	新たな視点の取り組み
彦根市	城東小学校	○ ・バス車両出前授業の活用（２年生生活科）	― ※他の学年への声掛けの結果によって必要があれば検討
草津市	志津南小学校	○ ・バス車両出前授業の活用（２年生生活科）	○ ・すごろくゲームの活用を検討（４年生等の社会科）
甲賀市	大野小学校	―	○ ・まちの歴史の学習における活用（６年生社会科・総合学習）
	土山小学校	○ ・バス車両出前授業の活用（２年生生活科）	○ ・バスを使った校外学習の活用（３年生社会科） ※次年度以降、4・５年生等を含めて検討
東近江市	布引小学校	○ ・バス車両出前授業の活用（２年生生活科）	○ ・地域学習（布引博士/まちの幸福論）における活用を検討（３年社会科・総合学習/６年生国語・総合学習） ・すごろくゲームの活用を検討（４年生等の社会科）

図 6-38　資料３－小学校ヒアリング結果（６/６）

(5) 資料４　既存の資源を活用した取り組みの検討方法



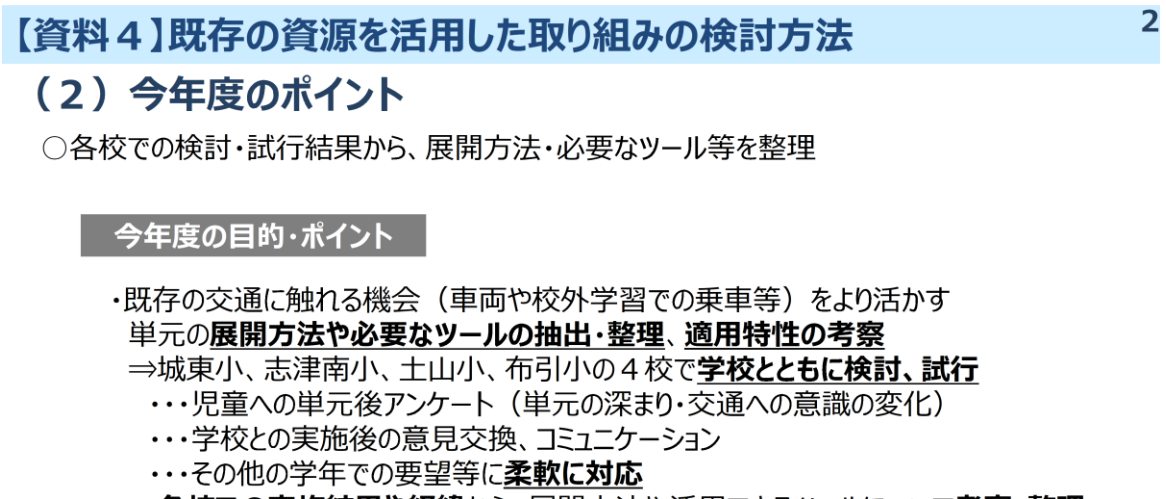


図 6-39　資料４－既存の資源を活用した取り組みの検討方法（１/４）

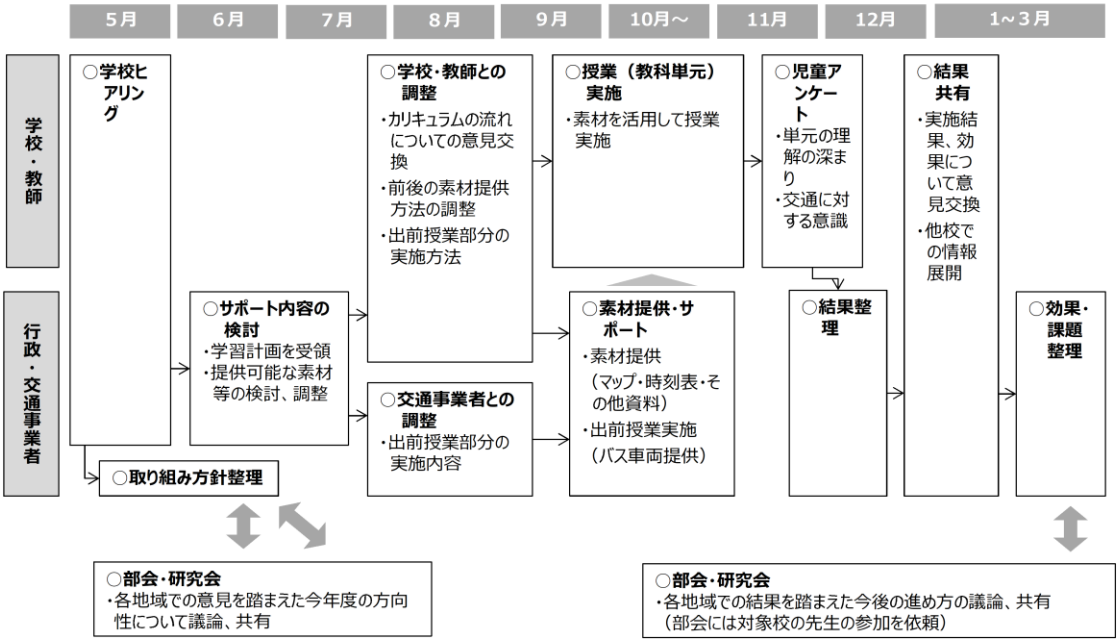
【資料４】既存の資源を活用した取り組みの検討方法

3

（３）検討の進め方

○当該単元の学習計画を受領・事務局イメージを検討し、夏休みに協議

▼スケジュール



【資料４】既存の資源を活用した取り組みの検討方法

4

（４）工夫についての意見交換

学校教育目線

①生活科における資源の有効活用について

○単元学習において、どんな活用や工夫が考えられるか

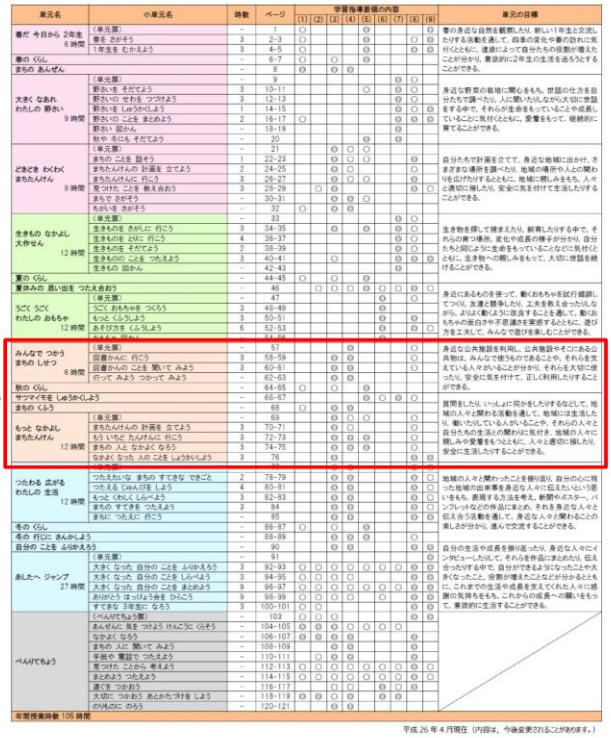
⇒どんな観点の事前学習をすると良いか

⇒学習に使えそうな資源はないか（マップ、時刻表、人・・・）

▼生活科単元配列（東京書籍）

東京書籍

「新編 新しい 生活 下」（２年） 単元内容一覧表（学習指導要領の内容との関連表）



主にバスによる校外学習が実施されている単元

図 6-40 資料４－既存の資源を活用した取り組みの検討方法（２/４）

【資料４】既存の資源を活用した取り組みの検討方法

5

（４）工夫についての意見交換

学校教育目線

①生活科における資源の有効活用について

＜交通に触れることでまちへの認識を深める工夫の例＞

・バスを通じて、**地域の広がりをより実感**できるように

・バス等がまちの中で**どんな役割**を持っているか、**どんな人が使ったり運転**しているか実感できるように

事前	予行演習（車両体験）	本番	まとめ
○**乗り方等の予想** ・どうやったら行きたい所に行って帰ってこれるか？ ・いくらで行ける？得な乗り方は？ ・どうやって乗るか、全員乗れるか？ ・運転手はどんな人か？ ・本番ではどんな人が利用するか？ ※心の準備も兼ねて	○**校庭で乗車体験** ・乗り方・乗れる人数があっているか確かめる（一度にたくさん乗れることを実感） ・できれば走って安全な乗り方も確認 ○**運転手インタビュー** ・どんな人か聞いてみる（運転手になった理由等）	○**まち探検** ・バスで移動 ・バスから見える施設やどんな人が乗ってきたかを記録（バスが繋ぐ地域の姿をより良く理解）	○**まとめ** ・まちのようすの振り返り ・バスの機能を確認、共有
・マップ、時刻表、運賃表等を提供 ・バスの写真等を提供	・バス車両を提供 ・乗車体験をサポート		

体験・実物をメインとした学習活動　　事前・事後の学習

【資料４】既存の資源を活用した取り組みの検討方法

6

（４）工夫についての意見交換

学校教育目線

②「電車の乗り方」の切符購入模擬体験ソフトの作成について

・現状
2年生の体験学習において、小学校から「ＪＲの切符の買い方について学習したい」という依頼がある。

・課題
依頼に対する対応として、現状は・段ボールで模擬的な装置を作成する・実際の駅の購入端末の写真を撮り、打ち出したものを黒板にはり、模擬体験をしてもらう等、実体験とは遠い手法しか取れていなかった。

・対応案
鉄道各社に協力いただき、タブレット端末で「電車の乗り方」を体験できるソフト（アプリ）を開発する。

・利点
タッチパネル方式なので、ＪＲ駅で切符を購入する場合とほぼ同じ体験を提供することができる。ソフト化することで、県内において幅広い学校で簡単に使用することができる。

・実現に対する課題
鉄道各社からデータを提供してもらうことが可能かどうか。
ソフト（アプリ）開発に係る費用がねん出できるのかどうか。

図 6-41　資料４－既存の資源を活用した取り組みの検討方法（３/４）

【資料４】既存の資源を活用した取り組みの検討方法

7

（４）工夫についての意見交換

交通行政目線

③効果測定および事後体験を促す「利用体験クーポン」の作成・配布について

・現状
体験学習を行った後は、授業に対するアンケートのみを実施している。
事後体験（実際の路線バス等に乗車してみる）を行う動機づけがない。

・課題
体験学習後に実際に路線バスに乗っているかどうかの効果測定ができていない。
学習後の事後体験を促すような仕組みが存在しない。

・対応案
バス事業者各社に協力いただき、「乗車体験学習児童限定乗車クーポン」を作成、配布する。
＊クーポン内容：大人1名以上と乗車するとき、同クーポンを持っている児童の子供料金のみ無料とする。（子供同士のみの利用は不可とする）

・利点
学習における事後行動への推移について、実数字で効果測定ができる。
普段乗車しないであろう層（親御さん層）が乗車をすることで、バス事業者の収益を向上させることができる（可能性がある）。

・実現に対する課題
県内バス事業者の協力が得られるかどうか。
普段乗車しないであろう層（親御さん層）については、実数字を持っているわけではなく推測であるため、実際に利益向上につながるかどうかは実施してみないと不明。

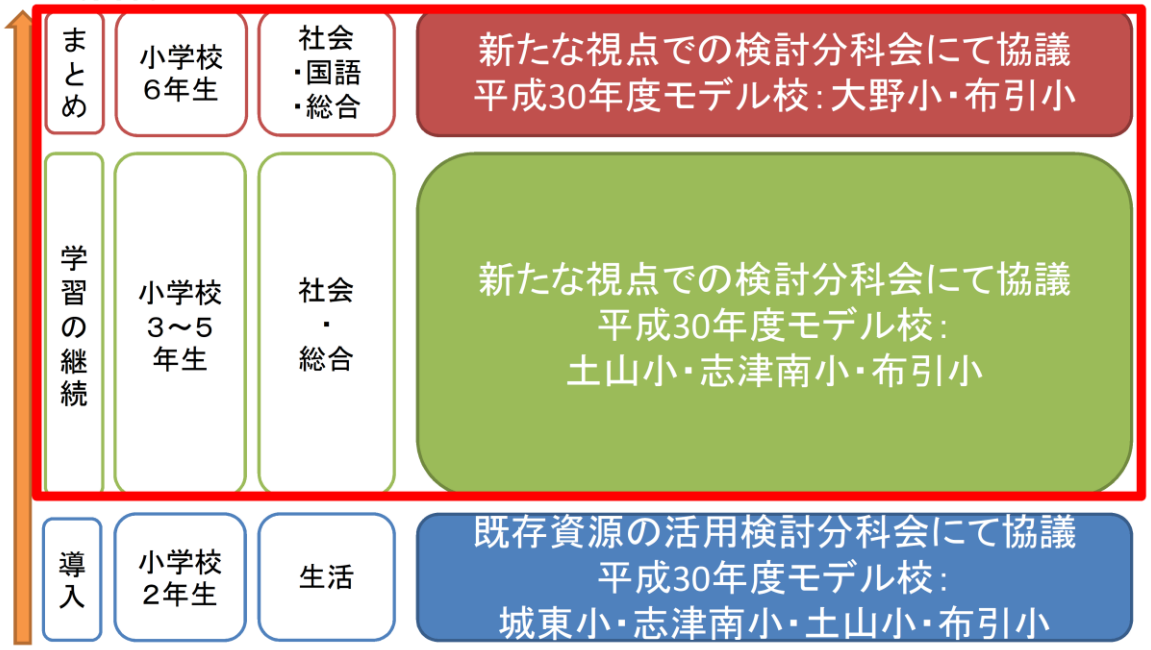
図 6-42 資料４－既存の資源を活用した取り組みの検討方法（４/４）

(6) 資料５　新たな視点での取り組みの検討方法

【資料５】新たな視点での取り組みの検討方法　1

（１）検討対象校

▼検討対象校



コンセプト：自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成（交通を切り口に）

【資料５】新たな視点での取り組みの検討方法　2

（２）各学年の地域学習への活用（大野小/土山小/布引小）

○検討・試行結果から、展開可能性や課題等を整理

今年度の目的・ポイント

・３、６年生での地域理解等につながる活用を**検討・試行してみる**
　⇒大野小学校・土山小学校で**学校とともに検討**（布引小でも状況に応じて検討）
　　⇒児童への単元後アンケート（単元の深まり・交通への意識の変化）
　　⇒学校との実施後の意見交換、コミュニケーション
　　⇒児童の発表・意見をぶつける場を確保（大野小6年）
　⇒実施結果から、歴史・地域愛着の視点での**展開可能性、課題**を検討

次年度の展開イメージ（現時点の想定）

・**他の学年**での活用方法を検討（土山小学校４・５年生）
・継続実施し**ブラッシュアップ**、自治体単位での**省力・定着化**検討
・既存から新たな取り組みまで展開する**モデルケース**を作っていく（土山小、志津南等が想定）
　⇒文化としての定着した学校を増やし、地域・自治体での普及・拡大の素地とする
・**その他の観点**（政治等）での実施について検討　等

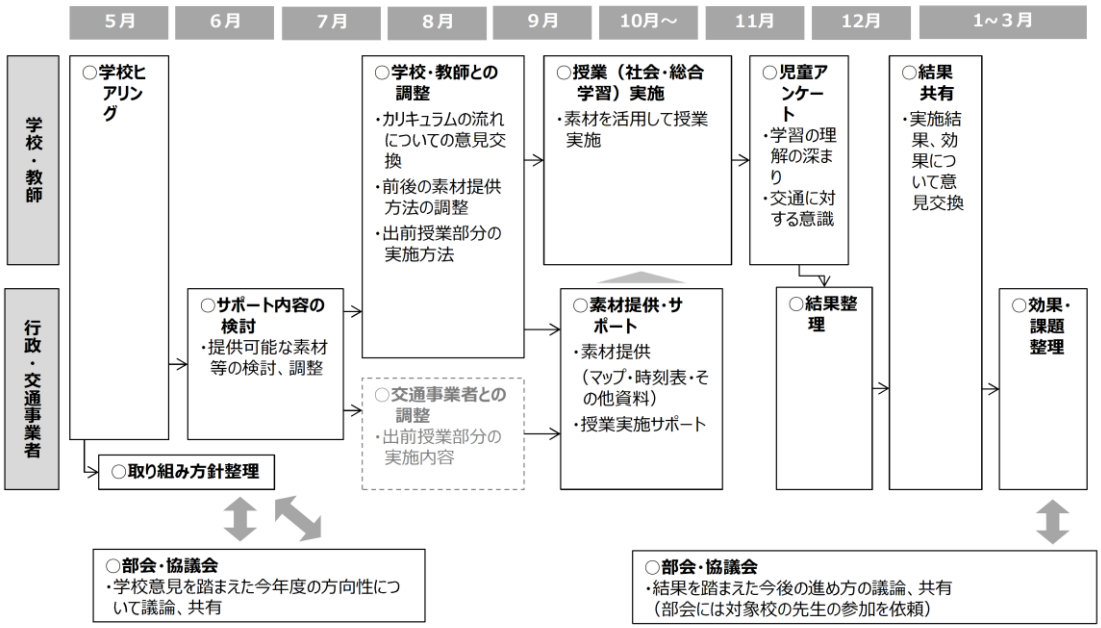
図 6-43　資料５－新たな視点での取り組みの検討方法（１/４）

【資料５】新たな視点での取り組みの検討方法 3

（２）各学年の地域学習への活用（大野小/土山小/布引小）

○学習計画を受領・事務局イメージを検討し、夏休みに協議

▼スケジュール



【資料５】新たな視点での取り組みの検討方法 4

（３）鉄道すごろくの活用（志津南小）

○次年度の試行に向けて、すごろくの見直し案を検討、制作

今年度の目的・ポイント

・鉄道すごろくの見直し案を制作
⇒志津南小学校で**学校とともに検討**（布引小へも展開）

次年度の展開イメージ（現時点の想定）

・志津南小学校、その他で活用の試行
・必要なバリエーションについて検討　等

図 6-44　資料５－新たな視点での取り組みの検討方法（２/４）

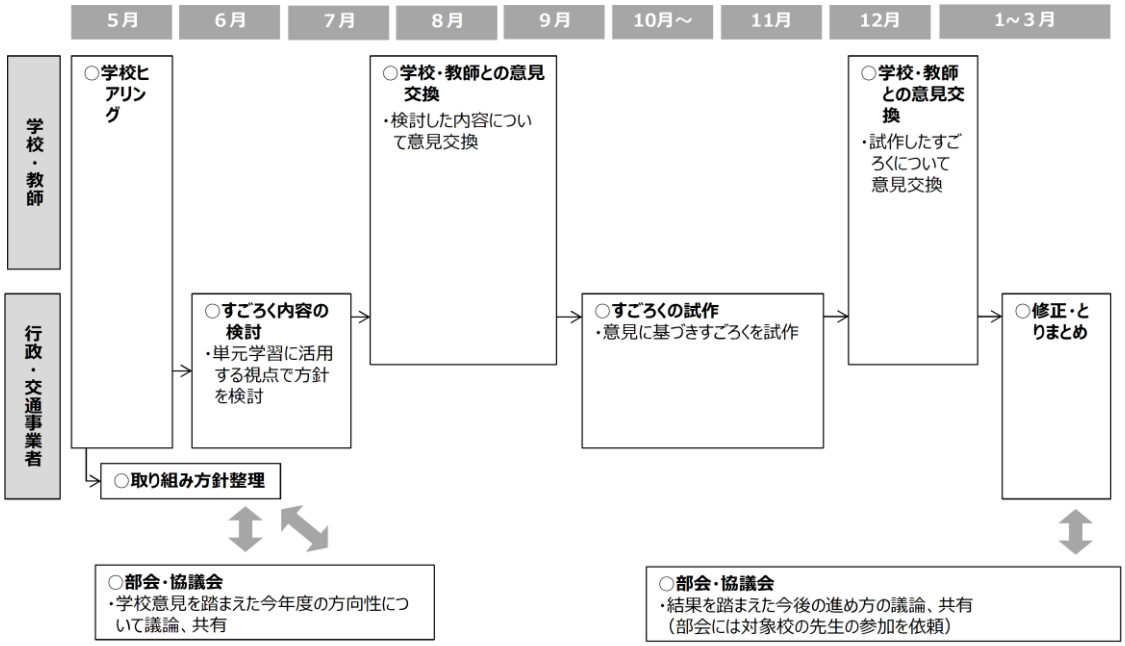
【資料５】新たな視点での取り組みの検討方法

5

（３）鉄道すごろくの活用（志津南小）

○既存の取り組みに合わせ内容方針を検討し、夏休みに協議

▼スケジュール



【資料５】新たな視点での取り組みの検討方法

6

（４）工夫についての意見交換

①交通資源を用いて地域愛着を醸成するための工夫について

○地域愛着につなげるための工夫
⇒どんな観点で交通を使うと良いか
⇒学習に使えそうな資源はないか
（マップ、時刻表、人・・・）

＜交通素材を通じ、歴史的な地域への理解・愛着を醸成するプログラムの例＞
・交通と地域の交流が生む街道文化やまちの風景について、日常の交通行動から理解、実感する
・併せて、現在の車中心の交通文化に対する見方を持つ

導入
・土山宿が街道の宿場であり、交通とともに発展・変化してきた
・それを、現在の状況と見比べることで理解する

まちと交通の関係について
○貴生川駅調べ
⇒草津まで行くことを想定しバスで貴生川駅まで行く
⇒周辺で立ち寄れそうな箇所を探す・・・あまりない？
⇒なぜ少ないか？
・・・普段の行動は？・・・車で買い物？
・貴生川駅周辺の地図を提供

○道路沿い調べ
⇒市内の自動車交通量の多い区間を調べる
⇒国道1号（現・東海道）の交通量の多い区間と少ない区間の店・施設の立地を調べる（バス乗車orWeb）
・市内の交通量データを提供
・国道１号周辺の写真、地図（変化）を提供

○まちと交通の関係
⇒人が多い、たくさん通るところに店ができる
⇒立ち寄る場所や、目的地となる場所等のタイプが存在
⇒江戸時代にできた土山宿も同じか？

土山宿の発展について
○土山宿調べ
⇒まち歩き・ヒアリングで何があったかを調べる
⇒どんな施設、役割だったかを調べて分析
・・・同じように立ち寄る場所や目的地があった？・・・それらが文化となって残り、今とつながっている・・・地域の誇りとなる風景を作っている？
・昔の地図、資料等を提供

考察・まとめ
⇒交通・交流がまち、文化を生む
⇒現・東海道（国道1号）を中心とした交通や店からどんな文化が生まれるか？
⇒これからどんなまち・交通を作っていくべきか
・発表の場を準備

図 6-45 資料５－新たな視点での取り組みの検討方法（３/４）

【資料５】新たな視点での取り組みの検討方法

（４）工夫についての意見交換

②鉄道すごろくの工夫について

○鉄道すごろくの作り方

⇒どの単元に鉄道すごろくが使えるか

⇒どんな情報を記載すると良いか

⇒ゲーム性等の工夫

▼社会科単元配列（東京書籍　※草津指定）

（４年生）

（５年生）

図 6-46　資料５－新たな視点での取り組みの検討方法（４/４）

(7) 資料６　分科会設置規程（案）

資料６

近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会
分科会設置規程（案）

（趣旨）

第１条　この規程は、近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会設置要綱（以下「設置要綱」という。）第５条の規定に基づき、近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会（以下「研究会」という。）の分科会に関し、必要な事項を定めるものとする。

（分科会の設置）

第２条　設置要綱第２条に掲げる事項について専門的な調査および検討を行うため、次に掲げる分科会を設置する。

(1)　既存資源の活用検討分科会

(2)　新たな視点での検討分科会

（組織）

第３条　分科会の委員は、次に掲げる者をもって充てる。

(1) 設置要綱第３条に規定する委員（当該委員の所属する機関が分科会の委員として推薦した者を含む。）のうちから研究会の会長（以下「会長」という。）が指名した者

(2)会長が調査検討のため必要と認めて指名した者

２　分科会の委員（設置要綱第３条の規定により既に依頼された委員を除く。）は、会長が依頼する。

（会議）

第４条　分科会の会議（以下「会議」という。）は、会長が必要に応じて招集する。

２　分科会は、必要があると認めるときは、当該分科会の委員以外の者に対して、資料を提出させ、または会議への出席を依頼し、意見、助言等を求めることができる。

（事務）

第５条　分科会の事務は、研究会の事務局において処理する。

（報告）

第６条　事務局は、分科会の協議経過および結果について、研究会に報告するものとする。

（その他）

第７条　この規程に定めるもののほか、各分科会で必要な事項は、会長が別に定める。

付　則

この規程は、平成 30 年７月　日から施行する。

図 6-47 資料６－分科会設置規程（案）

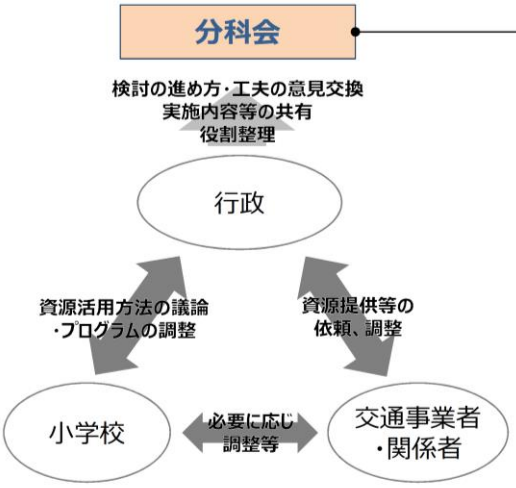
(8) 資料７　分科会について

【資料７】分科会について　1

（１）既存の資源活用検討分科会

＜分科会の役割＞

・各地域での検討の進め方や新たな工夫についての意見交換
・各取り組みの情報共有・相互参照
・県単位の取り組みとしての課題、方針の整理



分科会メンバー（案）

＜行政＞
・滋賀県交通戦略課
・草津市交通政策課
・甲賀市公共交通推進課
・東近江市交通政策課
・彦根市交通対策課
＜交通事業者＞
・滋賀県バス協会
＜教育委員会＞
・県教育委員会幼小中教育課
＜有識者＞
・市川教授
・水山教授

＜部会の実施タイミング＞

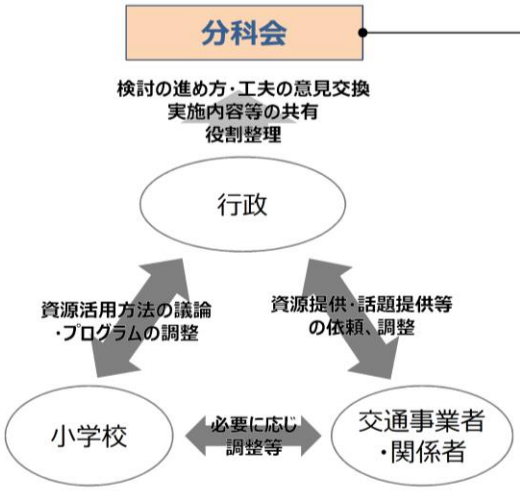
・年２から３回程度実施

【資料７】分科会について　2

（２）新たな視点での検討分科会

＜分科会の役割＞

・各地域での検討の進め方や新たな工夫についての意見交換
・各取り組みの情報共有・相互参照
・県単位の取り組みとしての課題、方針の整理



分科会メンバー（案）

＜行政＞
・滋賀県交通戦略課
・草津市交通政策課
・甲賀市公共交通推進課
・東近江市交通政策課
・彦根市交通対策課
＜交通事業者＞
・滋賀県バス協会
＜教育委員会＞
・県教育委員会幼小中教育課
＜有識者＞
・市川教授
・水山教授

＜部会の実施タイミング＞

・年２から３回程度実施

図 6-48　資料７－分科会について（１/２）

【資料７】分科会について

（３）検討体制についての確認・意見交換

①分科会での検討の進め方について

○分科会の設置について
⇒既存の資源活用検討分科会、新たな視点での検討分科会の設置確認

○より柔軟な連携につながる進め方、部会組織の有効な活用について
⇒効果的な分科会の開催タイミング等

②学校との連携のあり方について

○学校・先生との分科会、研究会の連携強化について
⇒夏休み等に全モデル校が参加した合同会議（情報交換・意見交換）を検討

○モデル校における取り組みの確実な実施、継続について
⇒学校・教育委員会の状況を踏まえつつ、依頼文書等を発出

図 6-49 資料７－分科会について（２/２）

6-4-3 議事概要

第３回研究会の議事概要を以下に示す。

１．開会	
事　務　局　：	本日は公私なにかとお忙しい中、平成 30 年度における第 1 回の研究会にお越し頂き厚く御礼申し上げる。只今より、平成 30 年度第 1 回「近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会」を始めさせていただく。それでは開会にあたり、滋賀県土木交通部交通戦略課の芝よりご挨拶をお願い申し上げたい。
芝　委　員　：	本日の会議「近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会」ということで、昨年度から実施させていただき 3 回目の開催となった。本研究会は、県の未来を担う子供たちが自分たちの市・街・コミュニティ・交通環境問題のことを考えてもらう機会を提供すること目的としており、昨年度を含め 4 年間で小学校が自主的に実施できる交通環境学習プログラムを検討していきたいと考えている。昨年度は検討に向けたコンセプトについて議論をさせていただいたが、本日はコンセプトを再度整理すると同時に検討の方向性について議論をさせていただきたいと考えている。委員の皆様方には、この研究会で忌憚のない意見をいただき、この研究会の深みが出るようお願い申し上げて開会の挨拶とさせていただく。
事　務　局　：	それでは早速ではあるが、本日の進行については会長である滋賀大学の市川先生にお願い申し上げたい。
市　川　会　長　：	どうもみなさんこんにちは。私は議論をまとめるというよりは、アイディアを出す方が得意なので、横から意見することもあると思うがご容赦頂きたい。本日は、時間が遅れないように進めていきたいと考えているが、時間は気にせず意見をたくさん発してもらいたいと思う。では早速であるが、お手元の議事次第にしたがって進めていきたい。
２．昨年までの状況	
事　務　局　：	【資料-1 を説明】
市　川　会　長　：	皆様の方からご質問などはあるか。 無いようなので、次の議題に進めていきたい。
３．議題	
事　務　局　：	【資料-2 を説明】
市　川　会　長　：	コンセプト及び方向性に関してご意見やご質問はあるか。
富　永　委　員　：	コンセプトには交通を切り口にと記載しているが、公共交通を切り口にという認識でよいか。
事　務　局　：	その部分は「公共交通」ではなくあえて「交通」としている。公共交通に絞ってしまうと学習の幅が狭まってしまうと考えており、今後導入が予想される自動運転等の新技術や徒歩、自転車といった公共交通以外の交通も素材として捉えていただいた方が学校側も学習につなげやすいと考えている。
市　川　会　長　：	コンセプトに「交通」を記載するといっても、自家用車の利用を推進するものではなく、公共交通を主軸に考えているのは変わらないと考えている。
富　永　委　員　：	研究会の意図を考えると、公共交通の利用促進につながることが望ましいと考えている

	が、その狙いどころをコンセプトに盛り込むことはできないか。
芝　委　員　：	例えば、「エコな交通」や「スマートな交通」といったようにかしこく交通を使うという意味合いであれば、コンセプトに盛り込むことは可能であると考える。
富　永　委　員　：	理屈付けはいろいろあると思うが、本当に教えたいことは現在のまちづくりの中での公共交通の役割や重要性であり、それを子供たちに伝えていくことが今回の交通環境学習の趣旨であると私は認識している。そういう方向性についてどこかに記載することはできないのか。
野村副会長　：	私も富永委員と同様で、昨年資料に記載している MM 教育の視点は大切なことだと思うが、私たちがこの場に参画している理由を考えると公共交通の利用促進に焦点をあて話し合うのがいいのではないかと考える。
市　川　会　長　：	コンセプトに記載する言葉については今後も検討していく必要があると考えるが、コンセプトの方向性は「自分たちのまちづくり」、「自発的に考える」、「交通を切り口に」の 3 つがキーワードであると考えている。公共交通への関わり方についてはコンセプトの言葉の中にどう表現するのが良いのか悩ましいとこである。
芝　委　員　：	私も公共交通の利用促進について考えていかなければならない立場ではあるが、公共交通としてしまうと単なる移動手段という認識になってしまう恐れがある。教育の視点で考えると、様々な移動手段があることを教えてあげ、移動には色んな組み合わせがあるということを伝える方がよいと考える。内実は公共交通の利用促進かもしれないが、学校側と協同することを考慮するとわかりやすいコンセプトの方がよいと思われる。
野村副会長　：	芝委員がおっしゃられたことは非常に理解でき、教育という視点であれば公共交通を前提にするのは良くないとは思うが、自身の立場を考えると難しいところである。
事　務　局　：	先ほどの話につながることであるが、公共交通に親しんでくださいというだけでは、小学校側に受け入れてもらいにくいため、学校側にとってどういう意味があるのかを考えながら検討する必要があると考えている。しかし、公共交通の利用促進の視点は大切なので、どのように学習プログラムに盛り込んでいくのかは今後一緒に検討していきたいと考えている。
富　永　委　員　：	公共交通の利用促進も目的の一つであるということが学校側と共有できているのであれば良いと思うので、コンセプトのどこかに公共交通の利用促進について記載し、学校側に受け入れてもらうための議論は今後行っていけばいいのではないかと考える。
市　川　会　長　：	他にご質問はないか。無いということなので、コンセプトにどのような言葉を用いるのかについては今後議論をしていくとし、コンセプトの方向性についてはこのまま進めていくということで了解を得たものとする。 では、次の資料の説明に進んでいきたい。
事　務　局　：	【資料-3 を説明】
市　川　会　長　：	説明していただいた資料について、何かご質問やご意見はあるか。
道　久　委　員　：	小学校のヒアリング結果を受けて、まちづくりという観点をコンセプトに記載することにしたのか。
事　務　局　：	ヒアリング結果を踏まえて作成してはいるが、昨年度行われた研究会でも「交通まちづくり等の主体を育成」というようにまちづくりの観点から取り組みを実施していくことは既に議論はされている。
道　久　委　員　：	了解した。
高　岡　委　員　：	例えば、昔の滋賀県は交通の要所が多かったというように、公共交通と切り離して交通を考えてしまうと、歴史の学習と同じではないかと思われる。交通のことを大切だと考える子供を

	育てるのであれば、「公共交通がなくなると車でしか移動ができなくなってしまう」といった現実的な問題にアプローチした方が、身に付きやすいと考える。教育委員会にいた時の経験を踏まえると、自分たちがどうすれば問題を解決できるのかについて自身で考える方が理解の定着がしやすいということもあったので、まちにとって公共交通が大切であるということを実感してもらう方が意味のあることであると思われる。
事　務　局　：	公共交通の重要性を理解してもらうアプローチから学習を行うことも重要であると思う。この取り組みの方針については、小学校の先生の考えも踏まえた上で検証実施しながら、既存の資源活用検討分科会や新たな視点での検討分科会の方で検討していきたいと考えている。
野村副会長　：	従来の交通環境学習の発展ということであればイメージはできるが、「自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材育成」に寄与する学習プログラムの検討となると交通事業者や市の交通担当者だけでどこまで検討していけるのか疑問である。
芝　委　員　：	現在は出前授業という形で一方向的にお願いする形で交通について学んでいただいているが、これからは学校側からも自主的に取り入れる形で交通について学んでいただきたいと考えている。どのような学習プログラムであれば学校側で実施していただけるのかを検討するため、教育委員会からも委員を招集させていただき、研究会を開催している次第である。また、学習プログラムについては学校側と一緒に検討していくことを前提としている。
市　川　会　長　：	小学校のヒアリング調査の段階では、交通という切り口でどんな学習ができるのかといった一例を示しているだけであり、学習ツールやサポート体制をどのようにつくっていくのかについては学校側と一緒に検討する必要があると考えている。本日の会議では、コンセプトの方向性について議論を行うものであると考えている。
近　藤　委　員　：	交通を切り口にまちづくりについて考えられる人材を育成するということがコンセプトであったが、最終的な目標としては何を考えているのか。
芝　委　員　：	交通行動を選択する際に、状況に応じた適切な交通手段を選択できる人材を育成することを最終的な目標と考えている。
近　藤　委　員　：	今の話を踏まえると、市が税金を出して公共交通を維持するのはなぜなのか等、その必要性についての理解が深まれば、最終目標も自ずと達成すると思われる。その根底にある部分を分かりやすく伝えるには、学習プログラムの具体的なイメージや方法論をもう少し明確化する必要があると思われる。
畔　柳　委　員　：	持続的なまちをつくるには公共交通は欠かせないと思うので、その部分をどのように理解してもらうのかをそれぞれの市町に合う形でつくりあげていく必要があると思う。
水山副会長　：	交通まちづくりや公共交通の利用促進等の視点でまちづくりを考えることは、多岐にわたる交通戦略の一つという捉え方であるが、教育という視点でまちづくりを考えることは、身近な地域（郷土）を理解するということである。現在は公共交通の利用促進に特化して考えているが、公共交通の利用を促す目的をもう一歩踏み込んで考えると、地域に住む人々の生き方や暮らし方に関わる問題であるため、交通戦略的な視点と教育的な視点も考えていることは同じであると思われる。そのため、公共交通の利用促進の観点だけでなく、かしこい暮らしの在り方そのものを考えていくということが大切であると私は考える。
市　川　会　長　：	それでは資料２、資料３については、納得いかない部分もあると思われるが、概ね理解していただけたと考える。この内容については今後も引き続き議論していくとし、次の資料説明に進んでいきたい。

事　務　局　：	【資料-4 を説明】【資料-5 を説明】
市　川　会　長　：	先ほどの説明に対し、何かご意見やご質問があるか。
野　口　委　員　：	タブレット端末で「電車の乗り方」を体験できるソフトを開発する提案については、どのような協力ができるか社内で検討したい。また、長岡京では安全教育や乗り方教育を実施していたので、滋賀県においても同様の協力が可能であると考える。
水　山　副　会　長　：	切符の買い方を学ぶだけでなく、障がい者や外国人が利用しやすいように公共交通の施設がどう工夫されているのかを学ばせてあげることが重要であると考える。
水　山　副　会　長　：	9 月以降に実施していくことを考えると、現段階で授業計画が作成されていなければならないと思うが、スケジュール通りに間に合うのか？
事　務　局　：	既存資源の活用であれば、スケジュール通りに進めていくことは可能であると考えているが、新たな視点での取り組みは 9 月、10 月だと厳しくなってきている。今日の結果を踏まえ、早急に授業枠組みの検討を進めたい。
富　永　委　員　：	城東小学校への出前授業は、彦根市が窓口となって対応していたが今年度もその実施体制でよいのか。
事　務　局　：	そのようにお願いしたいと考えている。
野　口　委　員　：	この学習プログラムは学校内で実施しなければいけないという決まりがあるのか。
事　務　局　：	そのような決まりは特にはない。駅の券売機等、実際に触ってもらい勉強してもらう方法も考えられる。
野　口　委　員　：	京都の鉄道博物館なら一通り勉強できる環境が整っており、子供にとって鉄道の仕組みを理解しやすいと思われる。もしよければ、足を運んでいただけたらなと思う。
市　川　会　長　：	ではそろそろ終わりの時間も近づいているので、次の資料の説明に進んでいきたい。
事　務　局　：	【資料-6 を説明】 【資料-7 を説明】
市　川　会　長　：	設置規程等について何かご質問やご意見はあるか。 無いということなので、分科会の設置規程についてご承認いただいたものとし、7 月 3 日からの施行とする。また、分科会の進め方についてもこのように進めていくこととする。
4．その他	
事　務　局　：	次回の研究会は来年 2 月から 3 月頃を予定しており、来年度をどのように進めていくかについて議論をしたいと考えている。分科会については、夏休み期間での先生方との意見交換を考えており、それ以降は事業の進捗に併せてご案内させていただきたい。またモデル校においては、自治体の授業見学会の企画も考えているので日を改めてご案内したい。

6-5 既存資源の活用検討部会･モデル校視察①

6-5-1 モデル校視察の概要

既存資源の活用検討部会におけるモデル校視察の開催概要を以下に示す。

表 6-5 既存資源の活用検討部会におけるモデル校視察の概要

項目	内容
開催日時	平成 30 年 12 月 3 日（月）
開催場所	土山小学校
出席者	【会長】 市川 智史(滋賀大学 環境総合研究センター 教授) 【委員】 橋本(代理)(甲賀市 公共交通推進課) 【事務局】森 陽介(滋賀県土木交通部 交通戦略課 主事) 土崎 伸(株式会社オリエンタルコンサルタンツ 交通政策部 担当次長) 東川 祐樹(株式会社オリエンタルコンサルタンツ 交通政策部 技師) 【土山小学校】校長、教頭、２年生担当教諭
実施状況	

6-5-2 議事概要

既存資源の活用検討部会におけるモデル校視察の議事概要を以下に示す。

既存資源の活用検討部会・モデル校視察①　議事録

日時：平成 30 年 12 月 3 日　13:50～14:35
場所：土山小学校
出席者：土山小学校　校長先生、教頭先生
　　滋賀大学　市川教授、　滋賀県　森氏、　甲賀市　橋本氏、　オリエンタルコンサルタンツ　土崎、東川

（1）生活科のまとめ授業について

・普段の授業傾向を踏まえると、写真を見せながら質問をして発話を求めるという授業形態では、45 分間集中力はもたないと思っていたが、今日のまとめの授業では生徒の発話も活発で最後まで集中して取り組めていた。バス・電車の乗車体験や交通事業者へのインタビュー等、実際に自分の目で見て直接話を聞く体験があったから発話したい内容がたくさんでき、授業に積極的に取り組めていたのだと思う。（土山小）
・乗車体験の授業を休んだ生徒がいたが、日常的に利用しているバスや電車といった交通素材を用いて授業を行っていたこともあり、授業内容についていくことができていた。（土山小）
・「バスや電車が地域からなくなったらどうなるのか」という問いに対して、車やタクシー、自転車を使うという意見があったが、もう少し生徒の意見を掘り下げる時間があれば、公共交通の重要性について理解を深めることができたと思う。（土山小）

（2）乗り方教室からまとめまでの一連の授業について

・生活科の授業に交通素材を用いて良かった点やもっとこうした方が理解が深まる等の改善点があれば教えていただきたい。（オリコン）
・担任の先生だけでは、ワークシートの作成等に時間をかけることは難しいので、ワークシート作成や授業の進め方等、サポートしていただいたのは良かった。（土山小）
・バス・電車探検のように実際に体験しても時間が経つと内容を忘れてしまうことがあるので、体験をしている中でワークシートをまとめる時間があったのが良かった。（土山小）
・寺庄駅から近江土山に向かうバスを利用する乗客はいなかったが、昼間に土山の方面に向かう需要はないということを自分たちの目で知ってもらう機会になったと思う。バス・電車に実際に乗車する体験は公共交通の利用状況について学ぶいい機会になると思うので、土山地域の課題について考える 6 年生の総合学習の時間等への展開も可能であると思われる。（土山小）
・乗客へのインタビューから乗客の年齢や利用の目的について聞くことができたので、そこから電車とバスの役割の違いについて学習展開していくことができると思う。（土山小）
・乗客へのインタビューでは、生徒全員が一生懸命質問をしようとしていたため、乗客の方への負担が大きくなってしまっていた。生徒を 2 つの車両に分ける等、乗客の方に迷惑がかからない方法を考える必要があると思われる。（土山小）

図 6-50 議事概要（1/2）

・今回、交通素材を活用した生活科の授業として 5 時限分確保して頂いたが、他の小学校へ展開していくことを踏まえると単元の中に組み込める時間数はどれくらいであると考えるか。（滋賀県）
・小学校の方針として何を学んでほしいかによって確保できる時間数は異なると思われる。土山小学校の場合、土山の地域について学ぶ「土山学」に力を入れて取り組んでいるため、土山地域の移動を支える公共交通について学ぶ時間として 5 時限分の授業時間をとることはできるが、公共交通について学ぶことに力をいれていない小学校であれば、多くの授業時間を確保することは難しいと思われる。（土山小）
・郊外学習は生活科の授業時間として確保しているのか。（市川教授）
・郊外学習等の授業は、何を学ぶ時間として位置づけるのかによって時間確保の仕方が異なる。例えば、今回の郊外学習では、バス・電車に乗車する時間を公共マナーを学ぶ道徳の時間として、乗客へのインタビューは話し方やコミュニケーション方法を学ぶ国語の時間として確保することも可能である。（土山小）

以上

図 6-51 議事概要（2/2）

6-6 新たな視点での検討部会･モデル校視察①

6-6-1 モデル校視察の概要

新たな視点での検討部会におけるモデル校視察の開催概要を以下に示す。

表 6-6 新たな視点での検討部会におけるモデル校視察の概要

項目	内容
開催日時	平成 30 年 12 月 7 日（金）
開催場所	大野小学校
出席者	【会長】 市川 智史(滋賀大学 環境総合研究センター 教授) 【委員】 橋本(代理)(甲貿市 公共交通推進課) 【事務局】岡本 英晃(交通エコロジー･モビリティ財団 交通環境企画課 担当課長) 森 陽介(滋賀県土木交通部 交通戦略課 主事) 土崎 伸(株式会社オリエンタルコンサルタンツ 交通政策部 担当次長) 東川 祐樹(株式会社オリエンタルコンサルタンツ 交通政策部 技師) 【大野小学校】教頭、６年生担当教諭･副担当教諭
実施状況	

6-6-2 議事概要

新たな視点での検討部会におけるモデル校視察の議事概要を以下に示す。

新たな視点での検討部会・モデル校視察①　議事録

日時：2018 年 12 月 7 日（金）
場所：大野小学校
出席者：大野小学校　教頭先生、山本先生
　　滋賀大学　市川教授、　交通エコロジー・モビリティ財団　岡本氏
　　滋賀県　森氏、　甲賀市　橋本氏、オリエンタルコンサルタンツ　東川

（1）交通データを活用した総合学習について

- 今回 6 年生の総合学習に交通に関係するデータを提供させていただいたが、上手く授業に活用することができたか等、ご意見を伺いたい。（滋賀県）
- 教材を作成する時間が限られている学校側にとっても、詳細な交通データを提供していただけるのは非常にありがたい。しかし、提供いただいたデータは小学生にとって理解が難しいものも多いため、利用できそうなデータを選び、10 月の交通・物流や人口変化について学習する際に課題を見つける 1 つのツールとして利用させていただいた。（大野小学校）
- 今日の授業は、「自分たちの住む地域を未来につなげるために何ができるのか」ということを目標にして学習してきたまとめを発表するものであったが、自分たち自身ができることに重点をおいて考えていたため、手作りの看板を作って広報をする等の子供らしい発想のテーマが多く、交通に関係するようなテーマがでてこなかった。（大野小学校）
- せっかく交通に関するデータをいただいたので、もう少し交通史につながるように誘導ができたらよかったが、担任の北森先生は授業開始当初から地域のつながりやその良さを発信することを学習目標として設定し、そこから逆算して授業を構成していたため、交通に関係するテーマに誘導するような時間が取れなかったと思われる。（大野小学校）
- 提供データをもっとこのようにしてほしい等、改善すべきところがあれば教えていただきたい。（滋賀県）
- 具体的にどのようなデータを選んだのか、どんなアレンジを加えたかは担任の北森先生が行っていたためわからないので、詳細な感想については直接北森先生に聞いていただきたい。（大野小学校）
- 了解した。再度日程調整をして、北森先生からご意見を聞く機会を設けさせていただきたい。また、小学校にとって有意義に使ってもらえる教材になるように今後もブラッシュアップしていきたいと考えているので、来年度以降もぜひ継続してご協力をお願いしたい。（滋賀県）
- 提供いただいた資料であってもこちらが加工しなおす場合は手間がかかるので、どういう形の資料であれば使いやすいかかい考えていく必要があると思う。学校側のニーズと交通環境学習の目指しているところが合えばより良いものになると思うので、今後も協力していきたい。（大野小学校）

（2）大野小学校生徒の公共交通に対する認識

- 行きたいところへはコミュニティバス一本で行け、また新名神 IC も校区内にあることから非常にアクセスが良い地域となっており、子供たちにとって自分たちの住む地域が交通不便地域であるという感覚がないと思われる。
- 子どもたちはバス等の公共交通に触れる機会はあるのか。（市川教授）
- 生徒にはバス通学の生徒もいるが、今回の授業で発表した 6 年生のクラスにはバスで通学する生徒がいない。（大野小学校）

図 6-52 議事概要

6-7 新たな視点での検討部会･モデル校視察②

6-7-1 モデル校視察の概要

新たな視点での検討部会におけるモデル校視察の開催概要を以下に示す。

表 6-7 新たな視点での検討部会におけるモデル校視察の概要

項目	内容
開催日時	平成 30 年 12 月 10 日（月）
開催場所	土山小学校
出席者	【会長】 市川 智史(滋賀大学 環境総合研究センター 教授) 【委員】 橋本(代理)(甲賀市 公共交通推進課) 【事務局】森 陽介(滋賀県土木交通部 交通戦略課 主事) 土崎 伸(株式会社オリエンタルコンサルタンツ 交通政策部 担当次長) 東川 祐樹(株式会社オリエンタルコンサルタンツ 交通政策部 技師) 【土山小学校】校長、教頭、３年生担当教諭
実施状況	

6-8　第４回研究会

6-8-1 研究会の概要

第４回研究会の開催概要を以下に示す。

表 6-8 第４回研究会の概要

項目	内容
開催日時	平成 31 年 3 月 12 日（火）13：00～15：00
開催場所	滋賀県庁大津合同庁舎　5-A 会議室
出席者	【会長】市川　智史(滋賀大学　環境総合研究センター　教授) 【副会長】水山　光春(青山学院大学　教育人間科学部　特任教授) 野村　義明(滋賀県バス協会　専務理事) 【委員】　本間　倭(代理)(東近江市　交通政策課) 平中　理恵(教育委員会　幼小中教育課　指導主事) 道久　聡(国土交通省　滋賀運輸局　主席運輸企画専門官) 芝　久生(滋賀県土木交通部　交通戦略課　参事) 【事務局】岡本　英晃(交通エコロジー・モビリティ財団　交通環境企画課　担当課長) 丸本　絵巳(滋賀県土木交通部　交通戦略課　主任主事) 森　陽介(滋賀県土木交通部　交通戦略課　主事) 小林　知子(滋賀県土木交通部交通戦略課　エコ交通推進員) 土崎　伸(株式会社オリエンタルコンサルタンツ　交通政策部　担当次長) 東川　祐樹(株式会社オリエンタルコンサルタンツ　交通政策部　技師)
議事次第	１．開会 ２．議題 （１）今年度の位置付け・取り組み状況 （２）来年度の検討方針・スケジュール
資料	議事次第 資料１　今年度の検討項目 資料２　今年度の取り組み状況 資料３　来年度の検討方針
実施状況	

6-8-2 会議資料

(1) 議事次第

第４回 近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会

議事次第

日 時 平成 31 年 3 月 12 日（火）13：00～15：00
場 所 滋賀県大津合同庁舎 5-A 会議室

１．開会

２．議題

（１）今年度の位置付け・取り組み状況　資料１・資料２

（２）来年度の検討方針・スケジュール　資料３

【配布資料】
議事次第
資料１ 今年度の検討項目
資料２ 今年度の取り組み状況
資料３ 来年度の検討方針

図 6-53 議事次第

(2) 資料１　今年度の検討項目

【資料1】今年度の検討項目 1

（１）本事業（H29～H32）の位置づけ

○滋賀における**コンセプト**（特徴）を整理する

○使える交通素材を**発掘**する

○その**活用の仕方**を検討、**教材・ツール**を創る

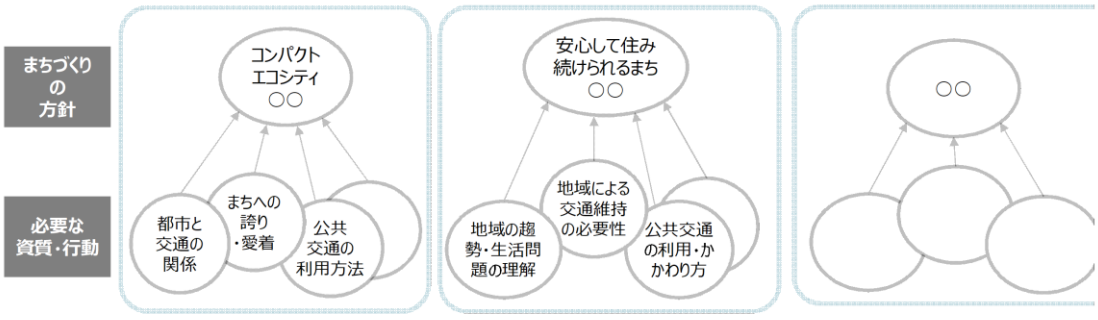
（学校とともに実践・評価しながら、地域特性も踏まえつつ整理）

○MM教育の活用を推進・支援する**仕組み**をつくる

【資料1】今年度の検討項目 2

（２）検討のコンセプト

（仮）自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成
（交通を切り口に）



未来のまちづくり・地域社会をになう子供たちにとって有益な学習を、
教育素材として「交通」を切り口として実施（サポート）していく。

効果的な学習方法、ツール、サポート方法の検討において、モデル校を制定し、検討を進めていく

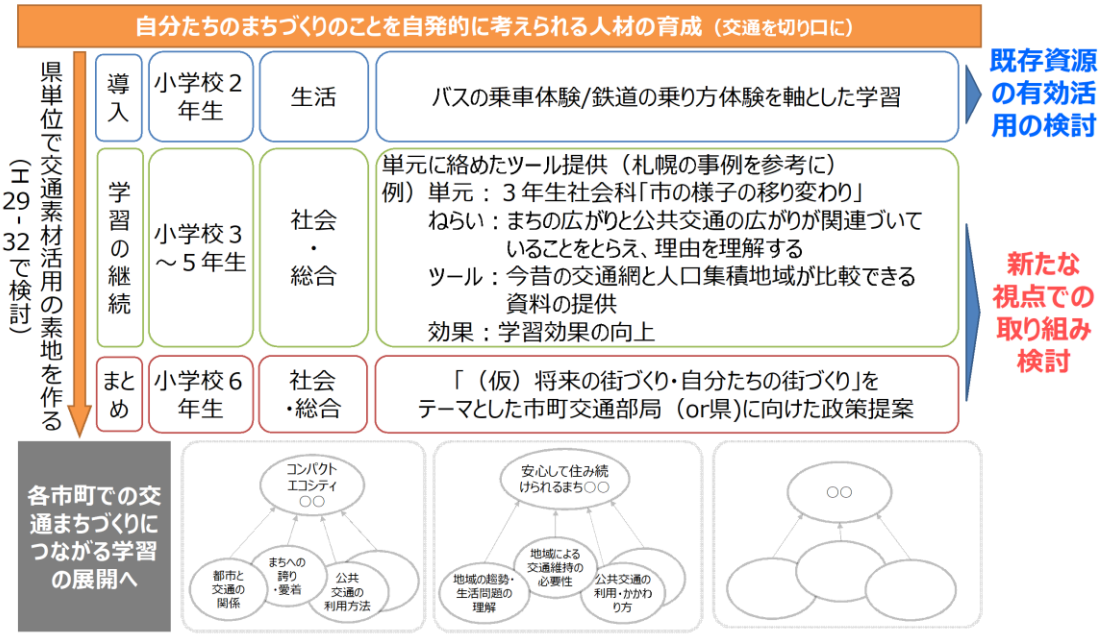
図 6-54　資料 1−今年度の検討項目（1/2）

【資料1】今年度の検討項目

3

（２）検討のコンセプト

＜各段階での実施イメージ＞



【資料1】今年度の検討項目

4

（３）H30検討内容

＜検討スケジュール＞

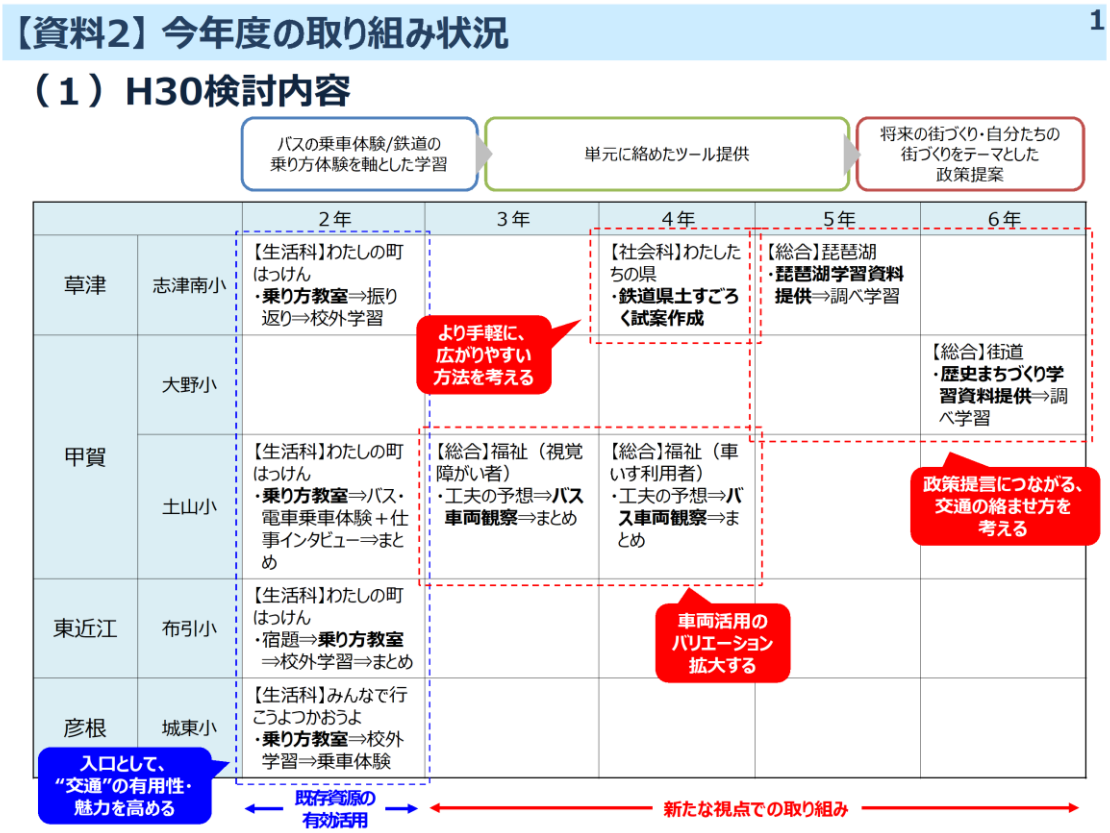
スケジュール

平成29年度（1年目）	・研究会の立ち上げ ・コンセプトメイキング
平成30年度（2年目）	・ツールの検討、作成、実施 ・縦断型授業の内容検討、学年ごとでのプレ実施 ・実施市町の拡大（6市町→10市町）
平成31年度（3年目）	・ツールのブラッシュアップ、実施 ・縦断型授業のブラッシュアップ、プレ実施学校の拡大 ・実施市町の拡大（10市町→14市町）
平成32年度到達目標	・2～6年生における、学校で活用できるツールの完成 ・2年生における体験学習のしくみ/ルート/手順の確立 ・2～6年生までの学年縦断型授業の確立 ・19市町での交通環境学習の実施

「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるサポートの確立を目指す

図 6-55 資料 1ー今年度の検討項目（2/2）

(3) 資料２　今年度の取り組み状況



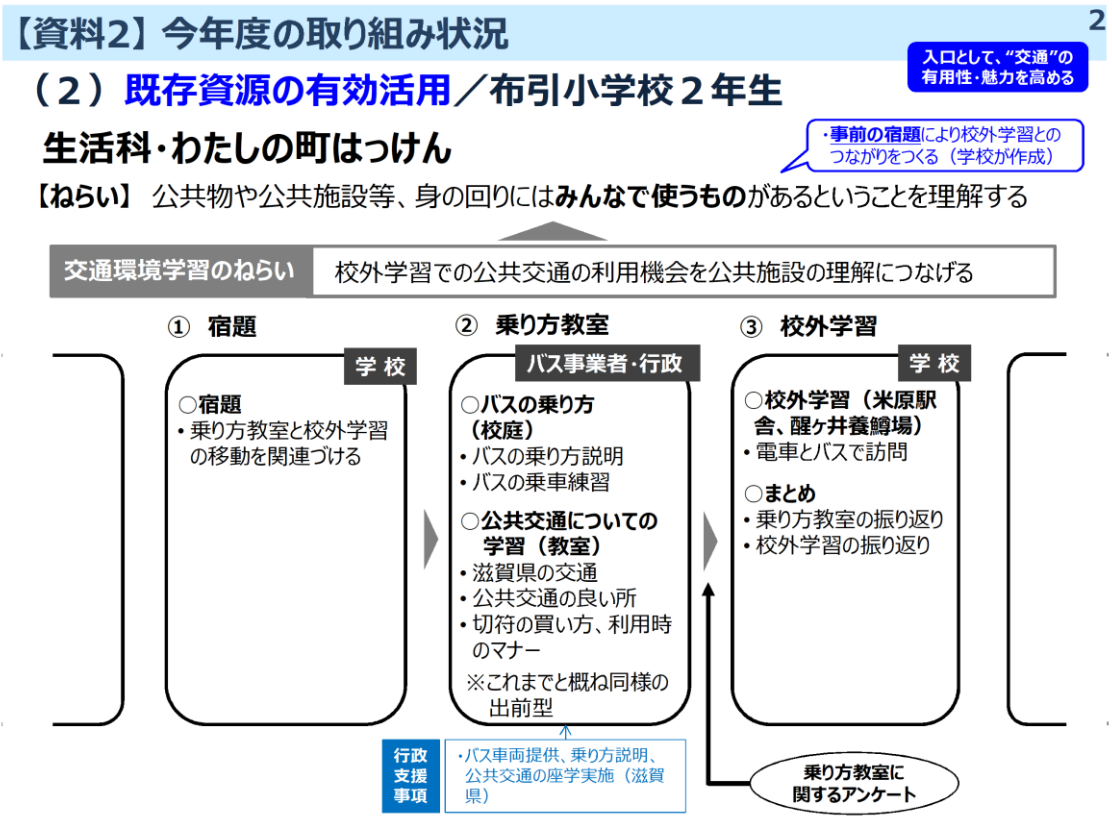


図 6-56　資料２－今年度の取り組み状況（１/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

3

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（２）既存資源の有効活用／布引小学校２年生

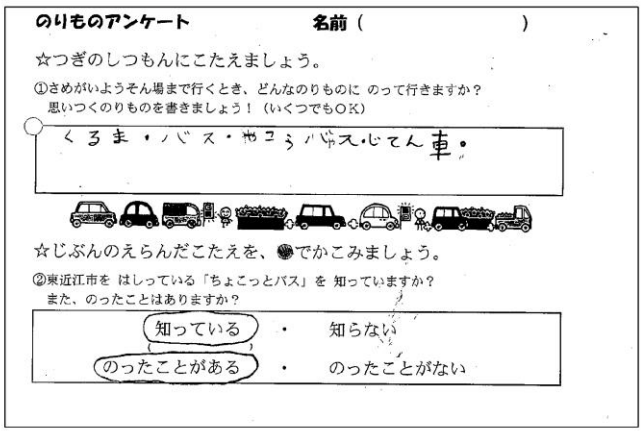
① 宿題（学校）

- 乗り方教室と校外学習での公共交通の移動をつなげるための宿題を実施

  ➡校外学習での移動で利用する乗り物や市内を運行するコミュニティバスの利用有無に関する質問から公共交通にはどんなものがあるのかについて考える

・宿題のシートは学校が作成

▼アンケート形式の宿題


のりものアンケート　名前（　　）

☆つぎのしつもんにこたえましょう。

①さめがいようそん場まで行くとき、どんなのりものに のって行きますか？
思いつくのりものを書きましょう！（いくつでも○×）

くるま・バス・ちょこっとバス・じてん車・

☆じぶんのえらんだこたえを、●でかこみましょう。

②東近江市を はしっている「ちょこっとバス」を 知っていますか？
また、のったことはありますか？

知っている　・　知らない

のったことがある　・　のったことがない

【資料2】今年度の取り組み状況

4

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（２）既存資源の有効活用／布引小学校２年生

② 乗り方教室（バス事業者・行政）【２時限】

- 事業者がバスの乗り方を具体的に説明（事業者独自の方法）
- 滋賀県より、公共交通の良い所等（環境、公共の施設）について説明
- 乗り方教室の後、児童へのアンケートを実施

▼事業者による乗り方説明（1時限）

▼県による公共交通に関する座学（1時限）

図 6-57　資料２－今年度の取り組み状況（２/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

5

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（２）既存資源の有効活用／布引小学校２年生

＜教師の感想＞

・乗り方教室についての意見はあるか？

➔ 昨年度同様、バス車両を提供して頂き、**バスの乗り方について良い学習**ができた。来年度もぜひお願いしたい

・担任の先生に宿題を作成して頂いたが、理解が深まったか？

➔ 宿題は負担ではないが、乗り方教室の授業を行う人と宿題を作成する人が異なるので、**教えたい内容にずれが生じた**可能性がある

➔ 他のモデル校のように**ワークシートを作って頂いた方**が、教えたい内容のずれがなくなり、子どもたちの**理解を深める**ことができると考える

＜良かった点・成果＞

- 乗り方教室を継続的に実施
- 乗り方教室に加え、郊外学習までを意識づける宿題を担任の先生が作成、実施

＜課題＞

- 単元単位での活用についてイメージが共有できるよう、より**密な議論・例示**等が必要
- 宿題を活用する場合、先生との認識のずれをなくす工夫が必要

【資料2】今年度の取り組み状況

6

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（３）既存資源の有効活用／志津南小学校２年生

生活科・わたしの町はっけん

・**振り返り学習**により、郊外学習での移動の機会を理解につなげる（学校と協議の上WSを作成し、提供）

【ねらい】 公共物や公共施設等、身の回りには**みんなで使うもの**があるということを理解する

交通環境学習のねらい　身近な交通（バスや電車）を通じて、公共の施設の理解を深める

①11/8　乗り方教室

バス事業者・行政

○バスの乗り方（校庭）
- バスの乗り方説明
- バスの乗車練習

○公共交通についての学習（教室）
- 滋賀県の交通
- 公共交通の良い所
- 切符の買い方、利用時のマナー

※これまでと概ね同様の出前型

②　振り返り

学 校

○振り返り
- 京都水族館（校外学習で訪問）までの公共交通のルート
- 借り上げバス（校外学習で利用）との違い、その理由
- 公共交通の役割

③　校外学習

学 校

○校外学習（京都水族館）
- 借り上げバスで訪問

行政支援事項

・バス車両提供、乗り方説明（帝産湖南）、公共交通の座学実施（滋賀県）

・ワークシート作成、提供

図 6-58　資料２－今年度の取り組み状況（３/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

7

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（３）既存資源の有効活用／志津南小学校２年生

① 乗り方教室（バス事業者・行政）【2時限】

・事業者がバスの乗り方を具体的に説明（事業者独自の方法）

・滋賀県・草津市より、公共交通の良い所等（環境、公共の施設）について説明

▼事業者による乗り方説明（1時限）

▼県による公共交通に関する座学（1時限）

【資料2】今年度の取り組み状況

8

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（３）既存資源の有効活用／志津南小学校２年生

② 振り返り（学校）【1時限】

・次の校外学習での移動を題材に、バスを公共物として理解させる授業を実施

➡京都水族館までの公共交通のルートと貸切バスのルートの違いやその理由から、路線バスの役割（色んな場所に行ける、地域の人の移動を支えている等）を考える

・ワークシートを学校へ提供し、学校が授業を実施

▼ワークシート

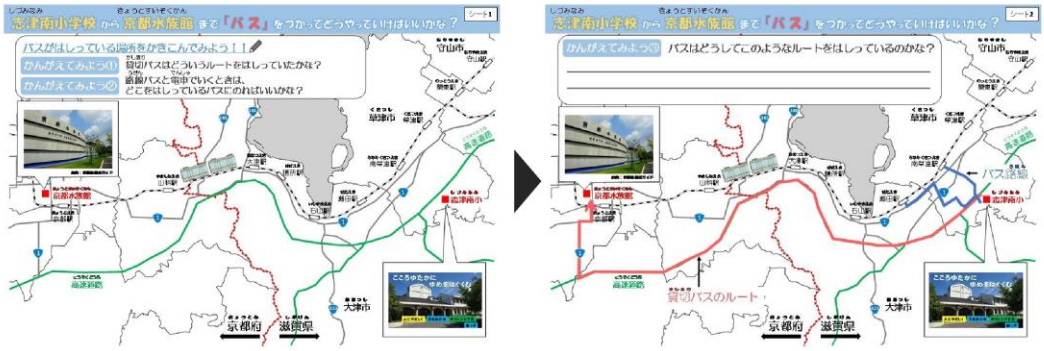


図 6-59 資料２－今年度の取り組み状況（４/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

9

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（３）既存資源の有効活用／志津南小学校２年生

② 振り返り（学校）【1時限】

（参考）教師向けに作成した指導書サンプル

【資料2】今年度の取り組み状況

10

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（３）既存資源の有効活用／志津南小学校２年生

＜教師の感想＞

・乗り方教室についての意見はあるか？

➔ 座学部分は、環境問題など高学年向けの内容が含まれており、２年生には理解が難しい部分があった。**もう少し公共交通の良さを前面に出した内容**にする方が良い

➔ **実際に運賃箱にお金を入れる体験**があれば、運賃の支払い方法についての理解が深まったのではないかと思う

➔ 車両の中で説明を行う際は児童を半分に分けて行う、皆の前で体験する代表者は事業者から指定するのか学校から指定するのかを事前に決めておく等、**授業の詳細な進め方についてもう少しやり取りができていれば良かった**と思う

＜良かった点・成果＞

・ 従来の出前授業に加え、公共交通について考えるWSを作成し、学校が授業を実施

＜課題＞

・ 乗り方教室としての価値を高める工夫、調整
（運賃の支払い、事前の当て方の確認等）
・ WSによる振り返りについて詳細を再度確認し、**精度向上等**を検討

図 6-60 資料２－今年度の取り組み状況（５/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

11

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（４）既存資源の有効活用／城東小学校２年生

生活科・みんなで行こうよつかおうよ

・学校との連携で**実践の機会**を加え、ルール・マナーの定着を狙う

【ねらい】・身近な公共交通を繰り返し利用しながら、その場所に愛着を持ち、それを支える人がいることを理解する
・安全に気をつけながら、公共交通を正しく大切に利用できるようになる

交通環境学習のねらい　実物での学習や利用体験を通じて、理解を深める

	①9/26　乗り方教室	②9/27　郊外学習	③10/4　実践機会
	バス事業者・行政	鉄道事業者	学 校
	○公共交通についての学習（教室） ・公共交通と車の違い ・公共交通の良い所 ・彦根市の路線バス ・バスの乗り方、利用時のマナー ○バスの乗り方（校庭） ・バスの乗車練習 ・バス会社への質問 ※これまでと概ね同様の出前型	○乗車券購入体験（JR・近江鉄道） ・乗車券の買い方説明 ・購入体験 ○校外学習（近江鉄道ミュージアム） ・近江鉄道の歴史 ・切符切り体験	○バス・鉄道乗車体験（京町二丁目～彦根駅～河辺の森） ・乗車券の購入、乗車 ・乗車中のマナー
行政支援事項	・バス車両提供、乗り方説明（湖国バス）、公共交通の座学実施（滋賀県、彦根市）	・乗車券の買い方説明、購入補助（JR西日本・近江鉄道）	

【資料2】今年度の取り組み状況

12

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（５）既存資源の有効活用／城東小学校２年生

①9/26　乗り方教室（バス事業者・行政）【2時限】

・滋賀県・彦根市より、公共交通の良い所や自家用車との違い等について説明
・事業者がバスの乗り方を具体的に説明（事業者独自の方法）
・その後、児童のバスに関する質問に対し事業者が回答

▼県による公共交通に関する座学（1時限）

▼事業者による乗り方説明（1時限）

図 6-61　資料２－今年度の取り組み状況（６/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

13

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（４）既存資源の有効活用／城東小学校２年生

＜感想（行政担当）＞

・乗り方教室や実践機会による効果があったか？

➔ 公共の施設を利用する際のマナーに気付くことが狙いだったが、実践の際に、「ありがとうございました」と**みんなが元気に言えていた**。あとから気を付けることをきいてみたら、静かにすること、走らないこと、人の邪魔にならないようにすること等、**たくさん挙げてくれた**。

➔ バス運転手の方が安全な座り方などについて積極的に指導してくれたが、見せて頂いた写真等に子供たちは**興味深々だった**。

＜良かった点・成果＞

・ 実践機会等の導入により、使い方やマナーを**定着・効果向上**

＜課題＞

・ 単元の中での効果等について詳細を再度確認し、検討

【資料2】今年度の取り組み状況

14

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（５）既存資源の有効活用／土山小学校２年生

生活科・わたしの町はっけん

・**体験乗車・探検**を加え、公共交通の存在・役割の 理解につなげる（体験乗車の進め方を学校と協議、支援）

【ねらい】・公共物や公共施設等、身の回りには**みんなで使うもの**があるということを理解する
・公共施設やそのために働いている人たちが**自分たちの地域の生活を支えている**ことを理解する

交通環境学習のねらい　身近な交通（バスや電車）を通じて、公共の施設やしごとの理解を深める

①11/15 乗り方教室	②11/28 乗車体験	③12/3 まとめ
バス事業者	学 校	学 校
○バスの乗り方（校庭） ・バスの乗り方説明 ・バスの乗車練習	○バス・電車探険（近江土山～貴生川～寺庄～近江土山） ・乗車券の購入、乗車 ・乗客インタビュー（どんな人が、どこに行くのに使っているか？）	○まとめ ・みんなが使う、暮らしを支えるバスや鉄道の存在（どんなひとが何に使っていたか等から）
○バス会社インタビュー（シガ・エージェント） ・バスの運行について ・バス運行や、運転手の仕事について	○鉄道会社インタビュー（貴生川駅） ・鉄道の運行について ・駅員等の仕事について	・バスや鉄道を支える仕事や人の存在（どんな仕事があったか等から）

行政支援事項	・バス車両提供、乗り方説明、インタビュー調整（シガ・エージェント）	・探検スケジュール検討 ・インタビュー調整（JR西日本） ・ワークシート案提供

図 6-62 資料２－今年度の取り組み状況（７/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

15

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（５）既存資源の有効活用／土山小学校２年生

①11/15　乗り方教室（バス事業者）【1時限】

- 事業者がバスの乗り方を具体的に説明（事業者独自の方法）
- その後、児童のバスに関する質問に対し事業者が回答

  質問：路線バスは何時から何時まで運行しているか？
  　　路線バスを貸切ることはできるか？

▼バスの乗り方説明（バス車内）

▼バス事業者インタビュー（近江土山バス停）

【資料2】今年度の取り組み状況

16

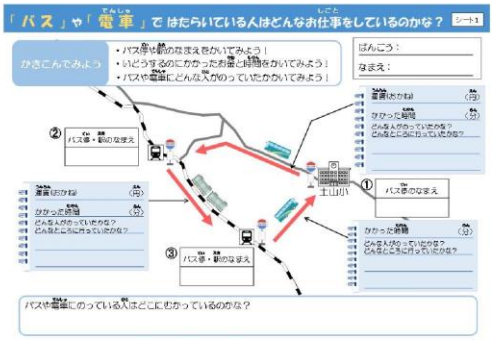
入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（５）既存資源の有効活用／土山小学校２年生

②11/28　乗車体験（学校）【3時限】

- 乗り方教室を踏まえて、公共交通の役割を知るための体験学習を実施
  - ➡実際のバス・鉄道に乗車（土山小→貴生川駅→寺庄駅→土山小）
  - ➡利用状況を知るため乗客インタビューを実施
  - ➡貴生川駅では鉄道事業者へのインタビューを実施
- 体験工程の検討やワークシートは行政がサポート

▼ワークシート



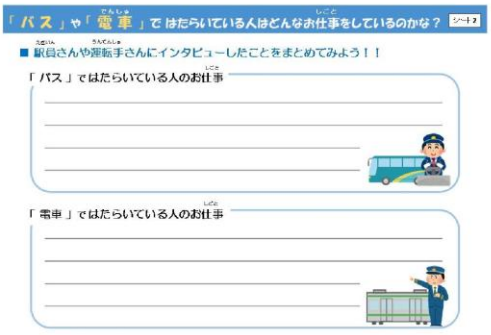


図 6-63　資料２－今年度の取り組み状況（８/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

17

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（５）既存資源の有効活用／土山小学校２年生

②11/28　乗車体験（学校・鉄道事業者）【3時限】

▼バス乗車体験（土山小→貴生川駅）

▼鉄道事業者インタビュー（貴生川駅）

▼鉄道乗車体験（貴生川駅→寺庄駅）

▼バス乗車体験（寺庄駅→土山小）

【資料2】今年度の取り組み状況

18

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（５）既存資源の有効活用／土山小学校２年生

②12/3　まとめ（学校）【1時限】

・乗車体験やインタビューから、公共施設の役割や地域をまもる仕事についてのまとめを実施

授業の流れ

1）<乗車体験の振り返り>
- 利用したバス停・駅について
- 移動にかかった時間と運賃について

2）<バス・鉄道の使われ方>
- どんな人が乗っていたか？（乗客インタビュー）
  - 病院やクリニックに行く人、散髪屋に行く人、仕事で利用する人　等
  - たくさんの人がいろいろな目的で利用している

4）<バス・鉄道の仕事>
- バスや鉄道をささえるのにどんな仕事があったか？（バス会社インタビュー）
  - 乗客のためにいつも車内をきれいにしている、朝早くから夜遅くまでバスを運行している　等

3）<バス・鉄道の役割>
- もしバスや電車がなくなったらどうなるのか？
  - 外出できなくなる、車やタクシーを利用する、生活するのに必要　等

5）<バス・鉄道を支える努力>
- バスや電車で働く人は何のために頑張っているのか？
  - 困っている人を助けたい、移動したい人の手助け　等
  - 地域の方々の希望に応えるために働いている

▼担任の先生によるまとめ

図 6-64　資料２－今年度の取り組み状況（９/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

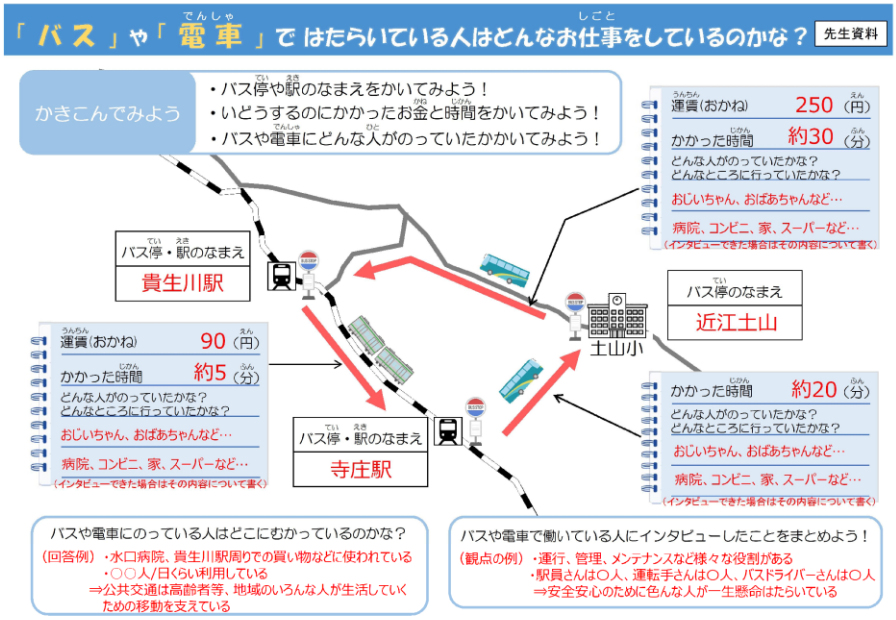
19

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（５）既存資源の有効活用／土山小学校２年生

②12/3　まとめ（学校）【1時限】

（参考）教師向けに作成した指導書サンプル



【資料2】今年度の取り組み状況

20

入口として、“交通”の有用性・魅力を高める

（５）既存資源の有効活用／土山小学校２年生

＜教師の感想＞

・生活科の授業に乗車体験を取り入れることで、内容を深めることができたか？

➔ **自分の目で見て話を聞く経験**ができたため、まとめ授業では生徒の発話がたくさん見られた。従来の**乗り方教室だけでは、ここまで活発な発話は見られない**

➔ 乗車体験を通して、子どもたちの**考え方が豊かに**なった

➔ 乗車体験は公共交通の現状について学ぶ機会にもなるため、**3年生の市の学習や6年生の総合学習**へ展開していくことも考えられる

・授業での問題点はなかったか？

➔ 同じ乗客の方に何度もインタビューする場面があり、**乗客の方に負担**があった

＜良かった点・成果＞

- 交通を用いて生活科の**理解・考えを深めるサポート**ができた
  （乗り方教室を活用して生活科の学習を深める**一つのモデル**を構築）
- 他の単元での活用につながる形で、**“交通”の効果について理解**していただいた

＜課題＞

- 乗車体験を取り入れた生活科授業の**他の地域への展開、適用方法**検討
- 土山小学校での**他の学年・単元への発展**

図 6-65　資料２－今年度の取り組み状況（１０/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

21

車両活用のバリエーション拡大する

（6）新たな視点／土山小学校３年生

総合学習・ともに生きるⅠ（視覚障がい者）

・**車両の観察**から障がい者への理解を深める（全体の流れ、車両観察授業を学校と協議し、車両観察を実施、WSを提供）

【ねらい】移動の際、視覚障がい者が何に困るかを実物・体験を通じて実感し、自分にできることを考える

① 導入

・バスマップ提示（どこに行けるのか？）

問：どんな時に、誰が使うのか？
（高齢者が通院に？車イスの人や視覚障がい者が使うことも）

・バス車内、外観の写真提示
・記載用WSを配布

問：では、どんな工夫がされている？
（観察の準備として予想）

②12/10 車両観察

・バス車両を校庭に準備
・校庭、近江土山バス停に分かれてスタート
・片方が終わったら、もう一方へ移動

【車両観察】【障がい者体験】
問：予想はあっていたか？他にはどんな工夫？
問：障害者の気持ちで問題は？
・バス乗務員等が誘導、解説？

【バス停観察】【障がい者体験】
問：予想はあっていたか？他の工夫？
問：障害者の気持ちで問題は？
・バス事業者が解説？

【バス停観察】【障がい者体験】

【車両観察】【障がい者体験】

・気付いた点をWSに記載

③ まとめ

・記入したWSを見ながら気付いた工夫点、大変だった点を発表
・意見を簡単にまとめる

・記載用WSを配布

問：バスにされていた工夫はなぜされていたのか？

・バスは色んな人に利用しやすいように工夫されている
・バスは重要な手段
・でも、どうしても難しいところもある
・だから・・・、
問：自分ができることは何か考えよう？

・考え方ことを発表
・まとめ

行政支援事項
・バスマップ、バスの写真提供
・予想WS等の提供
・バス車両準備、観察の誘導・解説
・障がい者体験キットの用意、着用・体験のサポート

【資料2】今年度の取り組み状況

22

車両活用のバリエーション拡大する

（6）新たな視点／土山小学校３年生

① 導入（学校）【1時限】

・車両観察の導入として、車両等にされている工夫を予想
・ワークシートを学校へ提供し、学校が授業を実施

▼ワークシート

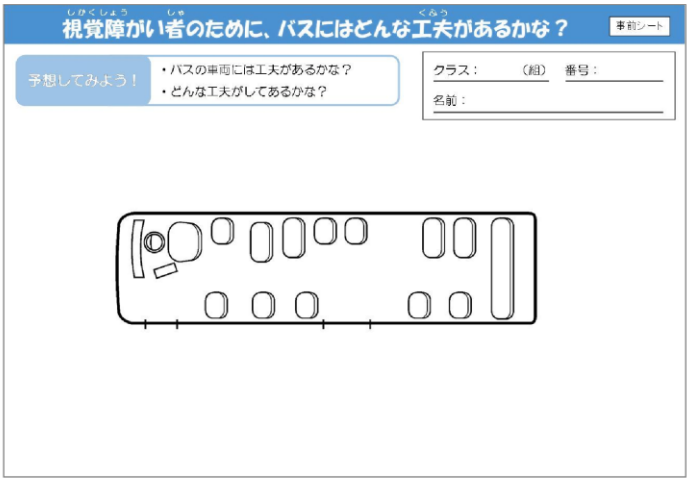


図 6-66 資料２－今年度の取り組み状況（１１/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

23

車両活用のバリエーション拡大する

（6）新たな視点／土山小学校３年生

②12/10　車両観察（バス事業者・行政）【2時限】

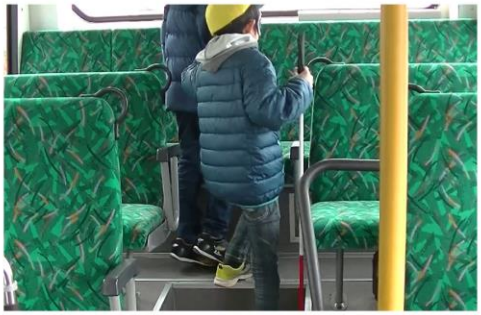
・視覚障がい者に対応したバスの役割や障がい者が困る所等を理解するための観察・体験を実施

➡車両等にされている工夫を知るため、車両・バス停を観察

➡視覚障がい者の体験キットを着用し、乗車から降車までを実際に体験

▼車両観察の様子

▼視覚障がい者体験の様子



【資料2】今年度の取り組み状況

24

車両活用のバリエーション拡大する

（7）新たな視点／土山小学校４年生

総合学習・ともに生きるⅡ（車いす利用者）

・**車両の観察**から障がい者への理解を深める（全体の流れ、車両観察授業を学校と協議し、車両観察を実施、WSを提供）

【ねらい】移動の際、車いす利用者が何に困るかを実物・体験を通じて実感し、自分にできることを考える

①　導入

・バスマップ提示（どこに行けるのか？）

問：どんな時に、誰が使うのか？
（高齢者が通院に？車イスの人や視覚障がい者が使うことも）

・バス車内、外観の写真提示
・記載用WSを配布

問：では、どんな工夫がされている？
（観察の準備として予想）

②12/13　車両観察

・バス車両を校庭に準備
・校庭、近江土山バス停に分かれてスタート
・片方が終わったら、もう一方へ移動

【車両観察】【障がい者体験】

問：予想はあっていたか？他にはどんな工夫？

問：障害者の気持ちで問題は？

・バス乗務員等が誘導、解説？

【バス停観察】【車いす体験】

【バス停観察】【障がい者体験】

問：予想はあっていたか？他の工夫？

問：障害者の気持ちで問題は？

・バス事業者が解説？

【バス停観察】【車いす体験】

・気付いた点をWSに記載

③　まとめ

・記入したWSを見ながら気付いた工夫点、大変だった点を発表
・意見を間単にまとめる

・記載用WSを配布

問：バスにされていた工夫はなぜされていたのか？

・バスは色んな人に利用しやすいように工夫されている
・バスは重要な手段

・だから・・・、
問：自分ができることは何か、もっと使いやすくする工夫を考えよう？

・考え方ことを発表
・まとめ

行政支援事項

・バスマップ、バスの写真提供
・予想WS等の提供

・バス車両準備、観察の誘導・解説
・障がい者体験キットの用意、着用・体験のサポート

図 6-67　資料２－今年度の取り組み状況（１２/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

25

車両活用のバリエーション拡大する

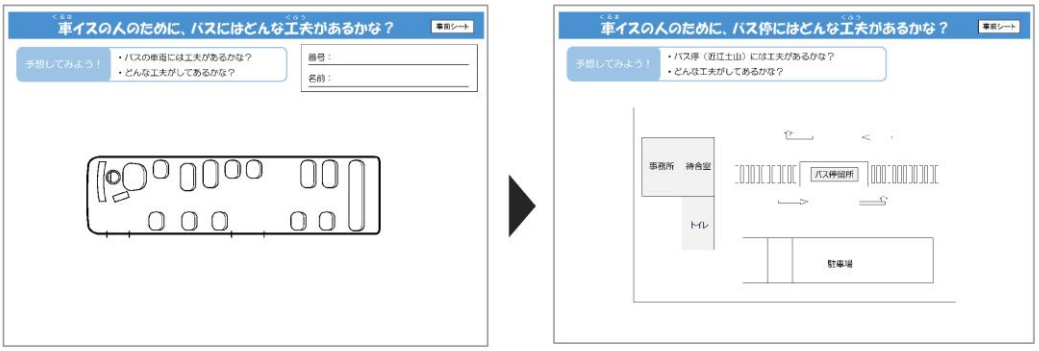
（７）新たな視点／土山小学校４年生

① 導入（学校）【1時限】

・車両観察の導入として、車両等にされている工夫を予想

・ワークシートを学校へ提供し、学校が授業を実施

▼ワークシート



【資料2】今年度の取り組み状況

26

車両活用のバリエーション拡大する

（７）新たな視点／土山小学校４年生

②12/10 車両観察（バス事業者・行政）【2時限】

・車いす利用者に対応したバスの役割や障がい者が困る所等を理解するための観察・体験を実施

➡車両等にされている工夫を知るため、車両・バス停を観察

➡車いすを利用し、乗車から降車までを実際に体験

▼車両観察の様子

▼車いす体験の様子

図 6-68 資料２－今年度の取り組み状況（１３/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

27

車両活用のバリエーション拡大する

（7）新たな視点／土山小学校３年生・４年生

＜教師の感想＞

・福祉学習にバス車両等を取り入れることで、内容を深めることができたか？

➔ スロープの設置角度や車体の傾斜など、バス車両には障がい者の方が快適に過ごせる**工夫がたくさん**あり、子どもだけでなく**教師にとっても良い経験**になった

➔ アイマスク等での体験は「譲り合わないと移動ができない」といった**道徳に発展**するような内容も学べる貴重な機会であり、**座学だけでは経験できない学習**であった

・改善点や工夫すべき点はなかったか？

➔ バス車両での体験は、何度も体験するほどの**十分な時間がなかった**。一方、バス停での体験は**待ち時間が長く**、子どもたちの集中力がきれてしまっていた

➔ バリアフリー対応とそうでない車両の比較も、じっくりできると気付きがあって良かった

➔ ３年生では、**産業の発展や市域の理解**を深める地域学習にも活用可能

＜良かった点・成果＞

・ 交通体験を通じて福祉学習の**理解を深めるサポート**ができた
（３年生以上での**汎用性の高いバリエーション**を構築）

＜課題＞

・ 観察部分の**効果的、効率的な実施方法**検討（改善点への対応＋省力化）
・ 福祉学習以外の単元（3年生社会等）での連携・サポート

【資料2】今年度の取り組み状況

28

より手軽に、広がりやすい方法を考える

（8）新たな視点／志津南小学校４年生

社会科・わたしたちの県

・**ゲーム**で社会科の理解を図りつつ、交通にも触れる（ゲームの方向性・内容、バランス等について学校とこまめに意見交換しながら検討）

【ねらい】 自分たちが住む滋賀県の地理的環境の特色、地域の伝統や文化について理解する

交通環境学習のねらい 鉄道県土すごろくを通じた疑似体験により、県の地形や文化等の理解を深める

【 単元の流れ】

1．県の広がり
- 自分たちが住む県の位置
- 地形や土地利用の様子
- 交通（道路・鉄道）の広がり
- 県内の主な産業とその分布

2．特色ある地域と人々の暮らし
- 伝統産業とその歴史的背景
- 自然環境（県に生息する生き物、栽培されている農産物）
- 歴史的資源（世界遺産など）
- 地域の特色を守る人々の活動やまちづくり

3．世界とつながるわたしたちの県
- 県と他の地域のつながり（交通のつながり、地域との交流活動）
- 県と世界とのつながり（物流、国際交流）

児童が自分で実施

○ 鉄道県土すごろく
・休憩時間に自由に遊ぶ
・鉄道を使って県土をめぐる疑似体験

行政支援事項 ・鉄道県土すごろくの作成

図 6-69 資料２－今年度の取り組み状況（１４/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

29

より手軽に、広がりやすい方法を考える

（８）新たな視点／志津南小学校４年生

【 ゲームの考え方 】

- 県内で生産されている農産物が地形や気候、文化的背景を活かして生産されていることを知る、理解する
- 鉄道を使って食材を探しにいくという疑似体験により、地域の特産物が交通によりつながっていることを理解する（生産物の流通など）

【 鉄道県土すごろくの概要 】

- 地産地消カフェの店員となり、料理に用いる材料を仕入れに行く
- ゲーム開始時に指定された料理メニューをつくるために、必要な材料を電車を使って探しに行く
- 必要な食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利

【資料2】今年度の取り組み状況

30

より手軽に、広がりやすい方法を考える

（８）新たな視点／志津南小学校４年生

【 鉄道県土すごろくの流れ】

① 初めにカフェで提供する料理のレシピカードを引く

② レシピカードに記載されているヒント（地形や気候など）を基に、必要となる食材の生産場所を予想

➡その食材が県内のどこにあるかはボードには記載されていない

➡ヒントとなるような地形情報や河川の位置等はボードに表示

（ヒント例）大根：滋賀県と岐阜県の県境に位置する積雪の多い山のふもと

③ 順番にサイコロを振り、出た目の中で食材を入手したいと思う駅まで駒を移動

④ 駅に複数の食材がある場合、どれか一つを選択し、入手する

⑤ ③～④を繰り返し

⑥ レシピに記載されている食材をそろえて、初めに戻ってきた人が勝ち

【 今後の課題 】

- すごろくに用いる食材種類やレシピの内容を調整し、先生を交えて試行プレイ
- 内容のブラッシュアップを行い実際に子供たちに遊んでもらう

図 6-70 資料２－今年度の取り組み状況（１５/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

31

より手軽に、広がりやすい方法を考える

（８）新たな視点／志津南小学校４年生

▼レシピ・食材の一覧（案）

NO	大分類	小分類	食 材	レシピ														
				鶏肉の南蛮そば	そばの実入りかぶら雑炊	マスのふわふわハンバーグ	湖魚と小エビのかき揚げ	しじみの炊き込みご飯	湖魚の南蛮漬け	焼きなすとかんぴょうの炊き合わ	根菜と人参のサラダ	かぼちゃとかぶらのそぼろ煮	菜の花と枝豆のペペロンチーノ	豚肉と食用菊の和え物	はさみ揚げレンコンのまくわうりあ	茶葉入りつくね	豚肉とナスのみぞれ煮	牛肉とみょうがのさっぱり炒め
1	そば	そば	多賀そば															
2			伊吹そば	●	●													
3			箱館そば															
4	畜産物	牛	近江牛			●									●			●
5		鶏	近江しゃも	●								●				●		
6		豚	蔵尾ポーク（バームクーヘン豚）							●				●			●	
7	湖魚	魚	ビワマス			●												
8			イサザ				●											
9			ホンモロコ						●									
10		甲殻類・貝	スジエビ				●											
11			セタシジミ					●										
12	伝統野菜	大根	山田ねずみ大根								●						●	
13			伊吹大根															
14		茄子	下田なす							●							●	
15			杉谷なす															
16		唐辛子	弥平とうがらし						●				●					
17			杉谷とうがらし															
18		干瓢	水口かんぴょう							●								
19		菜花	鮎河菜										●					
20		山芋	秦荘のやまいも			●												
21		かぶら	北之庄菜															
22			日野菜		●						●	●						
23			赤丸かぶ															
24			万木かぶ															
25	その他の野菜	南瓜	とよ坊かぼちゃん									●						
26		春菊	しゅんぎく娘											●				
27		枝豆	能登川黒ダイヤ										●					
28		生姜	笠原しょうが					●										●
29		茗荷	甲津原みょうが															●
30		葱	豊浦ねぎ	●												●		
31		人参	八日市おとめにんじん		●			●	●		●							
32			多賀にんじん															
33		蓮根	琵琶湖からすま蓮根												●			
34		まくわうり	金太郎まくわ												●			
35		ごぼう	栗原ごぼう				●											
36		菊	坂本菊											●				
37	お茶	お茶	土山茶															
38			朝宮茶													●		
39			政所茶															

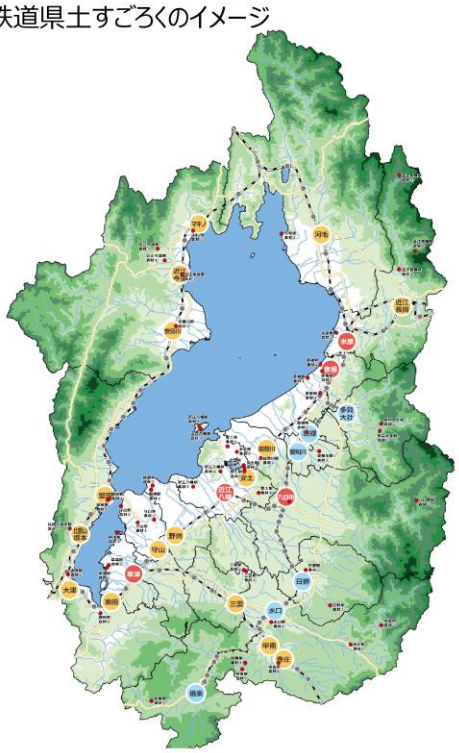
【資料2】今年度の取り組み状況

32

より手軽に、広がりやすい方法を考える

（８）新たな視点／志津南小学校４年生

▼鉄道県土すごろくのイメージ



▼レシピカード・食材カードのイメージ

図 6-71　資料２－今年度の取り組み状況（１６/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

33

より手軽に、広がりやすい方法を考える

（８）新たな視点／志津南小学校４年生

＜良かった点・成果＞

・ 出前授業等の手間を掛けずに実施できる内容を**教師とともに検討**し、ツールとして**概ね具体化**
（他にも、興味を持っていただいている学校・教師もある）

＜課題＞

・ 志津南小、その他学校での、ゲーム実施、問題把握、ブラッシュアップ

【資料2】今年度の取り組み状況

34

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（９）新たな視点／志津南小学校５年生

総合・琵琶湖

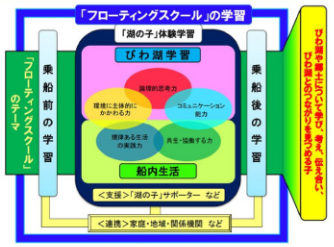
・フローティングスクールに先立ち、琵琶湖と自分の関わりの一つとして**湖上交通への興味付け**（プログラムの内容を学校と協議し、実施）

【 ねらい 】自分たちの生活と琵琶湖の関わりを理解する

交環境学習のねらい	今も地名に残っている物流・湖上交通のなごりから、琵琶湖周辺にある港が自分たちの生活を支えている（いた）ことを理解する

【 琵琶湖学習（フローティングスクール）の流れ】

調べ学習	宿泊体験学習	まとめ
・ 琵琶湖について学びたいテーマを設定し、琵琶湖と自分たちの生活の関わりについての学習を行う	・ 学習船「うみのこ」での宿泊体験を通し、琵琶湖の現状や環境等について学ぶ	・ 宿泊体験での学びを通して、乗船前に設定したテーマについて理解を深める



※滋賀県立琵琶湖フローティングスクールHPより引用

①1/31 琵琶湖と交通の関わり

行 政

○琵琶湖と交通の関わり
- 琵琶湖周辺における地名の共通点
- 湖上交通を使った昔の貨物輸送のルート
- 湖上交通の役割

行政支援事項
・ワークシートの提供
・琵琶湖と交通の関わりについての座学実施（滋賀県）

図 6-72 資料２－今年度の取り組み状況（１７/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

35

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（９）新たな視点／志津南小学校５年生

①1/31　琵琶湖と交通のかかわり（行政）【1時限】

・湖上交通の名残りから、琵琶湖と交通のかかわりを理解させる授業を実施

➡琵琶湖周辺の地名の共通点や昔の貨物輸送ルートから、琵琶湖における湖上交通の役割（琵琶湖における湖上交通は生活を支えている等）を考える

・ワークシートを学校へ提供し、行政（滋賀県）が授業を実施

【 授業の流れ 】

琵琶湖に**港があった**（ある）ことを知る	琵琶湖は**交通の要衝であった**ことを理解する	現在も県民の**日常生活に使われる交通**が琵琶湖にあり、生活を支えていることを知る
・琵琶湖周辺の地名を調べてWSに記入する ・記入した地名についてその共通点を考える ・地名に共通する漢字の意味について調べる	・日本海側からの荷物の輸送ルートを予想する ・港は「小浜」や「敦賀」に運ばれた荷物を京都や大阪、大津まで輸送するための中継点であったことを知る ・陸路を短縮するために琵琶湖に交通が集まっていたことを理解する	・今も日常的に残っている湖上交通のルートを予想する ・日常的な生活に使われている交通が琵琶湖にあることを理解する

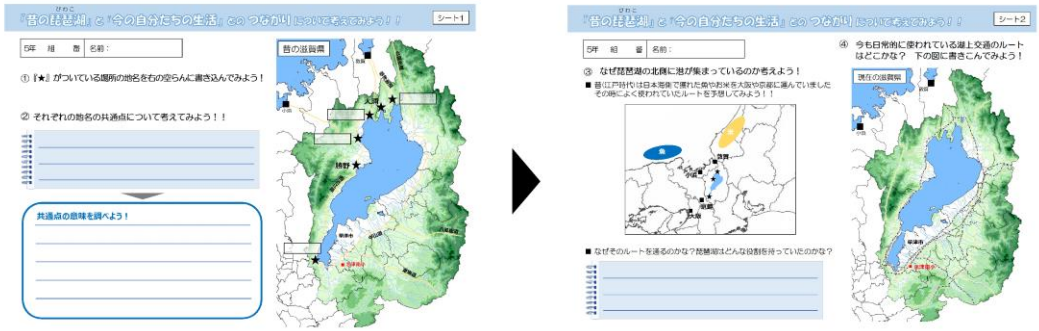
【資料2】今年度の取り組み状況

36

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（９）新たな視点／志津南小学校５年生

▼ワークシート



▼県による座学の様子

図 6-73　資料２－今年度の取り組み状況（１８/２４）

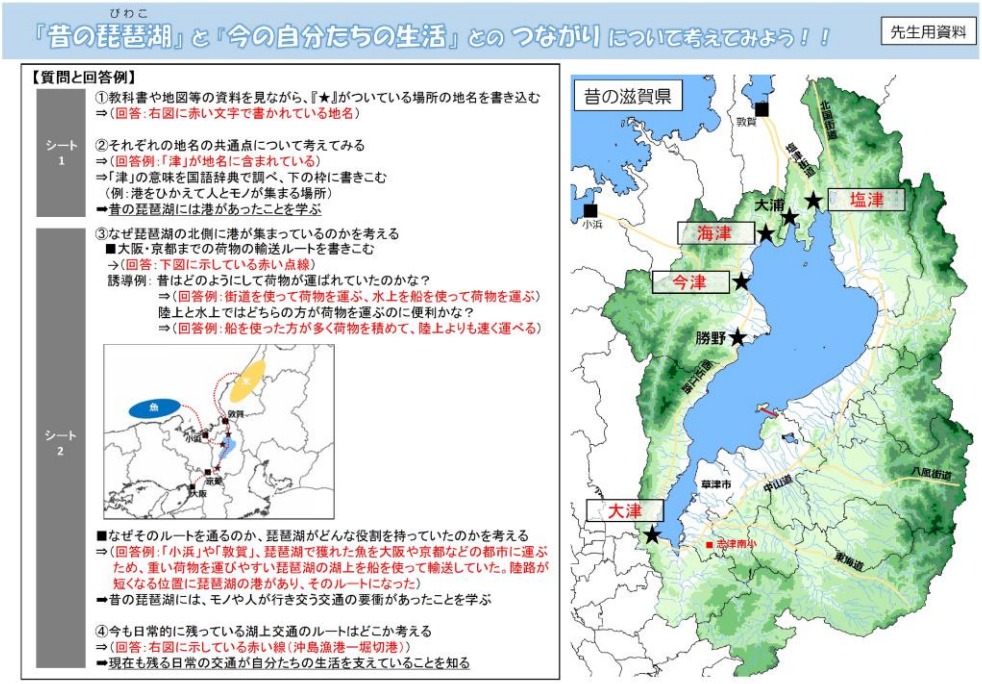
【資料2】今年度の取り組み状況

37

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（９）新たな視点／志津南小学校５年生

（参考）教師向けに作成した指導書サンプル



【資料2】今年度の取り組み状況

38

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（９）新たな視点／志津南小学校５年生

＜教師の感想＞

・湖上交通の学習が活用できたか？

➔ 丁寧に教えてもらい分かりやすかった。フローティング学習中にも、講師から湖上交通の話が出て、子供たちからも「あの時話してもらったことだ！」というような**反応**があった。

➔ フローティングの**事前学習としてはよかった**。フローティングをする1か月前くらいがベストだと思う。学習に使った**観光マップを貰えた**のもありがたかった。

➔ ワークシートは、一部何を書いたらいいかわからないところがあった。

➔ 学校側としては、何種類かの**指導案**がまとまっている冊子等をもらって、それに乗っかる形が一番ありがたい。

＜良かった点・成果＞

・ 滋賀県の全小学校で実施する琵琶湖学習において、琵琶湖と自分の関わりの一つとしての湖上交通を、コンパクトに紹介・興味付けできる**プログラムを具体化**

＜課題＞

・ 結論部分の**ブラッシュアップ**、**指導書**の精度向上、学習に役立つ琵琶湖マップの提供等を行いながら、**学校による実施**を後押し

・ 内容がより**効果的となる地域へ**の展開（○○津での琵琶湖とまちの学習等）

図 6-74 資料２－今年度の取り組み状況（１９/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

39

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（10）新たな視点／大野小学校６年生

総合・街道

・街道の調べ学習を、交通の面から深めるための**資料・データ提供**（全体展開や、交通を活用した調べ学習の視点等を学校と協議し、データ等を提供）

【ねらい】昔のまちの成り立ちや地域の良さを学び、大野地域を活性化するためにできることを考える

交通環境学習のねらい　交通とまちの盛衰の関係性から、まちへの理解や自身の考えを深める

① 導入（学校）	② 調べ学習（学校）	③ 発表（学校）
○興味付け ・大野学区に古くから残っているもの ○校外学習・情報収集 ・東海道伝馬館の見学 ・色んな話を聞く ○まとめ ・昔と今の違いなどから興味のあることを探す	○調べ学習 ・自分の興味・関心にあった課題を選択 ・外部講師、専門家、インターネットを通じて情報を収集	○発表 ・調べ学習でまとめた内容を学校内外に広く発信

行政支援事項

- ①導入：・交通を用いた深め方についての意見交換
- ②調べ学習：・交通に係るデータの提供

【資料2】今年度の取り組み状況

40

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（10）新たな視点／大野小学校６年生

① 導入（学校）

・大野地域の将来を考えるきっかけとして、昔と今のまちの違いを考える授業を実施

➡大野学区に古くから残っているものについて調べる

➡「東海道伝馬館」の見学し、東海道について調べてみたいことを持つ

（旅、特産品、東海道、その他を見学するポイントとして着目）

➡大野地域の昔と今の違いについて考えるまとめを学校が実施

▼担任の先生によるまとめ

図 6-75　資料２－今年度の取り組み状況（２０/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

41

政策提言につながる、
“交通”の絡ませ方を考える

（10）新たな視点／大野小学校６年生

② 調べ学習（学校）

・調べ学習でまちが変化してきた理由を考える素材として交通に係るデータを提供

➡平安時代から現在に至るまでの人口推移、交通網（道路・鉄道）の変化、公共交通の利用者数の推移など、素材として考えられるものを集めて提供

▼提供データ

【資料2】今年度の取り組み状況

42

政策提言につながる、
“交通”の絡ませ方を考える

（10）新たな視点／大野小学校６年生

② 調べ学習（学校）

▼各資料の提示方法イメージ

○利用可能なデータの例

		項目	出展	単位	確認できる状況例	備考
交通	交通網	道路、鉄道の交通網	地図等		・江戸～現在にかけての交通網、主要交通手段の変化	・古い情報は行政保有？ ・鉄道歴史地図で検索可能（正確性は不明）
	自動車	自動車登録台数	市町村統計	毎年	・県内の自動車の増加	
		自動車交通量（国道・県道）	道路交通センサス	最新はH27	・周辺で交通量の多いエリア、区間	
		自動車交通量（簡易トラカン）	ＪＡＴＩＣ	随時公表	・周辺で交通量の多いエリア、区間	
		流動・走行履歴データ、急挙動データ（ＥＴＣ2.0 登載車）	国土交通省	随時収集	・	・許可必要
	電車	駅別利用者数	市町村統計 （鉄道事業者データ）	毎年	・鉄道利用者数の減少	・古いデータは事業者へ依頼？
		鉄道運行本数	時刻表		・エリアによる鉄道サービスレベルの違い	・古いデータは事業者へ依頼？
	バス	コミュニティバス利用者数	甲賀市		・バス利用の量、少なさ？	
		バス運行本数	時刻表		・サービスレベルの状況、少なさ？	
町・人口		人口分布（500mメッシュ等）	国勢調査	H27	・人口の多いエリア、人口の変化	
		年齢層別人口分布（500mメッシュ等）	国勢調査	H27	・高齢者や子供の多いエリア、その変化	
		就業者数分布（500mメッシュ等）	国勢調査	H27	・就業者が多いエリア、その変化	
		航空写真	行政保有？	●年	・居住エリア、まちの様子の変化	
移動状況	流動	通勤通学流動パターン（市町村間等）	国勢調査	最新はH22	・地域からの主な移動パターン、その変化	
		目的別移動パターン（市町村間等）	近畿圏ＰＴ調査	最新はH22	・地域からの主な移動パターン、その変化	・申請必要
	分担率	通勤通学交通手段分担率（市町村毎）	国勢調査	最新はH22	・主な交通手段、自動車の多さ？	
		目的別分担率（市町村毎）	近畿圏ＰＴ調査	最新はH22	・主な交通手段、自動車の多さ？	・申請必要
		都道府県間交通手段別輸送量	旅客地域流動調査	H12～毎年	・現在の東京－大阪間の移動手段	

○使用イメージ例

<地域交通・暮らしの視点>

	生活パターン	まちへの影響	提示資料例
江戸時代（街道時代）	街道から歩き、馬で大津、彦根へ？	・街道の発展	・伝馬館で聞く
少し昔	貴生川・水口から電車で大津、彦根へ？	・街道の衰退 ・駅周辺の発展	・交通網の図で確認
現在	車で大津、京都へ、その他ショッピングセンターへ	・駅周辺の衰退？ ・道路周辺のロードサイドショップの増加	・自動車保有台数で増加を確認 ・自動車交通量図で交通量と店舗立地の関連を確認

<国土軸の変化の視点>

	移動パターン	まちへの影響	提示資料例
江戸時代（街道時代）	街道で東日本から京都、伊勢へ	・街道の発展	・伝馬館で聞く
少し昔	鉄道に乗って移動	・街道の衰退 ・駅周辺の発展 （京都までの場合、まだ草津線は比較的利用し立ち寄ることも？？）	・鉄道歴史地図で調べて見る？
現在	新幹線・高速バス・飛行機等	・ほとんど土山を通らないor最近になり新名神で通り過ぎるだけ	・旅客地域流動調査で東京大阪間の利用手段を見る？

図 6-76 資料２－今年度の取り組み状況（２１/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（10）新たな視点／大野小学校６年生

③ 発表（学校）

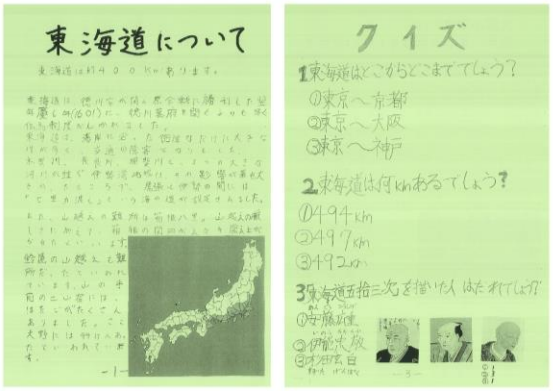
・大野地域を活性化するためのアクションプランについてまとめた内容を発表

➡大野地域の絶景スポット（インスタ映え班）、特産物のお茶（茶摘み班）、おススメのカフェ（吉笑庵班）、情報発信（ご当地キャラクター制作班、パンフレット制作班、看板製作班）

➡パンフレットには大野地域の紹介として、東海道に関する内容が掲載

▼発表の様子

▼パンフレット



【資料2】今年度の取り組み状況

政策提言につながる、“交通”の絡ませ方を考える

（10）新たな視点／大野小学校６年生

＜教師の感想＞

・交通に関するデータ等を上手く活用することができたか？

➔ 活用できそうなデータ（甲賀市の人口分布、周辺地域の自動車交通量等）を選び、**交通・物流や人口変化について学習する1つのツールとして**利用させて頂いた

➔ 交通素材や加工方法など、資料の内容について打ち合わせをする時間を十分にとれていれば、**もっとより良い形で活用ができたのでは**ないかと思う。また「R1の開通と反比例し、東海道の利用者が減った」というような、問題点わかる資料のほうが活用しやすい

➔ 「大野を元気にするために何ができるか」を目標にしたため子供らしいテーマが多く、交通に直接関係する内容にならなかったが、同じテーマでも**地域を守ってきた住民の考えが分かる資料**（鉄道敷設に係る請願書等）があれば交通から深められたかもしれない

➔ 本年度の取り組みで**大まかな流れができた**ので、今後この指導計画を活用していきたい。**来年度もぜひ協力いただきたい**。

＜良かった点・成果＞

- 大野小学校における**指導計画の整理に寄与**
- 街道学習における交通からの学習深化の**可能性の確認**、モデル校との**連携強化**

＜課題＞

- 大野小学校との密な連携により、**データの加工・提示方法**や、**請願書**等も含めた活用できる資料の再検討、その他資料作成等を実施

図 6-77 資料２－今年度の取り組み状況（２２/２４）

【資料2】今年度の取り組み状況

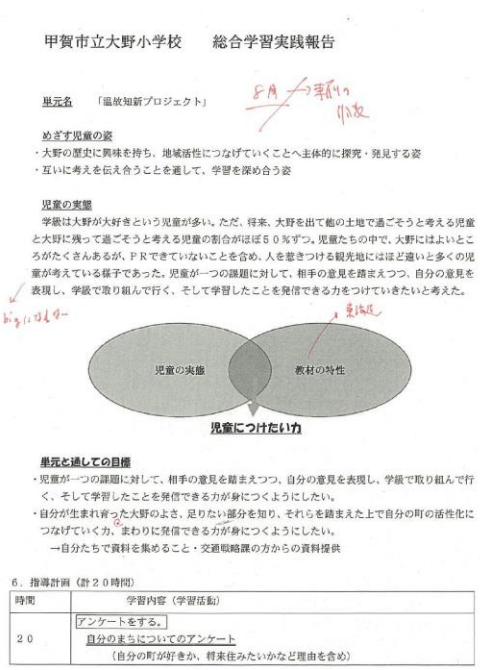
45

政策提言につながる、
“交通”の絡ませ方を考える

（10）新たな視点／大野小学校６年生

＜教師の感想＞

（参考）大野小学校が作成した指導計画書



甲賀市立大野小学校　　総合学習実践報告

単元名　「温故知新プロジェクト」

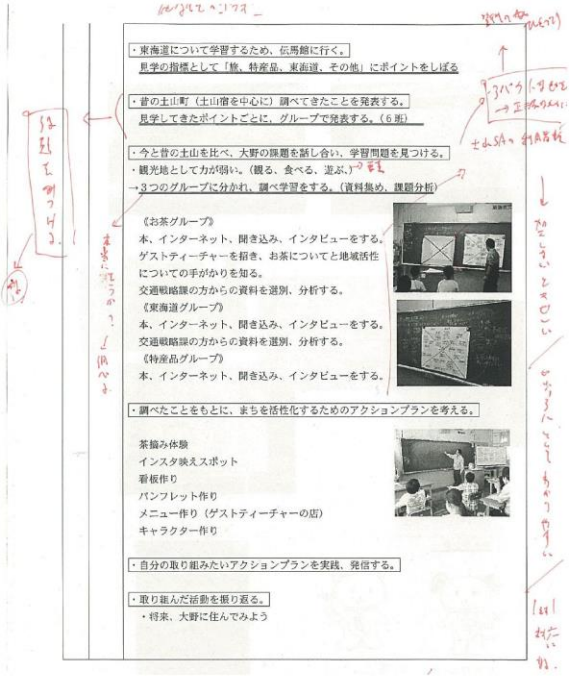
めざす児童の姿
・大野の歴史に興味を持ち、地域活性につなげていくことへ主体的に探究・発見する姿
・互いに考えを伝え合うことを通して、学習を深め合う姿

児童の実態
学級は大野が大好きという児童が多い。ただ、将来、大野を出て他の土地で過ごそうと考える児童と大野に残って過ごそうと考える児童の割合がほぼ５０％ずつ。児童たちの中で、大野にはよいところがたくさんあるが、ＰＲできていないことを含め、人を惹きつける観光地にはほど遠いと多くの児童が考えている様子であった。児童が一つの課題に対して、相手の意見を踏まえつつ、自分の意見を表現し、学級で取り組んで行く、そして学習したことを発信できる力をつけていきたいと考えた。

単元を通しての目標
・児童が一つの課題に対して、相手の意見を踏まえつつ、自分の意見を表現し、学級で取り組んで行く、そして学習したことを発信できる力が身につくようにしたい。
・自分が生まれ育った大野のよさ、足りない部分を知り、それらを踏まえた上で自分の町の活性化につなげていく力、まわりに発信できる力が身につくようにしたい。
→自分たちで資料を集めること・交通戦略課の方からの資料提供

６．指導計画（計２０時間）

時間	学習内容（学習活動）
２０	アンケートをする。 自分のまちについてのアンケート （自分の町が好きか、将来住みたいかなど理由を含め）



・東海道について学習するため、伝馬館に行く。
見学の指標として「旅、特産品、東海道、その他」にポイントをしぼる
・昔の土山町（土山宿を中心に）調べてきたことを発表する。
見学してきたポイントごとに、グループで発表する。（６班）
・今と昔の土山を比べ、大野の課題を話し合い、学習問題を見つける。
・観光地としてカが弱い。（観る、食べる、遊ぶ、）
→３つのグループに分かれ、調べ学習をする。（資料集め、課題分析）
《お茶グループ》
本、インターネット、聞き込み、インタビューをする。
ゲストティーチャーを招き、お茶についてと地域活性についての手がかりを知る。
交通戦略課の方からの資料を選別、分析する。
《東海道グループ》
本、インターネット、聞き込み、インタビューをする。
交通戦略課の方からの資料を選別、分析する。
《特産品グループ》
本、インターネット、聞き込み、インタビューをする。
・調べたことをもとに、まちを活性化するためのアクションプランを考える。
茶摘み体験
インスタ映えスポット
看板作り
パンフレット作り
メニュー作り（ゲストティーチャーの店）
キャラクター作り
・自分の取り組みたいアクションプランを実践、発信する。
・取り組んだ活動を振り返る。
・将来、大野に住んでみよう

【資料2】今年度の取り組み状況

46

（11）検討の成果と課題

		２年	３年	４年	５年	６年
草津	志津南小	【生活科】 ・振返学習用のWSを作成、実施 ⇒WS等の精度向上等	—	【社会科】 ・ゲームを使った方法を検討、具体化 ⇒試行、ブラッシュアップ	【総合】琵琶湖 ・湖上交通を用いたプログラムを具体化 ⇒ブラッシュアップ ⇒効果的地域への展開	—
甲賀	大野小	—	—	—	—	【総合】街道 ・交通からの活用可能性確認 ⇒データ提示方法、資料の再検討
	土山小	【生活科】 ・乗車体験により生活科を深めるモデル形成 ⇒他地域への展開	【総合】福祉 ・車両を用いて福祉の理解を深めるバリエーション構築 ⇒効果的、効率的な実施方法検討		—	—
東近江	布引小	【生活科】 ・宿題を担任が作成、実施 ⇒密な議論・例示等必要	—	—	—	—
彦根	城東小	【生活科】 ・実践機会による効果定着 ⇒継続・ブラッシュアップ	—	—	—	—

H31の課題	【生活科】 ○活用パターン整理へ ⇒モデル校での取り組みを他校へ展開 ⇒（体験が難しいケースを想定し）WS形式の精度向上も目指す	【社会科】 ○試行、ブラッシュアップ 【福祉・バリアフリー】 ○パターン整理へ ⇒引き続きブラッシュアップしながら実施し、効果向上・効率化を図る		【総合】琵琶湖 ○H30の視点を軸に、再検討 ⇒学校で実施できるよう、ブラッシュアップ ⇒効果的地域への展開	【総合】街道 ○H30の視点を軸に、再検討 ⇒効果的な資料やデータ提供方法について、密に議論、検討

図 6-78　資料２－今年度の取り組み状況（２３/２４）

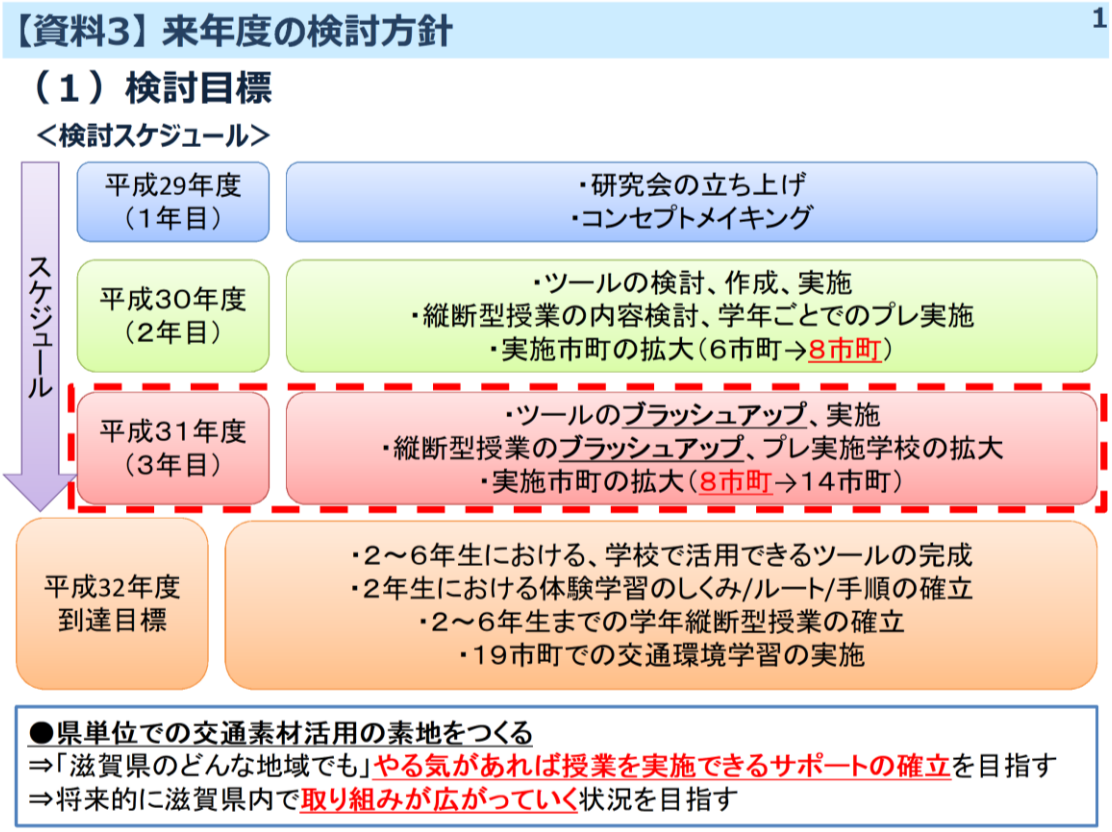
【資料2】今年度の取り組み状況

（12）教育関係者（布引小校長、県教委 等）へのヒアリング結果

項 目			意 見
今年度の取組に対する意見	既存資源の有効活用	ワークシート等の教材について	・単元とその時間の**指導案**があれば、教師は理解がしやすく、活用につながると思う ・教員が異動しても授業内容がイメージしやすいように、どの学校でも活用できるようなワークシートを作成してほしい
	新たな視点での取組	車両を用いた障がい者体験について	・**福祉をテーマに総合学習を行う学校は多い** ・担任の先生が興味を持てば、他の学校に展開していくことは可能であると思う
		湖上交通を題材にしたフローティングスクールの事前学習について	・本来、フローティングスクールは、「水」や「琵琶湖の生き物」を学習する場であるため、湖上交通を組み込んでいくには工夫が必要
		鉄道県土すごろくについて	・4年生の滋賀県の学習においても、学校によって学習のねらいをどのように位置付けているのかで、すごろくに求める内容は異なると思うので、**色々なバージョン**があると良いと思う ・ゲーム中に長い文章を読む児童はあまりいないと思うので、**カードに書くヒント等は最低限の文字数**にする方が良いと思う
その他	教師・学校間での波及について		・今年度に実施した学校教師と来年度に実施予定である**学校教師を集めて情報共有**をすると、次に授業を行う先生にとって内容のイメージがしやすいと思う
	多様な連携について		・（新たな担い手の1つとして）大学生がMM授業に参加することや授業を行ってもらうことは可能
	取り組みの発表について		・総合学習での**学習成果を外部へ発表**するのは、子どもたちにとっても良い機会になると思う ・しかし、交通環境学習に取り組もうと思った学校があっても、外部発表が強制であれば、取り組み自体をやめてしまう学校もあると思う

図 6-79 資料２－今年度の取り組み状況（２４/２４）

(4) 資料３　来年度の検討方針



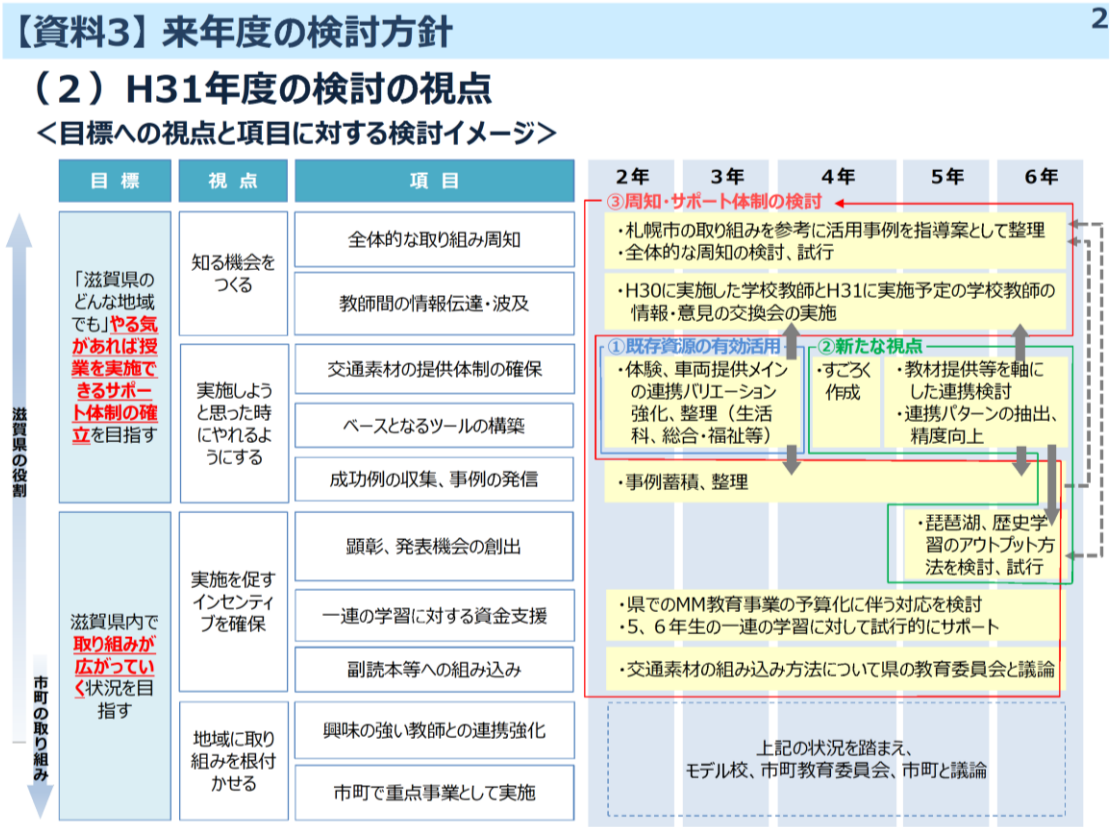


図 6-80　資料３－来年度の検討方針（１/３）

【資料3】来年度の検討方針 3

（３）H31年度の実施内容イメージ

①既存資源の有効活用

<H31の基本的な実施イメージ>

	【２年生活科】まち	【３年社会科】市	【３・４年総合】福祉
基本方針	・**モデル校での取り組み**を他校へ展開 ・（学校の意見を踏まえ）**WS形式**での精度向上検討、実施	・2年生の取り組みの発展として、**3年生の市の学習**での適用を検討	・引き続き**ブラッシュアップ**しながら実施し、効果向上・効率化を図る
アウトプット	⇒乗り方教室の**活用パターン整理** ⇒各パターンの**標準指導案・ツール案**整理	⇒3年での**実施モデル**を構築	⇒車両活用の**パターン整理** ⇒**標準指導案・ツール案**整理

▼H31の取り組み校・内容（素案）

		2年	3年	4年
草津	志津南小	**【生活科】わたしの町はっけん** ・担任等と協議し、今年度の**ブラッシュアップ** or **モデルの展開**検討		
甲賀	土山小	**【生活科】わたしの町はっけん** ・乗り方教室（事業者）⇒バス・電探検⇒まとめ の**精度向上**	**【社会】市町のようす** ・公共交通から**市域の広がり予想**⇒**バス探検**⇒まとめ の検討・実施	**【総合】福祉（車いす利用者）** ・工夫の予想⇒バス車両観察（事業者）⇒まとめ の**精度向上**
東近江	布引小	**【生活科】わたしの町はっけん** ・担任等と協議し、今年度の**ブラッシュアップ** or **モデルの展開**検討		
彦根	城東小	**【生活科】わたしの町はっけん** ・乗り方教室（事業者）⇒実践体験の**精度向上**		
その他の小学校		並行して検討	並行して検討	並行して検討

【資料3】来年度の検討方針 4

（３）H31年度の実施内容イメージ

②新たな視点での取り組み

< H31の基本的な実施イメージ>

	【４年社会科】 鉄道県土すごろく	【５年総合】 琵琶湖	【６年総合】 歴史（街道）
基本方針	・児童に対して**試行、調整**	・H30のプログラムを軸に、**学校で実施できるよう**、ブラッシュアップ ・湖上交通学習の**効果的地域への展開**	・H30年度の視点を軸に、**資料やデータ提供方法**について、密に議論、検討
アウトプット	⇒すごろくツールの**実用化** ⇒**展開方法**の検討	⇒琵琶湖学習での**実施モデル**を構築	⇒歴史学習での**実施モデル**を構築

▼H31の取り組み校・内容案

		4年	5年	6年
草津	志津南小	**【社会科】わたしたちの県** ・鉄道県土すごろく**試行、調整**	**【総合】琵琶湖** ・琵琶湖学習の素材提供⇒交通を絡めた調べ学習 の**精度向上**	
甲賀	大野小			**【総合】街道** ・歴史まちづくり学習の素材提供⇒調べ学習 の**精度向上**
	土山小			**【総合】街道** ・歴史まちづくり学習の素材提供⇒調べ学習 の**精度向上**
東近江	布引小	**【社会科】わたしたちの県** ・鉄道県土すごろく**試行、調整**		
その他の小学校		並行して検討	並行して、**湖北・湖西エリア**の学校での実施を検討	並行して検討

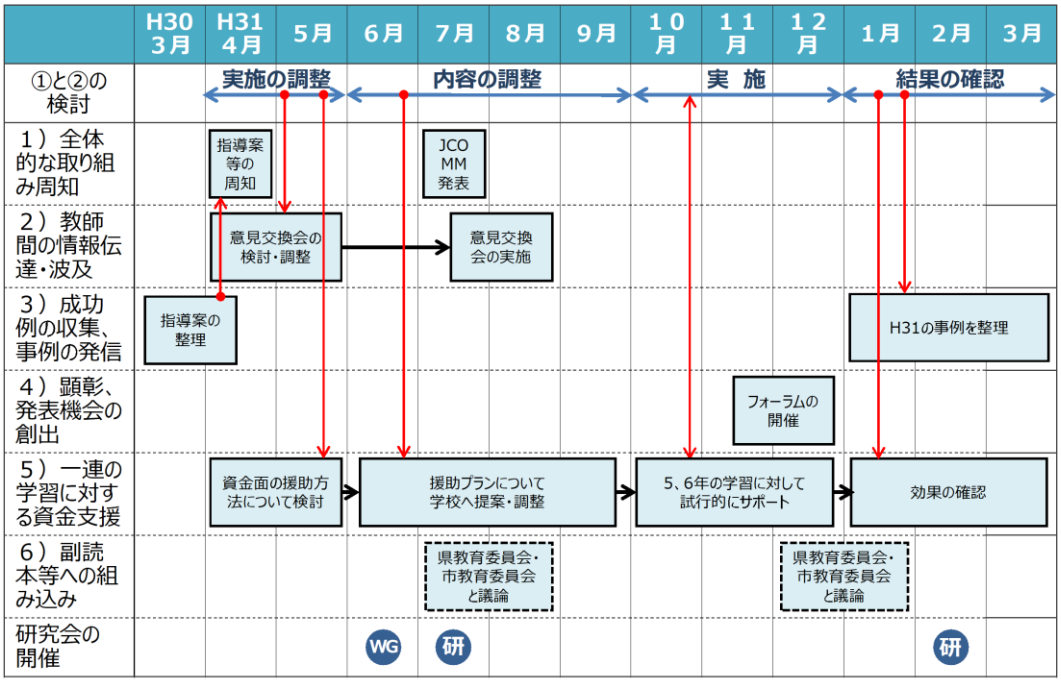
図 6-81 資料３－来年度の検討方針（２/３）

【資料3】来年度の検討方針

5

（3）H31年度の実施内容イメージ

③周知・サポート体制の検討



【資料3】来年度の検討方針

6

（参考）全体スケジュール

	H29	H30	H31	H32
研究会等	研究会			
	既存資源の有効活用	~~対象地域で適宜検討~~	~~対象地域で適宜検討~~	~~対象地域で適宜検討~~
	新たな視点での取り組み検討	~~対象地域で適宜検討~~	~~対象地域で適宜検討~~	~~対象地域で適宜検討~~
		周知・サポート体制の検討 ~~関係者で適宜検討~~		~~関係者で適宜検討~~
主な検討内容	○コンセプトの検討・共有化 ⇒意見収集・案整理 ○検討方針について ⇒既存プログラムの活用 ⇒新たな視点での取り組み ⇒検討の進め方	○既存資源の有効活用 ⇒内容検討、試行 ○新たな視点での取り組み ⇒内容検討、試行 ○周知方法・サポート体制 ⇒方針検討	○既存資源の有効活用 ⇒利便性・精度の向上 ⇒バリエーションの整理 ○新たな視点での取り組み ⇒連携強化の検討 ⇒連携パターンの整理 ○周知方法・サポート体制 ⇒様式、仕組みの試行 ⇒意見交換の実施 等	○既存資源の有効活用 ⇒利便性・精度の向上、ツール確立 ⇒バリエーションの整理 ○新たな視点での取り組み ⇒連携強化の検討、ツールの確立 ⇒連携パターンの整理 ○周知方法・サポート体制 ⇒様式、仕組みの確立 ⇒サポート体制の構築 等 ○取りまとめ
		第13回日本モビリティ・マネジメント会議 【日程】平成30年7月27（金）・28（土） 【場所】名鉄トヨタホテル（愛知県豊田市） <その他> JCOMM発表	第14回日本モビリティ・マネジメント会議 【日程】平成31年7月19（金）・20（土） 【場所】石川県立音楽堂（石川県金沢市） <その他> JCOMM発表	<その他> JCOMM発表

図 6-82 資料３－来年度の検討方針（３/３）

6-8-3 議事概要

第４回研究会の議事概要を以下に示す。

１．開会	
事　務　局　：	只今より、平成３０年度第４回近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会を始めさせていただく。それでは開会にあたり、滋賀県土木交通部交通戦略課の芝よりご挨拶をお願い申し上げたい。
芝　委　員　：	本日は公私なにかとお忙しい中、第４回研究会にお越し頂き厚く御礼申し上げる。 滋賀県の交通環境学習は、平成２８年度から開始し初年度は小学校４校、平成２９年度は小学校９校、幼稚園・保育園４園、養護学校１校、そして今年度は小学校１８校で実施をさせて頂いた。学習内容もバス車両を用いた乗り方教室や公共交通の座学をはじめ、紙芝居や○×クイズなどアレンジを加えたものや福祉学習の理解を深めるためにバス車両を活用したものなど、多岐にわたる内容の学習について実施している。しかし、滋賀県内の小学生の児童生徒数は約８万人となっており、全ての児童に対して交通環境学習を実施するのは難しい。そのため、より多くの生徒に交通環境学習を行っていくためには、従来の行政主導で実施するのではなく、学校が主体となって学習展開をしていく必要があり、本研究会はその方法や学習ツールなどについて検討を行っていきたいと考えている。 「近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会」は交通エコロジー・モビリティ財団から支援を受けながら、４年間で事業検討を行っていくこととなっており、今年度はその２年目にあたる。本日は、２年間の活動を踏まえながら、その成果と来年度以降の進め方について議論をさせていただきたいと考えており、委員の皆様方には忌憚のないご意見を頂き、研究会がより良いものとなるようお願い申し上げたい。
事　務　局　：	それでは早速ではあるが、本日の進行について会長である滋賀大学の市川先生にお願い申し上げたい。
市　川　会　長　：	年末のお忙しい中お集まりいただき有り難く思う。研究会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げる。 今年度、取り組みを実施している甲賀市の土山小学校と大野小学校の交通環境学習を拝見させて頂いた。今回はこれまで実施してきた乗り方教室だけでなく、実際に運行する公共交通への乗車体験や子供たちが使うワークシートの作成など、新しい取り組みも実施されており、子どもたちの理解を深めるサポートができていたと思う。取り組みの詳細な内容については、このあと説明があると思うので、早速議題の方にはいっていきたい。 では、議題１の今年度の位置付け・取り組み状況について事務局よりご報告をお願い申し上げたい。
２．議題１　今年度の位置付け・取り組み状況	
事　務　局　：	【資料１　今年度の検討項目】について説明 【資料２　今年度の取り組み状況】について説明
市　川　会　長　：	皆様の方からご質問やご意見はあるか。
本　間　代　理　：	昨年度に引き続き布引小学校での乗り方教室を実施させて頂いた。東近江市では平成２７年度から交通環境学習を実施しているが、最近になってこのような乗り方教室をやりた

	いという小学校も増えてきており、取り組みが定着してきていると感じる。しかし、現在はバス車両を活用した乗り方教室が取り組みの大部分を占めており、先ほど事務局から説明があった新たな視点での取り組みについては、行政職員からも小学校へ提案をさせて頂いているが、やりたいと言っていただける学校がほとんどない。新たな視点での取り組みについても、乗り方教室のように定着させていくのが今後の課題であると考える。 　また、京都市での取り組みを参考に、彦根市と共同でＥＣＯサマーという取り組みを実施しており、説明のあった土山小学校２年生での取り組みのように、バス停の名前や目的地までかかった時間などを記入するワークシートを独自に作成し、各小学校の全校生徒に配布している。こういった取り組みを通して、「自分たちが住む地域にはどのような公共交通があって、どのように地域を支えているのか」ということを自分たちで考えてもらいたいと思っており、この取り組みについては引き続き行っていきたいと考えているところである。
野村副会長：	いくつかの小学校を見学させて頂いたが、子供たちが目を輝かせながら一生懸命話を聞いている姿を見て、この取り組みをさらに発展させていきたいと感じた。 　また、子供たちのバスに対する興味も高く、交通事業者が説明したこと以外でも色んな視点から質問をしてくれており、中には交通事業者と同じくらい詳しい子供も居て驚いた。そういう子どもたちが大きくなってバスを利用してくれるのだと思う。授業時間に限りがあるとは思うが、このような質問時間は丁寧にとって頂きたい。 　これからは２年生だけでなく３年生～６年生や中学生まで取り組みを展開させ、なぜその地域にバスが走っているのか等を考えることを通じて、将来のまちづくりについて考えていける子供たちが育ってくれれば良いと思う。
市川会長：	今までも２年生の乗り方教室については実施してきたが、今回生活科単元や校外学習と併せて展開していく形ができたので、これから色んな小学校で定着していくのではないかと考える。また、土山小学校の乗客インタビューのように、どういう人が乗っているのか、どんなところに行くのか等、実際に公共交通を利用する人の話を聞くことで、地域の特色やまちの様子の理解が深まっていくと思う。 　しかし、３・４年生で実施したバス車両を活用した福祉学習は、障がい者への理解を深める学習として意義があるものだとは思うが、もう少し違う形での取り組みができたのではないかと思う。
水山副会長：	交通素材を活用した生活科のまち探検は、ほぼ完成の域に達していると感じる。インタビューはまちを知るための一つの方法であるが、基本は商店で働く人に対して行うことが多いため、まちの中を移動する公共交通に着目したインタビューはまた違った学びがあると思う。調べ学習として方法論・内容論的にも非常に良いものであるが、少し高度な学習であるため、３年の地域学習で行う方が良いかもしれない。 　福祉の視点から取り組みを実施できたのは良かった。今回は３・４年生で実施されていたが、２年生でもバスについて詳しい子供がたくさんいるということなので、２年生の段階から福祉の視点で取り組みを実施することも考えられる。普段乗っている乗り物に障がい者の視点で乗ってみると普段とは違う発見があり、子どもたちの理解も深まるのではないかと思う。また、現在は福祉分野においても「ながらスマホ」に代表されるようなスマートフォンの利用の仕方が問題視されている。このようなスマートフォンの利用の仕方も福祉の視点として取り入れていくと、学習の質が上がっていくと考える。 　あと、福祉の視点だけでなく、防災の視点を取り入れるのも学習を深化させるために良いと

	考える。例えば、自家用車が利用できないとき、公共交通はどのように地域を支えていくのか、また公共交通が災害で機能しなくなった場合は、自分たちはどのように移動していけばいいのか等、そのような視点で交通と絡めながら防災を学んでいくことでより良い学習ができると考える。 参考資料の湖上交通の変化を整理した資料は非常に良い内容であると感じた。今まで歴史学習では「陸」のつながりから歴史を考えていたが、今は「海」のつながりから歴史を考えることが重要視されており、例えば、能登半島の繁栄について考えると、陸のつながりからではその繁栄の理由について説明することはできないが、海のつながりから考えると、能登半島は朝鮮半島との交流があったため繁栄してきたということがわかる。このように「海」のつながりから歴史を考えることで、歴史の見方が変わりより深い学習ができるため、「琵琶湖」から滋賀の歴史を考えることは非常に良い試みだと思う。しかし、小学生には少し難しい内容なので、中学生等へ活用する方が効果的であると考える。 大野小学校に提供した交通に係るデータも地域を見直すにはすごく良い資料だと思うので、もっと有効的に活用できる方法を考えて頂きたい。この資料も先ほどの湖上交通と同様、中学校にこそ使える資料だと思うので、中学校へ展開していくことも検討して頂きたい。
平　中　委　員　：	教材の作成や授業内容の検討など、想いを込めて色んな取り組みをされており、素晴らしいと思う。また、学校もそのサポートに助けられながら、子どもたちの学習がより良いものになるように取り組んできたのだろうと説明を聞いていて感じた。このような取り組みがもっと広がりをみせれば良いが、反対にその難しさも感じている。 この研究会では、交通環境学習を県内の小学校に展開していくために、色んな取り組みを行っていると思うが、○○学習や××教育というものは、学校にそもそも受け入れられるものではない。それぞれの学校の文化や伝統を大切にしながら教育を行っている先生方にとって、そのような学習は「新しいもの」という感じがするため、そのような言葉が出た時点で聞く耳を持たない先生もいるのではないかと思う。また、文部科学省においても、昨年度改訂された新学習指導要領の中で、○○学習や××教育の活用方法について整理を行っているが、その数は３０個近くあり、学校側もほとんど把握しきれていない。そのため、一緒に取り組んでくれませんかというスタンスではなく、学校が行っている学習が今よりもっと良いものとなるようにお手伝いをさせて頂きたいというスタンスで提案される方が良いのではないかと考える。 また、先ほど事務局からの説明にもあった、授業を行う先生と研究会との想いのずれが生じる問題もある。この研究会にも目的や想いがあると思うが、学校には学校としての目的や想いがあり、そこは譲ることはできない。また、学習指導要領に記載されている内容と合っていなければ取り組みを実施することはできないため、水山副会長の話にあった湖上交通の資料も非常に興味深い内容ではあるが、フローティングスクールの環境教育という目的とは合っていないため、本来であれば授業を行って頂けない内容であると思う。これらを踏まえ、学校がどんな内容の学習や資料を求めているのかということを、もう少し打ち合わせをする必要があると考える。 取り組みを展開していくために指導案を作成していくという記載があるが、指導案よりも実践事例の収集・整理が必要であると考える。資料２にも取り組みの良かった点が記載されているが、研究会としての視点で書かれており、学校が求めている内容ではない。学校に提案するときは、このような支援によって子供たちがどのようなことを学んだのか、どういうことに気が付いたのかということを前面に出して頂き、その姿が学習目標に合っていると思ってもらうことが

	必要である。そのため、そのような意図が伝わるように写真や動画などを含めて授業の記録を詳細にとって頂きたい。
市　川　会　長　：	取り組みの良かった点や課題は事務局の視点で記載されているが、その前のページには授業を行った先生からのヒアリングもあるので、子どもたちが学びを通してどのように変わっていったのかは、その部分を上手く汲み取っていけば表現できると思う。
水　山　副　会　長　：	平中委員の仰る通り、学習指導要領に基づいて学習プログラムを検討する必要があると思う。記載されている学習内容に対し、この部分の学習を豊かにすることができますよということであれば、誰も反対しない。小学校は特に学習指導要領の拘束力が強いので、それを逆に活かしていけば良いと思う。新学習指導要領が出たばかりなので、このチャンスを活かせるように学習指導要領を熟読して頂きたい。
芝　　委　　員　　：	平中委員から、資料が研究会の視点で記載されているというお話しがあったが、具体的にどのような内容のことについて仰っているのか、具体的に教えて頂きたい。
平　中　委　員　　：	例えば、資料２のＰ５の良かった点・成果で書かれている「乗り方教室を継続的に実施した」というのは支援の内容であり、学校としては乗り方教室を継続的に実施したことでどういう良さがあったのか、子どもたちにどういう効果があったのかということが知りたい。
野　村　副　会　長　：	平中委員の意見を踏まえると、取り組みを実施する前に期待できる効果を仮説として設定した上で、取り組みを実施していく方が良いのではないか。
事　　務　　局　　：	では、学校に提案する際は、学習指導要領に記載されている学習目標を達成するために、この取り組みがこのように作用して、子供たちにこのような効果があったから、交通素材を活用する学習が良いということを伝えれば良いということか。
平　中　委　員　　：	大まかに言えば、そういうことである。
水　山　副　会　長　：	学習目標から言えばそういうことになるが、別に学習目標ではなく学習指導要領に記載されている学習内容と一致する取り組みの内容であれば、学校も取り組みを行う意味があるので、必ずしも学習指導要領に記載されている目標と研究会としての目標が一致している必要はない。
平　中　委　員　　：	基本的に互いの立場が違うので目的が同じになることはないと思う。ひとつの活動、ひとつの学習の中でお互いの目的が達成される形をつくっていく必要があると考える。
市　川　会　長　　：	他に質問やご意見はないか。 本日は出席人数が少ないため、全員からご意見を頂きたいと考えているが、道久委員何かご意見やご感想はあるか。
道　久　委　員　　：	私の娘が今年から学校の教師になったが、２２時になっても帰ってこないことが多い。学校の先生方は普段の授業内容を考えるだけでも大変なので、そんな状況の中で交通環境学習を展開していくのは非常に難しいことであると感じている。
市　川　会　長　　：	他に質問やご意見はないか。 先ほどは資料２の内容について主にご意見を頂いたが、資料１の検討コンセプトについて話を戻すと、現在、検討コンセプトとして「交通を切り口として、自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成」が掲げられているが、現段階のコンセプト案ということで、まだ正式に決定はされていない。内容も少しフワフワしている部分もあるため、「歩くまち京都」のように目指すべき姿が明確なコンセプトになるよう検討を進めていくと同時に、取り組みを実施していってもらいたいと思う。 では、他にご意見がないということなので、次の議題に進みたい。

３．議題２　来年度の検討方針・スケジュール	
事　務　局　：	【資料-３　来年度の検討方針】について説明
市　川　会　長　：	説明していただいた資料について、何かご質問やご意見はあるか。
平　中　委　員　：	副読本等への組み込みと記載されているが具体的に何をイメージされているのか。
事　務　局　：	副読本への組み込みは、例えば草津市で作成されている「わたしたちの草津」等をイメージしている。
平　中　委　員　：	「わたしたちの草津」等の副読本であるが最近は新しくつくられていない。副読本を使用している学校は、昔作成されたものを上手く活用し、授業に取り入れている。 もう一点質問をさせて頂く。将来的に滋賀県内に取り組みが広がっていく状況を目指すとあるが、その広がりというのはどこまでをイメージしているのか。滋賀県内は小学校２２０校と義務教育学校１校あるが、このすべての学校に対応して頂けるのか。
事　務　局　：	最近は新しく作られていないとのことなので、副読本に組み込むことはできないと思うが、もし改訂される機会があれば検討を行いたい。 県内すべての学校に対応できるかという質問であるが、交通環境学習をやりたいという学校があれば、実施できる体制を整えたいと考えている。しかし、全ての学校が同時に手を挙げると事務局だけでは対応ができないので、市町と協力体制を築きながら、可能な限り学校のニーズと合う形で実施していきたいと考えている。
芝　委　員　：	全ての学校で対応するのは現実的にも難しいので、子どもの理解を深めていくことができるワークシート等の教材を提供することで、学校の方で実施してもらえないかと考えている。
平　中　委　員　：	全ての学校に展開していくとすれば、その形がベストであると思うが、学校側としてもこれ以上授業時間を確保するのは難しい。あと、ワークシート等の教材の提供ということであるが、やはり教材提供よりも実際にバス車両で出前授業を行ってくれる方が魅力的であり、また学習準備に時間をかけずに済むため、教師の負担が少なくなると考えている。 先生の負担という面で言えば、校外学習を行う際は駅を事前に下見をして、安全なルートの確認や待機する場所の許可取り等、先生にとってかなり労力がかかる。例えば、その段取りを行政の方でサポートしてもらえるなら、先生の負担も少なくなるため、やってみようと思う学校はでてくるかもしれない。 取り組みを周知していく方法としては、滋賀県教育委員会から案内を出すというやり方も考えられる。あと、来年度のはじめに、市町の教育委員会の教育指導担当者が集まる会合があり、その会の中で昨年度の取り組みとして紹介することもできる。取り組みを広げていくためにも、連携を図りながら上手くやっていいきたい。
本　間　代　理　：	実施市町を拡大していくことは大事であると思うが、現在はバス車両を活用した取り組みがメインとなっており、今後対応が難しくなるのではないかと考えている。資料にあるように最終的に１４市町への拡大を目指すとしているが、例えば、竜王町と東近江市は近江鉄道八日市営業所が営業範囲になっているため、１つの営業所で対応しきれない部分も出てくると思う。そのため、来年度実施市町を拡大していくのであれば、代わりになるようなワークシートの作成や運賃精算が体験できるシステムの構築等、バス車両を持っていけない時の対応も検討して頂きたい。
市　川　会　長　：	今は小学校で電子黒板の設置が普及してきているので、そのような新しいメディアを活かして切符購入体験などの学習システムを構築できれば、バス車両を使用せずに有効的な学習ができるのではないかと考えている。

事　務　局　：	土山小学校での取り組みにあった乗車体験で考えると、乗り方教室でバス車両を持っていかなくても、日常的に運行している公共交通に乗車するだけで同様の学習ができるのではないかと考えている。バスの乗り方等を学習できるようなプログラムに慣れてきた地域では、バス車両を提供しない形についても検討していきたい。 その際には、バス車両提供の手配にご協力頂いている滋賀県バス協会にも、ご相談させて頂きながら進めたいと思う。
野村副会長　：	バス車両の提供が難しくなってくるのは分かるが、やはりバス車両を持って行って実際に子供たちにバスに乗ってもらうことで意味があると思う。また、土山小学校での福祉学習ではバス車両を活用することにより、子供たちの障がい者への理解を深めることができたが、そのような取り組みの中でバスの運転手の育成もできないかと考えている。バス協会の方で運転手のためのバリアフリー講習会を行っているところであるが、土山小学校のような取り組みを活かして双方の理解を深めるような形ができれば良いと思う。
事　務　局　：	バス車両を有効的に活用するために、複数の小学校が合同で実施することは難しいのか。
平　中　委　員　：	少人数の学校であれば対応することができるかもしれないが、基本的に合同で行うのは難しい。
市　川　会　長　：	バス車両以外での交通素材の活用に関連して、先ほど湖上交通に関する話があったが、フローティングスクールでの活用だけでなく、小学校高学年で行く琵琶湖博物館での学習にも活用できるのではないかと思う。琵琶湖博物館には昔使われていた丸子船や漁業道具の展示がされており、湖上交通とも関連しているので、そちらの方で活用することも検討して頂きたい。 他に質問やご意見はないか。ご意見がないということなので、研究会開催スケジュールについて事務局の方から説明をお願いしたい。
４．その他	
事　務　局　：	次回の研究会は、資料３のＰ５に記載しているように、具体的な進め方を検討する分科会を６月頃に、それを基に議論を行う研究会を７月頃に実施する予定である。詳細な日時および場所については、改めてお伝えさせて頂く。
市　川　会　長　：	教師との意見交換会も実施するということなので、皆様もご都合があれば参加頂きたい。 では、議事の進行は以上とさせて頂き、閉会の挨拶を事務局にお願いしたい。
事　務　局　：	委員の皆様、長時間にわたり活発なご議論・ご提案を頂き有難く思う。学習プログラムの内容や周知方法については引き続き検討を進めていきたいと思う。来年度も皆様のご協力をお願い申し上げる。以上をもって、平成３０年度第４回近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会を閉会とする。